

令和 7 年度業務実績報告書

令和 8 年 6 月

独立行政法人国立美術館

目 次

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	1
1 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開	1
(1) 多様な鑑賞機会の提供	1
① 所蔵作品展	1
② 企画展	2
③ 国立映画アーカイブの映画上映会・展覧会	6
④ 国立西洋美術館本館の活用・公開	7
⑤ 地方巡回展等	7
(2) 美術創造活動の活性化の推進	8
① 公募団体等への展覧会会場の提供等	8
② 国が顕彰・育成してきた芸術家のための発表機会の提供	8
③ 新しい美術の動向や現代作家の積極的な紹介	8
④ 国際発信拠点として機能するための運用の見直し	9
(3) 美術に関する情報の拠点としての機能の向上	10
① 国立アトリサーチセンターにおける国内美術館所蔵作品等の情報の国内外への発信	10
② 国立美術館所蔵作品等のデジタル化・データベース化、所蔵作品検索システムの充実	11
③ 美術情報・資料の収集、レファレンス機能の充実	13
④ 我が国現代美術やメディア芸術の国際発信の推進、現存作家の国際発信支援等	16
(4) 教育普及活動の充実	17
① 幅広い学習機会の提供及びラーニングコンテンツ等の開発	17
② ボランティアや支援団体との相互協力等による教育普及事業及び企業や地域等との連携による事業の開発・実施等	20
③ 映画フィルム・資料の所蔵作品の活用	22
(5) 調査研究の実施と成果の反映・発信	23
① 調査研究一覧	23
② 調査研究成果の発信	24
(6) 快適な観覧環境の提供	27
① 高齢者、障がい者、外国人等を含めた入館者本位の快適な観覧環境の形成	27
② 入場料金、開館時間等の弾力化	29
③ キャンパスメンバーズ制度の実施	31
④ ミュージアムショップ、レストラン等の充実	31
2 我が国の近現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・活用・継承	34
(1) 作品の収集	34
① ナショナルコレクションの形成	34
② 所蔵作品の収集に係る取組状況	35
(2) 所蔵作品の保管・管理	39

① 収蔵庫等の狭隘・老朽化への対応.....	39
② 防災対策の推進・充実.....	40
(3) 所蔵作品の修理・修復.....	41
(4) 所蔵作品の貸与.....	43
3 我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与.....	45
(1) 国内外の美術館等との連携・協力等.....	45
① 国内外の研究者の招へいによるシンポジウムの開催等.....	45
② 我が国の作家、美術作品による展覧会開催のための海外の美術館との連携・協力.....	45
③ 全国の美術館等との人的ネットワークの形成等.....	46
④ 国立アトリサーチセンターによる連携・協力.....	48
(2) ナショナルセンターとしての人材育成.....	51
① 美術教育の一翼を担うナショナルセンターとしての活動.....	51
② 今後の美術館活動を担う中核的人材の育成.....	52
③ 映画保存のニーズに対応した人材育成.....	55
(3) 国内外の映画関係団体等との連携等.....	56
① 映画フィルム及び映画関連資料の収集.....	56
② 映画フィルム及び映画関連資料の保管・修復・復元.....	57
③ 映画フィルム及び映画関連資料の貸与等.....	57
④ 所蔵フィルム検索システムにおける公開実績.....	58
⑤ 国内外の映画関係団体等との連携・調整に係る取組状況.....	58
⑥ 我が国の映画助成システムの改善等に関する協力.....	58
⑦ 非フィルム資料のアーカイブ化に関する取組.....	58
⑧ ロケーションデータベースの運営.....	59
⑨ 情報発信、人材育成に係る機能強化.....	59
II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置.....	60
1 業務運営の取組.....	60
2 組織体制の見直し.....	60
3 契約の点検・見直し.....	60
4 共同調達等の取組の推進.....	62
5 給与水準の適正化等.....	62
6 情報通信技術を活用した業務の効率化.....	62
III 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画等.....	64
1 自己収入の確保.....	64
2 保有資産の有効利用・処分.....	64
3 予算.....	64
4 収支計画.....	65
5 資金計画.....	66
6 貸借対照表.....	66

7	短期借入金	66
8	重要な財産の処分等	67
9	剰余金	67
IV	その他主務省令で定める業務運営に関する事項	68
1	内部統制・ガバナンスの強化	68
2	施設・設備に関する計画	69
3	人事に関する計画	70
4	関連公益法人	72
	別 表	73
	凡 例	74
別表 1	所蔵作品展	75
別表 2	企画展	77
別表 3	映画上映会（国立映画アーカイブ）	80
別表 4	展覧会（国立映画アーカイブ）	80
別表 5	地方巡回展・巡回上映等	81
別表 6	公募展示室における展覧会毎の入場者数	82
別表 7	展覧会毎の批評・レビューの状況（掲載数及び掲載媒体数）	86
別表 8	企画展示室における現代作家を採り上げた展覧会の実施回数及び採り上げた作家の人数	86
別表 9	調査研究一覧	88
別表 10	展覧会図録における執筆	97
別表 11	研究紀要における執筆	101
別表 12	館ニュースにおける執筆	103
別表 13	館外の学術雑誌、学会等における調査研究成果の発信	106
別表 14	美術作品購入一覧	131
別表 15	所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催	160
別表 16	シンポジウムの開催等による国内外の優れた研究者等とのネットワークの構築	162

（別紙）独立行政法人国立美術館の役職員の報酬・給与等について

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開

(1) 多様な鑑賞機会の提供

第5期（令和3年度～令和7年度）中期目標に定める指標	
指標	・所蔵作品展及び企画展並びに国立映画アーカイブの上映会・展覧会の満足度調査を実施し、「良い」以上の回答率を、前中期目標期間実績と同程度の水準を維持するものとする。 ・国立美術館巡回展の満足度調査を実施し、「良い」以上の回答率を8割程度とする。 ・国立映画アーカイブの優秀映画鑑賞推進事業の満足度調査を実施し、「良い」以上の回答率を8割程度とする。
関連指標	・所蔵作品展及び企画展の入館者数 ・国立映画アーカイブの上映会及び展覧会の入館者数 ・国立美術館巡回展の入館者数／巡回先美術館数 ・国立映画アーカイブの優秀映画鑑賞推進事業の入館者数

※上記指標に係る実績は別表1～5を参照のこと。

多様な鑑賞機会の提供にあたっては、研究成果、利用者のニーズ等を踏まえ、国立美術館ならではの多様な美術作品鑑賞機会を提供するため、魅力ある質の高い所蔵作品展・企画展等を実施した。

① 所蔵作品展

所蔵作品展は、各館の特色を生かし、小企画展・テーマ展として行うものを含め、別表1のとおり積極的に実施した。

各館の取組の特徴は以下のとおりである。

ア 東京国立近代美術館

(本館)

19世紀末から今日に至る日本の近現代美術の流れをわかりやすく伝えるとともに、展示室ごとにテーマを設けて各時代の美術を新鮮な切り口から提示した。

令和7年度は、国指定重要文化財や海外からの来館者の人気が高い日本画、現代美術などの恒常的な展示に努めた。また作品収蔵後、極力速やかにその公開に努めることで、作品収集の成果やその重要性を多くの来館者へ紹介する機会を確保した。同時期開催の企画展と連動する展示も毎会期実施し、企画展目的の来館者が所蔵作品展も観覧してくれるような仕組み作りを積極的に行った。特に7月会期では、同時開催の「記録をひらく 記憶をつむぐ」と接続されるテーマを所蔵作品展内各所で展開、戦後80年という節目への館全体の姿勢を示した。また「没後5年 菊畑茂久馬」やロバート・ラウシェンバーグの生誕100年を記念した「Rauschenberg 100」といった国内外の美術館と連動した企画に参加したことも、メディア等で取り上げられる機会の増加を通じて、所蔵作品の認知につながる効果的な取組であった。

(国立工芸館)

令和7年度に開催した所蔵作品展「移転開館5周年記念 花と暮らす展」では、花の名前をタイトルに持つ工芸・デザイン作品と花を活けるための器を、国立工芸館の所蔵作品を中心に、国立西洋美術館からの特別出品であるモーリス・ドニ作品2点とあわせ紹介した。多くの作家が制作のテーマとする花は、来館者にとっても身近な存在であり、春季という会期にあわせ新規来館者層への訴求も企図した。さらに花器など、花のための器をあわせて展示することで、身近な自然と工芸・デザインの関係に改めて注目する展覧会となった。

あわせてテーマ展示として、明治から昭和の時代に活躍したグラフィックデザイナー、杉浦非水（1876-1965）の旧蔵本の一部を紹介した。作家が参照した資料をあわせて展示することで、来館者自身が制作に至る工程を想像し、より作品を身近に感じていただける工夫を行った。

イ 京都国立近代美術館

令和7年度は、4月から10月まで大阪・関西万博が開催されたことに合わせて、それに対応する第1回と第2回の会期では、工芸コーナーと日本画コーナーで所蔵品の代表的な作品を展示した。京都国立近代美術館では、工芸と日本画のコレクションを柱の一つとしているため、これらの優品を展示することは美術館の性格や所蔵品の質の高さを紹介することを意味し、万博に来場するため関西へと足を運んだ国内外の観光客に京都国立近代美術館の存在をアピールすることにつながった。また、「すわる」という行為に着目して作品を鑑賞するエデュケーショナルな展示を行ったほか、研究員がテーマを設定して深掘りするキュレトリアル・スタディズの展示も2本実施するなど、学術的な意義を持った展示も多く、研究機関としての責務も果たした。

例年通り企画展に合わせた展示も実施し、第1回では企画展に関連する他館所蔵の作品を借用した「特別展示：日本のオルガ・ボズナンスカ」、第3回では「堂本家の人々と東丘社」、第4回では「居場所は何処に」や「どこに立って見る？」といったタイトルで企画展を補強する内容の展示を行い、来館者の理解と満足度の向上を目指すなど、幅広いラインアップでコレクション展を開催した。

ウ 国立西洋美術館

令和6年度に引き続き、年代順を基本としつつテーマ性も兼ね備えた所蔵作品展示を行うとともに、小展示コーナー（Collection in Focus）を複数設けた。特定のモチーフや主題に着目して時代や地域、ジャンルを越えて作品を比較考察した小展示のほか、保存修復室による額縁の修復をめぐる小展示を行った。また、小企画展「フルーニング美術館・国立西洋美術館所蔵 フランドル聖人伝板絵—100年越しの“再会”」は、フルーニング美術館との数年来の協働による調査研究の成果を踏まえた秀逸な企画として好評を得た。修復や科学調査をめぐる展示は、法人内で唯一保存修復室及び保存科学室を備える美術館だからこそ実現できたものであり、館の特色をいかんなく発揮した結果といえる。さらに版画素描展示室内では小企画展を計3回開催し、とくに「物語る黒線たち——デューラー「三大書物」の木版画」展を通じて、長年にわたる体系的な収集の成果を示すことができた。

エ 国立国際美術館

国立国際美術館の所蔵作品展は、企画展会期にあわせて展示替えを実施し、各回テーマ性を持たせた展覧会を企画している。令和7年度は、令和6年度から続く「コレクション2 Undo, Redo わたしは解く、やり直す」に続けて、作品に表された円や環など「まるい形」をテーマにした特集展示「戦後美術の円・環」を「コレクション1」で、また人間の価値観や世界観がいかに現代美術を通じて表現されているかを探索することで未来の展開を示した特集展示「21世紀の想像力」を「コレクション2」で実施した。いずれも当館が所蔵する現代美術作品を異なるテーマ設定で展覧会として実施することで、所蔵作品に対する多角的な研究・見解をもたらし、その成果をテキストとして作品リストに掲載した。あわせて、テキストの英・中・韓の翻訳も実施し、入館者サービスにも寄与した。さらに、展示室内に「コレクション・ハイライト」と称したコーナーを設け、代表的な所蔵作品や新規収蔵作品を通年で展示した。作品の選択に際しては、国内外の現代美術の流れを押さえつつ、来館者に興味関心を持ってもらえる作品を選んだ。

② 企画展

企画展では、世界の美術の新たな動向を紹介する展覧会や我が国の作家や芸術的動向を海外に紹介し、国際的な美術動向に位置付ける展覧会、先端的な展覧会、作家・作品の再発見・再評価、我が国

に所在するコレクションの積極的活用を目指した展覧会を、以下の点に留意し、別表2のとおり実施した。

イ 国際的視野に立ち、アジア諸地域を含め海外の主要美術館と連携し、確固たる評価を得ている世界の美術や海外の美術の新たな動向を紹介するとともに、我が国の作家や芸術的動向を海外に紹介し、国際的な美術動向に位置付ける展覧会等に積極的に取り組む。

ロ 展覧会テーマの設定や他の芸術文化との連携による展示方法等について方向性を提示することに取り組む。

ハ アニメ、マンガ、デザイン、建築、メディアアートなど我が国が世界から注目される新しい領域の芸術表現を積極的に取り上げ、最先端の現代美術への関心を促す。

ニ 国内の美術館と連携し、我が国に所在するコレクションの積極的活用を図る。

ホ 過去の埋もれていた作家・作品・動向の発見や再評価に取り組み、国際的な美術動向に位置付ける展覧会に積極的に取り組む。

各館の取組の特徴は以下のとおりである。

ア 東京国立近代美術館

(本館)

「ヒルマ・アフ・クリント展」は2010年代以降、国際的にきわめて高い評価、人気を確立し、世界各地で展覧会が絶えないスウェーデンの女性作家の展覧会である。アジア初の回顧展ということもあり、代表作を網羅し、時系列に沿った丁寧な紹介を心掛けた。主要な美術雑誌、テレビの美術番組が大きな特集を組むなど、作家の知名度が決して高いわけではなかったにもかかわらず、会期前、会期中とも高い関心を得ることができた。また本展覧会は、コロナ禍以降、経済状況から海外大型展の成立が厳しさを増すなかで、新たな共催展の在り方を探る試みでもあった。財団と長期にわたり信頼関係を構築したこと、リーズナブルな借用料や輸送コスト抑制の実現、海外巡回先（韓国・釜山現代美術館）を確保したことなど、美術館主導の取組を様々に行い、学術的な意義深さと集客力とが両立する展覧会が開催できた。これらの取組は、今後につながる成果であると考えている。

フェミニズムやジェンダー研究の動向を踏まえた「アンチ・アクション 彼女たち、それぞれの応答と挑戦」は、1950年代から1960年代の前衛美術を推進した日本の女性作家を再考する展覧会である。戦後日本の美術史の読み直しを図る挑戦的な内容であったが、学術的な意義にのみ偏ることなく、草間彌生など著名な作家を交えながら、知られざるアーティストを広く紹介することができた。大学に所属する研究者を学術協力者として招き、初期段階から協同して企画を考案する機会は少なく、実際に東京大学で有志によるワークショップが開かれるなど、大学と美術館の連携に対する好反応が見られた。展示の工夫として、斜めの壁面を多用してダイナミックに展示を構成し、短文解説を「別冊」として無償配布して場内を巡りながら集めていくという趣向は大きな反響があった。内容のみならず、見栄えのする展示空間の構成や、文字による解説を最低限として作品を見せる展示が満足度の高さにつながった。

(国立工芸館)

沖縄を代表する織物として知られる「芭蕉布」は、かつては沖縄各地でつくられていたが、現在では沖縄本島の北部に位置する大宜味村喜如嘉（きじょか）を中心に、その技術と精神が守り伝えられている。「移転開館5周年記念 重要無形文化財指定50周年記念 喜如嘉の芭蕉布展」は、「喜如嘉の芭蕉布」が重要無形文化財に指定されてから50年の節目にあたり企画した。展覧会では、国宝5点を含む国内に秘蔵される歴史的名品から、戦後に芭蕉布の技術復興に尽力した人間国宝・平良敏子の作品、さらには平良が制作の拠点としつつ後継者への技術指導を行った芭蕉布織物工房の作品までを3章立てで紹介し、芭蕉布の歴史的な流れとともに、未来への展望も示した。加えて、コラムを設けて、芭蕉布の材料となる糸ができるまでを、素材や道具、写真パネルなどで説明し、すべてが天然の材料と手仕事によってつくられる様子を伝えた。令和7年は「民藝」という言葉が示されて100年、さらには第二次世界大戦の終戦から80年という年でもあり、本展では戦後沖縄の復興と芭蕉布の復興が密接に重なることも示すこととなった。沖縄の風土をも感じさせる芭

蕉布を通して、工芸の技術保存をめざした重要無形文化財制度の意義をあらためて知らしめるとともに、工芸技術を文化遺産として保護、保存していく取組の大切さにも目を向けてもらう機会となった。

「移転開館5周年記念 令和6年能登半島地震復興祈念 工芸と天気展—石川県ゆかりの作家を中心に—」では、能登半島地震の一日も早い被災地復興を祈念し、石川県ゆかりの作家を中心に、工芸と天気の関わりをテーマに工芸作品を紹介した。天気を表現した作品だけではなく、漆、金箔、九谷焼、加賀友禅など、技法との関わりも示すことによって、工芸と天気、そして作家との密接なつながりを多面的に提示した。結果として、作品の背景にある作家への関心を鑑賞者から引き出し、石川県の工芸における表現・技法両面の魅力に改めて注目する機会を創出した。さらに、師弟関係や親子関係など、影響関係のある作家の作品を並べて展示することによって、石川県の工芸における豊かな教育制度、技術の伝承を感じられるものとした。また、「天気」という多くの人にとって親しみのあるテーマは、従来の工芸ファンのみならず、初めて工芸館に足を踏み入れる層への訴求にも効果的であった。

イ 京都国立近代美術館

「きもののヒミツ 友禅のうまれるところ」は、創業470年を迎えた千總のアーカイブを全面的に活用して開催した。展覧会の目的は、日本を代表する文化としてみなされている着物が有する造形的な特質及びその背後にある作り手たちの創意工夫を明らかにするとともに、時代とともに変遷する意匠の多様性を紹介すること、またそうした流行が着物だけでなく様々な同時代の工芸品にも広がっていたことを、京都国立近代美術館所蔵の工芸作品を通じて示すことである。そして着物という造形物に内在する創造性の意味を理解してもらい、いかにその視点が私たちの日常に置き換え可能であることを認識してもらえるのかを考えた。そこで「立体と平面を行き来する」着物の造形的特徴がわかるように全面ガラス張りのケースで展示すると同時に、大量の雛形本やデザイン資料を紹介するなどの工夫を行った。また、各章ごとに空間の質を変え、空間と展示作品とを呼応させることで伝えるべきポイントを体感してもらえるようにした。広報用印刷物や図録に関しても、着物そのものを前面に出すのではなく、着物が有する立体性及び多様な意匠性を感じてもらえるようにデザインし、図録に掲載した4本の論考やコラムなどとあわせて展覧会全体として伝えるべきメッセージを明確に示した。その結果、着物愛好者のみならずデザイン関係者や一般の方にも新鮮な感覚で着物を再発見してもらえ、展覧会となった。また、展覧会図録は第67回全国カタログ展銀賞を受賞した。

「セカイノコトワリ—私たちの時代の美術」は、出品作95点のうち31点が近年の収蔵であり、令和4年度に中期計画に追加された現代の美術作品の同時代収集の推進方針に基づき、日本人の現代作家の作品収集を積極的に進めた成果が反映された。本展覧会では、世界のグローバル化が進み、日本人作家の海外での発表の機会が増えた1990年代から現在までの美術表現を中心に、20名の国内作家による代表作や意欲作を紹介した。不景気からコロナ禍・そして紛争を経験した「失われた30年」の間に複雑さを増す現代社会における掘りどころや共有可能なものをテーマに、「日常」「アイデンティティ」「身体」「歴史」「グローバル化社会」といったキーワードを手がかりに作家の表現・実践を読み解くことを試みた。会場デザインでは、建築家と協働して島のように巡回する導線を設定し、鑑賞体験を通して自発的に物語が生まれるような展示を目指した。なお、今回の展覧会を機に、国際的な美術動向に位置付けられる中堅作家の重要作を新たに収蔵し、リサーチ・展覧会・収集活動を連動させることができた。会期にあわせて発行した図録では、外部寄稿者による論考や作家・作品解説、作家インタビューのほか、国際的に話題となったアンドレア・フレイザーの批評文の翻訳を収録し、資料的価値をもたせた。

ウ 国立西洋美術館

「西洋絵画、どこから見るか？—ルネサンスから印象派まで サンディエゴ美術館 vs 国立西洋美術館」では、サンチェス・コターンの静物画やジョルジョーネの肖像など西洋美術史の傑作を揃え、西洋古典絵画を扱う展覧会の減った昨今において貴重な機会となった。サンディエゴ美術館

のコレクションと国立西洋美術館のコレクションを対比させた展示構成は、非ヨーロッパ圏においてヨーロッパ美術を収集した点において共通する両館のコレクションの独自性、普遍性を浮き彫りにする大変貴重な機会となった。また、常設展示室においてもサンディエゴ美術館より借用した作品5点を国立西洋美術館の作品の中に展示できたことは、常設展示を活性化し企画展の来館者を所蔵作品展へ誘導するだけでなく、収集活動の将来的な課題を浮き彫りにした点においても大変意義深かった。

「オルセー美術館所蔵 印象派―室内をめぐる物語」は、近年の国際的な研究・展覧会動向を踏まえ、風景画や外光表現との関係で語られることの多い印象派の新しい側面に光をあてた意欲的な企画であった。日本初展示となったドガの名作《家族の肖像》などオルセー美術館所蔵の約70点を中核に、国内外所蔵作品を加えたおよそ100点、約40名の画家・装飾美術家による作品が一堂に会し、「室内」への関心という時代背景と絡めて展示された。図録はオルセー美術館と国立西洋美術館監修者の共著になる序文、専門家による4本のエッセイと2本のコラム（以上は日英2ヶ国語表記）、また新知見を盛り込んだ作品解説等を所収した学術性の高いものであり、今後の印象派研究に資すると見込まれる。大規模来場が予想されたため、混雑の軽減策として会場デザインの面では十分な導線の確保を最優先し、多様な来館者にとっての読みやすさに配慮してパネルやキャプションの文字サイズを所蔵作品展よりも一回り大きくするとともに、解説文も専門性に偏らない内容・言葉遣いを心がけた。「室内」という現代の生活にも通じる身近なテーマ設定と合わせて、こうした工夫は来館者が展覧会の内容に親しむことを促し、鑑賞後の満足度につながったとも考えられる。

エ 国立国際美術館

「非常の常」は、非常事態の常態化というグローバルな現状について、映像を中心とした多彩な表現で詩的に問い直すという、類例のない試みとなった。メディア・アートなど映像表現の多様な在り方に着目・紹介した展覧会は平成24年度に開催したグループ展以来13年ぶりである。作家はアジア地域を中心に構成し、既に国際的に評価の高い作家や注目の中堅作家、国内でもあまり紹介されていない日本の作家を織り交ぜて、最先端の美術動向を示すことができた。関連イベントについて、屋外で実施した高橋喜代史による《フリー・スイカ・バー》のパフォーマンスでは、来館者以外にもジュースを配布しながら、新たな観客層の獲得にも寄与した。トークイベント「非常の時代のアテンション」や大阪大学とのエクステンジプログラムは、学術的視座を交えた議論を促した。さらに、ミャンマーのクリエイターを目的とした上映会「ドキュ・アッタンシアター」は、国際的な連帯を実践する場として展覧会の理念を拡張した。展示とイベントの両面から非常事態について「考える」ための公共空間を創出した点で、現代美術の社会的役割を示したと言える。

「プラカードのために」は、近年目覚ましい活躍を見せる国内拠点作家を中心に紹介するグループ展であり、展示作品を通して社会と美術の関係のみならず表現の可能性を改めて考察し、「国家権力、抑圧的な制度、構造の不均衡性、性と生殖の規範に対する抵抗の姿勢が、現代の作家たちによってどのように継承されているかを多声的に語りかける、稀有なグループ展である。」（高嶋慈「artscape」）との評が出るなど、時宜を得た内容とキュレーションが高く評価された。また、低い造作壁による開放感ある展示空間、明確な順路を設けず来館者に主体的な鑑賞を促す構成、作品同士のテーマが連関するよう配置した展示方法、映像作品の音が会場内で交わる構成といった空間づくりに対しても、現代美術展の新たな形を提示するものとして評価された。加えて本展覧会では、いくつかの事情からこれまで美術館での公開が避けられてきた映像作品の展示を、運営オペレーション及び会場構成の工夫によって実現した。国立美術館としてその一步を踏み出せた意義は大きい。会期中に開催した関連イベントでは、作家とゲストによる学術的視点を交えた実践が紹介されたほか、ワークショップでは創作を通して表現と生活そして「抵抗」的实践を体験する機会を提供した。最終日のイベントでは、国立アトリサーチセンター・ラーニンググループの協力のもと、国立国際美術館として初めて情報保障を提供することができた。

オ 国立新美術館

「時代のプリズム：日本で生まれた美術表現 1989-2010」は、日本の現代美術を国内外の観客に紹介し、その多様性と国際的文脈における意義を発信することを目的として企画した。日本と世界の交流から生まれた作品を軸に、1989 年を起点とする 1990～2000 年代の美術を紹介し、目標入館者数 5 万人を大きく上回る来館者を記録した。学術的特色は、国立新美術館と香港 M+ による約 2 年間のキュレトリアル・コラボレーションが挙げられる。作品・関係者調査から定期的ワークショップまで継続的に協働した。さらに国内外の専門家から意見を聴取し、開催 1 年前には、シンポジウムを開催、展覧会の方向性に関する助言を得た。会場構成は年代順に依らず、今日的課題と接続するテーマによる章立てを採用し、ANZAï フォトアーカイブ、関係者資料、20 年の年表を組み込むことで背景理解を促すとともに、来館者アンケートを反映し、解説パネルを拡充した。カタログは両館キュレトリアル・チームの論考や作品解説に加え、ANZAï フォトアーカイブを加えたビジュアル年表を収録し、日英バイリンガルの校閲・校正を入念に実施して国際的な参照に備えた。本展覧会の開催は、国際的視点をもって日本における現代美術を継続的に紹介する意義を具体的に示すものであり、現代美術の裾野を拡大し、その振興に寄与する役割を果たしたといえる。

「テート美術館 — YBA&BEYOND 世界を変えた 90s 英国アート」は、1980 年代後半から 2000 年代初頭まで英国で活躍し、革新的な作品を発表するのみならず、英国美術界の慣習や規範に挑戦した作家たちの多様な創作を 6 つの章によって紹介する企画である。総勢 58 名の作家たちの多くが、現在世界的な評価を得ており、そうした各作家の初期の代表作を数多く出品し、美術史におけるその重要性を改めて認識する機会となっただけではなく、激しい社会変化の中、経済的な格差社会、及び多文化社会のあり様を鋭くとらえた作家たちの創作は、2026 年の日本及び世界の社会・政治状況と照らした場合、極めて重要なメッセージや意義を持ち、多くの鑑賞者の関心と呼ぶところとなった。展覧会カタログもテート美術館の全面的な協力のもと制作され、90 年代の英国美術に関してまとまったテキスト、資料を多数掲載したものとなり、近年の美術史学の成果も取り入れた 90 年代の英国美術史を知るための基礎的な情報を集めた成果となった。

③ 国立映画アーカイブの映画上映会・展覧会

国立映画アーカイブの映画上映会・展覧会は、別表 3 及び別表 4 のとおり実施した。

そのうち特色ある上映会・展覧会として、上映会は「生誕 120 年 映画監督 中川信夫」を開催した。社会や境遇に囚われず自由でありたいと願う人間の性（ルビ：さが）とその悲哀を、ユーモアと創意に満ちた演出を通して描き続けた映画監督・中川信夫（1905-1984）。『東海の顔役』（1935）で本格的にデビューしたのち、多様な映画ジャンルの職人監督として研鑽を積んだ中川は、戦後、怪談映画の集大成にして日本映画史に残る傑作『東海道四谷怪談』（1959）や、人間の業と魂の救済を描いた渾身の力作『地獄』（1960）を世に送り出し、無声映画期から一貫して培ってきた映画作りの資質を大きく開花させた。本上映会では、中川の生誕 120 年を記念し、助監督時代の作品から晩年のテレビ映画に至るまで、計 59 本を 53 プログラムに組んだ過去最大規模の回顧特集を実施した。その成果として、怪談映画の巨匠としての評価にとどまらず、多彩なジャンルにわたる中川の全貌を提示し、観客に新たな発見と再認識を促すことができた。

展覧会は「写真展 ハリウッドの名監督たち 映画芸術科学アカデミーのコレクションより」を開催した。アカデミー賞の開催で知られるアメリカの映画芸術科学アカデミーが所蔵する膨大な写真コレクションの中から、1910 年代から 1970 年代のハリウッド映画の撮影現場を収めたスナップ写真を同アカデミーの特別協力を得てパネル展示し、アメリカ映画の最も香気あふれる時代を辿った。アカデミー所蔵資料に加え、国立映画アーカイブ所蔵のポスター資料やスチル写真も併せて展示するだけでなく、往時の映画音楽も展示室内で再生し、多面的な鑑賞体験となるよう工夫した。また、会期終盤には展覧会で取り上げた年代のアメリカ映画をカバーする特集上映「NFAJ コレクション 2026 春——いま観たい！アメリカン・シネマ」が催され、作品上映後に企画展担当の研究員が展覧会を紹介するトークイベントを催すなど、上映事業との連携も試みた。

④ 国立西洋美術館本館の活用・公開

主に非公開ゾーンをスマートフォンで観ることができるデジタルコンテンツ「ゆびさきでめぐる世界遺産—ぐるぐる国立西洋美術館—」について、館内5か所に設置している二次元バーコードの位置を示したカードを製作及び配布し、設計理念や創建部材が多く残る部分のデジタル公開を促進することでル・コルビュジエ建築作品の理解が深まる機会を提供した。

⑤ 地方巡回展等

国立美術館の所蔵作品を効果的に活用し、地方における鑑賞機会の充実及び美術の普及を図るとともに全国の公私立美術館等の活動の充実と作品活用の促進に資するため、国立美術館コレクションの公開にとどまらず、各地の美術館のコレクションの活性化も視野に入れた2つの連携事業を実施した。

国立美術館と、公私立美術館1館が協働し、両者のコレクションを特定のテーマのもとに企画構成する「コレクション・ダイアログ」では、国立工芸館と岐阜県美術館が、現代デザインの礎をつくったといえる大正から昭和にかけての工芸とデザインに焦点をあてた「大正・昭和‘モード’の源泉」を開催した。

公私立美術館のコレクション展示に、関連する国立美術館コレクションを1点ないし数点加えることで、公私立美術館のコレクションの魅力を引き出す「コレクション・プラス」では、富山県美術館に国立国際美術館の、長野県立美術館に京都国立近代美術館の、北海道立釧路芸術館に東京国立近代美術館の作品を加えた展示を実施した。

また、国立映画アーカイブにおいて、「優秀映画鑑賞推進事業」を全国各地で実施した。平成元年度から実施している本事業は、優れた日本映画の鑑賞の機会を広く国民に提供し、映画保存への理解を深めることを目的に、文化庁及び全国各地の教育委員会、公共文化施設等と連携・協力して開催している35mmフィルムを主とした日本映画の巡回上映事業である。令和7年度も会場のお大半は映画館が無くなった地域の公共ホールであり、開始時は84会場の予定であったが、1箇所が会場都合により中止となり、北海道から沖縄まで全国83会場で開催された。新たな会場として、平成20年に閉館した映画館で開催された長野県の「上土シネマミュージアム」会場など、本事業を活用して各地で映画文化の醸成を含めた文化活動に成果をあげている。多くの会場から長い間要望されていたデジタルプログラムの導入については、令和7年度は、初めて映画製作者連盟加盟の4社すべてから協力を得て、1プログラム1作品、計16プログラムを提供できるようにし（うち4作品はDCPプログラム独自の作品）、2会場でDCP上映が行われた。

令和7年度の地方巡回展及び巡回上映等は、別表5のとおりである。

(2) 美術創造活動の活性化の推進

第5期（令和3年度～令和7年度）中期目標に定める指標	
指標	・国立新美術館（国立アートセンター）の公募展示室の予約率は、展覧会の国際的な評価の向上を図りつつ100%を目指すものとする。
関連指標	・国立新美術館（国立アートセンター）における全国的な活動を行っている美術団体等への展覧会会場の提供に係る取組状況。（公募展団体数） ・公募展示室における展覧会毎の入場者数 ・展覧会毎の批評・レビューの状況（掲載数及び掲載媒体数） ・新聞社・テレビ局・公募展以外の主体への展示室貸し出し件数 ・企画展示室において現代作家を採り上げた展覧会の実施回数及び採り上げた作家の人数 ・国が顕彰・育成してきた芸術家の展覧会の実施件数

※本項目はすべて国立新美術館に関する指標である。

※関連指標の2、3、5点目は別表6～8参照。

① 公募団体等への展覧会会場の提供等

公募展団体数	84 団体	年間予約室数	3,500 室／年	予約率	100.0%
公募展事業収入	313,211,903 円	入館者数	1,011,317 人		

全国的な活動を行っている美術団体等への展示室の提供を上記のとおり行った。また、令和9年度に公募展示室を使用する団体（野外展示場のみ使用団体を含む。）3,220 室を決定した。なお、令和9年度から会期を2会期減とするため、団体数及び使用する会期など、団体の割り当てを大きく変更した。

② 国が顕彰・育成してきた芸術家のための発表機会の提供

国が顕彰・育成してきた芸術家のための発表機会の提供として、展覧会を1件実施した。

「時代のプリズム：日本で生まれた美術表現 1989-2010」では、芸術選奨文部科学大臣賞を受賞した森村泰昌（2007）、村上隆（2015）、宮島達男（2020）、紫綬褒章を受領した森村泰昌（2011）、石内都（2013）らの作品を展示した。本展覧会においては、これまで検証の機会が比較的少なかった1990年代から2000年代にかけての約20年間に日本で生まれた美術動向を再考することにより、この時代の代表的な現代作家の主要作品を一望できる、極めて貴重な機会となった。

③ 新しい美術の動向や現代作家の積極的な紹介

- ・日本で生まれた多様な美術表現に光をあてた「時代のプリズム：日本で生まれた美術表現 1989-2010」は、国立新美術館と香港M+による協働キュレーションならではの双方向的な視点を生かし、国内外の50を超える現代作家の実践を積極的に紹介、コミュニティとの協働など新たな美術の動向を検証した企画として、大きな意義があった。
- ・ブルガリのジュエリーを「色彩」を切り口に紹介した「ブルガリ カレイドス 色彩・文化・技巧」では、現代の女性作家3名（日本の作家2名、イタリアの作家1名）にジュエリーに着想を得た新作インスタレーションを展示してもらい、色彩という共通テーマのもとに異なるジャンルの表現が共鳴する展示空間を創出した。
- ・「テート美術館 — YBA&BEYOND 世界を変えた90s 英国アート」では、国内では鑑賞の機会が限られる1980年代後半から2000年代初頭のイギリス現代美術の動向を、58名に及ぶ作家たちの主要作品で紹介する貴重な機会となった。
- ・新聞社・テレビ局・公募展以外の主体への展示室等貸し出し件数については、274件であった。

④ 国際発信拠点として機能するための運用の見直し

国際発信の拠点として機能するため、令和6年度に実施した令和9～13年度の公募展示室使用団体の展示室使用基準の見直しを踏まえ、公募展示室を利用する美術団体等については「国際公募を行い、海外在住者からの出品作品の受け入れを行っている」ことを条件として募集を行い、優先的に割り当てを行った。

(3) 美術に関する情報の拠点としての機能の向上

第5期（令和3年度～令和7年度）中期目標に定める指標	
指標	・ホームページアクセス件数の合計は、前中期目標期間の実績以上とする。 ・デジタル化した所蔵作品データの公開率（画像データ）は、前中期目標期間の実績以上とする。 ・デジタル化した所蔵作品データの公開率（テキストデータ）は、前中期目標期間の実績以上とする。 ・アトライブラリーの利用者数（オンライン利用含む） ・現代美術やメディア芸術の国際展等へ出展・参加する作家等に対する支援等の件数は、27件程度とする。 ・美術に関する重要な文献の翻訳・国際発信件数は、40件程度とする。 ・全国美術館収蔵品サーチへの登録件数は、30館、85,000件程度とする。 ・メディア芸術データベースの登録件数は、60,000件程度とする。
関連指標	・国際アートフェスティバルへの出展等、メディア芸術作品等の国際発信に向けた取組件数

① 国立アトリサーチセンターにおける国内美術館所蔵作品等の情報の国内外への発信

・全国美術館収蔵品サーチ登録件数

<登録館数>

新規登録館数	第5期新規登録館累計	目標登録館数（第5期）	前年度末登録館累計	本年度登録館累計
11	71	30	212	223

<登録件数>

新規登録件数	第5期新規登録累計	目標登録件数（第5期）	前年度末登録累計	本年度登録累計
29,416	326,118	85,000	443,842	473,258

国内各館の協力を得て新たに収蔵品 29,416 件、収蔵品画像 15,329 件を追加した。その結果、収蔵品は約 473,000 件、画像は約 87,000 件となり、収集データの大幅な拡充を図ることができた。また、新たに、11 館の公私立美術館から参加協力を賜ることができた。

また、ナショナルセンターとして全国の美術館との連携を推進し、作品情報の集約及び国際発信を図るとともに、各館における専門知識や技術向上を支援するため、令和7年7月29日に「NCAR ワークショップ 004 全国美術館収蔵品サーチ『SHŪZŌ』ワークショップ」をオンラインで実施した。

・メディア芸術データベース登録件数

登録件数	第5期新規登録累計	目標件数（第5期）	前年度末登録累計	本年度登録累計
65,168	270,600	60,000	1,234,328	1,299,496

令和7年度は「ご意見受付」窓口を通じた利用者サポート及び不備等の修正を実施し、データの正確性維持とユーザビリティの向上を図った。加えて、削除済み ID の適切な表記対応など、システムの信頼性と利便性を向上させる改修を並行して進めた。また、一層のデータ拡充を目指し、国立国会図書館（マンガ分野・ゲーム分野）、明治大学米沢嘉博記念図書館・現代マンガ図書館、熊本マンガミュージアムプロジェクト（マンガ分野）、全録サーバー（アニメーション分野）、立命館大学ゲーム研究センター（ゲーム分野）、NTT インターコミュニケーション・センター、慶應義塾大学アート・センター（メディアアート分野）から提供を受けたデータを新規追加した。

② 国立美術館所蔵作品等のデジタル化・データベース化、所蔵作品検索システムの充実

・ホームページアクセス件数

館名	アクセス件数（ページビュー）	
	実績	目標※
本部	775,408	1,329,241
国立アトリサーチセンター	218,557	-
東京国立近代美術館（国立工芸館含む）	8,136,773	5,951,959
京都国立近代美術館	1,953,449	4,243,023
国立映画アーカイブ	2,642,981	1,385,168
国立西洋美術館	7,875,752	16,108,316
国立国際美術館	1,937,018	2,810,293
国立新美術館	11,664,252	14,564,307
合計	35,204,190	46,392,307

※目標値は前中期目標期間の平均値である。

・所蔵作品データ等のデジタル化と公開

館名	画像データ					テキストデータ				
	デジタル化件数		累積公開	公開率		デジタル化件数		累積公開	公開率	
	新規	累計	件数	実績	目標	新規	累計	件数	実績	目標
東京国立近代美術館	339	12,416	8,728	62.1%	56.7%	627	13,202	12,747	90.8%	87.1%
国立工芸館	98	5,348	4,549	102.0%	87.2%	211	5,645	5,273	118.3%	114.6%
京都国立近代美術館	284	10,231	10,231	72.5%	60.1%	309	16,407	16,407	116.3%	118.4%
国立映画アーカイブ	-	-	-	-	-	7,202	321,587	-	-	-
国立西洋美術館	227	4,941	5,168	76.7%	71.8%	227	5,378	5,605	83.1%	76.6%
国立国際美術館	81	9,100	5,290	63.6%	61.6%	114	9,863	8,885	106.6%	103.8%
合計	1,029	42,036	33,966	71.2%	63.4%	8,690	372,082	48,917	102.6%	100.0%

【注1】「デジタル化件数」は、各館のローカルシステムにおける画像及びテキストデータの登録件数である（国立映画アーカイブについては、ローカルシステムである NFAD への映画フィルム及び映画関連資料のテキストデータ登録件数を掲載している。）。

【注2】「累積公開件数」は、「独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システム」
[\(http://search.artmuseums.go.jp/\)](http://search.artmuseums.go.jp/) における画像及びテキストデータの公開件数である。

【注3】上表のほか、東京国立近代美術館ではホームページ内「作品検索」
[（https://www.momat.go.jp/collection）](https://www.momat.go.jp/collection) において作品のテキストデータ 12,939 件及び画像データ 11,571 件、国立工芸館ではホームページ内「作品検索」
[（https://www.momat.go.jp/craft-museum/collection）](https://www.momat.go.jp/craft-museum/collection) において作品のテキストデータ 5,347 件及び画像データ 5,241 件、京都国立近代美術館では「京都国立近代美術館収蔵品データベース」
[（https://jmapps.ne.jp/momak/）](https://jmapps.ne.jp/momak/) において作品のテキストデータ 16,861 件及び画像データ 15,095 件、国立映画アーカイブでは「国立映画アーカイブ所蔵映画フィルム検索システム」
[（http://nfad.nfaj.go.jp/）](http://nfad.nfaj.go.jp/) において日本劇映画のテキストデータ 8,305 件、国立西洋美術館では「国立西洋美術館所蔵作品データベース」
[（http://collection.nmwa.go.jp/artizeweb/）](http://collection.nmwa.go.jp/artizeweb/) において作品のテキストデータ 6,801 件及び画像データ 7,940 件、国立新美術館では「ANZAI フォトアーカイブ」
[（https://www.nact.jp/anzai/index.php）](https://www.nact.jp/anzai/index.php) においてアーカイブズ資料のテキストデータ 3,217 件を公開している。

※ 国立工芸館、京都国立近代美術館、国立国際美術館では、複数で一揃いの作品を個別に掲載している場合等があるため、画像及びテキストデータの公開率が高くなっている。

特記事項

ア 法人全体・国立アトリサーチセンター

国立美術館が所蔵するパブリックドメイン作品のデジタル画像を積極的に提供し、その利活用を促進していくため、国立アトリサーチセンターを中心に推進体制及び運用方法の検討を進めた。

その一環として、「国立美術館所蔵作品総合目録検索システム」の改修と充実に向けた準備を行い、新たな画像利用規約の検討・作成を進めた。

また、国立美術館の公開情報資源を一元的に検索・閲覧できる「国立美術館サーチ(試験公開版)」については、本公開版の構築に向け、法人各館と連携しながら新システムの再設計・調整を進めた。

イ 東京国立近代美術館

(本館)

国立情報学研究所(NII)が提供するNACSIS-CATへの書誌データ登録・更新を継続し、展覧会カタログを中心とする美術資料の書誌データ流通に貢献した。また、美術図書館連絡会(ALC:The Art Library Consortium)加盟館として、美術図書館横断検索(ALC Search)への情報連携を継続し、美術資料の検索環境の充実に寄与した。また、ミュージアム・アーカイブの整備を進め、法人文書ファイル管理簿等との整合性が図れるよう関係部署と調整し、図書検索システムでの情報管理を継続するとともに、「JAIRO Cloud」を用いて「東京国立近代美術館リポジトリ」の整備に努めた。さらに「ERDB-JP」(電子リソース管理データベース)への登録を引き続き行ない、CiNii Researchと連動した電子コンテンツへのアクセス向上に寄与し、活動を広く周知している。このほか、VHS「2025年問題」への対応として、アトライブラリ所蔵のVHSテープ等381本のデジタル化に取り組んだ。

(国立工芸館)

所蔵作品総合目録検索システムにおける作品情報・画像の公開については、令和6年度に引き続き、モノクロ画像のカラー画像への差し替え作業を行った。加えて、新収蔵作品や画像のない作品に関しても順次登録・公開を進めることができた。

合わせて工芸館ウェブサイト「作品検索」においてもサムネイルの登録・差し替えを行った。さらに、工芸館ウェブサイトと東京国立近代美術館美術作品管理システムのデータ連携作業を行ったことで、作品情報のより迅速な公開・反映につなげることが可能となった。

次年度以降も両システムに登録している画像のモノクロからカラーへの差し替え、未登録画像の新規登録を行っていくことに加え、所蔵作品総合目録検索システムでのPD作品画像利用に関しても新たに対応を進めていく。

ウ 京都国立近代美術館

国立アトリサーチセンターが推進する総合検索システム整備の一翼を担うため、所蔵作品データベース整備とともに、作品画像のデジタル化や新規のデジタル撮影を進めている。データベース整備においては、年々増加し続ける新収蔵作品等のデータ入力だけではなく、過去に入力されたデータの見直しを行い、最新研究成果に基づく修正や充実を行うとともに、利用者のための利便性の向上も図っている。なお、所蔵作品データベースとしてクラウド型データベースを活用することにより、データの新規入力・修正からその公開までの間のタイムラグを解消した。その結果、京都国立近代美術館ホームページから常に最新データを検索することができるようになっている。

エ 国立映画アーカイブ

令和4年度に開設した、国立映画アーカイブのフィルム・コレクションのより大規模な公開を行うプラットフォーム「フィルムは記録する—国立映画アーカイブ歴史映像ポータル—」に100作品を追加(累計349作品)し、サイトの拡充を行った。

映画関連資料については、「みそのコレクション」の映画館プログラムのデジタル化作業を継続するとともに、塚田嘉信旧蔵資料のデジタル化にも着手した。

また令和5年度に開設した、当館所蔵の映画関連資料を包括的に公開するWEBサイト「映画遺産—国立映画アーカイブ映画資料ポータル—」の第4弾として、当館で重要度の高い所蔵品を含む映画機材44点の高精細な画像と詳細なテクニカルデータを公開した。また第5弾として、歴史的な日本の映画ポスター219点のメタデータと画像を公開した。

オ 国立西洋美術館

新規収集品の速やかな写真撮影、来歴や展覧会歴・文献歴なども含めた館所蔵作品データベースへの登録を着実に進め、全国美術館収蔵品サーチとの連携も通して、コレクションの情報を広く国内外に発信している。国立西洋美術館の SNS でも館所蔵作品データベースを引用した所蔵品紹介記事を定期的に投稿するなど、幅広い層にデータベース及びコレクションについて周知するよう努めている。

カ 国立国際美術館

所蔵作品及び作家、さらには過去の展覧会や刊行物、その他の関連資料など、国立国際美術館の活動に関する多様な情報を横断的に検索できるシステムとして、「NMAO サーチ」を公開している。平成 16 年 11 月の大阪・中之島移転以前に開催された展覧会の情報も多数含まれており、国立国際美術館の活動全体への理解が深まるとともに、我が国の現代美術に関する調査・研究の促進にも資するものとする。令和 7 年度には、作品・展覧会・資料の全件検索や、作品登録番号による検索を可能とする改修等を実施し、利便性をより向上させた。また、当館が寄贈によって収集してきた「現代美術に関連する資料群」について、その概要や目録を紹介するページを公式ホームページ内に新たに作成した。

キ 国立新美術館

令和 7 年度に新規で受け入れた須賀啓関係資料 329 コマのデジタル化を行った。また、「時代のプリズム：日本で生まれた美術表現 1989-2010」展（国立新美術館、令和 7 年 9 月 3 日～12 月 8 日）で ANZAï フォトアーカイブの写真資料 77 点をカタログに掲載した。画像の貸出については、『美術文化』第 1 号（昭和 14 年 8 月）のデジタル画像（3 点）を横浜美術館コレクション展 戦後 80 年特集展示「平和であることへの、控えめななにごとかを」（令和 7 年 6 月 28 日～11 月 3 日）に出品した他、ANZAï フォトアーカイブの写真資料（2 点）をウェブ上に掲載し、情報発信に努めた。その他、研究論文、展覧会準備のための調査等を目的とし、デジタル画像を提供した（特別資料閲覧（17 点））。

③ 美術情報・資料の収集、レファレンス機能の充実

ア 美術情報・資料の収集及び情報サービスの提供

館名	収集件数 (冊)	累計件数 (冊)	図書室等 利用者数 (人)	図書室等のオンラ イン利用数 (件)
東京国立近代美術館	3,285	167,169	5,881	2,333,011
国立工芸館	1,592	38,991	2,267	642,375
京都国立近代美術館	837	39,016	1	369,790
国立映画アーカイブ	1,313	57,541	2,491	1,781,218
国立西洋美術館	1,058	57,829	149	4,336,175
国立国際美術館	1,300	61,683	10	452,706
国立新美術館	2,820	171,941	36,784	2,035,828
合計	12,205	594,170	47,583	11,951,103

【注 1】上記の図書室等のほか、東京国立近代美術館は本館 4 階（令和 2 年度より新型コロナウイルス感染防止のため停止していたが、令和 4 年 10 月にリニューアルし再開した）、京都国立近代美術館は 4 階、国立西洋美術館は 1 階、国立国際美術館は地下 1 階に図録等を閲覧できる情報コーナーを設けている。

【注 2】平成 30 年 11 月 3 日より京都国立近代美術館及び国立国際美術館では事前予約制による資料閲覧を開始したため、予約閲覧利用者数を「図書室等利用者数」の欄に記載している。

【注 3】「図書室等のオンライン利用数」は蔵書検索 (OPAC) のアクセス数又は検索数、リポジトリ閲覧件数、パスファインダー閲覧数のうち該当するものの合計値である。

特記事項

(ア) 東京国立近代美術館

(本館)

企画展、所蔵作家・作品、近現代美術に関する資料の収集（寄贈交換事業を含む）を積極的に行い、展覧会活動の推進に役立てた。引き続き、「NACSIS-ILL（図書館間相互利用サービス）」に参加し、遠隔による文献複写サービスに取り組み、42件対応した。ウェブサイト内で連載企画「研究員の本棚」「アートルाइブラリ所蔵資料の紹介」を公開し、美術資料に関する情報発信に努めた（これらは『現代の眼』（640号）に収録）。アートルाइブラリ内において、企画展ごとに関連資料の特集展示を行った。当館開催のMOMATコレクション展や企画展に所蔵資料の貸出を行った。前年度に引き続き、書架の狭隘化対策として民間倉庫を継続的に利用した。休館期間を活用し、6月に閉架A・Bエリアを対象に蔵書点検、2月に閉架書庫の老朽化に伴う電動書架（計6か所）の内5・6か所目の改修工事（完了）及び閲覧室内の劣化していた天板シートの貼替作業等のメンテナンスに取り組んだ。VHS「2025年問題」への対応として、アートルाइブラリ所蔵のVHS等381本のデジタル化に取り組んだ。「下村観山展」の展覧会カタログに掲載された「文献目録」の作成に取り組んだ。

(国立工芸館)

令和6年度に引き続きライブラリ内の閲覧資料と開催展覧会関連資料の収集を行った。令和7年は金沢移転5周年を迎えた年であり、移転記念と銘打った企画展が4本開催されたが、そのうち令和7年12月から開催の「工芸と天気展：石川県ゆかりの作家を中心に」では、金沢に移転してから開催された展覧会すべてのカタログをライブラリに陳列し、金沢における工芸館の5年間の活動を示すことができた。

所蔵資料の活用に関しては、「ルーシー・リー展—東西を超えた優美のうつわ—」「工芸と天気展—石川県ゆかりの作家を中心に—」2展覧会において展示利用があった。所蔵資料の有意義な利用については今後も可能性を探っていく。

さらに、専門図書館として学生や研究者の利用促進として、普段閲覧室には置かない専門的な資料紹介をSNSで始めた。

(イ) 京都国立近代美術館

図書資料は主に寄贈により増加し続けているが、保管場所に限界があること、隣接する京都府立図書館や各機関リポジトリを活用できることから、近現代の美術・工芸に関するものに限定して収蔵することとしている。

寄贈のほかにも、京都国立近代美術館収蔵作品研究に資する資料として『Yasuo Kuniyoshi : artist as photographer』[c1983]などを購入、令和8年度企画展の「フォンタネージ—イタリアの光・心の風景」展の研究調査用資料として、『Il 1859-'60 a Bologna』[c1961]などの稀観本も、準備年度にあたる令和7年度予算から購入した。また、雑誌『視覚障害：その研究と情報』を定期年間購入し、教育普及事業における「感覚をひらく—新たな美術鑑賞プログラム 創造推進事業」に活用した。図書データベースの整備も引き続き推進、現在未公開となっている一般図書データ（一部約150点）の公開に向け準備を図った。図書閲覧サービスについては、人員不足から約半年の休止期間を設けたが、令和7年10月1日から再開した。

(ウ) 国立映画アーカイブ

図書室では、映画文献に関する一定の網羅性を目指して、映画関連の新刊書と雑誌を収集するとともに、未所蔵の古書や戦前の雑誌など貴重な映画文献の購入、さらに一般の書籍流通ルートには乗らない刊行物の収集にも努めている。令和7年度もそうした未収蔵の文献を購入したが、中でも古書店からの購入として特筆すべきは戦前・戦後初期に映画を製作した劇団前進座関連の出版物であり、他の映画雑誌の欠号の入手にも努めた。

図書所蔵情報の公開については新着書籍の登録を例年通り行えただけでなく、洋書の遡及登録も進めることができた。

図書室運営については、令和7年度は閲覧対応のカウンター業務とバックヤードでの業務をバランスよく進めることができ、映画文献収集家有田嘉伸氏より受けた膨大な旧蔵書のリスト化も完了させることができた。ただし書庫の棚不足が顕著になっており、図書を棚間で移動させて効率的な配架に努めている状況である。

(エ) 国立西洋美術館

松方コレクション関連の資料を積極的に収集するという方針のもと、松方コレクションの形成に関わるアーカイブズ資料をフランスの公文書館等で収集したほか、キュビズム関連書籍を展覧会「ピカソの人物画」に出品するなど、収集した資料を展覧会活動の推進に役立てた。一橋大学名誉教授の河村錠一郎氏から英国美術関連書籍や美術雑誌等 65 冊の寄贈を受けたことも特筆に値する。研究資料センターを通じて館外の研究者へ学術情報を提供したほか、8 件 86 枚の遠隔複写に対応し、情報サービスを広く提供することに努めた。林忠正宛書簡群のデジタル公開サイトには、新たに書簡の翻刻テキスト 10 通を追加公開した。また美術史学の主要な文献データベース「Art Humanities Database」へ国立西洋美術館研究紀要の収録論文情報を提供開始し、調査研究成果の情報発信を一步前進させた。一方で国立西洋美術館の展覧会ポスターのデジタル化にも引き続き取り組み、デジタル技術を活用した資料の保存にも引き続き取り組んでいる。加えて、研究資料センターのウェブサイトや利用予約サイトの日英バイリンガル化を行い、国内唯一の西洋美術専門図書室として日本語話者以外の利用にも応えるべく、アクセシビリティの向上に寄与した。

(オ) 国立国際美術館

所蔵作家及び作品、特別展に関連する文献資料を中心に収集を行い、調査に役立てたほか、展覧会場内に「資料閲覧コーナー」を設け、来館者の閲覧に供した。また、新規収蔵候補の作家や作品に関する文献資料を集め、補完することで、質量ともに充実した作家・作品情報を構築することができた。他方、令和6年度に引き続き、令和7年度もアーカイブズ資料の収集・整理を進めた。所蔵図書及びアーカイブズに関しては、館外からの研究者・学芸員の調査希望にも応じ、将来の企画に役立てることができた。

(カ) 国立新美術館

近現代美術及び隣接領域に関する図書・逐次刊行物・展覧会カタログの収集を行った。特に日本の展覧会カタログについては網羅的、遡及的収集に努め、国内約 400、国外約 100 の美術館・博物館・図書館と展覧会カタログの相互寄贈関係を維持している。

令和7年度は、新たに「須賀啓関係資料」（資料群番号：SC048）及び「牧陽一旧蔵資料」（資料群番号：SC049）の寄贈を受けた。「須賀啓関係資料」は、作家の須賀啓（1936-2023）のアトリエを出所とする資料群であり、国立アトリサーチセンターの令和7年度資料整理トライアル事業として、一般社団法人戦後芸術保存の協力のもと、調査研究、編成を行い、公開した。「牧陽一旧蔵資料」は、「アヴァンギャルド・チャイナ―中国当代美術二十年―」（2008 年）と関わりの深い中国近現代美術の展覧会カタログ、図書、雑誌、エフェメラを中心とする資料であり、研究者の牧陽一から寄贈を受け、整理・公開を進めた。

大学との連携事業として、慶應義塾大学アート・センターの「アート・アーカイヴ特殊講義」に協力し、春学期は6月18日に慶應義塾大学アート・センターで講義を行い、秋学期は12月17日に当館で所蔵資料を用いた授業を行った。

イ 東京国立近代美術館アートライブラリと国立新美術館アートライブラリーの在り方の見直し
東京国立近代美術館アートライブラリと国立新美術館アートライブラリーの在り方について、図書館システムの共同調達など協力関係を維持するとともに、収集資料の調整などを継続して協議し、各館の蔵書体系を活かしつつ、両館の相補的な関係による運営を行った。

④ 我が国現代美術やメディア芸術の国際発信の推進、現存作家の国際発信支援等

ア 現代美術やメディア芸術の国際展等へ出展・参加する作家等に対する支援等

件数	第5期累計	目標件数（第5期）
17	63	27

令和7年度は9件、総計17名の日本のアーティストの国際展出品を支援した（支援の決定を含む）。サン・パウロ・ビエンナーレ、シドニー・ビエンナーレなどの歴史ある大型国際展から、リュブリャナ、ベルゲン、ボナビスタなど地域に密着した国際展まで、地域、規模、テーマ等様々な国際展におけるアーティストの海外発信に貢献した。坂本龍一、富山妙子、勅使河原蒼風など物故作家の作品が新しい視点から海外で紹介されたほか、著名アーティストから中堅若手に至るアーティストの多様な活動を幅広く支援した。

イ 美術に関する重要な文献の翻訳・国際発信

戦後日本の現代美術を語る際に重要な未英訳文献を対象に文献を翻訳するプロジェクトとして、令和5年度に文化庁APJ事業より引き継いだ36件の文献のうち、著作権の許諾がとれなかった文献、既訳がある文献5本を除いた31本の翻訳を完了した。そのうち14本は令和8年7月に「APJ文献データベース」において公開を予定している。

「1950年代—その暗黒と光芒」（萬木康博）、「現代美術の同行Ⅱ—反芸術的傾向を中心に」（斉藤泰嘉）など戦後日本の現代美術の展覧会史を辿る重要文献や、アーティスト自身の言葉を記録した「抽象絵画の余白」（吉原治良）などの貴重な文献が英訳されたことにより、海外における日本の現代美術研究の一層の発展に資することができた。

ウ 国際アートフェスティバルへの出展等、メディア芸術作品等の国際発信に向けた取組件数

件数	53	うちメディア芸術に関するもの（件）※	7
----	----	--------------------	---

海外における国際展出品作家である、さわひらき、高田冬彦、田中功起の映像を主体とするインスタレーションに加え、坂本龍一と高谷史郎によるサウンド・インスタレーション等、メディア・アートを含む幅広い作品の展示支援を行った。また、「コンニチのメディアテークとインスタレーション」（清水健人）の論文を英訳し7月の公開を予定している。このほか、フランス、ポンピドゥー・センターのニュー・メディア・キュレーターであるフィリップ・ベッティネッリ氏を招聘し、国内のメディア関係者との面談、アーティストを紹介するなど、メディア・アート分野での情報共有やネットワーク構築の強化を図った。これに加え、同氏によるNCARトークを実施し、広く情報発信に努めた。

(4) 教育普及活動の充実

第5期（令和3年度～令和7年度）中期目標に定める指標	
指標	・講演会等のイベントの満足度調査を実施し、「良い」以上の回答率を8割程度とする。 ・教材化された素材の活用件数
関連指標	・教育普及事業参加者数

① 幅広い学習機会の提供及びラーニングコンテンツ等の開発

ア 幅広い学習機会の提供（講演会、ギャラリートーク、アーティスト・トーク等）

オンラインも活用し、年齢や理解の程度に応じたきめ細かい多様な事業を展開した。

館名	事業実施回数(回)	参加者数(人)	満足度調査実績
東京国立近代美術館	1,564	10,895	89%
国立工芸館	122	2,959	98%
京都国立近代美術館	76	2,541	92%
国立映画アーカイブ	167	12,787	94%
国立西洋美術館	322	11,363	96%
国立国際美術館	168	4,827	96%
国立新美術館	73	10,852	94%
合計	2,492	56,224	94%

【注】満足度調査実績は、「良い」「普通」「悪い」のうち「良い」と回答した者の割合である。

特記事項

(ア) 東京国立近代美術館

(本館)

企画展関連の講演会や、所蔵作品展と関連するイベントやプログラムなど、幅広い層の人々の美術鑑賞に対する関心を高める内容で展開した。「こどもまっと」などの全館イベントでは「MOMAT まるごと探検隊」や「絵本をひらこう！」などの特別プログラムを実施した。また令和7年度から「中高生プログラム（7か月・全8回）」を開始した。春まつり期間は「所蔵品ガイド」の通常とは異なる形式での実施（30分・2作品）に加え、令和6年度に引き続きツアー形式の「MOMAT ハイライトツアー（30分・5～6作品）」を実施した。また、年間を通して学校団体を対象に、ガイダンス、ギャラリートーク、「先生のための鑑賞日」を実施した。

(国立工芸館)

「喜如嘉（きじょか）の芭蕉布展」にあわせて制作したワークブック『たんけんかのおぼえがき ばしょうふ』は、工芸初学者の子供や海外からの来館者に対して沖縄の地に伝わる織物とそれに関わる人々への関心を呼び起こせたことを、聞き取り調査やイベント参加時の発言により確認している。制作にあたって「喜如嘉の芭蕉布保存会」の協力を得て内容の精度を高めるとともに、教員等と意見交換を行って「伝わりやすさ」を検討することができた。また、新聞での連載記事や公式SNSにて紹介し、来館誘発のきっかけとして設定することができた。

(イ) 京都国立近代美術館

令和6年度に引き続き、各企画展においてアーティストや外部講師や担当研究員による講演会を実施し、展覧会の内容をより深く紹介することができた。特に「セカイノコトワリ 私たちの時代の美術」においては、出品作家によるアーティストトークを全5回実施し、多様な視座で作家・作品の意義を考える機会を設けることができた。令和7年度は企画展に加え、コレクション展でもギャラリートークをオンライン配信することで、遠方の方や、足を運べない方など、幅広い層へ展覧会を知っていただく機会を提供した。また講演会に限らず、展覧会と関連した音楽コ

ンサートを実施することで、音楽と美術の両文化への関心層に向けて広く展覧会のアピールをすることができた。

学校との連携においては、個別のニーズに合わせたきめ細かな学習支援を行うことを念頭に置き、担当教員や指導主事らとの関係を築きながら、鑑賞プログラムを共に検討することを心掛けた。

(ウ) 国立映画アーカイブ

令和6年度に引き続き、フィルム映写マニュアルビデオ「NFAJ オンライン映写ガイド」を作成し、第2弾「上映前の準備」を公式Youtubeチャンネルにアップした。また、初の試みとして、個人で応募可能な見学ツアーを開催。今回は、高校生向けのバックヤードツアーとし、9名の高校生が研究員の解説とともに、京橋本館のバックヤードを見学した。アンケートではうち8名が「とてもよかった」、1名が「よかった」と回答した。また、全国の学校等で使用可能な国立映画アーカイブの配信サイトを活用した教材作りのため、博物館等と学校教員らが参加するワークショップに参加し、共同作成した教材計2点をウェブサイトにて公開した。さらに同ワークショップを主催するS×UKILAM連携の特別協力のもと、「国立映画アーカイブ配信サイトを活用した学習教材コンペティション」を実施し、優秀な教材計7点を同じくウェブサイトにて公開した。また、最優秀の教材を用いた模擬授業を成城学園初等学校にて開催した。

(エ) 国立西洋美術館

令和6年度に続き、一部プログラムに手話通訳を手配し、ロジャー（デジタル補聴援助システム）を貸し出した他、障害者や小さな子供連れも参加しやすいコンサートを実施するなど、各種プログラムのアクセシビリティ向上に取り組んだ。

11月末から約1か月、「美術館でクリスマス」と題し、コンサート、ギャラリートーク、ボランティアによる立ち寄り式のプログラム「ボランティアート」を実施した他、冬季限定の音声ガイド「キュレーターズ・ボイス」を配信した。この時期に実施するBABY DAYやKawasaki Free Sundayなどと情報を一元化し、発信力を高めた。また、子供とその保護者が一緒に参加できるイベントを全て掲載したチラシを制作した。

(オ) 国立国際美術館

展覧会関連のアーティスト・トーク、講演会、ギャラリー・トーク等を通じて、幅広い層の人々がそれぞれの興味・関心に応じて参加できる多様なプログラムを企画・実施した。特に、「非常の常」では、屋外における出品作家によるパフォーマンスをはじめ、外部団体と連携した上映会など、初めての試みに取り組んだ。また、「プラカードのために」では、出品作家による対談や鼎談、ワークショップなどを実施し、来館者が作家や作品と多角的に関わることのできる多彩な機会を提供した。

さらに、未就学児とその保護者、学校団体として来館する児童生徒及び教員、個人で来館する小・中学生とその保護者、ケアを要する方など、参加者の属性やニーズに応じた複数種類のプログラムを展開し、それぞれが無理なく美術館活動に関わることができる環境づくりに努めた。加えて、学校や教育委員会とも連携し、鑑賞体験の充実と将来の鑑賞者育成を意識した教育普及活動を行い、多様なバックグラウンドを持つ人々に対して、開かれた鑑賞機会を提供した。

(カ) 国立新美術館

建築、ジュエリー、現代美術といった多彩な分野の企画展にあわせて、現役で活躍するアーティストや専門家を国内・海外から招き（オンライン出演を含む）、世界的な建築・デザイン事務所の共同創立者による特別講演や、「ブルガリ・フォーラム」、「時代のプリズム：日本で生まれた美術表現 1989-2010 アーティストトーク」などを開催して、表現者の生の声やグローバルな専門的知見を聴講者に共有した。

また、美術館建築について学ぶプログラムとして、従来の一般向けの「建築ツアー」と小学生向けの「こどもたんけんツアー」に加え、小学生親子を対象とした「たてものはかせのおしゃべりツアー」を実施して参加者層を拡充した。

イ 幅広い人々を対象としたラーニングコンテンツの開発・提供

・教材化された素材の活用件数

館名	教材化された素材の活用件数	内訳
東京国立近代美術館	6	・MOMAT コレクション展では、来館した小・中学生（学校団体での来館含む）に「MOMAT コレクション こどもセルフガイド」、幼児に「MOMAT コレクション みつけてビンゴ！（日・英）」を無料配布した。 ・小中学生向けセルフガイドのデジタル版である「MOM@T Home こどもセルフガイド（日）」「MOM@T Home Self-Guide（英）」をウェブサイトに掲載し、展示室内外から、大人を含む誰でもがアクセスできる環境を整えている。 ・「MOMAT まるごと探検隊 たんけんカード」を作成し、「Family Day こどもまっと」関連プログラム「MOMAT まるごと探検隊」で活用した。
国立工芸館	2	・来館する学校団体の来館目的や学習内容等にあわせて下記のガイドを作成、配布した。 ①『橋本真之《果樹園—果実の中の木もれ陽、木もれ陽の中の果実》見学ノート』 ②『国立工芸館へようこそ！』
京都国立近代美術館	21	・例年通り、学校や大学等へのアートカードの貸し出しを行い、授業や研究で活用いただいた。 ・京都国立近代美術館では、視覚障害のある方に向けた鑑賞ツールとして、所蔵作品についての触察ツール「さわるコレクション」を継続的に制作している。令和6年度時点で12種類があり、年間を通じ、盲学校やライトハウス、希望する個人への無料配布を行った。さらに令和7年度は新たに2種類（各1,000部）を制作した。 ・令和6年度から、中学生までの子供に向けた所蔵作品の鑑賞ツール「もまっくコレクションカード」を制作、配布している。令和7年度も新たに全6種類・各400部制作し、8月からコレクション展会場で無料配布し利用いただいた。
国立映画アーカイブ	10	・「こども映画館 2025 年の夏休み★」では、「NFAJ セルフガイド」（3種類）「フィルムしおり」「ソーマトロープ『なまくら刀』篇」の計3つを子供たちに配布。その結果、「こども映画館」終了後に常設展見学を希望する子供は、セルフガイド配布を行っていなかった令和4年度までの1日あたりの平均は16.5人だったが、令和7年度は平均44人となり、常設展ではセルフガイドに書き込みながら展示を楽しむ光景もみられた。 ・「高校生向け 国立映画アーカイブ京橋本館バックヤードツアー」、「V4 中央ヨーロッパ子ども映画祭」、「こども映画館特別篇 2026 年 春」では、「フィルムしおり」及び「ソーマトロープ『なまくら刀』篇」の計2つを配布した。 ・「TIFF 映画教育国際シンポジウム 2025～映画教育のネットワークと担い手の課題～」にて、「ソーマトロープ『なまくら刀』篇」を配布した。
国立西洋美術館	6	・「国立西洋美術館 点字・触知図ガイドブック」（2021年度作成） 国立西洋美術館のインフォメーションでも配布を開始し、ウェブサイトでその旨を告知した。 ・「アクティビティ・ブック」（2021年度作成） 常設展や建物を楽しむアクティビティをまとめた学校団体向けのワークシート。ウェブサイトに掲載。印刷して事前学習、もしくは来館当日に使用可能。 ・「ジュニア・パスポート」（新規3件「素描展」、「印象派展」、「チュルリョーニス展」） 小中学生用のセルフガイドを作成。館内で配布する他、pdf を国立西洋美術館ウェブサイトにも掲載した。

国立国際美術館	6	・『アクティヴィティ・ブック』（日本語版）及び『アクティヴィティ・シート』は、主にスクールプログラム実施時における鑑賞サポートツールとして活用した。 ・『国立美術館アートカード・セット』は、学校団体による校内での鑑賞授業ならびに美術館で実施する各種プログラムにおいて活用した。 ・『アクティヴィティ・ブック』（「やさしい日本語」・英語併記版）及び『国立国際美術館すごろく よく見て感じて！ Take a Good Look!』は、国内外を問わず個人来館者を対象とした鑑賞サポートツールとして活用した。 ・『びじゅつかんまるとぞろぞろ発見シート』は、主に未就学児を含むファミリー層を対象とした美術館体験支援ツールとして活用した。
国立新美術館	3	・学校等を対象に実施している「鑑賞ガイド」及び「施設ガイド」や、学校招待プログラム「かようびじゅつかん」において、参加児童・生徒・学生に、企画展にあわせて制作した鑑賞ガイド『リビング・モダンティ 住まいの実験 1920s-1970s ガイドブック』や『時代のプリズム：日本で生まれた美術表現 1989-2010 ガイドブック』、子供向け施設ガイド『建物がおしごと中！』を事前または当日配布し、学校での事前学習や当日の鑑賞活動において活用した。

国立アートリサーチセンターでは、国立美術館の所蔵作品 65 点をアートカードにした「アートカード・セット」第 5 版を発刊し、全国の書店及び EC サイトで購入できるようにした（販売数 令和 7 年度 662 冊・第 5 期累計 1,778 冊）。加えて学校等への貸出（140 箱）も行うことで、国立美術館のコレクションを学び親しむ機会を拡大した。また、同作品を高精細画像で搭載するデジタル教材「鑑賞素材 BOX」の管理・運用を行った（年間ビジット数 9,795 件）。当該教材は、主に小学校・中学校・高等学校を対象に、国立美術館所蔵の名作を高精細画像で電子黒板へ投影したり、タブレット端末へ配信したり、ワークシートを作成したりする方法により、教育現場で利活用されることを想定して制作したデジタル教材である。令和 7 年度末からは、国立アートリサーチセンターウェブサイトのリニューアルを進める中、利用者がより利便性を向上させた形での公開に向けて、準備を進めている。

さらに、あらゆる人が美術館にアクセスできる機会を充実させるため、「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」（文化庁委託事業）を実施するにあたり、運営監督者向けの動画教材を新たに作成、e ラーニング受講登録者 1,461 名（修了者 1,071 名）の参加を得た。また、同研修事業内において全国の美術館・博物館に講師を派遣する対面ワークショップを行うための教材ツールを新たに開発し、10 件 27 館が参加してアクセシビリティと社会包摂の取組を始めるための基礎的知識を習得しただけでなく、事業化につなげるための議論を重ねた。加えて、「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」を、ラーニンググループが取りまとめて実施し、報告書をウェブサイトに掲載するとともに冊子を刊行した。報告書には同研修の 20 年間の記録を収録した。

② ボランティアや支援団体との相互協力等による教育普及事業及び企業や地域等との連携による事業の開発・実施等

ア ボランティアや支援団体との相互協力等による教育普及事業

館名	ボランティア登録者数(人)	参加者数(人)	ボランティア参加者数(人)
東京国立近代美術館（本館）	57	8,723	1,237
国立工芸館	35	1,013	114
京都国立近代美術館	15	0	0
国立西洋美術館	51	5,006	802
国立国際美術館	9	0	0
国立新美術館	64	5,530	104
合計	231	20,272	2,257

特記事項

(ア) 東京国立近代美術館

(本館)

ボランティア活動では、57 人のガイドスタッフが、1,517 回の事業実施を担い、8,723 人の参加者に日本語、英語、その他の鑑賞プログラムを実施した。ボランティアの延べ活動人数は1,237 人だった。現在登録中のボランティアを対象としたフォローアップ研修は、外部講師による講座や録画配信での座学により、合計7回実施し、活動の質の向上を図った。令和7年度もボランティアの公募を行い、全8人を新採用し、1月から育成研修を開始した（令和8年度5月まで研修予定）。

そのほか、企業の社員研修や顧客向けイベントとして活用される「企業・法人向け対話鑑賞プログラム」を実施した。

(国立工芸館)

石川県内在住のボランティアスタッフの研修を進め、屋外設置作品を用いた鑑賞プログラムを新規に開発し、10月と11月に提供した。日本語に加えて英語でもガイドを行ったことで、海外からの来館者のニーズに応えることができた。屋外でのプログラム提供が難しい冬季にはフォローアップ研修を行ってガイド技術の向上に努め、令和8年度の実施に向けて準備を進めた。

(イ) 京都国立近代美術館

京都市内博物館施設連絡協議会及び京都市教育委員会が主催する「京都市博物館ふれあいボランティア養成講座」を受講・修了された方が所属する、京都市博物館ふれあいボランティア「虹の会」からボランティアを受け入れ、来館者へのアンケート調査回収、集計に携わってもらうことで、ボランティアの経験、知識の向上等に協力できた。

(ウ) 国立映画アーカイブ

恒例の小中学生対象の「こども映画館」とヴィシエグラード各国大使館及び文化センターとの共催企画「V4 中央ヨーロッパ子ども映画祭」を開催し、前者では弁士の語りと生演奏によるライブパフォーマンス付きで無声映画を鑑賞するプログラムを実施し、後者では各作品の上映前に大使館員が解説するトークイベント付きのプログラムを実施することで、教育事業の充実を図ることができた。また、博物館等の資料を活用した教材づくりを行っているプロジェクト「S×UKILAM 連携」のワークショップに参加し、2つの教材を学校教員らと共同で制作しウェブサイトにて公開した。さらに、S×UKILAM 連携からの特別協力を得て実施した学習教材コンペティションでは、スタッフ以外にも有識者に審査員を依頼し、優秀な7点の教材を同サイトにて公開することができた。また、最優秀の教材を用いた模擬授業を成城学園初等学校にて、教員及び生徒の協力を得て開催した。

(エ) 国立西洋美術館

ボランティア・スタッフの貢献により、「ファミリープログラムどうぶじゅつ」、「スクール・ギャラリートーク」、「美術トーク」、「建築ツアー」といった定番のプログラムを、着実に継続することができた。令和7年度は、アクセシビリティ向上のための取組の一環で、来館者と直接接するボランティア・スタッフを対象に外部講師を招き「アンコンシャス・バイアスとマイクロ・アグレッション」についての研修を行った。加えて、国立アトリサーチセンターの協力を得て「情報保障と合理的配慮」についての研修も実施した。

また、通常の活動内容に加え、コロナ禍での様子をまとめた令和2年から令和6年までのボランティア活動報告書を作成した。令和7年度末から令和8年度にかけて、本報告書を閲覧できるコーナーを常設展の一角に設け、ボランティアの活動を紹介するパネル展示を行う。

(オ) 国立国際美術館

大阪国際児童文学振興財団との連携のもと、未就学児とその保護者を対象とした「ちっちゃなこどもびじゅつあー 〜絵本もいっしょに〜」を実施した。聞こえない、または聞こえにくい子供を対象とした回では、NPO こめっこ（特定非営利活動法人 手話言語獲得習得支援研究機構）と連携し、手話言語による鑑賞環境を整えることで、美術館における新たな学びの機会を創出した。また、外国にルーツを持つ人たちを対象としたプログラムでは、NPO 法人おおさかこども多文化センターとの協議を重ね、多文化的背景に配慮した内容の充実を図った。

(カ) 国立新美術館

64名の学生がボランティアとして登録し、美術館主催のワークショップや講演会・シンポジウムの運営補助、「建築ツアー」のガイドなど様々な事業において活動した。

株式会社日本設計のボランティア有志と協働し、「たてものはかせのおしゃべりツアー」、「建築ツアー」のマスターコース、及び「こどもたんけんツアー」を実施した。

「視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ」では、任意団体と協働し、「時代のプリズム：日本で生まれた美術表現 1989-2010」展を視覚に障がいのあるナビゲーターとともにグループで対話しながら鑑賞した。

三菱商事株式会社との協働により、「テート美術館 — YBA&BEYOND 世界を変えた 90s 英国アート」展において「障がいのある方のための特別鑑賞会」を開催した。

イ 企業や地域等との連携による事業の開発・実施等

国立アトリサーチセンターにおいて、超高齢社会における孤独孤立や認知症といった社会的課題に対応する「共生社会をつくるアートコミュニケーション共創事業」（科学技術振興機構（JST）の共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）に参画し、研究機関・企業・自治体等と連携して研究を推進した。8月にはEXPO2025大阪・関西万博において開催された文科省主催の展示スペースにおいて、東京藝術大学と共同で「文化的処方体験しよう！Hello Future! 100年ミュージアム」を出展し、これにあわせ令和6年度刊行の『文化的処方のはじめの一步』英訳版及びジュニアガイド『10代のあなたのための文化的処方ガイド』を刊行した。11月には東京藝術大学・川崎市民ミュージアムと連携して「写真の中のかわさき第2弾」展を実施するとともに、アートコミュニケーター「ことラー」やAIロボットとともに鑑賞する機会を設け、作品や文化を介して人々の間につながりが生まれる方法をさぐる共同研究を行った。

③ 映画フィルム・資料の所蔵作品の活用

国立映画アーカイブでは、所蔵作品を上映する「こども映画館」において、所蔵作品を活用して令和7年度に新規に作成した「ソーマトロップ『なまくら刀』篇」を子供に配布し、アンケート結果は3段階の「面白い」・「ふつう」・「面白くない」のうち、子供の98%が「面白い」または「ふつう」と答え、鑑賞するだけにとどまらない所蔵作品活用の試みとして、一定の成果をあげることができた。また、恒例の京都国立近代美術館との共催「MoMAK Films」や国立国際美術館との共催「中之島映像劇場」に加え、ハーバード・フィルムアーカイブにて共催企画「浮雲たち—成瀬巳喜男監督特集」を開催し、海外で上映頻度の少ない作品も含め計16作品を上映する特集を、館所蔵13作品の提供によって実現した。また、ジェローム・セドゥ・パテ財団にて共催企画「カルト・ブランシュ——国立映画アーカイブ無声映画選集」を開催し、日本映画を中心に、海外初上映と思われる作品も含め計44作品の上映を、館所蔵43作品の提供により実現した。

京都国立近代美術館では、国立映画アーカイブとの共催による映画上映会「MoMAK Films」を4回、計8日間実施した。令和7年度は5月に日本映画と音楽、8月に日米ホラーコメディ、11月に動物と人間たち、2月に日本の女性映画人に関する上映を行った。5月の上映では、アフタートークも実施することで、作品理解を深めることができた。

(5) 調査研究の実施と成果の反映・発信

第5期（令和3年度～令和7年度）中期目標に定める指標	
指標	・調査研究活動の成果に基づき、所蔵作品展において、前中期目標期間実績程度の展示替えを実施する。
関連指標	・調査研究活動の成果の多様な方法による公開に係る取組状況。（調査研究成果の公開方法・公開件数） ・映画のデジタル保存・活用等に関する調査研究の取組状況（調査研究の取組件数）

① 調査研究一覧

国立美術館における美術作品の収集・展示・保管、教育普及、情報の収集・提供その他の美術館活動の推進を図るため、各館において調査研究を実施し、その成果を美術館活動の充実に生かした（計156件）。個々の調査研究については別表9を参照。また、展示替えについては別表1を参照。

特記事項

ア 東京国立近代美術館 (本館)

- ・花井久穂（主任研究員）が令和6年度開催の展覧会「ハニワと土偶の近代」の企画及び同展図録中の論文の業績によって、令和7年11月に第36回倫雅美術奨励賞（美術史研究部門）を受賞した。

イ 京都国立近代美術館

- ・大長智広（主任研究員）が中心となって編集・執筆した「きもののヒミツ 友禅のうまれるところ」展図録は、京都の伝統産業である友禅をはじめとする着物について、絵画・工芸など関連分野とも絡めながらその制作工程をめぐる文化全体を、近世から現代へ至る流れの中で捉え直そうとしたものであり、着物研究における新生面を開いたものとして評価されると期待される。
- ・平井啓修（主任研究員）が中心となって編集・執筆した「没後50年 堂本印象 自在なる創造」展図録は、京都の近代日本画を代表するこの作家について、寺院の襖絵なども含めて代表作を網羅し、画業の流れと多彩な側面を余すところなく取り上げたものであり、この画家に関する今後の基礎文献となると期待される。

ウ 国立西洋美術館

- ・中田明日佳（主任研究員）と高嶋美穂（特定研究員）が中心となって企画した「フルーニング美術館・国立西洋美術館所蔵 フランドル聖人伝板絵—100年越しの“再会”」展は、関連する互いの所蔵作品をめぐるフルーニング美術館との国際的な共同研究にもとづくもので、ベルギー側担当者とともにオンラインによるミニ・シンポジウムを開催したほか、美術史的調査と科学調査の成果を英語報告書にまとめ、国際的な情報発信を行った。

エ 国立国際美術館

- ・福元崇志（主任研究員）は、「中西夏之 緩やかにみつめるためにいつまでも佇む、装置」展の企画・実施に際して、共同開催の他3館とともに中西の半世紀以上にわたる制作の軌跡を振り返り、その特異な絵画理念と実践を浮き彫りにする初の回顧展として構成した。中西の画業が一覧できる図録は、今後の中西研究の重要な文献として参照されることが見込まれる。

オ 国立新美術館

- ・企画展「時代のプリズム：日本で生まれた美術表現 1989-2010」の図録は、本展覧会が対象にした時代の美術動向を複眼的に検証できる内容を目指し、国立新美術館と香港M+のキュレトリアル・チームのメンバーによる論考に加えて、外部の研究者・批評家・学芸員へのインタビュー、

テーマ別のコラム、詳細な年譜や作家バイオグラフィーを日英バイリンガルで掲載した。展覧会の記録としてだけでなく、当該時代の美術を再考するための資料集として、今後、内外の研究で参照されることが見込まれる。

② 調査研究成果の発信

ア 館の刊行物による調査研究成果の発信

各館において、以下のとおり展覧会図録、研究紀要、館ニュース等を刊行し、研究成果を発信した。それぞれの項目における研究員の執筆事項については別表 10～12 を参照。

(冊)

館名	展覧会図録	研究紀要	館ニュース	パンフレット・ガイド等	
				パンフレット・ガイド	その他
国立アトリサーチセンター	-	1	-	6	4
東京国立近代美術館（本館）	2	1	2	2	0
国立工芸館	4			3	0
京都国立近代美術館	4	1	4	1	2
国立映画アーカイブ	0	0	4	22	2
国立西洋美術館	3	1	3	3	2
国立国際美術館	3	0	4	1	2
国立新美術館	4	1	-	1	1
合計	20	5	17	39	13

イ 館外の学術雑誌、学会等における調査研究成果の発信

各館において、以下のとおり学会、学術雑誌等において研究成果を発信した。それぞれの項目における研究員の執筆事項については別表 13 を参照。

(件)

館名	学会等発表	論文等発表件数			
		学術書籍、研究報告書等の発行	論文掲載（査読有り）	論文掲載（査読無し）	その他
国立アトリサーチセンター	13	4	1	0	8
東京国立近代美術館（本館）	38	6	1	20	34
国立工芸館	22	2	0	9	11
京都国立近代美術館	16	4	0	11	12
国立映画アーカイブ	23	0	0	3	49
国立西洋美術館	5	1	2	2	9
国立国際美術館	14	1	0	11	9
国立新美術館	4	1	0	2	18
合計	135	19	4	58	150

ウ インターネットによる調査研究成果の発信

(ア) 国立アトリサーチセンター

以下の記事を NCAR ホームページ上に掲載した。

- ・【ワークショップ及び講演会の開催報告】「文化財保存修復に関するワークショップ—額縁の歴史・技法と保存修復について—」「イギリスと日本における額縁の歴史と保存」
- ・【報告書】「文化財修復処置に関するワークショップ—写真の識別と保存について—」
- ・【ワークショップ開催報告】「NCAR ワークショップ 005 Single Thread Bonding による破れたキャンバスの補修」
- ・【動画】「ミュージアム・アクセシビリティ講座 ふかふかTV」第1回・第2回

- ・【レポート】DEAI 調査レポート6 DEAI とミュージアム—アメリカ博物館連盟の報告書をふりかえって
- ・【報告書】令和7年度美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修
- ・【ガイドブック】『文化的処方のはじめの一步』
また、以下の作家解説を「日本アーティスト事典」（アートプラットフォームジャパン）に掲載した。
- ・安齊重男（谷口英理執筆）
- ・菊池契月（田中正史執筆）
- ・北脇昇（大谷省吾執筆）

（イ）東京国立近代美術館（本館・国立工芸館）

『現代の眼』『東京国立近代美術館研究紀要』『東京国立近代美術館活動報告』『東京国立近代美術館概要』の収録論文等を東京国立近代美術館リポジトリ及び館ウェブサイトに掲載した。

（ウ）国立映画アーカイブ

- ・所蔵する文化・記録映画などを配信するWEBサイト「フィルムは記録する—国立映画アーカイブ歴史映像ポータル—」に新たに100作品を追加した。
- ・令和5年度に開設した映画関連資料のウェブサイト「映画遺産—国立映画アーカイブ映画資料ポータル—」の第4弾として、当館で重要度の高い所蔵品を含む映画機材44点の高精細な画像と詳細なテクニカルデータを公開した。また第5弾として、歴史的な日本の映画ポスター219点のメタデータと画像を公開した。
- ・「NFAJ デジタル展示室」において、以下のデジタル展示を公開した。
「第33回 1940年代中国の映画館写真 上海(1)」
「第34回 1940年代中国の映画館写真 上海(2)」
- ・望ましい映画資料アーカイブの構築に向けて、映画分野の展覧会キュレーションに関する発表、デジタルアーカイブ構築における著作権、地域と連携した特撮映画資料保存の取組み、映画資料アーカイブの重要性をテーマにしたセミナーなど、多様なプログラムにより「全国映画資料アーカイブサミット2026」をオンラインで開催した。また、記録映像を本事業の公式Youtubeチャンネルから公開した。
- ・過去の教育事業「映画製作専門家養成講座」で実施した第1回1997（平成9）年度「日本映画の技と匠」（総合プロデューサー：野上照代）のうち、以下計12回の講座の採録を館ウェブサイトからPDFにて公開した。
美術に関する計6回の講座（R7.6.27公開）
編集に関する計6回の講座（R8.3.10公開）
- ・小ホールにて開催した東京国際映画祭との共催「TIFF 映画教育国際シンポジウム2025」のスライド資料を館ウェブサイトから、また記録映像を東京国際映画祭公式YouTubeチャンネルから公開した。

（エ）国立西洋美術館

- ・インターネット上の「国立西洋美術館出版物リポジトリ」（館ホームページにもリンク）を通じて『国立西洋美術館研究紀要』収録の研究論文ならびに『国立西洋美術館報』最新号を公開した。

（オ）国立国際美術館

研究員による所蔵作品解説、特別展に関連した文章や作家による文章を掲載した美術館ニュースを定期刊行物として年間4回発行しているが、館ホームページ上でも掲載し広く公開している。また、展覧会や教育普及など各種美術館事業について、SNSを通じて作品解説やイベント内容を発信した。

(カ) 国立新美術館

- ・企画展「時代のプリズム：日本で生まれた美術表現 1989-2010」の関連イベントとして、参加作家によるアーティスト・トーク、及び内外の様々な分野の研究者や作家を招聘したシンポジウムを開催し、いずれもアーカイヴ動画（日・英）を当館 YouTube チャンネルで配信した。
- ・企画展「時代のプリズム：日本で生まれた美術表現 1989-2010」のキュレトリアル・チームによる本展の解説動画（日・英）を作成し、当館 YouTube チャンネルで配信した。
- ・企画展「時代のプリズム：日本で生まれた美術表現 1989-2010」の参加作家 26 名のインタビュー映像（日・英）を 4 本作成し、当館 YouTube チャンネルで配信した。
- ・企画展「ブルガリ カレイドス 色彩・文化・技巧」の関連イベントとして、ブルガリのヘリテージ・キュレーター、会場デザインを担当した建築家、及び海外の研究を招聘したトークイベントを 2 回開催し、いずれもアーカイヴ動画（日・英）を当館 YouTube チャンネルで配信した。
- ・企画展「少女漫画・インフィニティ」の関連イベントとして、展覧会担当研究員の吉村麗によるトークをロンドンとパリの 2 か所で開催し、イベントレポートを当館ホームページに和英で公開した。
- ・国立新美術館ホームページにおいて「NACT YOUTH PROJECT 2024 新美塾！」の記録集及び活動記録動画を公開した。
- ・国立新美術館ホームページにおいて『令和 6 年度国立新美術館活動報告』を公開した。

(6) 快適な観覧環境の提供

第5期（令和3年度～令和7年度）中期目標に定める指標	
指標	・快適な観覧環境の提供に係る取組状況。（入館者に対する満足度調査の「良い」以上の回答率を、前中期目標期間実績と同程度の水準を維持するものとする。）
関連指標	・サインや作品解説等の多言語化に向けた取組件数。

館名	観覧環境に対する満足度調査における「良い」以上の回答率	目標 (第4期中期目標期間実績)
東京国立近代美術館（本館）	92.9%	78%
国立工芸館	89.3%	
京都国立近代美術館	87.2%	
国立映画アーカイブ	89.3%	
国立西洋美術館	87.5%	
国立国際美術館	82.4%	
国立新美術館	87.1%	

【注】満足度調査は、回答を「良い」「普通」「悪い」のいずれかに分類し、集計している。

国民に親しまれる美術館を目指し、各館において、動線の改善や鑑賞しやすさ、理解のしやすさに配慮するための工夫を行った。

また、子供連れで来館しやすい美術館を目指し、各館にて子供連れ来館者のための特別開館や会館前1時間の特別開館、また子供向けの特別企画など、周囲を気にせず楽しんでいただける環境を用意するとともに、「こどもファスト・トラック」（小学生以下の子供連れ来館者の優先入場）を実施した。

① 高齢者、障がい者、外国人等を含めた入館者本位の快適な観覧環境の形成

※多言語化に向けた取組件数は67件である。以下、多言語化に向けた取組には下線を付する。
(第4期中期目標期間中の平均件数は60件である。)

<各館共通実施事項>

- ・多言語による館案内表示
- ・多言語による館内リーフレット、ミュージアムカレンダー等の配布（国立映画アーカイブを除く）
- ・英語による館内放送の実施（一部の放送を除く）（国立映画アーカイブを除く）
- ・所蔵作品展・企画展における展示解説（章解説パネル・キャプション・作品リスト等）の多言語化（原則として日本語のほか英語・中国語・韓国語に対応）
- ・所蔵作品展・企画展における音声ガイドの多言語化（原則として日本語のほか英語・中国語・韓国語に対応）（国立映画アーカイブを除く）
- ・多言語対応の案内用デジタルサイネージの設置（国立新美術館を除く）
- ・QRコード読み取り式の電子アンケート（日本語・英語）を導入
- ・クレジットカード、QRコード決済及び電子マネー（Suica及びPASMO等）による観覧券の窓口販売（館により対応は異なる）
- ・多目的トイレ、エレベーター・エスカレーター、スロープの設置
- ・車椅子の貸出、ベビーカーの貸出
- ・身体障がい者用駐車スペースの提供（国立国際美術館を除く）
- ・盲導犬、介助犬の同伴による観覧
- ・インフォメーションカウンターに筆談ボードを設置
- ・主に発達障害のある方とその家族に向けた、やさしい文章と写真による来館案内冊子「ソーシャルストーリー」を各館ウェブサイトに掲載
- ・オストメイト対応の設備を設置

- ・自動体外式除細動器（AED）の設置
- ・授乳室の設置（国立映画アーカイブを除く）
- ・無料Wi-Fiの提供

＜各館の実施事項＞

- ・電話による展覧会情報案内（ハローダイヤル）の多言語化（日本語・英語・中国語・韓国語・ポルトガル語・スペイン語）【東京国立近代美術館（本館・国立工芸館）、国立映画アーカイブ、国立西洋美術館、国立新美術館】
- ・多言語による所蔵作品展チケットのオンライン販売を実施【東京国立近代美術館（本館・国立工芸館）、京都国立近代美術館、国立西洋美術館、国立国際美術館】
- ・東京都が実施する「ウェルカムカード」に参加し、外国人来館者の所蔵作品展観覧料を割引【東京国立近代美術館（本館）、国立映画アーカイブ、国立西洋美術館】
- ・地下鉄の対象の乗車券の提示により割引等を実施するサービス「ちかとく」の英語版に参加【東京国立近代美術館（本館）、国立西洋美術館】
- ・国立美術館6館紹介パンフレットの多言語化（日本語・英語・中国語・韓国語）【法人本部】
- ・館内サインの拡大、所蔵作品展における小中学生向けこどもセルフガイドの配布、自主企画展における無料音声ガイドアプリの提供、所蔵作品展におけるスマートフォンアプリによる4ヶ国語（日本語・英語・中国語・韓国語）の章解説・作品解説の提供、訪日外国人に向けた、英語による鑑賞・異文化交流プログラム「Let's Talk Art!」「Collection Tour “Explore with Us”」の実施【東京国立近代美術館（本館）】
- ・作品名・作家名にふりがなを入れた会場キャプションの設置及び作品リストの配布、夏季所蔵作品展における児童生徒を対象とした「セルフガイド」（日本語・英語）・一般観覧者向けリーフレット（日本語・英語）及び冬季所蔵作品展における一般観覧者向けリーフレット（日本語）の作成・配布、スマートフォンアプリによる章解説・作品解説の多言語での提供【東京国立近代美術館（国立工芸館）】
- ・自主企画展チケットのオンライン販売の実施【京都国立近代美術館】
- ・特集展示「NFAJ コレクションでみる 日本映画の歴史」における児童生徒向けの「ジュニア・セルフガイド」の配布、所蔵作品上映におけるバリアフリー上映を実施（視覚障がい者向け音声ガイドの使用、聴覚障がい者向け字幕投影及び磁気ループシステム使用）、企画上映について前売券の販売【国立映画アーカイブ】
- ・企画展における児童生徒向けの「ジュニア・パスポート」を配布、「世界遺産パンフレット」（日本語・英語・中国語・韓国語）の配布、Google「Arts&Culture」アプリによる主要所蔵作品解説（日本語・英語・中国語・韓国語）の無料配信の実施、建築デジタルコンテンツの多言語化（英語・中国語・韓国語）、企画展におけるQRコードを活用した3ヶ国語（英語・中国語・韓国語）の章解説・作品解説の提供、所蔵作品展にて「手話ガイド」として日本手話・日本語字幕つきによる作品解説を行った動画を再生できるタブレットの貸出、企画展開催中の特定の日程にて「託児サービス」（有料・事前予約制）の実施、「BABY といっしょに ゆったり DAY」として未就学児を持つ来館者を対象に休館日に所蔵作品展を無料で特別開館するイベントを実施、未就学児、妊婦及びその付添者を対象に、オルセー展にて「こどもファスト・トラック」として優先入場を実施【国立西洋美術館】
- ・各階のトイレに点字案内板を設置、安全仕様のキッズルーム（地下1階）の設置及び同所における幼児向け絵本の常設【国立国際美術館】
- ・点字ブロック（正門から正面入口、地下鉄口から西入口（インターホンを設置））及び点字表示（エレベータ内ほか）の設置、補聴器等への磁気誘導無線システムの講堂内への設置（専用受信機10台）、託児サービスの実施、文字を大きくし見やすくしたフロアガイド「大きな文字の利用案内」の館内配布、企画展における児童生徒向け鑑賞ガイド配付及び子供向け施設ガイドの配布及びホームページ掲載、外国人来館者向けの翻訳サービス「ポケットーク」を導入、講演会・シンポジウム等における手話通訳の導入、利用者がスマートフォン等の端末で視聴できるウェブア

プリ「国立新美術館建築ガイドアプリ CONIC」を配信、QR コードを活用した作品解説キャプションの多言語化（日英中韓）【国立新美術館】

② 入場料金、開館時間等の弾力化

＜各館共通実施事項＞

- ・国際博物館の日（5月18日）に関連し、所蔵作品展及び国立映画アーカイブの展覧会の観覧料を無料化（当日休館日であった館を除く）
- ・文化の日（11月3日）における所蔵作品展及び国立映画アーカイブの展覧会の観覧料を無料化（当日休館日であった館を除く）
- ・所蔵作品展、自主企画展及び国立映画アーカイブの展覧会における高校生以下及び18歳未満の観覧料を無料化
- ・所蔵作品展及び企画展における夜間開館（原則として毎週金曜・土曜日20時まで）を実施

＜各館の実施事項＞

ア 東京国立近代美術館

（本館）

- ・東京都が実施する「家族ふれあいの日」に参加し、毎週土曜、日曜に優待券を提示した高校生以下の子供を連れた家族に所蔵作品展の観覧料割引を実施
- ・東京メトロ、都営地下鉄ワンデーパスによる所蔵作品展の観覧料割引を実施
- ・JAF 会員券の提示による所蔵作品展の観覧料（個人一般）割引を実施（企画展も展覧会により割引を実施）
- ・「東京・ミュージアムぐるっとパス 2025」に参画し、所蔵作品展及び企画展の観覧料割引を実施
- ・所蔵作品展については引き続き「5時から割引」（夜間割引）を実施

（国立工芸館）

- ・いしかわ文化の日（10月19日）における観覧料割引を実施
- ・学生のまちパスポート『学パス』（いしかわ・かなざわ文化施設入館証）により、石川県内の大学・短大・高専に在学する1年生を対象に、観覧料無料を実施
- ・北鉄バス 金沢市内1日フリー乗車券提示による観覧料割引

イ 京都国立近代美術館

- ・企画展を開催しない土曜日における所蔵作品展の観覧料を無料化
- ・「関西文化の日」（11月15日、16日）における所蔵作品展の観覧料を無料化
- ・京都国立博物館、京都市京セラ美術館、京都文化博物館と組織する「京都ミュージアムズ・フォー」において、各館の友の会と相互割引を実施
- ・奈良国立博物館、国立民族学博物館及びMIHO MUSEUMの友の会と相互割引を実施
- ・近隣の京都市京セラ美術館、細見美術館と連携し、相互割引を実施
- ・京都伝統産業ミュージアムと相互割引を実施
- ・JAF 会員証提示による企画展及び所蔵作品展の観覧料（個人一般）割引を実施
- ・朝日新聞グループ 朝日友の会、京都新聞トマト倶楽部、阪急阪神カード及び京阪カードの情報誌・ホームページに展覧会情報を掲載するとともに、これらの会員を対象に観覧料割引を実施
- ・企画展（「〈若きポーランド〉—色彩と魂の詩 1890-1918」「きもののヒミツ 友禅のうまれるところ」「没後50年 堂本印象 自在なる創造」「セカイノコトワリー 私たちの時代の美術」「モダン都市生活と竹久夢二—川西英コレクション」）において、各種観覧料割引を実施

- ・第1回～第4回コレクション展及び企画展（「没後50年 堂本印象 自在なる創造」「セカイノコトワリー私たちの時代の美術」「モダン都市生活と竹久夢二―川西英コレクション」）において、金曜日の18時以降の入館者に対して、夜間割引を実施

ウ 国立映画アーカイブ

- ・7階展示室の毎月末の金曜日（プレミアムフライデー）の20時までの開館延長
- ・上映企画開催中の原則週5日（日曜・祝日を除く）について18時以降の上映を実施

エ 国立西洋美術館

- ・東京メトロ、都営地下鉄ワンデーパスによる所蔵作品展の観覧料割引を実施
- ・京成電鉄株式会社が実施する都内フリー乗車券「下町日和きっぷ」に参加し、所蔵作品展の観覧料割引を実施
- ・北総鉄道株式会社が実施する「北総・下町めぐりきっぷ」に参加し、所蔵作品展の観覧料割引を実施
- ・「東京・ミュージアムぐるっとパス2025」に参加し、所蔵作品展の観覧料割引を実施
- ・「Kawasaki Free Sunday」（原則毎月第2日曜日）に所蔵作品展の観覧料を無料化
- ・「にぎやかサタデー」（8月23日）に所蔵作品展の観覧料を無料化
- ・有効期間中何回でも所蔵作品展を観覧できる「国立西洋美術館常設展パスポートチケット」の作成・発売
- ・8月13日（お盆期間）、3月30日（桜花期）に臨時開館を実施

オ 国立国際美術館

- ・所蔵作品展及び自主企画展における夜間開館時の観覧料割引を実施
- ・原則毎月第一土曜日における所蔵作品展の観覧料を無料化
- ・関西文化の日における所蔵作品展の観覧料を無料化【11月15日（土）及び11月16日（日）】
- ・大阪観光局が発行する「大阪周遊パス」による所蔵作品展の観覧料無料化及び企画展観覧料割引を実施
- ・「ミュージアムぐるっとパス・関西」に参加し、所蔵作品展の観覧料無料化及び企画展観覧料割引を実施
- ・京都国立博物館、奈良国立博物館及び国立民族学博物館の友の会等と相互割引を実施
- ・朝日新聞グループ 朝日友の会、大阪市高速電気軌道株式会社、OSAKA メセナカード、京阪カード及びみずほプレミアムクラブの情報誌・ホームページに展覧会情報等を掲載するとともに観覧料割引を実施
- ・近隣ホテルとの連携を強化し、ホテル利用者に入場割引券を配布し、展覧会広報を行うとともに観覧料割引を実施。また、提携ホテルでの展覧会の半券持参等による特典を提供

カ 国立新美術館

- ・六本木アート・トライアングル参加館との観覧料の相互割引及び共通マップの作成・配布
- ・公募団体展と企画展の観覧料の相互割引を実施したほか、企画展において、各種観覧料割引を実施
- ・東京ミッドタウンと連携し、東京ミッドタウン内対象ショップへの展覧会の半券持参による特典提供を実施
- ・「Tokyo Gendai」の参加施設として、令和7年9月12日（金）～9月14日（日）の期間中、当該イベントのVIPパス提示者及び同伴者1名に対し、「時代のプリズム：日本で生まれた美術表現 1989-2010」の観覧料を無料
- ・「アートウィーク東京」の参加施設として、令和7年11月5日（水）～11月9日（日）の期間中、当該イベントの参加者に対し、「時代のプリズム：日本で生まれた美術表現 1989-2010」の観覧料を無料又は割引

- ・「アートフェア東京 20」に協力し、令和 8 年 3 月 12 日（木）～3 月 15 日（日）の期間中、当該イベントの参加者に対し、「テート美術館 — YBA&BEYOND 世界を変えた 90s 英国アート」展の観覧料を割引

③ キャンパスメンバーズ制度の実施

国立美術館全体の事業として平成 18 年 12 月から実施している、大学、短期大学、高等専門学校及び専修学校等を対象とした会員制度「国立美術館キャンパスメンバーズ」については、令和 7 年度は 5 校の新規加盟、4 校の脱退があり、合計 108 校となった。これは制度開始以来最高の加盟校数である（利用者数 110,131 人）。

④ ミュージアムショップ、レストラン等の充実

ミュージアムショップについては、企業との連携等により各館所蔵作品の図版等を活用したオリジナルグッズの開発に努め、ホームページにおいて展覧会図録やグッズの情報を紹介するなどの広報宣伝を行った。レストランについては、企画展にちなんだ特別メニュー等を提供した。各館の特徴的な取組は以下のとおりである。

ア 東京国立近代美術館

（本館）

- ・「美術館の春まつり」期間中、通常のショップに加えてポップアップショップを設置、花にちなんだ作品をモチーフとした商品等を販売し、好評だった。
- ・「美術館の春まつり」期間中、前庭に桜を眺めながら休憩ができる床几台を設置した。
- ・「美術館の春まつり」期間中はキッチンカーを前庭に配置し、お花見弁当や軽食を提供した。
- ・レストランが企画展とコラボしたメニューを提供した。

（国立工芸館）

国立美術館唯一の直営ミュージアムショップとして、販売活動を通じて「日本のものづくり」の魅力を国内外に発信することを目指し、管理・研究部門協働によって各地の工芸やデザインの優品を選び、商品解説や制作者紹介の充実にも努めた。また、北陸地域や工芸にゆかりのある企業との連携によるオリジナルグッズを制作したり、展覧会内容に合わせたグッズを収集したりすることにより、利用者の工芸に対する関心を深めるきっかけを作っていた。「花と暮らす展」で初めて展覧会限定商品として、展覧会にちなんだ花模様のトートバック、サコッシュを制作し収入増への一助となった。

今年度は新規で 1 社とコラボをし、3 点の商品制作を実現した。

- ・重要文化財の鈴木長吉《十二の鷹》を撮影し、その画像を 3D に起こしてより作品に近い新オブジェ（七、八、九）制作・販売を開始した。

イ 京都国立近代美術館

【ミュージアムショップ】

- ・すべての展覧会において、それぞれの内容に合わせた関連グッズ及び関連書籍のコーナーを設け、幅広い層の来館者にご満足いただけるよう、商品を充実させることに尽力した。具体的事例として、以下の展覧会では、企画・製作したオリジナルグッズを販売し好評を得た。

「若きポーランド」展では、3 階特設ショップを設け、京都国立近代美術館ミュージアムショップの関連会社と共同で運営し、オリジナルグッズ 14 アイテムの他ポーランド雑貨・食品等も好評を得た。

「きもののヒミツ」展では、オリジナルグッズとしてポストカード、ダイカットカード、クリアファイル、マスキングテープ、メモ、トートバッグ等、14 アイテムを製作販売し好評を得た。

「堂本印象」展では、堂本印象美術館オリジナルポストカード、クリアファイル、マグネット等 11 アイテムを仕入れ販売し、またオリジナルポストカードとクリアファイルを新たに製作し販

売した。

「セカイノコトワリ」展では、オリジナルグッズとしてポストカード、キャップ、風呂敷を製作し、また、出展作家のオリジナルグッズを仕入販売し好評を得た。

- ・京都国立近代美術館のオリジナルグッズとして、イラストレータ多田玲子氏デザインのサコッシュ、シール、缶バッジを製作販売し好評を得た。
- ・京都国立近代美術館の創造推進事業『CONNECTs_』では、障害のある方が制作した商品を集めた特設コーナーを設け展示販売をし好評を得た。
- ・OK パスポートをお持ちのお客様に開催中の展覧会図録、コレクション作品のオリジナルポストカードの10%割引を実施した。

【レストラン】

- ・企画展にあわせた期間限定メニューを全展覧会で販売した。
- ・季節のパフェ、期間限定ドリンク等を提供し好評を得た。
- ・賛助会・OK パスポート・JAF 会員・ミュージアムぐるっとパス関西・岡崎手帳提示又は十石舟乗船券提示の方に10%割引を実施した。また京都リーフの記事掲載、Instagram フォロー特典など広報活動を行った。
- ・堂本印象展ではミュージアムショップと連携し、京都市内にある和菓子店が制作した「羊羹とドリンクセット」を提供し話題作りに貢献した。
- ・国内外の観光客に向け京野菜・京焙じ茶・抹茶など京都ならではの食材を使用しニーズに対応した。
- ・全てのクレジット決算に加えタッチ決済、QR にも対応し利便性を充実させた。

ウ 国立映画アーカイブ

令和2年度に館内整備を行い、1階エントランスホールの総合受付に併設したミュージアムショップを開設し、オリジナルグッズの製作を行った。引き続き令和7年度もNFAJ ニュースレター及び展覧会図録等や展覧会・上映会関連グッズなど、品数を徐々に増やしつつ販売を実施した。

エ 国立西洋美術館

- ・ミュージアムショップ：所蔵作品を用いたオリジナルグッズ（折りたたみ傘、絵画ポスター、ネクタイ他）を新たに制作・販売するとともに、小企画展オリジナルグッズ（絵はがき、マグネット、シール他）の制作・販売により、展覧会の広報及び来館者サービスに貢献した。
- ・レストラン：企画展「西洋絵画、どこから見るか？ールネサンスから印象派まで」、自主企画展「スウェーデン国立美術館 素描コレクション展」、企画展「オルセー美術館所蔵 印象派」において展覧会特別コースを開発・提供することで観覧環境の充実を図り、来館者が展覧会とあわせて楽しむことができる機会を設けた。また、冬季の来館促進イベント「美術館でクリスマス」開催中にはクリスマス限定メニューも提供した。新たな取組として、食事提供開始時間を11時から10時に変更し、顧客満足度の向上及び売上増加を実現した。

オ 国立国際美術館

ミュージアムショップでは、すべての特別展において、展示内容や出品作家に合わせた関連書籍やグッズのコーナーを設け、商品ラインナップの充実を図った。また、特別展「プラカードのために」会期中には、ミュージアムショップで取り扱う出品作家のグッズを館の公式 SNS で紹介した結果、閲覧数や反応が伸び、効果的な情報発信につながった。

カ 国立新美術館

- ・持ち帰ることのできる身近なアートの展示・販売を行うことで多様な美術館の楽しみ方の提案をすることを目的に、ミュージアムショップ内ギャラリーにおいて、郷土玩具の展示、食品サンプルなど企業の背景を含めた展示、作家やグループの展示等を美術館との連携により6展開催し、あわせて関連商品の展示販売を実施した。

- ・ミュージアムショップにおいて、各展覧会の来館客層に合わせた催事展開を実施した。
- ・時代のプリズム展開催時に 1F・B1F ショップにて企画展の図録及び関連グッズを販売した。
- ・レストランにおいて、四季に合わせたシーズンメニューを提供したほか、毎月開催のワイン会やマジックショー付き食事会を開催した。

2 我が国の近現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・活用・継承

(1) 作品の収集

第5期（令和3年度～令和7年度）中期目標に定める指標	
指標	・所蔵作品の収集に係る取組状況 （美術作品購入点数、美術作品寄贈点数、美術作品年度末所蔵作品数） ・所蔵作品整理に係る取組状況（レジストラ等専門的職員の充当人数） ・国立各館間での管理換及び長期貸与の件数

① ナショナルコレクションの形成

ナショナルコレクションの形成については、従来の各館の収集方針を再検討しながら令和4年11月に定めた「独立行政法人国立美術館収集方針」及び同方針に基づく現代の美術作品の同時代収集の推進方針にのっとり、リサーチと協議を重ねて既存のコレクションの手薄な部分を補うことに努めた。その結果、ジェンダーバランスへの配慮として三島喜美代、オノ・ヨーコ、佐々木類、水口咲、ピピロッティ・リスト、松井智恵、今津景、上原沙也加ら女性作家の作品を充実させるとともに、地域的多様性にも積極的に目を向けリー・キット（香港／台湾）、ユキ・キハラ（サモア）、ムン・キョンウォン&チョン・ジュンホ（韓国）などアジア、太平洋諸国の重要作家の作品収集を図った。日本人作家でもインドネシアを拠点とする今津景や沖縄を拠点とする上原沙也加など幅広いリサーチに基づいて収集を行った。これらの作品は令和8年度以降に各館において積極的に公開していく予定である。

・所蔵作品整理に係る取組状況（レジストラ等専門的職員の充当人数）

令和7年度充当人数（人）	令和7年度新規	0	総数	2
--------------	---------	---	----	---

特記事項

レジストラについてはこれまで国立国際美術館で主任研究員1名、国立西洋美術館で主任研究員1名、特定研究員1名及び研究補佐員1名が配置されている。令和7年度において新規採用者はいない。両館ではレジストラが収蔵庫からの作品の出し入れに関わる管理・記録、輸送の調整、作品の貸与・借用に伴う調整等を行っている。修復に関しては、国立西洋美術館では修復担当者の業務となるが、国立国際美術館ではレジストラが作品状態点検、修復の必要性の判断を行い外部の専門家への手配まで担当する。以上の業務について、法人内の他館は専門職を置かず、研究員が数年おきに係を交代しつつその任にあたっている。国立西洋美術館ではまた、作品移動の調整の円滑化のために、出入庫記録の記録作成方針の標準化とDXの推進、システム構築を行い、国内美術館の規範となる作品管理体制の確立を目指している。

・国立各館間での管理換及び長期貸与の件数

国立各館間での管理換及び長期貸与の件数（件）	5
------------------------	---

特記事項

長期貸与については令和6年度から継続し国立国際美術館の日本画2点を京都国立近代美術館へ、また国立西洋美術館の作品3点を国立工芸館へ貸与している。また、国立西洋美術館の所蔵作品による小企画展「ピカソの人物画」（令和7年6月28日～10月5日）に、東京国立近代美術館の所蔵するピカソ作品3点もあわせて展示したほか、東京国立近代美術館の所蔵作品展における「迷い、挑む。明治の表現」（令和8年3月3日～5月10日）と題した特集展示に、国立工芸館の所蔵する作品5点（寄託を含む）をあわせて公開するなど、国立美術館相互の作品活用に努めた。

② 所蔵作品の収集に係る取組状況

作品の収集は、国立美術館の役割を踏まえ、法人全体及び各館の収集方針に基づき、各館の調査・研究活動を通じて収集すべき美術作品を検討した後、外部の有識者による美術作品購入選考委員会等の審査を経た上で実施している。また、法人内で各館の収集予定やその緊急性等について情報交換を行うことにより、適時適切な収集に努めている。

令和7年度の購入予算（法人共通）の用途については、海外への流出可能性など緊急度の高さや作品の品質と希少性等の観点から法人全体で協議し、決定している。

館名	購入点数	購入金額（円）	寄贈点数	年度末 所蔵作品数	年度末 寄託品数
東京国立近代美術館（本館）	50	730,598,944	42	14,046	244
国立工芸館	114	177,033,450	92	4,459	140
京都国立近代美術館	68	367,110,450	224	14,105	1,585
国立西洋美術館	11	676,832,480	48	6,742	106
国立国際美術館	79	403,521,823	14	8,334	62
合計	322	2,355,097,147	420	47,686	2,137

館名		令和7年度の収集方針
東京国立近代美術館	本館	19世紀末から今日に至る日本の近現代美術の流れを、国際的な関連を交えつつ通史的・体系的に示すために、その十全な展観に必要な不可欠な歴史的価値を有する作品・資料の収集に努める。またジェンダーバランスや地域性といった同時代的に重要な視点を常に踏まえ、将来的にその時代を象徴しうるような先駆的作品の確保に努める。 ア 1970年代以降の日本と海外の作品の収集 イ 日本の美術に影響を与えた海外作家の作品の収集 ウ 1900～1940年代の日本画作品の収集
	国立工芸館	ア 近現代の日本の工芸作品及びデザイン作品の体系的・通史的概観を可能とし、かつ世界との関係を示すため必要な時代や国・地域の作品の充実を図る。 イ 性別・年齢の偏りを是正するよう配慮しつつ時代精神を映し出す優品を積極的に収集するよう努める。 ウ 日本工芸の近代化を示す作品の補充と、個々の表現を模索し多様な展開を見せる、戦後から現代に至る重要な作品の収集を中心とする。
京都国立近代美術館		ア 近現代の工芸全般、日本画、油彩画、版画、彫刻、写真など多様なジャンルの作品資料を収集し、将来における横断的美術史研究と総合的展観に資する体系的コレクションの形成に努める。 イ その際、優れた女性作家の作品を積極的に収集し、美術館活動におけるジェンダーバランスの是正を目指す。 ウ また、美術における京都を含む西日本の歴史的文化的重要性に鑑み、その地域性に立脚した作品や、世界の美術との影響関係の検証に不可欠な作品の収集に努める。
国立西洋美術館		ア 中世から20世紀前半の西洋美術の流れの体系的・通史的概観を可能とするのに必要不可欠な時代や地域の作品の充実を図り、女性作家の作品も積極的に収集する。 イ 松方旧蔵品の調査研究の成果に基づきつつ収集する。 ウ ヨーロッパ版画史を通覧できるよう、多様な様式や主題の作品の系統的収集を行う。
国立国際美術館		日本美術の発展と世界の美術との関連を明らかにするため、国際的な交流が極めて盛んになった1945年以降の国内外の現代美術作品の収集を次の点について留意しながら積極的に行う。 ア 国内外の同時代性の高い先端的な美術作品の収集

	イ ジェンダー・バランスの是正や非欧米地域の動向、国内の地域バランスに配慮した作品収集
	ウ 今後の美術史に寄与する現代美術作品の体系的な収集

特記事項

ア 東京国立近代美術館

(本館)

(購入)

日本画家・橋本雅邦による円熟期の代表作《臨済一喝》（1897 年）、近年世界的な再評価著しいスイスのアーティスト、ゾフィー・トイバー＝アルプ作《垂直－水平の構成》（1917 年頃）、世界的に高い評価を受ける日本人アーティスト、河原温の初期大作《洪水期》（1955 年）を購入した。いずれも国立美術館全体のコレクションのなかで多様な活用が見込まれる優品である。通常予算については、日本画では、速水御舟の画風転換期の実験的作品《林丘寺塀外の道》（1918 年）、油彩では、大竹伸朗の初期代表作《ミスター・ピーナッツ》（1978-81 年）、素描では、村山槐多の稀少なドローイング 2 点（1914 年、1918 年）の購入が大きな成果である。近年重点的に取り組む女性作家の作品の充実として、日本画では朝倉摂、油彩では長谷川春子、漆原英子、素描では沢居曜子、彫刻では前本彰子、映像ではオノ・ヨーコ、写真では山沢栄子、鈴木のだみなど、多様な時代とジャンルの作品を購入した。

(寄贈)

大正から昭和にかけてフォーヴと写実の展開を体現した代表的な近代画家・小林徳三郎の《金魚を見る子供》（1928 年、油彩）、《南風》（1907 年・重要文化財）で知られる和田三造が昭和 10 年代に、当時の人々の暮らしの諸相を描いた木版画シリーズ《昭和職業絵巻》（1939-41 年、版画）、1970 年代後半のコンセプチュアルな仕事で評価の高い沢居曜子の初期版画と 1980 年代のドローイングなどは、すでに収蔵する作家の多様なキャリアをより十全に通覧可能にする点において、大いに活用が見込まれる寄贈となった。一方、1930 年代の日本における幻想的絵画の異色作である鈴木三郎《金魚》（1934 年、油彩）や、1950 年代の日本において、リアリズムの表現に取り組む作家に影響を与えたフランス人画家アンドレ・ミノー《小人のスペイン女》（1953 年頃、油彩）などは、初めての収蔵となる作家による作品で、コレクション展に新しい幅を持たせ得る、意義深い収蔵となった。

(国立工芸館)

(購入)

岡部嶺男《窯変米色瓷博山炉》及び、北原千鹿《置物 花折り枝》など金工を中心とした同一コレクターによる収集作品 72 点を購入した。前者は日本の戦後陶芸界をリードしてきた作家の代表作のひとつであり、当館のコレクションをさらに厚くするものとなった。後者はひとりのコレクターの審美眼によるものではあるが、これまではあまり歴史的に通覧することが難しかった 20 世紀日本金工の歩みを辿ることができる貴重な作品群であり、今後の研究の進展が期待できる。また、「現代の美術作品の同時収集」に係る予算によって、小川待子、ジュニファー・リー、八木一夫らの陶磁、通常予算によって関島寿子の木工や朝倉美津子の染織などを購入し、年代及び国・地域、ジェンダー、ジャンルなどバランスの取れた収蔵を進めることができた。

(寄贈)

令和 7 年度はまとまった作品受贈として、購入と同じコレクターより金工を中心とした 66 点を収蔵することができた。これらは購入作品と合わせることで、日本金工史の流れを辿ることを可能とする作品群である。また、川井雄仁《キズナソング》や岩田俊彦《サイコロニドクロ》といった、現代美術の文脈に接続する新しいタイプの作家による作品の寄贈を受け、工芸というジャンルを拡張するような新しい潮流にも対応しつつコレクションに厚みを持たせることができた。さらに、鈴木藏の陶芸作品 8 点はいずれも令和 5 年度に国立工芸館で開催した個展の出品作であり、当館での展示と研究の成果が収集につながったものである。

イ 京都国立近代美術館

〈購入〉

海野勝珉《鴛鴦岩象嵌銀製花瓶》及び山田宗美《鉄打出 熊置物》を購入した。いずれも、海外への輸出や皇室への献上を想定した緻密な技巧性を特徴とする明治工芸の重要な作例である。そうした明治工芸については既に大規模なコレクションを収蔵しているが、その中の欠けた部分を補うことができた。松本竣介の油彩画《郊外》も購入した。この画家の作品については東京・京都の国立近代美術館それぞれの収蔵作品によって画業の流れをたどることができるようになっているが、その中の欠けた部分を補うことができた。また、シカゴを拠点に活躍したネイサン・ラーナーの写真を中心とするコレクションも購入した。写真については今までにもアーノルド・ギルバート・コレクションやアイリーン・スミス・コレクションなどまとまった作品群を収蔵してきたが、その一層の充実を図ることができた。

〈寄贈〉

令和7年度も多数の寄贈を受け入れたが、多くは展覧会開催に伴うもの、作品購入に連動するものなどである。黒田辰秋《拭漆黄楊紙刀》をはじめとする12点の寄贈は、令和6年度に「生誕120年 人間国宝 黒田辰秋一木と漆と螺鈿の旅」を開催した結果、実現したものである。作家の研究から展覧会へ繋げ、そこから作品の収集へ繋げるといった好ましい流れをつくることができた。また、木村斯光の《「春宵」大下図》は、この画家による展覧会出品画のための下図ではあるが、同時期に活躍した甲斐莊楠音の類似作品と関連するものであるとみられ、その甲斐莊の作品については画中のモデルを写した写真資料なども含めて収蔵しているので、大正期における京都の青年画家同士のモデルの共有や共同制作の様子を考えるための貴重な資料となると期待される。なお、甲斐莊についても今回、多数の作品・資料を一括寄贈されたが、これも令和5年度に「甲斐莊楠音の全貌」展を開催した成果である。

ウ 国立西洋美術館

〈購入〉

イタリア・バロックを代表する画家の一人であるジョルダノの優作《マギの礼拝》や、ドイツ・ルネサンスの肖像画の典型を示すアムベルガーの女性像を購入できたことは、コレクションにさらなる厚みと文脈の多様化をもたらした。版画作品の購入も継続して着実に進めている。なかでも《医師ガシエの肖像（パイプを持つ男）》は、ファン・ゴッホとその支援者との関係のみならず、20世紀初頭の日本人芸術家たちとの交流を伝える学術的意義の高い作品であり、今後の研究や展示へのさまざまな活用が期待できる。また、この作品は日本国内に長く保管されていたもので、今回の購入にはこうした重要作品の海外流出を防いだという意義も見出せる。

〈寄贈〉

イギリス世紀末美術の研究で知られる河村錠一郎氏より、オーブリー・ビアズリーとギュスターヴ・ドレの挿絵本を中心に、それぞれの代表作『サロメ』、『新約・旧約聖書』等を含む39点の作品を受贈した。とりわけイギリスの唯美主義の牽引者の一人であったビアズリーの作品はこれまで「Kコレクション」として複数の展覧会に出品されて知られてきたものである。また、19世紀フランスを代表する挿絵画家ギュスターヴ・ドレについては、国立西洋美術館では油彩画は所蔵済みだが、この作家の主要活動分野であったグラフィック・アート作品は未収蔵であった。質の高い河村コレクションの受贈により、所蔵品においてこれまで手薄であった近代挿絵本の領域を一挙に充実させることができた点は、特筆すべき成果である。

エ 国立国際美術館

〈購入〉

エリザベス・ペイトン《ジョナサン（ジョナサン・ホロヴィッツ）》をはじめ、ツァオ・フェイの映像及び写真、アンドロ・ウェクアの彫刻及び絵画作品を購入することができた。1990年代の欧米における、具象絵画の新たな動向を牽引したペイトンの仕事は、後続世代にも大きな影響を与

えているが、国内の美術館で、彼女の油彩画を収蔵した例はこれまでない。すでに平成 18 年度に「エッセンシャル・ペインティング」展でペイトンを取り上げていた国立国際美術館が、その典型的ともいえる作品を収蔵することは意義深いと言えるだろう。これはジェンダーバランスの是正にも資するものであり、ペイトン以外に、このたび初めてコレクションに加わった女性作家としては、福田尚代や志賀理恵子、今津京らの名が挙げられる。一方、近年積極的に収集を進めている非欧米地域の作家としては、ツァオ・フェイの他、ムン・キョンウォン&チョン・ジュンホ（韓国）やリー・キット（香港）、ユキ・キハラ（サモア）の作品を購入することができた。また、ジョージアに生まれ、現在ドイツを拠点に活動するアンドロ・ウェクアの作品は、東欧地域という、西洋美術の「内なる他者」に光を当てるきっかけを与えるものといえる。

〈寄贈〉

アンドロ・ウェクア作品の購入に伴い、油彩画《A の肖像 後ろ姿》を受贈することができた。購入作品も含め、今回収蔵に至ったウェクアの作品はいずれも、令和 5 年度に開催した「ホーム・スイート・ホーム」展に出品されており、その意味で国立国際美術館の展覧会活動を振り返るための、よすがにもなりうる。同様のことは、令和 7 年度の「プラカードのために」展に出品された、金川晋吾の写真作品の受贈についても言えるだろう。また、岡崎和郎や吉原英雄、國府理など、所蔵作家の作品を新たに受贈することで、すでにあるコレクションに厚みを持たせることが可能となる。とりわけ当館が所蔵する岡崎和郎の作品は、2000 年以前のものに限られていたが、そこに《枯木》や《農業用フォーク》といった晩年の立体作品群が加わることによって、作家の仕事をより俯瞰して捉えることが可能となる。一方、野又穰は、このたびの受贈を機に、新しく所蔵作家となったが、当館の調査研究に沿うものである。

(2) 所蔵作品の保管・管理

第5期（令和3年度～令和7年度）中期目標に定める指標	
指標	・ 保管環境等の改善等に係る取組状況。 （各館の収蔵庫の収納率。）

保管施設の狭隘・老朽化への対応として、外部倉庫の活用、関係機関等との協議、既存の収蔵庫等保管施設の改修、額縁及び作品の整理による保管スペースの確保等を進め、保管環境の改善を行った。

また、平成31年3月に策定した「収蔵庫等保管施設の狭隘・老朽化対応に係る方針」に基づき、ナショナルセンターとして担う役割にふさわしい機能を有する新たな収蔵施設の設置に向けた検討を進めた。

① 収蔵庫等の狭隘・老朽化への対応

ア 東京国立近代美術館 （本館）

収納率：約170%

従来どおり、館外の倉庫に作品の一部を預けたり、作品貸与や所蔵作品展示により作品を庫外に出したりして最低限やりくりしている。倉庫の賃料の大幅な値上がりへの対応、及び新規収蔵作品の保管場所を確保するには継続的な予算の増額が必須である。令和4年度に定められた「現代の美術作品の同時代収集」開始以降、大型作品の収集は予想を超えて増加している。また適正な収納率をすでに大幅に超えているため、作品の出し入れに相当の時間を要することも多く、きわめて作業効率が悪い状況である。

（国立工芸館）

収納率：約204%

石川の収蔵庫は、令和3年度までに移転した工芸作品で収納率が100%を超えており、令和5年度から石川県金沢市内の民間倉庫に作品の移送を進め、令和6年度に全作品の移送が完了した。現在、作品は国立工芸館内の収蔵庫、石川県金沢市内の民間倉庫の2ヶ所に分蔵して保管している。石川の収蔵庫及び金沢市内の民間倉庫では、空気の対流の妨げにならないよう、作品の配置を検討し、また庫内清掃の徹底やサーキュレータの併用など、でき得る限りの環境保全に努めている。

イ 京都国立近代美術館 収納率：約198%

収納率が200%を超えるのは時間の問題ではあるが、従来どおり、館内の収蔵庫においては収蔵方法を適宜見直し、少しでも多くの作品を収納できるように工夫することにより、保存環境の改善と維持に努めている。また、館内の収蔵庫には収まりづらい作品（主に、館内の収蔵庫へ収納すれば他の収蔵品の運用を妨げる恐れがあるような大型作品）や、展示・貸与の機会がやや少なめの作品については、作品の状態を考慮しつつも、館外の民間倉庫を活用することにより、館内の収蔵庫における収納状況に無理が生じないように努めている。民間倉庫の借用には経費上の限界があるうえ、使用できる面積にも余裕があるわけでもないが、ここでも収蔵方法も適宜見直すように努める。

ウ 国立西洋美術館 収納率：約90%

- ・ 保存修復室メンバーで第1及び第2収蔵庫絵画ラックにかかっている作品及び絵画ラックレール上部の徹底清掃を行い、清潔に保つことにより、適切な保管環境の整備に務めた。
- ・ 保存科学室では例年どおり、第1、2、3収蔵庫にトラップをしかけて有害生物調査を実施したが、第3収蔵庫ではニューハクシミ（最近、東京文化財研究所が特に注意をするようアナウンスしている文化財害虫）の捕獲が認められたので、東京文化財研究所からのアドバイスを受け、薬剤付きのトラップを設置することで対策した。

エ 国立国際美術館

収納率：約 139%

民間倉庫の借用面積は令和 6 年度と同様のため、作品の追加預け入れが難しく、令和 6 年度と同様、計 50 点の作品を保管している。収蔵庫の狭隘化対策として、作品の安全な保管とスペース確保のため昨年度新規収蔵した作品や絵画ラックを占有する大型作品を中心に保管箱を作成した。新たに新規収蔵した作品で約 40 平米の床面積が必要となったが、すでに既存の保管スペースに空きがないため、本来は企画展のための借用作品を保管する館内の一時保管庫を一時的に保管場所としている。これらが借用作品用の保管庫のうちかなりの面積を占めているため、企画展入れ替えの際に借用作品や空クレートの保管スペース確保に苦慮しており、収蔵庫のみならずバックヤード全体が引き続き稠密であることに変わりはない。

② 防災対策の推進・充実

館名		避難訓練等の実施日
東京国立近代美術館	本館	(本館) 令和 8 年 3 月 11 日 (水) (分室) 令和 8 年 3 月 10 日 (火)
	国立工芸館	令和 8 年 1 月 26 日 (月)
京都国立近代美術館		令和 7 年 10 月 27 日 (月)
国立映画アーカイブ		(本館) 令和 7 年 7 月 15 日 (火) (相模原分館) 令和 7 年 11 月 25 日 (火)
国立西洋美術館		令和 7 年 12 月
国立国際美術館		令和 8 年 2 月 2 日 (月)、令和 8 年 3 月 16 日 (月)
国立新美術館		令和 7 年 7 月 22 日 (火)、令和 8 年 3 月 17 日 (火)

(3) 所蔵作品の修理・修復

第5期（令和3年度～令和7年度）中期目標に定める指標	
指標	・所蔵作品についての修理、修復に係る取組状況。（所蔵作品の修理・修復数）

所蔵作品等の保存状況について、各館の連携・調整を行い、特に緊急に処置を必要とする作品について重点的に修理・修復を行った。

・所蔵作品の修理・修復実績

館 名		修理・修復点数
東京国立近代美術館	本館	316 点（絵画 38 点、水彩 12 点、素描 57 点、版画 177 点、彫刻 7 点、写真 21 点、資料・その他 4 点）
	国立工芸館	11 点（工芸 11 点）
京都国立近代美術館		14 点（絵画 10 点、工芸 1 点、資料・その他 3 点）
国立西洋美術館		936 点（絵画 55 点、素描 3 点、版画 12 点、彫刻 3 点、工芸 10 点、書籍 3 点、資料・その他 850 点）
国立国際美術館		122 点（絵画 13 点、水彩 3 点、素描 2 点、版画 10 点、彫刻 4 点、写真 3 点、デザイン 2 点、資料・その他 85 点）

特記事項

ア 国立アトリサーチセンター

国立美術館における科学調査及び保存修復活動の促進を目指し、国立国際美術館が所蔵するジャスパー・ジョーンズ作品の材質の一部として用いられた鉛の劣化について、奈良文化財研究所の協力を得て調査を行った。その成果を『令和6年度国立アトリサーチセンター活動報告・研究紀要 Vol. 2』に発表した。

イ 東京国立近代美術館

（本館）

河原温《I MET》（1968 年）は、用紙を封入したビニール製のスリーブを、バインダーに綴じた形状の作品である。経年によりビニール製スリーブが加水分解し始めていることが判明し、代替スリーブへの交換などの処置を行った。ビニール素材の劣化は近年大きな問題となっている。今回の修復で得られた知見は、他のビニール素材の作品の状態調査等に応用していくことができる有益なものとなった。

また令和6年度に修復家による写真作品のまとめた状態調査を実施したが、その調査結果をもとに、アルフレッド・スティューグリッツ作品など 20 点ほどについて、実際の修復処置（クリーニングや接着など）を行うことができた。今後、定期的な状態調査と調査結果に基づく修復処置のサイクル確立を、徐々に目指していきたい。

（国立工芸館）

令和7年度は、金工作品 1 点、木工作品 1 点、デザイン作品 3 点、陶磁器作品 6 点について修復を行った。いずれの作品も作品本来の質感を損なうことなく、かつ鑑賞に全くの支障のない状態に修復された。クリストファー・ドレッサー《ポット(角型)》（c. 1875-76）については、令和7年度コレクション・ダイアログ 大正・昭和、モードの源泉展（岐阜県立美術館）への貸出が可能になるなど、展示活用の幅を広げることができた。

また、氷見晃堂《金銀線象嵌櫛平卓》（1960 年）は修復の過程で作家の制作意図や技術が明らかにすることができた。

ウ 京都国立近代美術館

国立新美術館で開催された展覧会に貸し出された宮島達男《Slash》が、展示中に基盤の一部が壊れていることが判明したとのことで、東京に作品がある間に、宮島作品の担当業者に修復してもらうことが叶った。電子部品を使った現代美術作品の修復について知見を得ることもでき、有意義であった。絵具の剥落、亀裂が激しかった梶原緋佐子《萌》、山岡良文《潮音の間》と《矢叫び》、堂本尚郎《二元的なアンサンブル》、伊谷賢蔵《S. K. 嬢》、阪神大震災の傷跡が痛々しいまま預かり、近年受贈した棟方志功《御鷹々之図》、シミがひどくて表具に虫喰い跡もあった千種掃雲《波濤》、絹の欠損や糸のほつれが目立った木村雨山《友禅衝立》、全体に生活汚れがついていた倉俣史朗《引出しの家具》をそれぞれ修復し、再び展示できる状態にすることができた。これらは、コレクション展の充実を図るうえで、主要な作品となることと思われる。

エ 国立西洋美術館

旧松方コレクションであるハンス・マカルト《ウィンザーの陽気な女たち》P. 2017-0023 (1871年制作) は平成 29 年に購入したが、入手前の保存環境が良くなかったと推測され、絵画層の浮き上がりや、表面の塵埃の蓄積など作品の損傷・汚損が著しかった。令和 8 年 3 月以降の展示に向け、保存修復室職員が絵画及び額縁の保存修復作業を行った。保存修復の作業内容については、Collection in Focus で詳細を展示する。

また、作品の防災対策の一環として、令和 7 年度から絵画額縁へ低反射・UV カットの特殊アクリル板を使用したグレージング挿入作業を本格的に進めることとなった。作業費の一部は特別修復費を利用した。利用頻度の高いもので、かつ、現在収蔵庫に収蔵されている作品を中心に、44 点の作品にグレージングを挿入することができ、作品の安全性を高めることに尽力した。

その他、オノレ・ドーミエ作の版画作品群 1,704 点のうち状態のよくない作品が多く見つかったため、今後のドーミエ紙作品のコレクション全体の保存修復作業を検討するにあたり、まずはコレクション全体の状態調査を行うことになった。1 年で全作品を調査することは不可能なので、初年度は 1,704 点のうち 850 点の状態調査を行い、今後数年間かけて全体を調査する予定である。初年度は 1 年で調査する作業数が多すぎたため、現時点では 2 年目と 3 年目に 425 点程度の作品を調査し、3 か年で全体の状態を把握することを検討している。調査した中から特に状態の悪いものに関しては、4 年目以降に順次、保存修復作業を施してゆく予定である。（上記の版画修復作品数としてはカウントせず、「資料・その他」に調査した作品数を記入した。）

オ 国立国際美術館

新潟出身で東京で活動し、夭折した作家・田畑あきら子による《作品》（1966-67 年）ほか計 4 点について、絵具層の固着強化、クリーニング、補彩、裏面保護の処置を行った。本作品は絵具層が非常に不安定で、わずかな振動で剥落する恐れがあったが、今回の修復で絵具層が安定し、さらに裏面保護を施したことで輸送が可能になった。また、クリーニングにより、田畑の作品に特徴的な白色が本来の色調を取り戻した。これにより、新潟県立万代島美術館で令和 7 年 11 月より開催された、出身地での回顧展に出品することができた。田畑の油彩画は現存する数が少なく、修復によって出品が可能になったことは意義深い。

国立国際美術館で過去に個展を開催した大阪の作家・福岡道雄の《石を投げる》（1976 年）について、経年劣化により脱落した破片の接合、充填と浮き上がり接着を行った。本作品には FRP という現代美術作品に特有の素材が用いられており、これらの素材に制作後約半世紀で劣化が生じること、またそれを安全に修復可能であることが確認できた。

(4) 所蔵作品の貸与

第5期（令和3年度～令和7年度）中期目標に定める指標	
指標	・所蔵作品の貸与に係る取組状況。（所蔵作品の貸与件数）
関連指標	・所蔵作品の活用割合（展示、貸与及び特別観覧の合計の所蔵品と寄託品の合計に占める割合） ・国立美術館所蔵作品の国内外美術館への長期貸与契約件数

所蔵作品について、各館においてその保存状況や展示計画を勘案しつつ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設に対し、貸与等を積極的に実施した。

・所蔵作品の貸与に係る取組状況／国内美術館所蔵作品の国内外美術館への長期貸与契約件数

館名	貸出		貸出のうち長期貸与（※）		特別観覧	
	件数	点数	件数	点数	件数	点数
東京国立近代美術館（本館）	72	416	6	14	163	301
国立工芸館	13	191	0	0	26	69
京都国立近代美術館	57	509	15	86	62	148
国立西洋美術館	16	97	1	3	74	141
国立国際美術館	22	77	1	2	23	54
合計	180	1,290	23	105	348	713

※「長期貸与」とは、国内外を問わず貸出期間が半年以上のものである。

・所蔵作品の活用割合（展示、貸与及び特別観覧の合計の所蔵品と寄託品の合計に占める割合）

館名	所蔵作品の活用割合
東京国立近代美術館（本館）	12.9%
国立工芸館	12.1%
京都国立近代美術館	8.8%
国立西洋美術館	13.9%
国立国際美術館	7.1%

特記事項

ア 東京国立近代美術館（本館）

「難波田龍起」展（東京オペラシティ アートギャラリー）、「没後90年 橋本平八展」（三重県立美術館）、「小出櫓重展」（府中市美術館他）、「竹内栖鳳展」（愛知県美術館）など、回顧展に必須となる代表作を多く貸与し、その顕彰に寄与した。また「藤田嗣治×国吉康雄」展（兵庫県立美術館）へ18点、「東山魁夷 永遠の海」（長野県立美術館）へ20点、「珠玉の近代絵画―「南国」を描く。」（福岡市美術館）へ17点など大規模な出品協力を行った。「時代のプリズム」（国立新美術館）、「中西夏之」展（国立国際美術館他）などへ出品し、独立行政法人国立美術館内での相互活用において成果を挙げた。海外へは「Woman in Blue. Oskar Kokoschka and Alma Mahler」（ドイツ・Museum Folkwang）、「City of Others: East and Southeast Asian Artists in Paris, 1920s-1940s」（シンガポール・National Gallery Singapore）、「Yayoi Kusama」（スイス、Fondation Beyeler 他）などに作品貸与し、当館コレクションの充実ぶりを国際的に発信できた。

（国立工芸館）

パナソニック汐留美術「ピクチャレスク陶芸 アートを楽しむやきもの ―『民藝』から現代まで」展に8点、備前市美術館「備前の現代陶芸、至極の逸品。」展に2点、富山市ガラス美術館「開館10周年記念 めぐりあう今を映す―日本の現代ガラス 1975-2025」展に2点、高松

市美術館「山下義人」展に1点、岐阜現代美術館「青木千絵 漆と身体—存在のかたち」展に1点、岐阜県美術館の「大正・昭和‘モード’の源泉」展に152点、小松市立本陣記念美術と小松市立宮本三郎美術館で開催された「一九〇五—二代松本左吉と宮本三郎—」展に4点、21_21 DESIGN SIGHT「デザインの先生」展に8点、千葉県立美術館「鉄絵銅彩 神谷紀雄陶展 春風陶花」展に1点、小松市立本陣記念美術館「銀と彩—人間国宝《釉下彩》・中田一於の世界—」展に1点、東京藝術大学美術館と静岡県立美術館で開催された「NHK 日曜美術館 50 年展」に2点を貸与した。東京国立近代美術館の令和7年度 所蔵作品展「MOMAT コレクション」(第3回)の開催にあたり、鈴木長吉《十二の鷹》を含む明治の金工作品5点を貸与した。

イ 京都国立近代美術館

国内外の展覧会に作品を貸与した例として、京都市京セラ美術館の「民藝誕生 100 年—京都が紡いだ日常の美」への、河井寛次郎《鉄辰砂草花図壺》ほか陶器・漆器・型染など計15点の貸与、滋賀県立陶芸の森の「民藝から関係へ—コミュニティデザインの視点から—」への、河井寛次郎《孔雀緑人形図壺》ほか陶器計25点の貸与、愛知県美術館の「竹内栖鳳展」への、竹内栖鳳《枯野の狐》ほか日本画計12点の貸与、国立工芸館・東京都庭園美術館・三重県立美術館・あべのハルカス美術館の「ルーシー・リー展」への、ルーシー・リー等の作品計25点の貸与、埼玉県立近代美術館の「野島康三と斎藤与里」への、岸田劉生《壘と林檎と茶碗》など計99点の貸与があった。

ウ 国立西洋美術館

島根県立美術館「生誕 150 年 石橋和訓展」(19点)、ヤマザキマザック美術館「オディロン・ルドン」展(24点)ほか、国内外の国公立美術館からの多くの貸出要請に応え、地方での鑑賞機会の充実に貢献した。

東京国立博物館が中心となって企画した「令和6年能登半島地震復興支援事業 ひと、能登、アート」展にもルノワール作品を含む3点を貸し出し、美術館の多様な価値をアピールした。

フランスのエクス・アン・プロヴァンスで2025年「セザンヌ年」の中核事業として開催された「セザンヌとジャード=ブッフアン」展(グラネ美術館)、モネ没後100年の機をとらえてジヴェルニー印象派美術館で開催される「モネとジヴェルニー」展などヨーロッパの主要な美術展にも絵画を貸し出し、当館の質の高いコレクションを国内外へ印象づけるとともに、国際的な研究の深化にも貢献した。

一部の貸出にはクレートを再利用したり、クーリエ数の削減に協力したりするなど、世界の美術館界の潮流をふまえ、サステナビリティを意識した作品貸与に努めている。

エ 国立国際美術館

フリーダー・ブルダ美術館(ドイツ)で開催された「Yoshitomo Nara」展に奈良美智《長い長い夜》(1995年)を貸与した。ヨーロッパを巡回した大規模個展で、海外での評価が高まる作家の初期の代表作を紹介することができた。

また、横浜美術館で開催された「いつもとなりにいるから 日本と韓国、アートの80年」に、郭仁植《Work》(1963年)ほか計13点を貸与した。韓国国立現代美術館と共同で企画された意欲的な展覧会に多くの重要作品を特別協力として出品し、貢献することができた。

3 我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与

(1) 国内外の美術館等との連携・協力等

第5期（令和3年度～令和7年度）中期目標に定める指標	
指標	・国立美術館巡回展の満足度調査を実施し、「良い」以上の回答率を8割程度とする。 ・国立映画アーカイブの優秀映画鑑賞推進事業の満足度調査を実施し、「良い」以上の回答率を8割程度とする。 ・国内外美術関係者向けワークショップへの国外からの参加者数は、30名程度とする。
関連指標	・国立美術館巡回展の事業数及び会場数 ・国立映画アーカイブの優秀映画鑑賞推進事業の実施回数 ・国立美術館巡回展の入館者数 ・国立映画アーカイブの優秀映画鑑賞推進事業の入館者数 ・国内外の美術館関係者との研究会の開催や研究者との交流等に係る取組状況。 （所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催回数、国内外の研究者の招へい等に基づくセミナー・シンポジウムの開催回数。）

※指標1、2点目及び関連指標1～4点目については別表5、関連指標5点目については別表15、16を参照。

各館において国内外の研究者を招へいし、展覧会の開催等に合わせ各種講演会・セミナー・シンポジウムを開催し、展覧会等の紹介や企画に関連し、海外の美術館との連携・協力を図った。また、国立アートリサーチセンターでは、国内の美術館関係者と海外の美術館関係者をつなぐハブとして、国内の国公立美術館関係者等を海外に派遣する事業や、海外の美術関係者を招聘する事業を実施した。

また、全国の美術館等の運営に対する援助、助言を適時行うとともに、全国の公立美術館と連携した展覧会の開催、企画展の共同主催やそれに伴う共同研究等を通じて、関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に取り組んだ。

① 国内外の研究者の招へいによるシンポジウムの開催等

国内外の優れた研究者等との人的ネットワークの構築を図るため、セミナー・シンポジウムを以下のとおり開催した。

館名	所蔵作品等に関する セミナー・シンポジウムの開催回数	国内外の研究者の招へい等に基づく セミナー・シンポジウムの開催回数
国立アートリサーチセンター	－	22
東京国立近代美術館（本館）	1	3
国立工芸館	1	4
京都国立近代美術館	0	13
国立映画アーカイブ	0	3
国立西洋美術館	6	11
国立国際美術館	0	7
国立新美術館	－	10
合計	8	73

※詳細については別表15、16を参照。国立アートリサーチセンターの取組については④で詳述。

② 我が国の作家、美術作品による展覧会開催のための海外の美術館との連携・協力

ア 国立アートリサーチセンター

グローバルに活躍できるクリエイター等の育成支援を推進するために文化庁の補助金によって設置された文化芸術活動基盤強化基金による「JUMP アーティスト＋キュレーター国際協働プログラム」

ラム」(令和6～8年度)を独立行政法人日本芸術文化振興会から受託し、国立アトリサーチセンターが実施している。

令和7年度は、令和6年度に引き続き、米ロサンゼルス現代美術館、ニューサウスウェールズ州立美術館、CAM-グルベンキアンモダンアートセンターの海外協力先3館における展示実施に向け、国内3館(高知県立美術館、滋賀県立美術館、山口情報芸術センター)のキュレーターと若手アーティストのペア3組が現地リサーチ及び作品プランに関する具体的な協議を実施した。これら一連の展示実施に向けた協議及び調整プロセスについては、国立アトリサーチセンターがコーディネート及び推進を担った。

イ 東京国立近代美術館 (本館)

韓国国立現代美術館、東京国立近代美術館、国立アトリサーチセンターの三者により、韓国国立現代美術館と東京国立近代美術館のコレクションとアーカイブ資料を活用して、双方の学芸員が協力して日韓の近代美術の交流史を掘り起こす長期的な視点にたった共同リサーチプロジェクトを立ち上げた。2年ごとに一つのテーマを設定して、双方の学芸員が共同調査にあたり、その成果を小企画展、シンポジウム、報告書などで発表する。三者で覚書を締結し、令和7年度よりプロジェクトを開始した。

ウ 国立映画アーカイブ

- ・FIAF 会員のハーバード・フィルムアーカイブとの初の共催上映として、世界的に評価の高い成瀬巳喜男監督の特集上映を開催した。成瀬巳喜男監督の全体像を観客が理解することができるよう、『ひき逃げ』等上映機会が比較的少ない作品を中心としたラインナップで開催し、同監督の奥深さを紹介することができた。
- ・FIAF 会員のジェローム・セドゥ・パテ財団との初の共催企画として、国立映画アーカイブが同財団から日本の無声映画に関する上映プログラム作成の依頼を受け、研究員が作品を選定した特集上映を開催した。『狂った一頁』(1926年、衣笠貞之助)の青染色版など近年の復元作や、関東大震災の記録映画など海外初上映と思われる作品も上映し、また弁士・伴奏付の上映や研究員による5日間にわたる上映前解説を行うなど、国立映画アーカイブ所蔵の多様なコレクションを通じて、日本の無声映画の豊饒さを紹介する特集となった。

エ 国立新美術館

- ・国際会議 IE0(International Exhibition Organizers)及び muscon(Museum Network Conference)に参加し、海外主要美術館とのネットワーク形成を行った。
- ・ドイツの Vitra Design Museum との共催による muscon Tokyo 2026 の開催を決定し、国内における海外美術館とのネットワーク形成のための準備を行った。
- ・Japan House London、パリ日本文化会館との共催による「少女漫画・インフィニティ」展の関連トークイベントを開催し、海外美術館とのネットワーク形成と展覧会のプロモーションを行った。

③ 全国の美術館等との人的ネットワークの形成等

ア 地方巡回展の開催(再掲)

コレクション・ダイアログ及びコレクション・プラス、巡回上映等は、別表5のとおり実施した。

イ 企画展・上映会等の共同主催と共同研究

館名	共同主催件数	機関数	共同研究件数	機関数
東京国立近代美術館（本館）	2	3	2	4
国立工芸館	1	1	1	3
京都国立近代美術館	2	2	5	8
国立映画アーカイブ	14	104	15	111
国立西洋美術館	4	5	4	5
国立国際美術館	0	0	1	3
国立新美術館	3	3	3	3
合計	26	118	31	137

ウ 国内外の美術館等との保存・修復に関する連携・協力等

（ア）東京国立近代美術館

- ・ジャン（ハンス）・アルプの石膏作品に関するアルプ財団（Stiftung Jean Arp und Sophie Taeuber-Arp e.V.／ドイツ）他との共同研究を実施した。

（イ）国立西洋美術館

- ・保存修復室長が令和7年11月～令和8年1月の約3か月間、英国ブリストル市の Bristol Museums にて在外研修を行った。文化庁「令和7年度博物館職員等在外派遣事業」を利用し、予防保存修復家と共に作業をしながら予防保存や重量作品の展示、災害時の緊急対応などについて学ぶ機会を得た。
- ・全国美術館会議保存研究部会 第61回部会合を国立西洋美術館講堂にて開催（令和7年8月25日～26日）。スペイン・プラド美術館紙修復士の和田美奈子氏を講師として招き講演を行ったほか、他美術館保存担当学芸員と情報交換を行った。
- ・国立アトリサーチセンター、東京文化財研究所と共催で、英国ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館の家具・額縁保存修復家の Barrow 由紀子氏を講師として招き、絵画額縁修復講義・ワークショップ及び講演会を開催した（講義・ワークショップ：令和7年10月29～31日、講演会：11月1日）。
- ・特集展示〈フルーニング美術館・国立西洋美術館所蔵 フランドル聖人伝板絵—100年越しの“再会”〉に関連する調査報告書をまとめるにあたって、フルーニング美術館のイメージング専門家や修復家と技術的な問題や保存修復の方針や作品に用いられた材料技法・技法などについて議論を進めた。

（ウ）国立国際美術館

- ・奈良文化財研究所埋蔵文化財センター保存修復科学研究室、国立アトリサーチセンターと共同で、ジャスパー・ジョーンズ《パン》（1969年）、河口龍夫《関係—種子・鉛の畑》（1989年）の劣化に関する科学分析調査を行い、調査報告を国立アトリサーチセンター研究紀要へ掲載した。

④ 国立アートリサーチセンターによる連携・協力

・国内外美術関係者向けワークショップへの国外からの参加者数（人）

参加者数	第5期参加者数累計	目標（第5期）
9	50	30

（内訳）

	ワークショップタイトル	開催日	参加者数	うち海外からの参加者
1	NCAR ワorkshop 004「全国美術館収蔵品サーチ『SHŪZŌ』ワークショップ」（オンライン開催）	令和7年7月29日	42	0
2	NCAR ワorkshop 005: Single Thread Bonding による破れたキャンバスの補修（国立アートリサーチセンター）	令和7年8月6日	30	0
3	バーバパパ 55 周年 × 国立工芸館移転開館5周年 想いをぎゅっと やきものワークショップ（国立工芸館）	令和7年8月10日	32	0
4	法人向けアーティスト・ワークショップ SPREAD『Life Type』（国立新美術館）	令和7年9月5日	16	0
5	文化財保存修復に関するワークショップ「額縁の歴史・技法と保存修復について」（東京文化財研究所・国立西洋美術館）	令和7年10月29日～31日	66	0
6	講演会「イギリスと日本における額縁の歴史と保存」（東京文化財研究所）	令和7年11月1日	69	0
7	NCAR トーク 006「台湾アートシーンを知る！若手キュレーターによるトーク」（国立アートリサーチセンター）	令和7年11月21日	30	7
8	NCAR トーク 007「ボンビドゥー・センターニューメディア部門キュレーター、フィリップ・ベッティネッリ氏を迎えて」（東京日仏学院）	令和7年11月27日	59	1
9	NCAR トーク 008「第5回 NCAR スタディ・ツアー（イギリス）報告会ーイギリスのアートシーンの現在」（ブリティッシュ・カウンシル）	令和7年12月1日	26	0
10	ワークショップ「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」（三重県総合博物館）	令和7年12月10日	31	0
11	企業・団体向け 日本の工芸レクチャープログラム（国立工芸館）	令和7年12月18日	11	0
12	ワークショップ「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」（山形美術館）	令和7年12月18日	15	0
13	法人向けアーティスト・ワークショップ 流 麻二果『日本の色』（国立新美術館）	令和7年12月19日	7	0
14	ワークショップ「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」（横浜市芸術文化振興財団）	令和7年12月19日	23	0
15	ワークショップ「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」（むかわ町穂別博物館）	令和8年1月8日～1月21日	54	0
16	ワークショップ「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」（むかわ町穂別博物館）	令和8年1月14日	15	0
17	ワークショップ「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」（富山県美術館）	令和8年1月21日	21	0
18	ワークショップ「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」（川崎市市民ミュージアム）	令和8年1月29日	29	0

19	ワークショップ「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」(福岡県立美術館)	令和8年2月2日	28	0
20	ワークショップ「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」(国立西洋美術館)	令和8年2月3日	46	0
21	ワークショップ「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」(神奈川県立歴史博物館)	令和8年2月5日	18	0
22	NCAR シンポジウム 006「ミュージアムと気候変動 ―サステナブルな未来に向けて」(国立新美術館)	令和8年2月28日	149	1

※参加者数は海外からの招へい者数と聴講者数の合計。海外からの参加者数はそのうち招へい者数。

国立アートリサーチセンターにおいて、以下のとおり取り組んだ。

(作品活用促進グループ)

- ・地域における鑑賞機会の充実と展覧会企画力の向上に貢献するため「国立美術館コレクション・ダイアログ」と「国立美術館コレクション・プラス」を計4か所で実施した。
- ・東京文化財研究所、国立西洋美術館との共催で、海外から講師を招き、絵画修復の専門家を対象に、額縁の保存修復ワークショップと講演会を実施した。
- ・全国の美術館の優れたコレクションを総体的に可視化するため「日本で見られるアート100選」事業を新規に実施した。初回は「日本の現代アート編」として全国の美術館の協力を得て100点を選定し、ウェブサイトで公開して広く周知した。

(情報資源グループ)

- ・特定非営利活動法人アート&ソサイエティ研究センター、国立新美術館、外部研究者との連携のもと、展覧会や芸術祭等のデータを収集・作成し、データベース「日本の現代アート展覧会 1945 年以降」の大幅な拡充を図った。

(国際発信・連携グループ)

- ・台湾の C-LAB、フランスのポンピドゥー・センター、韓国の国立現代美術館、イタリアのカ・フォスカリ・ベネチア大学と締結した MoU に基づき、キュレーターの交換、NCAR トーク、リサーチ等共同事業を実施し、様々な地域の多様な専門機関とのネットワークを構築した。
- ・日豪両国の政府間合意に基づき昭和 64 年より実施されてきた日豪学芸員交流事業において、国立新美術館から研究員 1 名をオーストラリアに派遣した。
- ・スタディ・ツアーとしてブリティッシュ・カウンシルの協力を得て英国、並びにシンガポールへ我が国の美術専門家計 26 名を派遣し、現地の視察及び関係者との意見交換を行うなどネットワーク構築に努めた。帰国後、派遣の成果を公表する NCAR トークを実施した。
- ・令和 7 年度は 9 件の国際展に出品した日本のアーティスト 17 名を支援した(支援の決定を含む)。海外からのニーズに応じ若手からベテランに至る多彩なアーティストの出品を支援することにより、日本のアート全体の発信力の強化や価値の向上に努めた。
- ・国際展に出品したアーティストのインタビュー動画を 2 件制作した。

(ラーニンググループ)

- ・大阪・関西万博における展示「Hello Future! 100 年ミュージアム」の中で、アートと健康の関わりを示す「文化的処方について」と、国内の美術館・博物館 19 館を紹介した(入場者約 1 万人)。
- ・英国マンチェスター大学に職員を派遣し、健康に寄与する「文化的処方」についての共同研究事業の MOU 締結に向けて、フォーラムに登壇し意見交換した。
- ・川崎市市民ミュージアムと連携し、コレクションを活用した「写真の中のかわさき」展を文化的処方の文脈を織り込み実施した(入場者 4,472 名)。
- ・主に発達障害のある人とその関係者を対象とした社会学習ツール「Social Story (ソーシャルストーリー)」について、国内の博物館等 9 館のソーシャルストーリー制作を監修・編集協力した。

- ・令和7年度文化庁委託事業「障害者等による文化芸術活動推進事業」を受託し、「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」を行なった。本研修は、ミュージアムに関わるあらゆる人を対象としており、全国約50ヶ所から申し込みがあり、eラーニングによる学びの機会を提供した。さらに、その中の10ヶ所（北海道むかわ町穂別博物館、山形美術館、水戸芸術館、富山県立美術館、神奈川県立歴史博物館、横浜市芸術文化振興財団、川崎市市民ミュージアム、国立西洋美術館、三重県総合博物館、福岡県立美術館設立準備室）を訪問し、対面型のワークショップにて研修を行なった。各美術館・博物館や各地域の研修事業と位置付けられ、研修内容の充実に貢献することができた。また、厚生労働省が推進する「障害者芸術文化活動普及支援センター」を含め、各地域の当事者支援団体等とのネットワーク構築にも繋がる事業となった。

（社会連携促進グループ）

- ・企業・団体と美術館の接点の多様化、関心の裾野拡張を目的として、国立美術館の各館と連携した「企業・団体向け アートプログラム」〈参加型・協働型〉を開発・実施した。
- ・「企業・団体向け アートプログラム」〈参加型〉では、令和6年度より運用を開始した、国立新美術館との共同企画「法人向け アーティスト・ワークショップ」を継続し、企業に向けて提供した。本プログラムでは、ビジネスパーソンがアーティストの創造的表現と思考に触れ、表現活動を体験することを通じて多様な価値観や新しいものの見方を知り豊かで柔軟な思考を育むことを目指すと同時に、アーティストに対しても有料プログラムであること・企業との接点の創出という2点により広義の活動支援と位置付けた。
- ・また、「企業・団体向けアートプログラム」〈参加型〉の第2弾として、令和7年度から国立工芸館との共同企画「企業・団体向け 日本の工芸レクチャープログラム」を運用開始し、企業に向けて提供した。日本の工芸・デザインの魅力をレクチャー形式でビジネスパーソンに伝えるとともに、国内他地域・海外からのビジネスユースに応える内容とすることで、観光都市金沢に立地する国立美術館として文化観光振興に資することを目指す。
- ・企業と美術館がそれぞれのリソースを活用し、協働でアートプログラムを組成・提供する「企業・団体向け アートプログラム」〈協働型〉では、株式会社スタイリングライフ・ホールディングス プラザスタイル カンパニーの協力のもと、国立工芸館において講師に十一代大樋長左衛門氏を迎え、小学生向けの「想いをぎゅっと やきものワークショップ」を提供した。

(2) ナショナルセンターとしての人材育成

第5期（令和3年度～令和7年度）中期目標に定める指標	
指標	・指導者研修参加者に対する満足度調査を実施し、「良い」以上の回答率を前中期目標期間と同程度の水準を維持するものとする。
関連指標	・指導者研修実施回数 ・今後の美術館活動を担う中核的な人材や映画保存のニーズに対応した人材の育成に係る取組状況（インターンシップ受入人数、キュレーター研修受入人数）

① 美術教育の一翼を担うナショナルセンターとしての活動

ア 教育普及活動の充実に資する教材やプログラムの開発・実施・普及、実践者の育成・研修

(ア) 国立アトリサーチセンター

- ・あらゆる人が美術館にアクセスできる機会を充実させるため、「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」（文化庁委託事業）を実施し、eラーニング受講登録者1,461名（修了者1,071名）の参加を得た。また、全国の美術館・博物館に講師を派遣して対面ワークショップを行い、10件27館が参加してアクセシビリティと社会包摂の取組を始めるための基礎的知識を習得しただけでなく、事業化につなげるための議論を重ねた。
- ・「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」を、ラーニンググループが取りまとめて実施し、報告書をウェブサイトに掲載するとともに冊子を刊行した。報告書には同研修の20年間の記録を収録した。

(イ) 東京国立近代美術館

(国立工芸館)

- ・各展覧会通期で「先生のための工芸館タイム」として教職員の観覧機会を設け、56名が来場した。また、本制度を教員研修に活用することができた。
- ・教職員の研修に協力し、レクチャーや作品の触察を含む対話型鑑賞を実施した。
- ・研究授業等にあわせて題材提供や授業案策定に協力、指導した。
- ・石川県と協同して教員研修のための研究会を実施した。

(ウ) 京都国立近代美術館

- ・7月28日（月）に、京都市教育委員会、京都市立中学校教育美術部会、京都市図画工作教育研究会との共催で、京都市内の小中学校教員を対象とした、鑑賞教育の充実を目指した研修会「令和7年度 図画工作科・美術科夏季連携講座」を休館日に実施し、61名の参加があった。
- ・1月30日（金）に、京都府教育委員会との共催で、京都府内の小中学校教員を対象とした、鑑賞の授業の充実及び美術館等との連携したカリキュラムマネジメントの充実を図るための研修会を実施し、22名の参加があった。

(エ) 国立西洋美術館

- ・令和6年度に対象・実施日程を拡大した「先生のための観覧日」では土曜の参加数が多く、高校教員から申込が増えている。
- ・教員研修実施は全4団体、すべて小中教員を中心とした団体である。特に遠隔地教員と行ったzoomでの研修は、研究員との直接対話が好評だった。
- ・国立科学博物館主催「教員のための博物館の日」に協力し、申込者に常設展無料観覧の他、科博講堂でプログラム紹介を行った。主催者アンケートでは好評であり、図工美術科教員以外からの反応も良好であった。

(オ) 国立国際美術館

大阪府教育センター（大阪府内の小・中学校、義務教育学校、府立高等学校、府立支援学校の図工・美術担当教員）をはじめ、大阪市教育センター、大阪府公立小・中学校美術教育研究

会、寝屋川市美術教育研究会と連携し、終日及び半日の研修プログラムを実施した。これにより、美術館と学校が連携した鑑賞活動の理解促進と実践的な展開を図った。あわせて、各展覧会において「先生のための鑑賞プログラム」を開催し、教員が具体的な相談を行える機会を設けるなど、美術館の教育的活用につなげる取組を行った。

(カ) 国立新美術館

- ・展覧会「時代のプリズム：日本で生まれた美術表現 1989-2010」の会期中に、慶應義塾大学、多摩美術大学、東京藝術大学の学生と教職員に向けて、学芸課長や研究員による現代美術表現やキュレーションに関する講義を実施した。合計5回実施し、88名の参加があった。

イ 美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修の実施等

国立美術館は、美術教育の一翼を担うナショナルセンターとして「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」を実施している。同研修は、学校や美術館で鑑賞教育に携わる教員、学芸員に対して実践的な研修を行うもので、修了者が研修の成果を各地域の学校等、現場で実践することで、鑑賞教育の充実を図っている。各地域の学校と美術館との連携強化を図るとともに、全国の児童生徒に対する鑑賞教育の充実に貢献している。

京都で開催した「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」は20年目を迎えた。グループワークでは小学校、中学校、高校のグループに加え、引き続き特別支援教育をテーマにしたグループを作り、障害の種類、度合いが様々な児童・生徒に対してどのような鑑賞や授業ができるのか、参加者同士で議論を深めた。

また、本研修の記録をまとめた報告書を作成し、ウェブサイトで公開した。巻末には20年間の記録を掲載し、研修の形態や内容が時代とともに変化してきた様子を振り返り、当時の関係者から寄せられた寄稿文を収録するなど、研修のあゆみを紹介するものとなった。

- ・会期：令和7年8月4日（月）～8月5日（火）（2日間）
- ・修了者数：68名（小学校教諭11名、中学校教諭19名、高等学校教諭6名、小中一貫校教諭1名、中高一貫校教諭1名、特別支援学校教諭等3名、指導主事8名、学芸員19名）
- ・参加者の満足度：100.0%（目標：98.8%）

② 今後の美術館活動を担う中核的人材の育成

国立美術館においては、美術館活動を担う中核的な人材を育成するため、選考方法、カリキュラムの内容、実際の指導等の検討を行い、大学院生等を対象としたインターンシップや美術館員（学芸員）の研修としてキュレーター研修を行った。

ア インターンシップ等の実施

館名	キュレーター研修 受入人数	インターンシップ 受入人数	博物館実習 受入人数
東京国立近代美術館（本館）	4	6	-
国立工芸館	1	0	-
京都国立近代美術館	3	4	-
国立映画アーカイブ	0	2	12
国立西洋美術館	4	6	-
国立国際美術館	2	7	-
国立新美術館	1	6	-
合計	15	31	12

特記事項

(ア) 東京国立近代美術館

(本館)

<キュレーター研修>

4名を受け入れ、以下のとおり実施した。

- ・令和7年7月7日から7月11日まで（5日間）、公立美術館及び私立美術館からそれぞれ1名の学芸員を受け入れ、企画展の展示作業見学及び、教育普及室のレクチャー、展覧会図録の作成に関するレクチャー等の研修を行った。
- ・令和7年7月2日から令和7年9月30日まで（うち8日間）、私立美術館の学芸員1名を受け入れ、所蔵作品展の展示や修復作業の見学、修復方針や収蔵庫管理に関するレクチャー、作品貸出対応の見学等の研修を行った。
- ・令和7年10月22日から12月11日まで（うち7日間）、公立美術館の学芸員1名を受け入れ、所蔵作品展の展示替え作業見学や各分野のレクチャー、修復作業や作品返却作業の見学等の研修と行った。

<インターンシップ>

「学芸／コレクション」近現代美術2名、写真1名「学芸／企画展」1名、「美術館教育」2名を受け入れ、以下のとおり実施した。実地研修のほか、各分野の研究員が全分野のインターンに対し各々の業務等をオンラインでレクチャーする機会も設けた。インターンのうち2名は美術館や画廊に就職し、人材育成につながった。

- ・「学芸／コレクション」近現代美術分野のインターンは所蔵作品展展示替えの補助や作品のコンディションチェック、イベントの補助等を行った。
- ・「学芸／コレクション」写真分野のインターンは作品のコンディションチェック、資料整理、作品修復の見学等を行った。
- ・「学芸／企画展」分野のインターンは企画展の解説や図録の校正補助、各種ミーティングや展示作業の見学、イベント補助、ギャラリー4での特集展示の企画体験等を行った。
- ・「美術館教育」分野のインターンはガイドスタッフ（ボランティア）育成、こどもまっとや中高生プログラムといった教育普及に係る事業の補助等を行った。

(国立工芸館)

<キュレーター研修>

キュレーター研修では公立博物館から1名を6日間受け入れた。研修テーマは①工芸を主題とする展覧会の設営と作品の取り扱い、②教育普及である。研修内容の概要は下記のとおり。

- ・「工芸と天気展 一石川県ゆかりの作家を中心に」展示作業
- ・「工芸と天気展」看士向けレクチャー、記者発表運営補助
- ・教員研修（石川県教員総合研修センターとの共催）

(イ) 京都国立近代美術館

<キュレーター研修>

令和7年4月18日～24日（うち5日間）で私立美術館の学芸員1名、令和7年6月30日～9月29日（うち16日間）で大学美術館の学芸員1名、令和8年1月26日～2月6日（うち11日間）で公立美術館の研究員1名を受け入れ、コレクション展や企画展の展示撤収作業及び作品の取り扱い、教育普及・広報活動等についての研修を行った。

<インターンシップ>

キュレトリアル・インターンとして大学生・大学院生4名を受け入れた。年間を通じて、コレクション展や企画展の展示撤収作業見学及び準備作業、データベース整理、教育普及活動の補助など、学芸業務全般に携わる業務を実施した。成果物を伴う業務として、SNSに投稿するための作品解説の執筆、夏休み時期にコレクション展で配布した子供向け鑑賞ツール「もまっくコレクションカード」の作品選定・執筆作業を実施した。

(ウ) 国立映画アーカイブ

<インターンシップ>

それぞれ映画、映画アーカイブを研究している大学院生の計2名をインターンとして受け入れ、学芸課の4室で研修を行った。研修では、上映会・展覧会等の実施に関わる業務、映画フィルム及び関係資料の収集・保存・整理に関わる研修などを行った。

<博物館実習>

8月19日から8月23日までの5日間、定員の12名を受け入れた。実習内容は、初日に総務課及び学芸課による映画アーカイブの概要講義と施設見学、二日目からは学芸課の映画室、展示・資料室、上映室、教育・発信室の4室で1日ずつ、映画フィルム及び関係資料の収集・保存・整理、上映会・展覧会・教育普及・広報等の実施に関わる研修を行った。

(エ) 国立西洋美術館

<キュレーター研修>

年間を通じて公私立美術館4館から、学芸員を計4名受入れ、4日間から8日間の期間において学芸全般に関して研修を行った。

<インターンシップ>

令和7年5月～10月まで大学院生6名を受入れ、西洋美術史（作品等調査・展覧会準備業務補佐）や教育普及に関する業務を対象に実施した。

(オ) 国立国際美術館

<キュレーター研修>

2名を受入れ、以下のとおり実施した。

- ・令和7年9月2日～9月5日（計4日間）の間で、公立美術館の学芸員1名を受入れ、ユニバーサルプログラムを中心に教育普及について研修を行った。
- ・令和8年1月19日～1月22日（うち4日間）の間で、公立美術館の学芸員1名を受入れ、コレクション活用、情報収集、教育普及プログラム等について研修を行った。

<インターンシップ>

7名を受入れ、以下のとおり実施した。

- ・受入れの内訳は、「学芸」4名、「美術館教育」1名、「映像関係」1名、「情報資料」1名。「学芸」分野は特別展、所蔵作品展の運営に関する業務の補助を、「美術館教育」分野は教育普及に係る事業の補助を、「映像関係」分野は「中之島映像劇場」の企画事業の補助を、「情報資料」分野は、図書登録から装備、配架作業補助、アーカイブ資料整理の補助を行った。

(カ) 国立新美術館

<キュレーター研修>

令和7年4月4日～令和8年1月25日の期間に公立美術館の学芸員1名を受け入れ、教育普及プログラムの企画のプロセスや運営方法、ファシリテーション等に関する計13日間の研修を行った。

<インターンシップ>

4つの部門で将来美術館等の機関での就業を志す大学生・大学院生6人を受け入れた。展覧会部門では企画展「森英恵」での作品リストや解説文の校正作業等、教育普及部門では建築ツアーやワークショップといったイベント運営補助や参加者アンケートの集計等、情報資料部門では資料整理やクリーニング作業等、広報部門ではSNS投稿案の作成や記者発表会での運営補助等の研修を行った。

③ 映画保存のニーズに対応した人材育成

令和6年度から、優秀映画鑑賞推進事業での映写業務を担当しているプロの映写技師から、そのアシスタント層までを想定し、いつでもどこからでも安全な映写について学ぶことができる映写マニュアルビデオ「NFAJ オンライン映写ガイド」シリーズを作成し、国立映画アーカイブ YouTube チャンネルで公開している。令和7年度はその第2弾として「上映前の点検」を令和7年9月27日にアップした。

(3) 国内外の映画関係団体等との連携等

第5期（令和3年度～令和7年度）中期目標に定める指標	
指標	- 映画・映像作品の収集・保管に係る取組状況。（映画フィルム購入本数、映画フィルム寄贈本数、映画フィルム年度末所蔵本数、所蔵フィルム検索システムにおける新規公開件数、所蔵フィルム検索システムにおける累計公開件数） - 国内外の映画関係団体等との連携・調整に係る取組状況。（「全国映画資料館録」更新版を中期目標期間中に刊行する。） 以上の指標については、第4期中期目標期間と同程度の水準を維持するものとする。 - ロケーションデータベースの登録件数は、1,700件程度とする。 - ロケーションデータベースの利用者数は、839,000人程度とする。
関連指標	- 振興会におけるアーツカウンシル機能との連携を通じて実施したプログラムディレクター・プログラムオフィサーと映画製作団体等との意見交換会の件数 - 非フィルム資料のアーカイブ化の取組における成果に基づき実施した展示等の回数

※令和4年度は「全国映画資料館録」更新版を刊行していない。

① 映画フィルム及び映画関連資料の収集

	購入本数	購入金額	寄贈本数	年度末所蔵本数	年度末寄託本数
令和7年度	107	127,639,079	642	90,875	19,322
第4期中期目標 期間実績（※）	152	-	970	83,744	-

※購入本数及び寄贈本数は平均値であり、年度末所蔵本数は令和2年度末の数値である。

令和7年度の収集方針
映画を芸術作品のみならず、文化遺産として、あるいは歴史資料として、網羅的に収集することを目指し、日本映画の収集を優先しながら、時代を問わず散逸や劣化、滅失の危険性が高い映画フィルム等及び上映事業や国際交流事業に必要な映画フィルム等の収集を行う。なお、収集に当たっては、自主製作映画等企業の管理下に置かれない映画の収集にも配慮することとし、受贈については、デジタル素材の受入れも継続しながら、映画のデジタル化に伴い散逸の危機に瀕しているフィルム原版の受入れも重点的に実施することとする。映画資料については、日本映画に関わるものを中心に、作品レベルでの網羅性を向上させるとともに、映画史の調査研究に資する幅広い種類の資料の収集を行う。加えて、令和7年度は特に次の点について留意する。 ア 歴史資料として貴重な無声期の映画作品について、デジタル復元を実施する。 イ 国立映画アーカイブが所蔵する歴史的映像等のデジタル化と配信への取り組みを継続し、サイトの充実を図る。 ウ フィルム、デジタルともにオリジナルフォーマットを重視した収集を行う。

特記事項

〈購入〉

上映企画に伴う映画フィルム購入に関しては、「生誕120年 映画監督 中川信夫」に伴い、『馬車物語』（1948年）等18作品、28本のフィルムを購入し、多くの撮影所とジャンルをまたいだ職人的作家の全貌解明に大きく寄与した。また、「映画監督 森田芳光」に伴い、『シブがき隊 ボーイズ&ガールズ』（1982年）等15作品、15本のフィルムを購入し、現代日本映画に多大な影響を与えた作家のコレクションの充実を果たした。その他、1970年代以降の喜劇映画に重要な貢献を果たした森崎東について、7作品、7本のフィルムを、主流映画に実験的な手法を導入して現代日本映画を刷新した大林宣彦について、『金田一耕助の冒険』（1979年）等6作品、6本のフィルムを、ドキュメンタリー的な演出

を劇映画に意欲的に取り込み世界的な作家となった是枝裕和について、4 作品、4 本のフィルムを購入した。

〈受贈〉

令和 7 年度の映画フィルムの寄贈受け入れ本数は、642 本、73 件であり、令和 6 年度と比べて大型寄贈は少なくなったものの、寄贈件数自体は増え、著作権を持つ個人や法人、また配給会社や個人コレクターから多数の寄贈があった。中でも特筆に値するのは、『沓掛時次郎』（1929 年、辻吉郎監督）等貴重な劇映画を多く含む寄贈 65 本、『暖流』（1939 年、吉村公三郎監督）戦前公開版を含む寄贈 5 本、映画会社製作によるテレビ映画の寄贈 24 本、公開された外国映画を多く含む映画フィルム 29 本、『青春賛歌 置けない日々』の原版及びプリントの寄贈 3 本、『忘れられた土地』（1958 年、野田真吉監督）の原版寄贈 2 本等が挙げられる。

映画関連資料については、例年通り映画会社・個人などから多種の資料寄贈を受けている。令和 7 年度に収蔵した主要な寄贈資料としては、映画評論家河原畑寧氏旧蔵資料 1,118 点、山村浩二作品の製作資料 115 点、脚本家鈴木尚之旧蔵脚本 490 点、俳優津島恵子旧蔵資料 8,899 点等が挙げられる。

② 映画フィルム及び映画関連資料の保管・修復・復元

修理・修復本数	
フィルム 90 点（映画フィルムデジタル復元 2 点、ノイズリダクション等 13 点、不燃化作業 40 点、映画フィルム洗浄 35 点）	

特記事項

令和 7 年度は、映画フィルムのデジタル復元を 1 件（2 点）行った。横山隆一のカラーアニメーション映画『おとぎ噺おんぶおぼけ』（1955 年）は、作者が映画会社から端尺フィルムを譲り受けて原版（16mm オリジナル反転プリント）を製作したことから、異なる色彩特性を持つ 3 種類のフィルムが使用され、それぞれのフィルムの経年劣化による褪色の程度も異なっていた。そこで、3 種類のフィルムごとに、特性に応じた諧調でスキャンを（合計 3 回）行い、そのデータを基にデジタル修復を行うことで、より統一した褪色補正が可能となり、作品本来の想像力に溢れたアニメーション世界を復元することができた。

映画関連資料については、年度ごとに材質や劣化状況に応じてさまざまな専門家に依頼して修復を行うとともに、アーカイブ用の資料保存ケースを購入して長期保存を図っている。令和 7 年度の具体的な案件としては、大正期の尾上松之助出演映画ほか戦前・戦後期の重要な映画ポスターの修復、戦前期の映画館プログラムの脱酸性化作業、紙質の悪い戦後復興期の映画雑誌の修復、俳優小杉勇旧蔵屏風の修復などを行った。スタッフによる作業としても、公開・貸出頻度の高いポスターなどへの和紙を用いた簡易修復、脆弱なシナリオ等冊子に対する保存ケースの作成などの措置を講じている。また令和 7 年度は収蔵庫や相模原分館に新たな棚を設置し、収蔵空間の効率化を図った。

③ 映画フィルム及び映画関連資料の貸与等

・映画フィルム

貸出		特別映写観覧		複製利用		データ利用	
件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数
85	189	53	108	59	136	58	155

・映画関連資料

貸出		特別観覧	
件数	点数	件数	点数
10	46	43	483

特記事項

映画フィルム等の貸与については、令和6年度と比較して海外貸与が増えたが、海外貸与34件のうち9件が成瀬巳喜男関係であったことに表れているように、生誕120年を迎えた成瀬の特集が多く組まれたことが主な理由である。また19件が海外のFIAF機関、7件が米国のアートシネマと多数を占めていることも近年の傾向を反映している。国内については、件数は令和6年度並みだが、全国各地で無声映画の弁士・伴奏付き上映が企画された（計17件）ことが特筆に値する。映画フィルム等の特別映写観覧については、例年通り、大学・研究機関からの申請が多数を占め、件数も例年と同程度だった。映画フィルム等の複製利用については、著作権者からの申請が23件と非常に多かったことが目立ち、社会一般へのデジタル化の普及浸透を反映していると思われる。またテレビ番組での利用も21件と例年通り多かった。また、令和6年度に開始した配信作品等のデータ利用についてはテレビ番組での利用を中心に飛躍的に件数が増加した。

映画資料の貸与については、映画の専門性に沿った数少ない館である鎌倉市川喜多映画記念館への貸与が案件数・貸与数ともに目立つが、令和7年度は早稲田大学柳井イニシアティブの「知られざる日本アニメの源流」に対するレフシー紙フィルム、他にも公立の資料館・文学館等への貸与を行った。

資料の特別観覧については、出版社・教育機関・テレビ局などの要望に対し、資料画像の提供や研究者による熟覧などの形で所蔵資料へのアクセスに応じており、案件は増加傾向にある。

④ 所蔵フィルム検索システムにおける公開実績

映画フィルム（テキストデータ） 公開実績	新規公開実績	累計公開件数
	98	8,305

⑤ 国内外の映画関係団体等との連携・調整に係る取組状況

上映企画については、アンソロジー・フィルムアーカイブスと共催企画「アンソロジー・フィルムアーカイブス——アメリカ実験映画の地平へ」を開催したほか、令和7年度も「東京国際映画祭」、「ぴあフィルムフェスティバル」と上映会の共同開催を実施した。

展示企画においては、「映画監督 森田芳光」でニューズ・コーポレイション（森田芳光事務所）と共催した。また「写真展 ハリウッドの名監督たち 映画芸術科学アカデミーのコレクションより」では映画芸術科学アカデミーの特別協力を得た。

映画関連資料については、令和7年度「アーカイブ中核拠点形成モデル事業」として関西及び関東地区の映画撮影所、大学等5か所、そのほかにも国内の映画資料保存施設2館を訪問し、各地の映画資料館・図書館・関連団体と映画資料の保存に関する情報の収集や交換を行った。また、同事業の一環として「全国映画資料アーカイブサミット2026」を開催した。

⑥ 我が国の映画助成システムの改善等に関する協力

振興会におけるアーツカウンシル機能との連携を通じて実施したプログラムディレクター・プログラムオフィサーと映画製作団体等との意見交換会の件数（件）	10件
--	-----

プログラムディレクター（PD）とプログラムオフィサー（PO）を配置し、日本芸術文化振興会におけるPD、POとして、文化芸術振興費補助金による日本映画製作支援事業や芸術文化振興基金による国内映画祭等への助成等について、募集内容や審査基準等に関する助言、審査への協力、助成作品の完成確認等を行った。また、助成対象活動の成果分析や映画製作団体、関係者との意見交換、調査・情報収集を実施して、分野の現状や課題の把握に努め、助成システムの改善に取り組んだ。その他、同振興会の実施する映画分野を含む人材育成等の事業や助成事業年次報告書の作成に協力した。

⑦ 非フィルム資料のアーカイブ化に関する取組

非フィルム資料のアーカイブ化の取組における成果に基づき実施した展示等の回数（件）	2件
--	----

本事業は、非フィルム資料のアーカイブ構築に向けその保存及び活用を図るための望ましい仕組みの在り方について調査研究等を行い、その中核拠点形成を図るため、当該分野のネットワーク化を推進し、分野全体のアーカイブの構築・運営や共同利用の促進等を行うことを目的としている。

令和7年度は関西及び関東地区の映画撮影所、大学等5か所を現地調査し、資料所在情報を収集した。この調査で確認された資料の利活用実証として展示「天下御免！東映京都撮影所物語／劇団前進座の映画史」を開催した。デジタルアーカイブ化による保存・利活用検討のため、川喜多記念映画文化財団所蔵の映画宣伝スクラップブック、世田谷文学館所蔵の書き込み入り脚本等、現物の扱いづらい映画資料のデジタルアーカイブ化を行った。また、「全国映画資料館録2025」を刊行して関係機関に配布したほか、「全国映画資料アーカイブサミット2026」をオンライン開催して、国立映画アーカイブの映画資料を活用した教育普及事業や国内外の活動を紹介、アーカイブの知識を深める報告やセミナーをプログラムし、関係者の連携を図った。

⑧ ロケーションデータベースの運営

＜登録件数＞

新規登録件数	第5期新規登録件数累計	目標登録件数（第5期）	登録件数累計
475	1,535	1,700	12,945

＜利用者数＞

本年度利用者数	第5期利用者数累計	目標利用者数（第5期）
1,844,743	4,837,430	839,000

本事業は「全国ロケーションデータベース（JL-DB）」に、全国各地域のフィルムコミッション（FC）が保有・蓄積しているロケーション情報を集約して検索性を高めることで、日本国内における映画撮影の促進及び日本映画の創造活動の活性化を図り、また、日本の魅力あるロケーションの発信を行うことを目的としている。国内ロケ地やロケ撮影に関わる行政機関等への許認可手続き、製作・機材会社等の情報に加え、動画や360°VRツアー、制作者ヒヤリングに基づく検索条件の追加等、データベースの内容・機能の充実を図った。また、JL-DBの利用促進やFC体制強化に係る取組として、研修やセミナー、FCヒヤリング、インターン研修やエリアマネージャーによるサポート、国内外のイベントでのPR活動等を実施した。

⑨ 情報発信、人材育成に係る機能強化

令和4年度に展示・資料室及び教育・発信室に新たに配置された人員2名により、国立アトリサーチセンター及び国立各美術館との連絡調整及び事業の企画、立案、実施に向けた取組を行い、令和7年度も引き続き、その基礎的かつ専門的な調査研究を行った。

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務運営の取組

● 一般管理費及び業務経費の削減状況

(単位：千円)

区分	前中期目標期間 最終年度	当中期目標期間	増減率
	令和 2 年度	令和 7 年度	
一般管理費物件費及び 業務経費物件費	2, 410, 288	2, 241, 292	△7. 01%

特記事項

当中期目標期間終了年度（令和 7 年度）において、前中期目標期間の最終年度（令和 2 年度）と比べて、運営費交付金を充当して行う事業について一般管理費物件費及び業務経費物件費の合計を 5%削減することを目標としている。（ただし、美術作品購入費、美術作品修復費及び土地借料等の特殊要因経費（令和 3 年度以降に既定経費化されたものを含む。）は対象外。）

令和 7 年度の一般管理費物件費及び業務経費物件費の合計は、令和 2 年度に比し 7. 01%減少している。

2 組織体制の見直し

独立行政法人の組織ガバナンス強化の観点から、本部体制の強化に努めるとともに、独立行政法人の業務運営の柔軟性を生かし、より一層のサービス向上及び組織の機能向上を実現するため、組織体制の見直しを進めた。

国立工芸館では、新たに経営上の企画判断等を統括的におこなう必要性があることから、広報業務を主体としていた展示渉外室と統合し、館長直轄室として経営企画・広報渉外室を編成、工芸課 5 室の業務を再整理し、工芸・デザイン作品の貸出や展示室環境等を担う管理調整室を新設した。事務部門の機能強化を図るため、管理室を総務課に格上げし、管理室長を総務課長に昇任させた。研究職主体の工芸課に合わせ、事務職部門を総務課へ同格させたことで、組織のガバナンス強化を一層推進させた。

3 契約の点検・見直し

(1) 調達等合理化の推進

「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」（平成 27 年 5 月 25 日総務大臣決定）に基づき、事務・事業の特性を踏まえ、PDCA サイクルにより、公正性・透明性を確保しつつ、自律的かつ継続的に調達等の合理化に取り組むため、令和 7 年度独立行政法人国立美術館調達等合理化計画を策定した。

① 令和 7 年度の調達実績

ア 令和 7 年度の調達全体像

(単位：件、千円)

	令和 6 年度		令和 7 年度		比較増△減	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
競争入札等	(28. 5%)	(45. 6%)	(33. 7%)	(48. 7%)	(△1. 1%)	(△31. 7%)
	93	4, 193, 821	92	2, 864, 132	△1	△1, 329, 689
企画競争・ 公募	(18. 7%)	(10. 7%)	(14. 7%)	(13. 4%)	(34. 4%)	(19. 4%)
	61	979, 630	40	787, 946	△21	△191, 684
競争性のある 契約（小計）	(47. 2%)	(56. 3%)	(48. 4%)	(62. 1%)	(△14. 3%)	(△29. 4%)
	154	5, 173, 452	132	3, 652, 078	△22	△1, 521, 374
競争性のない 随意契約	(52. 8%)	(43. 7%)	(51. 6%)	(37. 9%)	(18. 0%)	(△44. 5%)
	172	4, 020, 045	141	2, 233, 385	△31	△1, 786, 660
合 計	(100. 0%)	(100. 0%)	(100. 0%)	(100. 0%)	(16. 3%)	(△36. 0%)
	326	9, 193, 497	273	5, 885, 463	△53	△3, 308, 034

(注1) 計数は、それぞれ四捨五入しているため、合計において一致しない場合がある。

(注2) 比較増△減の()書きは、令和7年度の対令和6年度伸率である。

イ 令和7年度の一者応札・応募状況

(単位：件、千円)

		令和6年度		令和7年度		比較増△減	
2者以上	件数	47	(30.5%)	58	(43.9%)	11	(23.4%)
	金額	568,692	(11.0%)	1,416,123	(38.8%)	847,431	(149.1%)
1者以下	件数	107	(69.5%)	74	(56.1%)	△33	(△30.8%)
	金額	4,604,750	(89.0%)	2,235,955	(61.2%)	△2,368,804	(△51.3%)
合 計		154	(100.0%)	132	(100.0%)	△22	(△14.3%)
		5,173,452	(100.0%)	3,652,078	(100.0%)	△1,521,374	(△29.4%)

(注1) 計数は、それぞれ四捨五入しているため、合計において一致しない場合がある。

(注2) 合計欄は、競争契約（一般競争、指名競争、企画競争、公募）を行った計数である。

(注3) 比較増△減の()書きは、令和7年度の対令和6年度伸率である。

② 契約監視委員会の審議状況

監事及び外部有識者で構成される契約監視委員会を2回実施（書面審査1回含む）し、令和7年度調達等合理化計画策定及び令和7年における契約の点検見直しを行ったところ、指摘事項はなかった。

- ・一者応札の検証実施件数：48件

③ 調達等合理化検討チームによる点検

新たに随意契約（少額随契を除く。）を締結することになった案件について、本部事務局長を総括責任者とする調達等合理化検討チームにおいて事前点検（緊急の場合は事後点検）を行い、競争性のない随意契約に関して真にやむを得ないものかの確認を行うことで契約の適正化に努めた。

- ・事前点検：1件

④ 不祥事の発生の未然防止・再発防止のための取組

本部事務局、東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、国立映画アーカイブ、国立西洋美術館及び国立国際美術館を対象として、契約方法の妥当性、固定資産等の管理、前年度指摘事項のフォローアップ等について、監査員による内部監査を行った。内部監査の実施により、不適正な会計処理の未然防止と、効率的な取組の情報共有を図り、法人全体の業務効率化に努めた。

- ・内部監査実施件数：6件

(2) 民間委託の推進

① 一般管理部門を含めた組織・業務の見直しと民間委託の推進

次のとおり民間委託による業務の効率化を行い、限られた人員及び予算の中で、効率的な施設設備の維持及び来館者サービスの向上を図った。

- (ア) 会場管理業務、(イ) 設備管理業務、(ウ) 清掃業務、(エ) 保安警備業務、
- (オ) 機械警備業務、(カ) 収入金等集配業務、(キ) レストラン運営業務、
- (ク) アートライブラリー運営業務、(ケ) ミュージアムショップ運営業務、
- (コ) 美術情報システム等運営支援業務、(サ) ホームページサーバ運用管理業務、
- (シ) 展覧会アンケート実施業務、(ス) 省エネルギー対策支援業務、
- (セ) 展覧会情報収集業務、(ソ) 映写等請負業務

② 広報・普及業務の民間委託の推進

次のとおり民間委託を行い業務の効率化を図った。

- (ア) 情報案内業務、(イ) 広報物等発送業務、(ウ) 交通広告等掲載、
- (エ) ホームページ改訂・更新業務、(オ) 特設サイト等、
- (カ) ラジオ CM 等を利用した総合的な広報宣伝業務、
- (キ) 講堂音響設備オペレーティング業務、(ク) 画像貸出業務

4 共同調達等の取組の推進

周辺機関や法人間で連携し、共同調達を行うことで、契約事務等の効率化を図った。国立西洋美術館は周辺の機関と連携し、電子複写機賃貸借及び保守、コピー用紙及びトイレットペーパー、廃棄物処理、古紙売買契約、トイレ用洗浄・脱臭器具の賃貸借について共同調達を実施した。東京国立近代美術館、国立映画アーカイブ及び国立新美術館はトイレットペーパーの共同調達を実施し、周辺の機関と連携して、コピー用紙の共同調達を実施した。東京国立近代美術館、国立映画アーカイブ、国立西洋美術館及び国立新美術館は電気の共同調達を実施した。京都国立近代美術館は周辺の機関と連携し、コピー用紙及びトイレットペーパーの共同調達を実施した。国立国際美術館は、周辺の機関と連携し、コピー用紙の共同調達を実施した。

5 給与水準の適正化等

(1) 人件費決算

決算額 1,388,096 千円（対令和 6 年度比較 110.2%）

※人件費は常勤職員を対象とし、退職金、福利厚生費を含まない。

(2) 給与体系の見直し

令和 7 年度においては、国家公務員の給与改定に準拠し、①人事院勧告による官民較差等の状況を踏まえ、俸給水準を平均 3.3%引き上げ（令和 8 年 1 月期において令和 7 年 4 月に遡及して引き上げ）、②期末手当支給割合及び勤勉手当成績率の引き上げ（年間 0.1 ヶ月分※各手当に 0.05 ヶ月分ずつ配分）の改定等を実施した。

また、国立美術館の職員が行う職務は、国の行政職俸給表（一）又は研究職俸給表の適用を受けるものと同等の職務であるとみなし、給与についても上述の通り一般職給与法に準拠した給与制度で支給してきていることを前提に、これらとの比較を行った。

① 一般職俸給表の適用を受ける職員の給与水準

【ラスパイレス指数（令和 7 年度実績）】

対国家公務員・・・（年齢勘案）	96.8
（年齢・地域・学歴勘案）	88.5

② 研究職俸給表の適用を受ける職員の給与水準

【ラスパイレス指数（令和 7 年度実績）】

対国家公務員・・・（年齢勘案）	93.1
（年齢・地域・学歴勘案）	92.6

(3) 令和 7 年度の役職員の報酬・給与等について

別紙「独立行政法人国立美術館の役職員の報酬・給与等について」を参照。

6 情報通信技術を活用した業務の効率化

新しい在宅勤務等の「働く場所の拡張」に対応するため、令和 6 年度から引き続き、オンラインストレージサービスやチャット／ミーティングツール（Microsoft 社 OneDrive や Teams）の活用を進め、在宅勤

務者や外部関係者との情報共有やオンライン会議を積極的に実施し、業務の効率化を図るとともに、館内外を問わず安全な業務遂行を実現するためのクラウドセキュリティサービスを導入した。

また、モバイル PC の導入と、在宅勤務時に館内情報システムを利用するためのリモートアクセスサービスの活用により、在宅勤務の促進を図った。メール利用等においては、外部データセンターが提供するサーバ機能及びセキュリティ機能により、安全かつ安定した業務運用を実現した。

令和 6 年度までに各館のホームページサーバーについてクラウド化を行い、その他の情報システムについて継続的かつ安定的な運用のための基盤整備としてクラウド化を推進する取組を開始した。

Ⅲ 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画等

1 自己収入の確保

入場料収入 1,157 百万円、公募展事業収入 313 百万円、不動産賃貸収入 211 百万円、その他事業収入 256 百万円等により、1,945 百万円の展示事業等収入を獲得し、予算額として定めた目標値である 1,679 百万円を達成した。外部資金については、オンライン寄附サイトでの寄附の募集、クラウドファンディングの実施などを通じて、個人からの支援獲得に努めた。企業・法人等にも働きかけ、各館の子ども向け事業に対する寄附金を獲得するなど多様な支援獲得に努めた。

会費収入及びクラウドファンディングによる外部資金獲得の令和 7 年度における合計額は 82 百万円であり、第 5 期中期目標期間累積額は 371 百万円である。

（前中期目標期間累積実績額 287 百万円）

2 保有資産の有効利用・処分

保有する資産について、美術館の事業・運営に影響のない範囲で積極的な講堂等の外部貸出やエントランスロビーの活用にも努めた。また、保有する資産のうち不要な資産はない。

3 予算

（単位：百万円）

区 分	予算額	決算額	増△減額
収入			
運営費交付金	<u>8,143</u>	<u>8,515</u>	<u>372</u>
展示事業等収入	<u>1,679</u>	<u>1,945</u>	<u>266</u>
施設整備費補助金	<u>100</u>	<u>607</u>	<u>507</u>
受託収入	<u>0</u>	<u>379</u>	<u>379</u>
寄附金収入	<u>650</u>	<u>1,759</u>	<u>1,109</u>
計	<u>10,572</u>	<u>13,205</u>	<u>2,633</u>
支出			
運営事業費	<u>9,822</u>	<u>10,556</u>	<u>△734</u>
人件費	<u>1,695</u>	<u>1,604</u>	<u>91</u>
一般管理費	<u>799</u>	<u>1,195</u>	<u>△396</u>
事業部門経費	<u>7,328</u>	<u>7,758</u>	<u>△430</u>
うち美術振興事業費	<u>2,850</u>	<u>3,504</u>	<u>△654</u>
うちナショナルコレクション形成・継承事業費	<u>3,429</u>	<u>2,768</u>	<u>660</u>
うちナショナルセンター事業費	<u>1,049</u>	<u>1,485</u>	<u>△436</u>
施設整備費	<u>100</u>	<u>607</u>	<u>△507</u>
受託事業費	<u>0</u>	<u>379</u>	<u>△379</u>
寄附金事業費	<u>650</u>	<u>618</u>	<u>32</u>
計	<u>10,572</u>	<u>12,161</u>	<u>△1,589</u>

※金額は単位未満四捨五入のため、合計等が合致しない場合がある。

特記事項

一般管理費については、前年度から繰り越した運営費交付金債務の業務達成により、396 百万円の支出増となっている。

施設整備費補助金は、前年度から繰り越された工事の完了により、予算額より 507 百万円の支出増となった。

寄附金については、1,759 百万円を獲得し、令和 7 年度に 618 百万円を支出した。

4 収支計画

(単位：百万円)

区 分	計画額	決算額	増△減額
費用の部			
経常費用	7,219	9,157	△1,938
人件費	1,576	2,552	△976
一般管理費	759	1,129	△370
事業部門経費	3,924	5,103	△1,179
うち美術振興事業費	2,833	3,205	△372
うちナショナルコレクション形成・継承事業費	241	714	△473
うちナショナルセンター事業費	850	994	△144
寄附金事業費	650	466	184
減価償却費	109	98	11
収益の部			
経常収益	7,219	9,181	1,962
運営費交付金収益	4,580	5,917	1,337
展示事業等の収入	1,679	1,945	266
受託収入	0	379	379
寄附金収益	650	466	△184
資産見返負債戻入	109	93	△16
補助金等収益	0	0	0
施設費収益	0	190	190
引当金見返に係る収益	201	190	△11
経常損益		24	24
臨時損益		△1	△1
当期純損益		23	23
前中期目標期間繰越積立金取崩額		150	150
当期総利益		173	173

※金額は単位未満四捨五入のため、合計等が合致しない場合がある。

5 資金計画

(単位：百万円)

区分	計画額	決算額	増△減額
資金支出	10,572	12,228	△1,656
業務活動による支出	10,385	11,090	△705
投資活動による支出	187	1,138	△951
財務活動による支出	0	0	0
資金収入	10,572	12,715	2,143
業務活動による収入	10,472	12,318	1,846
運営費交付金による収入	8,143	8,143	0
展示事業等による収入	1,679	2,031	352
受託収入	0	386	386
補助金等収入	0	0	0
寄附金収入	650	1,759	1,109
投資活動による収入	100	397	297
施設整備補助金による収入	100	397	297
資金増減額		488	
資金期首残高		5,791	
資金期末残高		6,279	

※金額は単位未満四捨五入のため、合計等が合致しない場合がある。

6 貸借対照表

(単位：百万円)

資産の部		負債及び純資産の部	
資産の部		負債の部	
I 流動資産	7,198	I 流動負債	7,676
II 固定資産		II 固定負債	1,869
1. 有形固定資産	214,093		
2. 無形固定資産	18	負債合計	9,545
3. その他の固定資産	1,786		
固定資産合計	215,898	純資産の部	
		I 資本金	81,019
		II 資本剰余金	131,659
		III 利益剰余金	872
		純資産合計	213,550
資産の部 合計	223,096	負債及び純資産の部 合計	223,096

※金額は単位未満四捨五入のため、合計等が合致しない場合がある。

7 短期借入金

実績なし。

8 重要な財産の処分等

実績なし。

9 剰余金

(1) 当期末処分利益の処分計画

(単位：円)

区分	金額
I 当期末処分利益 当期総利益	173,082,083
II 積立金振替額 前中期目標期間繰越積立金	374,630,465
III 利益処分額 積立金	547,712,548
独立行政法人通則法第44条第3項により 主務大臣の承認を受けようとする額	547,712,465

(2) 利益の生じた主な理由

支出の抑制及び目的積立金の取崩による。

(3) 目的積立金の使用状況

(単位：円)

区分	金額（円）	当期増加額
前中期目標期間繰越積立金	12,136,246	施設整備にかかる経費
目的積立金	125,850,084	展示事業、入館者サービス及び施設整備にかかる経費
計	137,986,330	

(4) 積立金（通則法第44条第1項）の状況

(単位：円)

使途の内訳	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
積立金	171,788,036	152,880,564	0	324,668,600
前中期目標期間繰越積立金	386,766,711	0	12,136,246	374,630,465
目的積立金	125,850,084	0	125,850,084	0

IV その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1 内部統制・ガバナンスの強化

(1) 内部統制の充実・強化

① 理事長がリーダーシップを発揮できる環境の整備

国立美術館が有する美術館施設や運営費交付金等を有効に活用して戦略的、効果的、かつ効率的で適正な管理運営を確保するため、内部統制・ガバナンスの強化に努めている。

理事長の意思決定を補佐するため、理事長及び理事をもって組織する理事会を原則毎月開催し、国立美術館の運営に関する基本方針のほか、中期計画・業務評価・予算・人事等の重要事項を審議した。

本部には、理事が兼任する事務局長を置き、事務局の企画立案機能の充実を図るとともに、各館横断的な調査研究業務及びその他の学芸に係る専門的な重要事項に係る業務を掌理する学芸調整役を配置し、各館が有機的に連携し、効果的・効率的な業務を遂行しうる体制を整備している。法人内会議（経営会議、研究系管理職を中心とした学芸課長会議、事務系管理職を中心とした法人課長等会議）を通じて、役員及び各館の館長はもとより、法人各職員に対するミッションの周知及び情報共有を図っている。

また、予算配分に関しては、法人全体としての作品購入予算や修復予算、人件費等を本部が一括管理し、戦略的・機動的な執行を図っているほか、令和7年度は理事長裁量経費を計上し、理事長のリーダーシップによる資源配分の強化を図った。

内部統制に関しては、平成29年度に制定された「独立行政法人国立美術館内部統制規則」に基づき、国立美術館に対する社会的信頼の確保及び国立美術館における内部統制の推進のため、国立美術館内部統制委員会を開催した。本委員会では、内部監査及び監事監査の結果について情報共有と意見交換を行い、内部統制機能の強化に努めた。

さらに、外部の有識者で組織し、国立美術館の管理運営に関する重要事項について理事長の諮問に応じて審議し、理事長に対して助言する独立行政法人国立美術館運営委員会を開催し、令和6年度事業実績並びに、令和7年度事業計画について説明聴取の上、意見交換を行った。

② 組織全体で取り組むべき重要な課題（リスク）の把握

法人内の会議において情報共有及びリスクの把握に努めているほか、法人全体で取り組むべき重要な課題（リスク）に対応するため、法人で取り組むべき重要な課題（リスク）について、見直しに取り組んでいる。

そのほか、法人の事業継続計画の作成を進めるとともに、外部有識者で構成する運営委員会や外部評価委員会の開催を通じて、外部の視点からのリスクの把握に努め、監事や会計監査人との意見交換を通じて法人運営に影響を及ぼすリスクの把握に努めている。

(2) 情報セキュリティ

情報資産の安全な運用管理実現のために、「情報システムの整備及び管理の基本的な方針」（令和3年12月24日デジタル大臣決定）にのっとり、適切な整備及び管理を行い、保有する情報については、法令等に基づき適切に情報の開示を行うとともに、政府の方針を踏まえた適切な情報セキュリティ対策を推進するなど、責任ある体制を構築するために必要な措置の実行に努めた。令和5年度に改定された「政府機関等の情報セキュリティ対策のための統一基準群」に基づき、法人の情報セキュリティ体制の整備を進めるとともに、情報セキュリティ委員会を開催し、国立美術館の情報セキュリティ対策実施状況の把握・情報セキュリティ対策実施計画の協議及び推進を行うなど、情報セキュリティの実現に取り組んだ。

令和7年度には、外部機関による情報セキュリティ監査のフォローアップ監査が実施され、国立美術館の情報セキュリティの状況について改善すべき課題についてあらためて精査した。今後、監査において指摘された事項に対する改善に努めていく。

令和7年度から稼働した法人ネットワークに合わせて導入した端末管理サービス、クラウドセキュリティサービスやメールセキュリティサービスにより、国立美術館全体として統一したセキュリティ設定の下での業務遂行を開始した。さらに、情報セキュリティ研修等の機会を設け、法人全体の情報

セキュリティ意識の底上げに努めるとともに、頻発している情報漏えい等の外部のインシデント事案を例に挙げた注意喚起や情報システムの脆弱性情報の共有等を随時に行うことにより職員の情報セキュリティ意識の向上に努めた。

(3) 内部統制・ガバナンスの強化に係る取組状況の検証

① 監事監査

監事2名が経営会議その他重要な会議に出席するほか、役職員から事業の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、財務及び業務についての状況を調査している。また、会計監査人から会計監査人の監査方法及びその結果について説明を受け、会計帳簿等の調査を行い、財務諸表、事業報告書及び決算報告書について検討を加え、いずれも適正であることを確認するとともに、業務の執行に関する法令遵守等の状況についても確認している。

令和7年度においては令和7年6月27日に期末監査を実施したほか、各館に対し期中監査を以下のとおり実施した。

令和8年1月22日：京都国立近代美術館

令和8年1月30日：国立西洋美術館、国立アトリサーチセンター

令和8年2月4日：東京国立近代美術館、国立新美術館

なお、監査結果報告については速やかに法人内に周知し、運営改善に生かすとともに、報告書において意見が付された場合には、速やかに対応し、その状況を随時監事に報告している。

このほか、「独立行政法人、特殊法人等監事連絡会」第3部会へ監事2名が参加している。

② 内部監査

本部事務局、東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、国立映画アーカイブ、国立西洋美術館及び国立国際美術館を対象として、契約方法の妥当性、固定資産等の管理、前年度指摘事項のフォローアップ等について、監査員が以下のとおり実地監査に当たった。

令和7年9月2日：本部事務局（国立アトリサーチセンターを含む）、東京国立近代美術館

令和7年8月27日：京都国立近代美術館

令和7年8月6日：国立映画アーカイブ

令和7年8月28日：国立西洋美術館（書面審査）

令和7年8月20日：国立国際美術館（書面審査）

令和7年8月7日：中間生成物保存活用委託事業事務局（本部）

なお、監査結果報告については速やかに理事長、監事、理事及び各館長へ周知している。また、監査結果報告書において意見が付された場合には、改善措置を講じている。

③ 外部評価

外部有識者で構成し、国立美術館の単年度ごとの業務の実績に関する評価を行う独立行政法人国立美術館外部評価委員会を2回（書面審議1回含む）開催し、令和6年度事業実績について説明聴取の上、審議し外部評価報告書を取りまとめている。外部評価報告書については法人ホームページにて公表している。

2 施設・設備に関する計画

国立西洋美術館受変電設備更新工事、国立新美術館熱源・空量整備工事、国立新美術館中央監視システム等更新工事（I期）、メディア芸術ナショナルセンター（仮称）収蔵庫基本設計を竣工した。また、平成19年度から継続している国立新美術館の土地購入を、予算措置に応じて行った。

3 人事に関する計画

(1) 職員採用等の状況

令和7年度の常勤職員数は158名である（令和7年4月1日時点）。令和7年度においては、法人内業務の諸課題解決や「マンガ・アニメ等企画室」などの新規事業の実施のため、常勤職員の募集・採用を進めた。（令和7年度新規採用21名）

職種別人員の増減状況（過去5年分）各年度4月1日時点の在籍者数

（単位：人）

職種	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
定年制研究系職員	54	58	65	67	69
定年制事務系職員	57	63	72	75	84
定年制技能・労務系職員	1	1	1	1	1
指定職相当職員	5	5	5	4	4

また、国立美術館では、継続的な業務の見直しや人員の再配置も行っている。さらに、大学のテニョアトラック制度を参考に、平成23年度より制度化した任期付研究員制度や、平成26年度に整備した特定有期雇用職員制度（専門的事項の調査研究を行う研究職及び専門的な知識と経験等を有する専門職）等を活用し、本部及び各館に必要な人員の配置に努めた。職員の採用にあたっては、特に法人事務職員の年齢・経験年数という観点での人員構成の偏りを是正し、円滑な組織運営と将来的な業務に対する知見やスキルの継承のため、社会人経験者の中途採用を積極的に行うとともに、新たに「係長級採用」枠を新設するなど職員の多様化を推進している。

人事・給与制度については、公務員の給与改定に関する取扱いについて（平成18年10月17日閣議決定）に基づき、公務員の例に準じて措置、対処している。令和7年度も俸給等の改定（引上げ）を行い、世間の動向に応じた対応を実施した。また、従来の「夏季休暇」を時節に捉われない「リフレッシュ休暇」に移行したことや子の看護等の要件の拡大を図るなど、職員の働きやすさに繋がるよう見直しを図った。

(2) 職員の研修等

① 新規採用者・転任者職員研修

主に新規採用者（非常勤職員を含む）・外部機関からの転入者を対象として、新任職員研修を講義形式で実施した（令和7年度実施 研修参加者22名）。また、年度途中で採用された新任職員に対し、令和7年4月に実施した新任職員研修時に撮影した動画の視聴をさせるなど教育の充実に努めた。

② 職員研修の実施（括弧内は参加人数）

令和7年度においては、人事評価制度の導入のため、新たに管理職等を対象として「評価者研修」を対面にて実施する（受講者42名）とともに、被評価者に対し、「被評価者研修」をeラーニング形式で実施（受講者156名）した。

その他、法人内研修として実施した取り組みは以下のとおりである。（括弧内は参加人数）

- ・「生涯生活設計セミナー（生活設計型）」（13名）
- ・「ハラスメント防止研修」（371名）
- ・「ハラスメント相談員研修」（16名）
- ・「メンタルヘルス研修」（303名）
- ・「事務職員海外研修（スタディツアー・英国）」（1名）
- ・「労務管理研修」（49名）
- ・「課題対応力研修」（28名）

③ 外部の研修への派遣（括弧内は参加人数）

ア 本部（事務局、国立アートリサーチセンター、中間生成物保存活用委託事業事務局）

- ・国立公文書館主催「令和7年度 公文書管理研修Ⅰ」（6名）
- ・国立公文書館主催「令和7年度 公文書管理研修Ⅱ」（3名）
- ・国立公文書館主催「令和7年度 アーカイブズ研修Ⅰ」（5名）
- ・会計検査院主催「政府出資法人等内部監査業務講習会」（1名）
- ・総務省行政管理局調査法制課主催「情報公開・個人情報保護・公文書管理制度の運用に関する研修」（2名）
- ・財務省会計センター主催「第54回会計事務職員契約管理研修」（1名）
- ・財務省会計センター主催「第63回政府関係法人会計事務職員研修」（1名）
- ・国立大学協会東京地区支部及び関東・甲信越地区支部主催「令和7年度東京地区及び関東・甲信越地区国立大学法人等係長研修」（1名）
- ・Institut français 主催「FOCUS Visual Arts Paris 2025」（1名）

イ 東京国立近代美術館

（本館）

- ・国立公文書館主催「令和7年度 アーカイブズ研修Ⅰ」（1名）
- ・国立公文書館主催「令和7年度 アーカイブズ研修Ⅲ」（1名）
- ・東京大学総合研究博物館主催「令和7年度 学芸員専修コース」（1名）

（国立工芸館）

- ・国立公文書館主催「令和7年度 アーカイブズ研修Ⅰ」（1名）
- ・川崎市主催「川崎市民ミュージアム研修会」（1名）
- ・文化庁主催「令和7年度図書館等職員著作権実務講習会」（1名）
- ・日本芸術文化振興会 クリエイター等支援事業（育成プログラム構築・実践）「TEFAFキュレーターコース」（1名）

ウ 京都国立近代美術館

- ・文化庁主催「令和7年度国宝・重要文化財（美術工芸品）防災・防犯対策研修会及び公開承認施設担当者会議」（1名）
- ・国立公文書館主催「令和7年度 アーカイブズ研修Ⅰ」（1名）
- ・総務省関東管区行政評価局主催「令和7年度情報公開・個人情報保護・公文書管理制度の運用に関する研修」（3名）
- ・文化庁主催「令和7年度文化財（美術工芸品）保存修理講習会」（1名）
- ・京都府・KYOTO 地域文化をつなぐミュージアムプロジェクト実行委員会主催「京都府ミュージアムフォーラム第5回合同研修会「デジタルアーカイブ全体研修」（2名）
- ・文化庁主催「令和7年度ミュージアム・パブリックリレーションズ研修」（1名）

エ 国立映画アーカイブ

該当なし。

オ 国立西洋美術館

- ・文化庁主催「令和7年度文化財行政講座」（1名）
- ・文化庁主催「文化施設インバウンド振興支援事業」に関するオンライン説明会」（5名）
- ・日本博物館協会主催「第73回全国博物館大会」（2名）
- ・全日本博物館学会、日本博物館協会主催「全日本博物館学会・日本博物館協会 緊急合同フォーラム「博物館の設置及び運営上の望ましい基準の全部を改正する告示案」パブリック・コメントに関する説明会」（1名）

- ・東京都博物館協議会・日本博物館協会東京支部主催「令和7年度東京都博物館協議会及び日本博物館協会東京支部第2回研修会「ミュージアムDX実践ガイド」について」（3名）
- ・日本イコモス国内委員会主催「日本イコモス被災文化財支援特別委員会 研究会」（1名）
- ・東京大学主催「2025年度東京大学職員階層別研修（課長級・副課長級・係長級（初任者））」（1名）

カ 国立国際美術館

- ・人事院主催「第48回近畿地区課長研修」（1名）
- ・人事院主催「第49回近畿地区課長補佐研修」（1名）
- ・国立公文書館主催「令和7年度 公文書管理研修Ⅰ」（2名）
- ・国立公文書館主催「令和7年度 公文書管理研修Ⅱ」（1名）
- ・国立公文書館主催「令和7年度 アーカイブズ研修Ⅲ」（1名）
- ・大阪労働局主催「公正採用選考人権啓発推進員 新任・基礎研修」（1名）
- ・大阪労働局主催「業務委託・請負適正化／労働者派遣法セミナー」（1名）
- ・九州国立博物館主催「令和7年度 IPM 研修」（2名）

キ 国立新美術館

- ・国立公文書館主催「令和7年度 公文書管理研修Ⅰ」（2名）

4 関連公益法人

該当なし。

別 表

凡 例

- ・各館名の略称は以下を用いる。

NCAR：国立アトリサーチセンター (National Center for Art Research)

MOMAT：東京国立近代美術館 (National Museum of Modern Art, Tokyo)

MOMAK：京都国立近代美術館 (The National Museum of Modern Art, Kyoto)

NFAJ：国立映画アーカイブ (National Film Archive of Japan)

NMWA：国立西洋美術館 (The National Museum of Western Art)

NMAO：国立国際美術館 (The National Museum of Art, Osaka)

NACT：国立新美術館 (The National Art Center, Tokyo)

別表1 所蔵作品展

館名	開催日数（日）		展示替回数		出品点数	入館者数		満足度	
	実績	年度計画	実績	年度計画		実績	目標	実績	目標
東京国立近代美術館（本館）	261	261	6	6	1,402	255,263	191,000	91.6%	77.4%
国立工芸館	74	74	1	1	98	14,209	19,500	96.3%	
京都国立近代美術館	283	280	4	4	778	89,966	84,000	81.2%	
国立西洋美術館	271	271	3	2	783	681,030	593,000	95.7%	
国立国際美術館	240	240	3	3	400	86,126	74,000	80.7%	
合計	1,129	1,126	17	16	3,461	1,126,594	961,500	89.1%	

※ 「満足度」とは、満足度調査における「良い」以上の回答率を指し、合計欄に記載の値は平均値である。
以下同じ。

※ 展示替回数の第5期中期目標数値は4.6回（第4期中期目標期間実績）

※ 所蔵作品展における小企画展・テーマ展は以下のとおり。

館名	タイトル（出品点数）	会期	年度内開催日数
東京国立近代美術館（本館）	フェミニズムと映像表現（8点）	令和7年2月11日～ 令和7年6月15日	43
	新収蔵&特別公開 コレクションに見る日韓（44点）	令和7年7月15日～ 令和7年10月26日	90
	没後30年榎倉康二（46点）	令和7年11月5日～ 令和8年2月8日	68
	新収蔵&特別公開 メダルド・ロッソ《Ecce Puer（この少年を見よ）》（16点）	令和8年3月3日～ 令和8年5月10日	33
国立工芸館	テーマ展示 本と暮らす（42点）	令和7年3月14日～ 令和7年6月22日	74
京都国立近代美術館	特別展示：日本のオルガ・ボズナンスカ（2点、参考出品3点）	令和7年3月13日～ 令和7年6月29日	79
	彼女たちの「戦後」（11点）	令和7年3月13日～ 令和7年6月29日	79
	新収蔵記念 巨勢小石（20点）	令和7年7月3日～ 令和7年9月28日	76
	京都国立近代美術館の工芸—近年の収蔵作品より—（27点）	令和7年7月3日～ 令和7年9月28日	76
	日本の洋画：藤原彰氏コレクション（48点）	令和7年7月3日～ 令和7年9月28日	76
	堂本家の人々と東丘社（25点）	令和7年10月7日～ 令和7年12月7日	54
	新収蔵品より：あるコレクターの写真との対話（55点）	令和7年10月7日～ 令和7年12月7日	54
	キュレトリアル・スタディズ16： 荒木悠 Reorienting—100年前に海を渡った作家たちと—（25点）	令和7年10月7日～ 令和7年12月7日	54
	キュレトリアル・スタディズ17： 日常の二重性—テキスタイルの表現からみる—（14点）	令和7年12月11日～ 令和8年3月8日	71

国立西洋美術館	梶コレクション展—色彩の宝石、エマールユの美（203点）	令和7年3月11日～ 令和7年6月15日	66
	ピカソの人物画（34点）	令和7年6月28日～ 令和7年10月5日	88
	物語る黒線たち——デューラー「三大書物」の木版画（68点）	令和7年10月25日～ 令和8年2月15日	95
	フルーニング美術館・国立西洋美術館 フランドル聖人伝板絵—100年越しの“再会”（2点）	令和7年10月25日～ 令和8年5月10日	99
	「Collection in FOCUS 国立西洋美術館における額縁の保存・修復」（2点）	令和7年3月11日～ 令和8年2月15日	271
	「Collection in FOCUS 幻想の実験場——「聖アントニウスの誘惑」が醸成した想像力をめぐって」（5点）	令和7年3月11日～ 令和8年2月15日	271
	「Collection in FOCUS クールベとパリ・コミュニケーション」（4点）	令和7年3月11日～ 令和8年2月15日	271
	「Collection in FOCUS ブラックの静物画—手で触れることのできる空間を求めて」（6点）	令和7年3月11日～ 令和8年2月15日	271
国立国際美術館	コレクション2 Undo, Redo わたしは解く、やり直す（84点）	令和7年2月15日～ 令和7年6月1日	54
	コレクション1（100点）	令和7年6月28日～ 令和7年10月5日	86
	コレクション2（80点）	令和7年11月1日～ 令和8年2月15日	85
	コレクション3（136点）	令和8年3月14日～ 令和8年6月14日	15

別表2 企画展

館名	展覧会名	開催日数		入館者数		満足度		企画 観点	共催者
		実績	目標	実績	目標	実績	目標		
東京国立近代美術館（本館）	ヒルマ・アフ・クリント展	66 (91)	66 (91)	106,310 (135,286)	118,800 (162,000)	91.0%	85.6%	イ、ホ	日本経済新聞社、NHK
	コレクションを中心とした特集 記憶をひらく 記憶をつむぐ	90	90	76,295	50,000	97.5%		イ、ロ、ニ、ホ	-
	アンチ・アクション展	44	44	31,274	35,000	91.9%		ロ、ニ、ホ	朝日新聞社
	下村観山展	14	14 (50)	21,230	17,000 (60,000)	-		ニ、ホ	日本経済新聞社、テレビ東京、BS テレビ東京
	小計	214	214	235,109	220,800	96.0%			
国立工芸館	移転開館 5 周年記念 重要無形文化財指定 50 周年記念 喜如嘉の芭蕉布展	39	39	7,378	9,000	98.4%	85.6%	ニ、ホ	-
	移転開館 5 周年記念 ルーシー・リー展—東西を超えた優美のうつわ—	67	67	19,110	21,000	94.4%		ニ、ホ	北陸中日新聞
	移転開館 5 周年記念 令和 6 年能登半島地震復興祈念 工芸と天気展—石川県ゆかりの作家を中心に—	68	68	15,829	12,000	93.5%		ロ、ホ	-
	ルネ・ラリック展—ガレ、ドームから続く華麗なるフランスの装飾美術—	11	11 (78)	3,345	2,600 (18,600)	-		ロ、ニ	北陸中日新聞
	小計	185	185	45,662	44,600	95.0%			
京都国立近代美術館	〈若きポーランド〉—色彩と魂の詩 1890-1918	79 (85)	79 (85)	33,551 (35,650)	42,000 (45,000)	91.6%	85.6%	イ、ホ	クラクフ国立博物館、NHK 京都放送局、NHK エンタープライズ近畿、京都新聞
	きもののヒミツ 友禅のうまれるところ	51	51	27,542	27,000	93.1%		ニ	読売新聞社
	没後 50 年 堂本印象 自在なる創造	43	43	14,481	18,000	95.9%		ニ、ホ	-
	セカイノコトワリー私たちの時代の美術	63	63	14,271	18,000	83.8%		イ、ハ	メルコグループ

	モダン都市生活と竹久夢二ー 川西英コレクション	3	3 (75)	1,183	2,000 (33,000)	-		ロ、 ニ	毎日新聞社、 京都新聞
	小計	239	239	91,028	107,000	92.2%			
国立西洋美術館	西洋絵画、どこから見るか？ ールネサンスから印象派まで サンディエゴ美術館 vs 国立 西洋美術館	60 (79)	60 (79)	172,134 (222,565)	124,000 (164,000)	86.0%	85.6%	イ、 ロ	サンディエゴ 美術館、日本 経済新聞社、 TBS、TBS グロ ウディア、テ レビ東京
	スウェーデン国立美術館 素 描コレクション展 ールネサンスからバロックま で	80	80	133,145	85,000	88.4%		イ	読売新聞社
	オルセー美術館所蔵 印象派 ー室内をめぐる物語	95	95	469,090	520,000	92.6%		イ、 ニ、 ホ	オルセー美術 館、読売新聞 社、日本テレ ビ放送網
	チュルリョーニス展 内なる 星図	4	4	10,357	7,000	-		ホ	読売新聞社、 国立 M. K. チ ュルリョーニ ス美術館
	北斎 富嶽三十六景 井内コ レクションより		(69)		(125,000)	-		ロ、 ニ	読売新聞社
	小計	239	239	784,726	736,000	89.7%			
国立国際美術館	ノー・バウンダリーズ	54 (86)	54 (86)	14,791 (24,976)	15,000 (24,000)	81.7%	85.6%	ロ、 ハ	-
	非常の常	86	86	23,494	24,000	81.8%		ロ、 ハ	-
	プラカードのために	85	85	13,411	24,000	84.8%		ロ、 ニ、 ホ	-
	中西夏之 緩やかにみつめる ためにいつまでも佇む、装置	15 (80)	15 (80)	3,164 (17,600)	3,300 (17,600)	-		ニ、 ホ	-
	小計	240	240	54,860	66,300	82.6%			
国立新美術館	リビング・モダニティ 住ま いの実験 1920s-1970s	79 (91)	79 (91)	121,537 (138,432)	94,000 (108,000)	85.6%	85.6%	ロ、 ニ、 ホ	東京新聞、独 立行政法人日 本芸術文化振 興会、文化庁

	時代のプリズム：日本で生まれた美術表現 1989-2010	84	84	69,676	50,000	88.9%		イ、 ニ、 ホ	M+、独立行政 法人日本芸術 文化振興会、 文化庁
	ブルガリ カレイドス 色彩・ 文化・技巧	78	78	118,986	170,000	94.1%		ロ	ブルガリ
	テート美術館 — YBA&BEYOND 世界を変えた 90s 英国アート	42	42 (79)	69,216 (105,000)	56,000	-		イ	テート美術 館、ソニー・ミ ュージックエ ンタテインメ ント、朝日新 聞社
	小計	283	283	379,415	370,000	90.6%			
合計		1,400	1,400	1,590,800	1,544,700	91.0%			

※ 別表2に記載の「企画観点」は以下のとおり。（別表3及び4についても同様。）

- (イ) 国際的視野に立ち、アジア諸地域を含め海外の主要美術館と連携し、確固たる評価を得ている世界の美術や海外の美術の新たな動向を紹介するとともに、我が国の作家や芸術的動向を海外に紹介し、国際的な美術動向に位置付ける展覧会等に積極的に取り組む。
- (ロ) 展覧会テーマの設定や他の芸術文化との連携による展示方法等について方向性を提示することに取り組む。
- (ハ) メディアアート、アニメ、マンガ、デザイン、建築など我が国が世界から注目される新しい領域の芸術表現を積極的に取り上げ、最先端の現代美術への関心を促す。
- (ニ) 国内の美術館と連携し、我が国に所在するコレクションの積極的活用を図る。
- (ホ) 過去の埋もれていた作家・作品・動向の発見や再評価に取り組み、国際的な美術動向に位置付ける展覧会に積極的に取り組む。

※ 会期が年度をまたぐものは、通期の数値を括弧書きで記載している。以下同じ。

別表3 映画上映会（国立映画アーカイブ）

上映会名		上映日数		上映回数	入館者数		満足度		企画 観点	共催者
		実績	目標	実績	実績	目標	実績	目標		
1	撮影監督 三浦光雄	30	30	63	9,044	7,500	92.9%	91.5%	ホ	-
2	生誕 120 年 映画監督 中川信夫	48	48	107	14,381	13,500	86.1%		ホ	-
3	返還映画コレクション (3)——第二次返還映 画・劇映画篇	36	36	78	8,451	10,000	95.1%		ホ	-
4	第 47 回びあフィルムフ ェスティバル 2025	13	13	43	4,373	2,500	93.8%		ロ	一般社団法人 PFF、 公益財団法人川喜多 記念映画文化財団、 公益財団法人ユニジ ャパン
5	映画監督 森田芳光	30	30	64	11,428	8,000	93.1%		ホ	-
6	TIFF/NFAJ クラシッ ク ブラジル映画週間	6	6	12	1,852	1,500	88.2%		ホ	東京国際映画祭、 LINHAS CULTURAL PRODUCTIONS
7	サイレントシネマ・デ イズ 2025	6	6	12	1,940	1,000	69.2%		ロ	-
8	逝ける映画人を偲んで 2023-2024	52	52	120	15,824	13,000	96.3%		ホ	-
9	アンソロジー・フィルム アーカイブス——アメ リカ実験映画の地平へ	22	22	47	6,531	4,500	65.2%		イ	アンソロジー・フィ ルムアーカイブス
10	NFAJ コレクション 2026 春——いま観た い！アメリカン・シネマ	9	9	18	2,598	1,500	94.0%		ロ	-
合計		252	252	564	76,422	63,000	90.7%			

別表4 展覧会（国立映画アーカイブ）

展覧会名		開催日数		入館者数		満足度		企画 観点	共催者
		実績	目標	実績	目標	実績	目標		
1	ポスターでみる映画史 Part 5 アニメーション映画の世界	90	90	7,370	7,000	94.9%	93.8%	ハ	-
2	映画監督 森田芳光	80	80	7,489	4,500	97.7%		ホ	ニューズ・コーポレイシ ョン（森田芳光事務所）
3	写真展 ハリウッドの名監督た ち 映画芸術科学アカデミー のコレクションより	74	74	6,272	4,000	95.4%		イ	-
合計		244	244	21,131	15,500	96.2%			

別表5 地方巡回展・巡回上映等

コレクション・プラス	開催館 (企画館)	開催日数	入館者数	満足度調査	
				実績	目標
ビフォアアフターポップ TAD の アメリカ美術+	富山県美術館 (国立国際美術館)	90	40,209	81.6%	80.0%
ピカソー肖像画とモデル					
マルセル・デュシャン+松澤有一 オブジェの誕生と消滅一	長野県美術館 (京都国立近代美術館)	58	26,102	79.6%	
現代写真のはじまりとそれから	北海道立釧路芸術館 (東京国立近代美術館)	39	2,337	88.2%	
合計		187	68,648	83.1%	
コレクション・ダイアログ	開催館 (企画館)	開催日数	入館者数	満足度調査	
				実績	目標
大正・昭和‘モード’の源泉	岐阜県美術館 (国立工芸館)	71	7,344	88.1%	80.0%
優秀映画鑑賞推進事業 (企画館：国立映画アーカイブ)	会場数	開催日数	入館者数	満足度調査	
				実績	目標
令和7年度優秀映画鑑賞推進事業	83	159	21,081	90.3%	80.0%
巡回上映会・展覧会名 (企画館：国立映画アーカイブ)	会場数	開催日数	入館者数	満足度調査	備考(会場)
Floating Clouds… The Cinema of Naruse Mikio 浮雲たち一成瀬巳喜男監督特集	1	8	624	-	ハーバード・フィルムアー カイブ(アメリカ・マサチ ューセッツ州ケンブリッ ジ)
Cinéma muet japonais - Carte Blanche au NFAJ de Tokyo カルト・ブランシュ——国立映画 アーカイブ無声映画選集	1	15	1,380	-	ジェローム・セドゥ・パテ 財団(フランス・パリ)
MoMAK Films 2025	1	8	326	84.1%	京都国立近代美術館
こども映画館 スクリーンで見る 日本アニメーション!	1	7	119	-	前橋シネマハウス(群馬県 前橋市)
アンソロジー・フィルムアーカイ ブス——アメリカ実験映画の地平 へ①	1	18	349	-	福岡市総合図書館 映像ホ ール・シネラ
アンソロジー・フィルムアーカイ ブス——アメリカ実験映画の地平 へ②	1	11	593	-	京都府京都文化博物館フ ィルムシアター
第29回 中之島映像劇場「戦争と 映像 Wars and Images」	1	1	127	96.8%	国立国際美術館
生誕120周年特別展「映画俳優 志 村喬～延岡での足跡と俳優人生 ～」	1	38	1,620	-	延岡城・内藤記念博物館 企画展示室
天下御免! 東映京都撮影所物語/ 劇団前進座の映画史	1	20	4,689	-	調布市文化会館たづくり 2階北ギャラリー
合計	9	126	9,827	90.5%	

別表6 公募展示室における展覧会毎の入場者数

	タイトル (主催団体名)	会期	年度内		会期全体	
			開催日数 (日)	入館者数 (人)	開催日数 (日)	入館者数 (人)
1	第84回 創元展 (主催：一般社団法人 創元会)	令和7年4月2日～ 令和7年4月14日	12	12,940	12	12,940
2	第78回 示現会展 (主催：一般社団法人 示現会)	令和7年4月2日～ 令和7年4月14日	12	10,748	12	10,748
3	第84回 水彩連盟展 (主催：水彩連盟)	令和7年4月2日～ 令和7年4月14日	12	8,108	12	8,108
4	第111回 光風会展 (主催：一般社団法人 光風会)	令和7年4月16日～ 令和7年4月28日	12	14,155	12	14,155
5	第102回 春陽展 (主催：一般社団法人 春陽会)	令和7年4月16日～ 令和7年4月28日	12	19,485	12	19,485
6	第40回記念 全国公募書道展 (主催：現代日本書家協会)	令和7年4月16日～ 令和7年4月28日	12	5,650	12	5,650
7	第99回 国展 (主催：国画会)	令和7年4月30日～ 令和7年5月12日	12	65,951	12	65,951
8	第120回記念 太平洋展 (主催：一般社団法人 太平洋美術会)	令和7年5月14日～ 令和7年5月26日	12	16,602	12	16,602
9	77回 三軌展 (主催：三軌会)	令和7年5月14日～ 令和7年5月26日	12	11,472	12	11,472
10	DESIGN MUSEUM JAPAN 展 2025～集めてつなごう 日本のデザイン～ (主催：NHK プロモーション・独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁)	令和7年5月15日～ 令和7年5月25日	10	11,680	10	11,680
11	第8回 国際公募 東京アート工芸 2024 (主催：一般社団法人 東京アート工芸)	令和7年5月15日～ 令和7年5月25日	10	10,604	10	10,604
12	第15回 世界平和芸術家協会展 (主催：世界平和芸術家協会)	令和7年5月16日～ 令和7年5月25日	9	10,103	9	10,103
13	第81回 現展 (主催：現代美術家協会)	令和7年5月28日～ 令和7年6月9日	12	10,905	12	10,905
14	第94回 第一美術展 (主催：第一美術協会)	令和7年5月28日～ 令和7年6月9日	12	10,893	12	10,893
15	第39回 日洋展 (主催：一般社団法人 日洋会)	令和7年5月28日～ 令和7年6月9日	12	9,689	12	9,689
16	第24回 国際公募国際墨画会展 (主催：一般社団法人 国際墨画会)	令和7年6月11日～ 令和7年6月23日	12	11,541	12	11,541
17	第29回 日仏現代国際美術展 (主催：サロン・ブラン美術協会)	令和7年6月11日～ 令和7年6月23日	12	3,679	12	3,679
18	第58回 たぶろう展 (主催：たぶろう美術協会)	令和7年6月11日～ 令和7年6月23日	12	4,509	12	4,509
19	第53回 「日本の書展」東京展 (主催：公益財団法人 全国書美術振興会)	令和7年6月12日～ 令和7年6月22日	10	10,015	10	10,015
20	第64回 書象展 (主催：書象会)	令和7年6月12日～ 令和7年6月22日	10	7,052	10	7,052

21	のこす！いかす！！マンガ・アニメ・ゲーム展 in Tokyo 2025 (主催：文化庁)	令和7年6月14日～ 令和7年6月22日	9	7,947	9	7,947
22	第40回記念 日本水墨院展 (主催：日本水墨院)	令和7年6月25日～ 令和7年7月6日	11	10,853	11	10,853
23	第44回 日本教育書道藝術院同人書作展 (主催：日本教育書道藝術院)	令和7年6月25日～ 令和7年7月6日	11	5,813	11	5,813
24	第59回 貞香書展 (主催：貞香会)	令和7年6月25日～ 令和7年7月6日	11	4,427	11	4,427
25	2025・28th 国際公募アート未来展 (主催：アート未来)	令和7年6月25日～ 令和7年7月7日	12	3,908	12	3,908
26	第64回 蒼騎展 (主催：蒼騎会)	令和7年6月25日～ 令和7年7月7日	12	10,137	12	10,137
27	第52回 日象展 (主催：日本表象美術協会)	令和7年6月25日～ 令和7年7月7日	12	4,783	12	4,783
28	第55回 千紫会 公募 万紅展 (主催：千紫会)	令和7年6月26日～ 令和7年7月6日	10	6,186	10	6,186
29	第3回 蛙園会書展 (主催：蛙園会)	令和7年6月26日～ 令和7年7月6日	10	6,736	10	6,736
30	第76回 毎日書道展 (主催：一般財団法人 毎日書道会・毎日新聞社)	令和7年7月9日～ 令和7年8月3日	23	32,460	23	32,460
31	第26回 高校生国際美術展 (主催：特定非営利活動法人 世界芸術文化振興協会)	令和7年8月6日～ 令和7年8月17日	11	15,372	11	15,372
32	第72回 新美術展 (主催：一般社団法人 新美術協会)	令和7年8月6日～ 令和7年8月18日	12	4,270	12	4,270
33	第8回 日美展 (主催：公益財団法人 国際文化カレッジ)	令和7年8月7日～ 令和7年8月16日	9	14,775	9	14,775
34	第57回 現代書作家協会展 (主催：現代書作家協会)	令和7年8月7日～ 令和7年8月17日	10	5,785	10	5,785
35	第75回 GAKUTEN Art&Design Award 2025 (主催：日本学生油絵会)	令和7年8月7日～ 令和7年8月17日	10	3,945	10	3,945
36	第26回 日本・フランス現代美術世界展 (主催：JIAS 日本国際美術家協会)	令和7年8月7日～ 令和7年8月17日	10	13,957	10	13,957
37	第41回 読売書法展 東京展 (主催：読売書法会・読売新聞社)	令和7年8月22日～ 令和7年8月31日	9	16,536	9	16,536
38	第109回 二科美術展覧会 (主催：公益社団法人 二科会)	令和7年9月3日～ 令和7年9月15日	12	68,809	12	68,809
39	第88回 新制作展 (主催：新制作協会)	令和7年9月17日～ 令和7年9月29日	12	39,988	12	39,988
40	第80回記念 行動展 (主催：行動美術協会)	令和7年9月17日～ 令和7年9月29日	12	18,497	12	18,497
41	第89回 自由美術展 (主催：自由美術協会)	令和7年10月1日～ 令和7年10月13日	12	10,978	12	10,978
42	第71回 一陽展 (主催：一陽会)	令和7年10月1日～ 令和7年10月13日	12	13,763	12	13,763

43	第 59 回 一期展 (主催：一期会)	令和 7 年 10 月 1 日～ 令和 7 年 10 月 13 日	12	7,634	12	7,634
44	第 92 回 独立展 (主催：独立美術協会)	令和 7 年 10 月 15 日～ 令和 7 年 10 月 27 日	12	18,220	12	18,220
45	第 78 回 二紀展 (主催：一般社団法人 二紀会)	令和 7 年 10 月 15 日～ 令和 7 年 10 月 27 日	12	25,332	12	25,332
46	第 30 回 瓦・造形展 (主催：瓦・造形会)	令和 7 年 10 月 16 日～ 令和 7 年 10 月 27 日	11	733	11	733
47	第 118 回 日展 (主催：公益社団法人 日展)	令和 7 年 10 月 31 日～ 令和 7 年 11 月 23 日	21	81,733	21	81,733
48	JAGDA 国際学生ポスターアワード 2025 (主催：公益社団法人 日本グラフィックデザイン協会)	令和 7 年 11 月 26 日～ 令和 7 年 12 月 8 日	12	8,633	12	8,633
49	第 97 回 新構造展 (主催：一般社団法人 新構造社)	令和 7 年 11 月 26 日～ 令和 7 年 12 月 8 日	12	6,360	12	6,360
50	第 50 回 秋耕展 (主催：一般社団法人 秋耕会)	令和 7 年 11 月 26 日～ 令和 7 年 12 月 8 日	12	4,859	12	4,859
51	21 世紀アートボードレス展 Relational (主催：21 世紀アートボードレス展実行委員会)	令和 7 年 11 月 27 日～ 令和 7 年 12 月 6 日	9	13,708	9	13,708
52	第 16 回 躍動する現代作家展 (主催：一般社団法人 空間芸術 TORAM)	令和 7 年 11 月 27 日～ 令和 7 年 12 月 7 日	10	3,474	10	3,474
53	2025 年度 伝統的工芸品公募作品展 (主催：一般財団法人 伝統的工芸品産業振興協会)	令和 7 年 11 月 26 日～ 令和 7 年 12 月 8 日	10	6,943	10	6,943
54	ナナ展 (主催：一般社団法人 七草會)	令和 7 年 11 月 28 日～ 令和 7 年 12 月 8 日	10	3,512	10	3,512
55	第 32 回 雪舟国際美術協会展 (主催：一般社団法人 雪舟国際美術協会)	令和 7 年 12 月 10 日～ 令和 7 年 12 月 21 日	11	10,375	11	10,375
56	第 50 回 土日会展 (主催：土日会)	令和 7 年 12 月 10 日～ 令和 7 年 12 月 22 日	12	4,604	12	4,604
57	Idemitsu Art Award 展 2025 (主催：Idemitsu Art Award 事務局・出光興産株式会社)	令和 7 年 12 月 10 日～ 令和 7 年 12 月 22 日	12	5,476	12	5,476
58	第 38 回 国際架橋書展 (主催：特定非営利活動法人 国際架橋書会)	令和 7 年 12 月 10 日～ 令和 7 年 12 月 22 日	12	2,747	12	2,747
59	白峰社書展 (主催：白峰社)	令和 7 年 12 月 10 日～ 令和 7 年 12 月 22 日	12	4,657	12	4,657
60	第 54 回 全書芸展 (主催：株式会社 全日本書芸文化院)	令和 7 年 12 月 11 日～ 令和 7 年 12 月 22 日	11	5,880	11	5,880
61	第 74 回 独立書展 (主催：公益財団法人 独立書人団)	令和 8 年 1 月 10 日～ 令和 8 年 1 月 18 日	8	21,440	8	21,440
62	第 38 回 平泉展 (主催：特定非営利活動法人 平泉会)	令和 8 年 1 月 21 日～ 令和 8 年 2 月 2 日	12	7,930	12	7,930
63	第 3 回 FPA PROFESSIONAL FOOD PHOTOGRAPHY AWARDS 受賞作品 展覧会 (主催：一般社団法人日本フードフォトグラファー協会)	令和 8 年 1 月 21 日～ 令和 8 年 2 月 2 日	12	10,874	12	10,874

64	第 48 回 国際書画展 (主催：国際書画連盟)	令和 8 年 1 月 21 日～ 令和 8 年 2 月 2 日	12	7, 027	12	7, 027
65	第 42 回 産経国際書展 新春展 (主催：産経国際書会)	令和 8 年 1 月 21 日～ 令和 8 年 2 月 2 日	12	3, 730	12	3, 730
66	第 14 回 シャドーボックス展 (主催：シャドーボックス展実行委員会)	令和 8 年 1 月 22 日～ 令和 8 年 1 月 31 日	9	10, 087	9	10, 087
67	国際公募展 「美は国境を越えて 2026」 (主催：国際墨友会)	令和 8 年 1 月 22 日～ 令和 8 年 2 月 1 日	10	6, 121	10	6, 121
68	第 7 回 和紙ちぎり絵創作展 (主催：株式会社ハクビ 和紙ちぎり絵学院)	令和 8 年 1 月 22 日～ 令和 8 年 2 月 2 日	11	5, 724	11	5, 724
69	第 24 回 N A U 21 世紀美術連立展 (主催：NAU21 世紀美術連立協会)	令和 8 年 2 月 4 日～ 令和 8 年 2 月 15 日	11	10, 008	11	10, 008
70	東京書作展 選抜作家展 2026 (主催：東京書作展 東京新聞)	令和 8 年 2 月 4 日～ 令和 8 年 2 月 15 日	11	3, 686	11	3, 686
71	第 58 回 等迦展 (主催：美術団体 等迦会)	令和 8 年 2 月 4 日～ 令和 8 年 2 月 16 日	12	6, 474	12	6, 474
72	第 70 回記念 新槐樹社展 (主催：新槐樹社)	令和 8 年 2 月 4 日～ 令和 8 年 2 月 16 日	12	5, 517	12	5, 517
73	第 66 回 日本書作院展 (主催：日本書作院)	令和 8 年 2 月 5 日～ 令和 8 年 2 月 15 日	10	11, 294	10	11, 294
74	第 35 回 全日本アートサロン絵画大賞展 (主催：全日本アートサロン絵画大賞展実行委員会・産経新聞社)	令和 8 年 2 月 5 日～ 令和 8 年 2 月 16 日	11	3, 328	11	3, 328
75	第 51 回 あきつ会書道展 (主催：あきつ会)	令和 8 年 2 月 6 日～ 令和 8 年 2 月 15 日	9	3, 192	9	3, 192
76	第 66 回 現日春季書展 (主催：現日会)	令和 8 年 2 月 18 日～ 令和 8 年 3 月 2 日	12	4, 217	12	4, 217
77	2025 年度第 49 回 東京五美術大学 連合卒業・修了制作展 (主催：日本大学芸術学部・武蔵野美術大学・多摩美術大学・女子美術大学・東京造形大学)	令和 8 年 2 月 20 日～ 令和 8 年 3 月 1 日	9	20, 271	9	20, 271
78	DOUBLE ANNUAL 2026 (主催：京都芸術大学)	令和 8 年 2 月 21 日～ 令和 8 年 3 月 1 日	8	5, 298	8	5, 298
79	2026 汎美展 (主催：汎美術協会)	令和 8 年 3 月 4 日～ 令和 8 年 3 月 16 日	12	7, 087	12	7, 087
80	第 62 回 創玄展 (主催：公益社団法人 創玄書道会)	令和 8 年 3 月 5 日～ 令和 8 年 3 月 15 日	10	20, 591	10	20, 591
81	第 79 回 日本アンデパンダン展 (主催：日本美術会)	令和 8 年 3 月 18 日～ 令和 8 年 3 月 3 日	12	12, 673	12	12, 673
82	公募第 66 回 日本南画院展 (主催：公益社団法人 日本南画院)	令和 8 年 3 月 18 日～ 令和 8 年 3 月 30 日	12	3, 657	12	3, 657
83	第 102 回 白日会展 (主催：白日会)	令和 8 年 3 月 19 日～ 令和 8 年 3 月 30 日	11	15, 765	11	15, 765
84	写真展 (主催：株式会社フォトジェニック)	令和 8 年 3 月 21 日～ 令和 8 年 3 月 29 日	8	4, 740	8	4, 740

別表7 展覧会毎の批評・レビューの状況（掲載数及び掲載媒体数）

展覧会名		新聞	その他（※）	合計
1	リビング・モダニティ 住まいの実験 1920s-1970s	25	5	30
2	時代のプリズム：日本で生まれた美術表現 1989-2010	21	40	61
3	ブルガリ カレイドス 色彩・文化・技巧	8	2	10
合計		54	47	101

※「その他」は雑誌、ウェブ掲載数である。

別表8 企画展示室における現代作家を採り上げた展覧会の実施回数及び採り上げた作家の人数

展覧会（回）	5回	作家（人）	127人	
展覧会名		作家名		会期
1	リビング・モダニティ 住まいの実験 1920s-1970s	ダン・カイルー、ルイス・カーン、菊竹清訓、菊竹紀枝、フランク・ゲーリー、ピエール・コーニグ、エーロ・サーリネン、アレクサンダー・ジラード、広瀬鎌二、リナ・ボ・バルディ、ジャン・ブルーヴェ、シャルロット・ペリアン		令和7年3月19日～ 令和7年6月30日
2	時代のプリズム：日本で生まれた美術表現 1989-2010	安齊重男、会田誠、マシュー・バーニー、蔡國強、クリスト、フランソワ・キュルレ、ダムタイプ、福田美蘭、ドミニク・ゴンザレス＝フォルステル、デイヴィッド・ハモンズ、ピエール・ユイグ、石内都、ジョーン・ジョナス、笠原恵実子、川俣正、風間サチコ、小泉明郎、イ・ブル、シャロン・ロックハート、宮島達男、森万里子、森村泰昌、村上隆、長島有里枝、中原浩大、中村政人、奈良美智、西山美なコ、大竹伸朗、大岩オスカル、小沢剛、フィリップ・パレーノ、ナウイン・ラワンチャイクン、志賀理江子、島袋道浩、下道基行、曾根裕、サイモン・スターリング、ヒト・シュタイエル、トーマス・シュトゥルツ、東芋、高嶺格、フィオナ・タン、照屋勇賢、リクリット・ティラヴァニヤ、椿昇、フランツ・ヴェスト、西京人、山城知佳子、やなぎみわ、柳幸典、ヤノベケンジ、米田知子 ※姓アルファベット順		令和7年9月3日～ 令和7年12月8日
3	ブルガリ カレイドス 色彩・文化・技巧	中山晃子、森万里子、ララ・ファヴァレット		令和7年9月17日～ 令和7年12月15日
4	テート美術館 — YBA&BEYOND 世界を変えた90s 英国アート	サラ・エインズリー、フランシス・ベーコン、リチャード・ビルンガム、スタバ・ビスワス、ブラック・オーディオ・フィルム・コレクティヴ、ヘンリー・ボンド、クリスティン・ポーランド、アンジェラ・ブロック、ヘレン・チャドウィック、ディノス・チャップマン、ジェイク・チャップマン、マット・コリショウ、キース・コヴェントリー、マイケル・クレイグ＝マーティン、マーティン・クリード、ジェレミー・デラー、キャシー・ド・モンショー、トレイシー・エミン、シール・フロイヤー、マーク・フランシス、アニヤ・ガラッチョ、ギルバート&ジョージ、リアム・ギリック、ダグラス・ゴードン、ルーシー・ガニング、リチャード・ハミルトン、モナ・ハトゥム、ルベイナ・ヒミド、ダミアン・ハースト、デレク・ジャーマン、サラ・ジョーンズ、アニッシュ・カプーア、ジム・ランビー、マイケル・ランディ、マーク・レッキー、サラ・ルーカス、スティーヴ・マッキーン、リサ・ミルロイ、シーマス・ニコルソン、クリス・オフィリ、ジュ		令和8年2月11日～ 令和8年5月11日

		リアン・オピー、コーネリア・パーカー、サイモン・パターソン、グレイソン・ペリー、スティーヴン・ピピン、マーク・クイン、ジュリー・ロバーツ、デイヴィッド・ロビリヤード、ジョニー・シャンド・キッド、デイヴィッド・シュリグリー、ジョージナ・スター、ヴォルフガング・ティルマンズ、ギャヴィン・ターク、マーク・ウォリンジャー、ジリアン・ウェアリング、レイチェル・ホワイトリード、エリザベス・ライト ※姓アルファベット順	
5	六本木アートナイト 2025	胡宮ゆきな	令和7年9月26日～ 令和7年9月29日 ※パブリックスペース で展示

別表9 調査研究一覧

ア 国立アートリサーチセンター			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	国立美術館所蔵作品の科学調査	コレクションの保存	国立国際美術館、奈良文化財研究所
2	美術作品の保存に関する研究	コレクションの保存	国立美術館各館
3	「文化財修復処置に関するワークショップー写真の識別と保存についてー」の報告書作成	コレクションの保存	東京文化財研究所
4	現代美術作品の保存に関する研究	コレクションの保存	法人各館及び外部研究協力者等
5	国立美術館の所蔵品を活用した展覧会	国立美術館コレクション・ダイアログ、国立美術館コレクション・プラス	法人各館及び全国の美術館
6	日本各地の美術館コレクションの可視化	日本で見られるアート100選	全国の美術館
7	国内美術館収蔵品の調査と情報収集	ウェブサイト「アートプラットフォームジャパン」（以下、APJ）「全国美術館収蔵品サーチ（SHŪZŌ）」を通じて公開	全国の美術館
8	日本のアーティストに関する調査と情報収集	APJ「日本アーティスト事典」を通じて公開	外部研究協力者等
9	日本の画廊に関する調査と情報収集	APJを通じて公開	外部研究協力者等
10	日本の展覧会に関する調査と情報収集	APJを通じて公開	特定非営利活動法人アート&ソサイエティ研究センター、国立新美術館、外部研究協力者
11	日本のアート分野レファレンス・ツールの調査と情報収集	APJを通じて公開	—
12	国立美術館所蔵作品に関する画像・歴史的情報等の公開データの拡充	独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムを通じて公開	法人各館
13	独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムと、国立国会図書館が運営するジャパンサーチ、文化庁文化遺産オンラインとの連携の継続維持	ジャパンサーチ、文化遺産オンラインを通じて公開	国立国会図書館、文化庁
14	アート分野のアーカイブズ資料の整理・公開方法についての基礎研究	美術館への将来的な普及に向けた準備	法人各館
15	マルセル・デュシャン《大ガラス》レプリカを巡る研究調査	ウェブサイト及び冊子を通じて公開	多摩美術大学アートアーカイブ他
16	超高齢社会に向けた、福祉・医療分野との共同調査 「共生社会をつくるアートコミュニケーション共創拠点」	多層な参加者層への対応、ウェブサイトの運営、展示・出展	東京藝術大学他
17	超高齢社会に向けた、地域行政との共同調査	川崎市民ミュージアムの写真資料を基にした展示とワークショップ	川崎市
18	美術館のアクセシビリティについての調査	「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」実施、Social Storyの監修	ポーラ美術館他
19	多様性、公平性、アクセシビリティ、包括性に関する調査	DEAI リサーチラボ、ウェブサイト記事	外部研究協力者等
20	学校と連携した鑑賞教育研修の調査	指導者研修の充実、報告書刊行	法人各館
21	日本の美術館に関する一般的な意識調査（2025年度）	美術館に関する意識を広く確認することを目指すとして実施	法人各館

22	日本の前衛芸術に関するアーカイバル・アプローチ——昭和戦前期から終戦後を対象に(科研費 基盤C 研究代表者: 谷口英理、令和7年～令和9年度)	古沢岩美資料の調査と整理を実施	板橋区立美術館
23	1900 - 50 年代の図案／デザインと同時代の印刷技術に関する研究(科研費 基盤C 研究代表者: 中尾優衣、令和7年～令和10年度)	戦前の図案集、絵はがきの印刷技術に関する調査を実施	NPO 法人デザイン史リサーチセンター東京、国文学研究資料館
イ 東京国立近代美術館			
(本館)			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	ヒルマ・アフ・クリントと20世紀の抽象美術	「ヒルマ・アフ・クリント」展を企画、開催、図録を発行	ヒルマ・アフ・クリント財団
2	1930～1940年代の比較メディア論	「記録をひらく 記憶をつむぐ」展を企画、開催	—
3	戦後美術とジェンダー	「アンチ・アクション」展を企画、開催、図録を発行	豊田市美術館、兵庫県美術館
4	下村観山と近代日本画	「下村観山」展を企画、開催、図録を発行	和歌山県立近代美術館
5	速水御舟資料の調査研究	「速水御舟展(仮称)」開催予定	川越市立美術館、小林古径記念美術館他
6	速水御舟と近代日本画	「速水御舟展(仮称)」開催予定	—
7	日韓の近現代美術史の比較研究	—	韓国国立現代美術館、国立アトリエリサーチセンター
8	「MOMAT コレクション」	—	—
9	ジャン(ハンス)・アルプ資料の調査研究	所蔵作品展10室「アルプのアトリエ」、「1950-60年代:有機的な彫刻」を企画、開催	アルプ財団(ドイツ)
10	「MOMAT コレクション 特集:美術館の春まつり」	—	—
11	デジタルカメラによる作品撮影及び画像アーカイブ構築のための撮影機材の比較	—	西川茂(写真家)
12	美術館におけるデジタル・アーカイブの構築	—	—
13	企画展示やコレクション展の関連プログラムの推進	—	—
14	ビジネスパーソン、子育て支援のファミリー層、特別支援学校、訪日外国人など、特定の層に向けての教育プログラムの推進	中高生プログラムを開発、実施	—
15	ガイドスタッフ(日本語、英語等)による鑑賞プログラムの質の向上のための研修の推進	—	—
16	台湾の国公立美術館における写真コレクションの形成に関する研究 (公益財団法人ポーラ美術振興財団 令和7年度 美術館職員の調査研究助成 採択者: 小林紗由里)	作品調査、当館研究紀要30号にて研究成果の一部を発表	—
17	戦中・戦間期のニューヨークにおける邦人美術とアメリカ美術の交差(科研費 基盤C(一般) 研究代表者: 山田隆行 令和7年度～令和9年度)	作品及び文献調査	—

18	北欧ミュージアムにおける多文化共生のための教育活動に関する国際研究(科研費 若手研究 研究代表者:山本桃子 令和6年度～令和9年度)	北欧ミュージアムへの訪問・インタビュー調査	—
(国立工芸館)			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	鈴木藏と桃山の陶芸	「卒寿記念 人間国宝 鈴木藏の志野展」企画構成、図録	江別市セラミックアートセンター、東根市美術館、富山県水墨美術館、岐阜県現代陶芸美術館
2	芭蕉布と沖縄の工芸	「喜如嘉の芭蕉布展」企画構成、図録	喜如嘉の芭蕉布保存会、芭蕉布織物工房、東根市美術館
3	工芸技術記録とその活用	「映写機で知る工芸の世界」企画、記録映画上映	—
4	日本近現代工芸の歴史と変遷	令和10年度開催予定展覧会の企画構成	—
5	国立工芸館と周辺美術館・博物館との連携について	観覧料金の相互割引	石川県立美術館、金沢21世紀美術館、金沢市立中村記念美術館ほか
6	石川の若手工芸家に関する調査研究	作品購入	—
7	美術館の宣伝・広報活動	SNS 発信及びそれに伴うフォロワー数の増加	—
8	児童・生徒を対象とする工芸作品の鑑賞教育の推進	『たんけんかのおぼえがき ばしょうふ』企画構成、刊行 教員向け研究会、研修等の実施 児童・生徒を対象とする鑑賞プログラムの企画構成、イベントの開催	石川県図工・美術教育研究会、石川県教員総合研修センター
9	工芸作品の鑑賞における高精細デジタル鑑賞システムの作成について	2D 鑑賞システムのコンテンツ制作及びリリース	株式会社DNP アートコミュニケーションズ
10	工芸館におけるデジタル・アーカイブの構築	デジタル・コンテンツの整備を行い、将来的なデジタル・アーカイブの構築の準備を進めた	—
11	現代における木工および金工作品の造形表現と動向調査	所蔵品の保存修復	—
12	フランス近現代デザインの動向に関する調査研究	「ルネ・ラリック展企画校正、図録	北陸中日新聞
13	石川県ゆかりの工芸作家に関する調査研究	「工芸と天気展」企画構成、図録	—
14	ルーシー・リーに関する調査研究	「ルーシー・リー展」企画構成、図録	中日新聞社、東京都庭園美術館、三重県立美術館、あべのハルカス美術館
15	日本のインテリアデザインの動向に関する調査研究	「デザイン・クロニクル展」企画構成、開催準備	—
ウ 京都国立近代美術館			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	所蔵作品(工芸)に関する研究	コレクション展に反映	—
2	1960年代から80年代のアジアのテキスタイルアートに関する研究	コレクション展に反映	Center for Heritage Arts & Textile、シンガポール・ナショナル

			ギャラリー、韓国国立現代美術館
3	現代美術の観点を中心としたコレクションの活用について	小企画「キュレトリアル・スタディズ 16: 荒木悠 Reorienting —100 年前に海を渡った作家たちと—」を企画構成、開催、小冊子を発行	—
4	テキスタイルにおける二重性の表現に関する研究	小企画「キュレトリアル・スタディズ 17: 日常の二重性—テキスタイルの表現からみる—」を企画構成、開催	—
5	「若きポーランド (Young Poland) 」についての総合的研究—日本美術との関連に注目して	展覧会「〈若きポーランド〉—色彩と魂の詩 1890-1918」を企画構成、開催、図録を発行	クラクフ国立博物館
6	近代友禅の展開に関する研究	展覧会「きもののヒミツ 友禅のうまれるところ」を企画構成、開催、図録を発行	千總文化研究所
7	堂本印象に関する研究	展覧会「没後 50 年 堂本印象 自在なる創造」を企画構成、開催、図録を発行	京都府立堂本印象美術館、富山県水墨美術館
8	1990 年代以降の日本の現代美術に関する調査研究	展覧会「セカイノコトワリー—私たちの時代の美術」を企画構成、開催、図録を発行	—
9	川西英コレクションに関する研究	展覧会「モダン都市生活と竹久夢二—川西英コレクション」を企画構成、開催、図録を発行	碧南市藤井達吉現代美術館、愛媛県美術館
10	アントニオ・フォンタネージに関する研究	展覧会「フォンタネージ—イタリアの光・心の風景」の開催に向けて準備を進めた	トリノ博物館財団
11	コンテンポラリージュエリーにおける身体性と記憶の表現に関する研究	展覧会「ジュエリーは、誰を夢みる」の開催に向けて準備を進めた	—
12	日本映画を中心とする研究	国立映画アーカイブ (NFAJ) との共催による映画上映会「MoMAK Films」を実施	国立映画アーカイブ
13	児童生徒を対象とする鑑賞教育	美術館を活用した学習支援活動の実施など	京都市図画工作教育研究会、京都市立中学校教育研究会美術部会
14	障害の有無に関わらず多感覚で享受できるユニバーサルな美術鑑賞プログラム	障害の有無に関わらず多感覚で享受できるユニバーサルな美術鑑賞プログラムの企画実施など	京都府立盲学校
15	美術館の教育普及活動	展覧会に関連したワークショップの開催	—
16	資料収集と著作権	資料収集活動に反映	—
17	20 世紀後半の現代陶芸の動向についての基礎的研究	コレクション展に反映	科学研究費補助金、5 年目
エ 国立映画アーカイブ			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	アメリカ実験映画の歴史	特集上映「アンソロジー・フィルムアーカイブス——アメリカ実験映画の地平へ」を企画・上映	アンソロジー・フィルム・アーカイブス
2	撮影監督 三浦光雄の撮影技術	特集上映「撮影監督 三浦光雄」を企画・上映	—
3	映画監督 森田芳光の業績	特集上映・展覧会「映画監督 森田芳光」を企画・上映・開催	ニューズ・コーポレーション (森田芳光事務所)
4	アメリカから返還された映画	特集上映「返還映画コレクション (3) ——第二次・劇映画篇」を企画・上映	—
5	外国映画を中心とする無声映画	特集上映「サイレントシネマ・デイズ 2025」を企画・上映	—

6	世界映画の古典	特集上映「TIFF/NFAJ クラシックス ブラジル映画週間」を企画・上映	東京国際映画祭
7	日本の自主映画	第47回びあフィルムフェスティバル2025」を企画、開催	一般社団法人 PFF、公益財団法人川喜多記念映画文化財団、公益財団法人ユニジャパン
8	近年逝去した映画人にかかわる映画	特集上映「逝ける映画人を偲んで 2023-2024」を企画・上映	—
9	映画監督 中川信夫の業績	特集上映「生誕120年 映画監督 中川信夫」を企画・上映	—
10	劇場用アニメーション映画のポスターと宣伝	展覧会「ポスターでみる映画史 Part 5 アニメーション映画の世界」を企画・開催	—
11	アメリカ古典映画の監督たちとスチル写真家たち	展覧会「写真展 ハリウッドの名監督たち 映画芸術科学アカデミーのコレクションより」を企画・開催	映画芸術科学アカデミー
12	映画フィルムと映画資料のデジタル化ならびに保存と活用（※）	「NFAJ デジタル展示室」「日本アニメーション映画クラシックス」「映像でみる明治の日本」「関東大震災映像デジタルアーカイブ」「フィルムは記録する」「映画遺産—国立映画アーカイブ映画資料ポータル—」「はじまりの日本劇映画 映画 meets 歌舞伎」「はじまりの日本劇映画 映画 meets 新派・新劇・新国劇」等検索・配信・公開サイトの運営	国立情報学研究所
13	映画製作専門家のオーラルヒストリー	オンラインサービス「映画製作専門家養成講座」	—
14	こどもを対象にした映画鑑賞・映画教育プログラム	「こども映画館 2025 年の夏休み★」、「V4 中央ヨーロッパ子ども映画祭」、こども映画館『スクリーンで見る日本アニメーション!』、「こども映画館 特別篇 2026 春」を企画、開催	—
15	映写技術・復元、フィルム映写をテーマにした教育プログラム	オンラインサービス「NFAJ オンライン映写ガイド」	—
16	社会人を対象にした映画鑑賞プログラム	優秀映画鑑賞推進事業を実施	—
17	国内の映画資料の保存及び活用	—	東映太秦映画村、映画図書館 松竹大谷図書館、川喜多記念映画文化財団、北九州市立松永文庫、早稲田大学演劇博物館、調布市立図書館、神戸映画資料館
18	国内のロケ地や撮影に関する許認可情報、フィルムコミッションの現状	—	全国のフィルムコミッション、ジャパン・フィルムコミッション
19	「ナショナル・フィルモグラフィ構築に向けた調査研究：塚田嘉信コレクションを活用して」（科学研究費補助金 基盤C、研究代表者：入江良郎、令和5～7年度）	国立映画アーカイブ企画・監修による資料復刻刊行	—

20	「南極探検記録映画の同定研究: 現存フィルムとノンフィルム資料を手がかりに」(科学研究費補助金 基盤C、研究代表者: 大傍正規 令和7~9年度)	国立映画アーカイブ所蔵コレクションの調査研究	—
オ 国立西洋美術館			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	所蔵絵画・彫刻	常設展	—
2	所蔵版画・挿絵本・素描・写本	常設展	—
3	所蔵工芸作品	常設展	—
4	額縁の保存修復	常設展内小企画「Collection in FOCUS 国立西洋美術館における額縁の保存・修復」	—
5	「聖アントニウスの誘惑」	常設展内小企画「Collection in FOCUS 幻想の実験場——「聖アントニウスの誘惑」が醸成した想像力をめぐって	—
6	ギュスターヴ・クールベとパリ・コミュニケーション	常設展内小企画「Collection in FOCUS クールベとパリ・コミュニケーション」	—
7	ジョルジュ・ブラックの静物画	常設展内小企画「Collection in FOCUS ブラックの静物画—手で触れることのできる空間を求めて」	—
8	国立西洋美術館所蔵のフランドル板絵《聖ヤコブ伝》に関する調査	企画展示「フルーニング美術館・国立西洋美術館所蔵 フランドル聖人伝板絵」の開催と、関連講演会及び論文集の刊行	フルーニング美術館 (ベルギー、ブリュッヘ)
9	近代フランスのエマール	(小企画展) 梶コレクション展—色彩の宝石、エマールの美	—
10	パブロ・ピカソの人物表現	(小企画展) ピカソの人物画	—
11	アルブレヒト・デューラーの三大書物	(小企画展) 物語る黒線たち——デューラー「三大書物」の木版画	—
12	ルネサンスから近代にいたる西洋絵画	特別展「西洋絵画、どこから見るか?—ルネサンスから印象派まで サンディエゴ美術館 vs 国立西洋美術館」	サンディエゴ美術館
13	ルネサンスからバロックの素描	特別展「スウェーデン国立美術館 素描コレクション展 —ルネサンスからバロックまで」	サンディエゴ美術館
14	印象派絵画	特別展「オルセー美術館所蔵 印象派—室内をめぐる物語」	オルセー美術館
15	M. K. チュルリョーニス	特別展「チュルリョーニス展 内なる星図」	国立M. K. チュルリョーニス美術館
16	松方コレクション	—	—
17	美術館教育(鑑賞教育、ワークショップなどの学びを深めるためのアクティビティ、アクセシビリティの向上、教材の開発など)	ファミリープログラム、スクールプログラム、アクセス・プログラム、既存プログラムのアクセシビリティ向上、セルフガイド等の作成 など	—
18	所蔵作品に関する歴史情報等の公開データの拡充	—	—
19	美術資料や館史料の情報組織、公開方法	—	—

20	国立西洋美術館所蔵作品の材料・技法についての科学的調査	—	東京電機大学、筑波大学、明治大学
21	国立西洋美術館の所蔵作品（ロダン、ブールデルなど近代の彫刻作品を中心とする）における3Dデータを用いた活用方法	—	奈良県立大学地域創造研究センター
22	アクリルケースを用いた展示における反射グレア低減手法の検討、輝度対比を考慮した美術館照明手法の検討	—	東京理科大学
23	国立西洋美術館所蔵作品の下描き調査（InGaAs センサを搭載したカメラを使った赤外線反射画像の撮影と、可視化された下描きについての考察）	—	株式会社ニコン
24	国立西洋美術館所蔵作品のデジタルマイクロスコープによる調査（作品に用いられている材料・技法および作品の保存状態の調査）	—	株式会社ハイロックスジャパン
25	来歴の解明と文化財返還問題の国際的文脈からの松方コレクションの包括的研究（科研費、基盤研究B、研究代表者：陳岡めぐみ、令和6～10年度）	松方コレクションの形成と返還をめぐる歴史的研究	—
カ 国立国際美術館			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	所蔵作品の研究	所蔵作品展の企画構成、作品の収集活動	—
2	現代美術の動向調査	所蔵作品展の企画構成、作品の収集活動	—
3	タイムベースド・メディアについて	中之島映像劇場の実施	—
4	中西夏之について	「中西夏之 緩やかにみつめるためにいつまでも佇む、装置」展の企画実施	茨城県近代美術館、山梨県立美術館、セゾン現代美術館
5	笹本晃について	「笹本晃 ラボラトリー」展（会場：東京都現代美術館）の開催協力、巡回企画	東京都現代美術館
6	1960年代から70年代の関西を中心とした前衛美術、パフォーマンスやエフェメラを中心とした研究	「現代美術に関連する資料群」の整理及び目録公開	—
7	関西を中心とする地方の戦後現代美術についての調査研究	「現代美術に関連する資料群」の整理及び目録公開	—
8	大阪と東アジア地域とに関連する現代美術の調査について	「非常の常」展の企画実施	—
9	国内若手作家の動向調査	「プラカードのために」展の企画実施	—
10	現代美術における映像表現（※）	作品及び文献調査	—
11	展示室、収蔵庫環境についての調査	文化財害虫の生息調査とそれを受けてのIPM清掃の実施	—
12	鉛を用いた美術作品の構造と劣化に関する調査研究	所蔵作品の科学調査分析を実施	奈良文化財研究所
13	合成樹脂を用いた美術作品の劣化状態と保存、展示方法についての調査研究	国内美術館等の収蔵作品の劣化事例をを調査し、所蔵品保存管理業務に反映	—
14	近現代アートの保存・継承に向けた収蔵品情報管理・共有システムの構築	国内美術館等の作品管理方法を実地調査し、収蔵庫整理業務に反映	—
15	美術館教育	スクールプログラム、教職員研修、未就学児対象美術館体験プログラム、発達段階別鑑賞プロ	NPO こめっこ（特定非営利活動法人 手話言

		グラム、美術館体験サポートプログラム、ユニバーサルプログラム、ワークショップ、オンライン鑑賞プログラム、鑑賞サポートツール制作、多文化共生プログラム	語獲得習得支援研究機構)、おおさかこども多文化センター
16	児童生徒を対象とする鑑賞教育の推進	大阪府教育センター「美術館研修―鑑賞ワークショップ」、大阪市教育センター「中学校美術科研修」の実施	大阪府教育センター、大阪市教育センター
17	所蔵作品に関する歴史的情報等の公開データの拡充、整備	NMAO サーチのコンテンツ拡充	—
18	現代美術の動向調査に関する収集アーカイブズ構築と公開の為の方法論策定:画廊旧蔵資料調査から(科研費 研スタ研究代表者:児玉茜、令和5年度～令和6年度)	研究成果報告書及び公式ホームページ内における「現代美術に関連する資料群」の公開	—
19	アジア女性美術家の芸術の継続について:社会、地域、歴史、家庭	現役の女性の芸術家(所蔵作家含む)へのインタビュー及び作品・活動の調査	科学研究費補助金
キ 国立新美術館			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	1920年代から70年代を中心とする20世紀の住宅建築について	前年度から引き続き企画展「リビング・モダニティ 住まいの実験 1920s-1970s」を開催し、関連事業を行った。	兵庫県立美術館
2	1990年代・2000年代の日本の現代美術について	企画展「時代のプリズム:日本で生まれた美術表現 1989-2010」を企画、開催し、図録を刊行した。	M+
3	ブルガリのハイジュエリーについて	企画展「ブルガリ カレイドス 色彩・文化・技巧」を企画、開催し、図録を刊行した。	—
4	1990年代から現代までのイギリス美術について	企画展「テート美術館 ― YBA&BEYOND 世界を変えた90s 英国アート」を企画、開催し、図録を刊行した。	テート美術館
5	森英恵について	企画展「生誕100年 森英恵 ヴァイタル・タイプ」の準備を進めた。	島根県立石見美術館
6	パブロ・ピカソの作品とその展示方法について	企画展「ピカソ meets ポール・スミス 遊び心の冒険へ」の準備を進めた。	パリ国立ピカソ美術館
7	ルネサンス美術について	企画展「ルーヴル美術館展 ルネサンス」の準備を進めた。	ルーヴル美術館
8	日本の少女漫画について	企画展「少女漫画・インフィニティ 萩尾望都×山岸凉子×大和和紀 三人展」の準備を進めた。	—
9	西洋美術と古代について	令和9年度の企画展に向けて準備を進めた。	リヒテンシュタイン美術館
10	パブリックスペースの展示について	令和8年度に向けて作家調査を進めた。	—
11	日本の現代美術の動向	将来の展覧会に向けて調査を進めた。	—
12	海外の現代美術の動向	将来の展覧会に向けて調査を進めた。	シンガポール美術館、ナショナルギャラリーシンガポール、アートソング・センター

13	ワークショップ、鑑賞プログラム、鑑賞ガイドブック、主に児童生徒を対象とした教育プログラム等の美術館教育	アーティスト・ワークショップやファミリープログラム、建築ツアー、学校を対象としたガイドダンス等を実施した。企画展に合わせて鑑賞ガイドを作成・配布した。 国内外の美術館等の教育活動調査を行った。	株式会社日本設計
14	日本の近・現代美術資料の研究拠点形成	慶應義塾大学アート・センターの「アート・アーカイヴ特殊講義」を春学期・秋学期の2回実施した。	慶應義塾大学
15	美術資料のアーカイブズ構築における編成記述方法	国立アートリサーチセンターと連携し、須賀啓関係資料の編成記述を実施した。	—
16	資料のデジタル保存・活用に関する調査研究	資料のデジタル保存及び活用について、NPO 法人フィールド、株式会社ニコンと撮影テストを実施し、検討を進めた。	NPO 法人フィールド、株式会社ニコン
17	展覧会情報の国立国会図書館「ジャパンサーチ」との連携	アートコモンズのデータを、月に一度、ジャパンサーチに連携した。	国立国会図書館
18	海外諸国における主要美術館、および文化施設の国際連携活動調査	muscon (museum networkconference)の準備を進めた。	ヴィトラ・デザイン・ミュージアム
19	国内外の現代建築遺産の保存活用の事例について	国際シンポジウム「リビング・モダニティ 過去・現在・未来」のレポートを執筆した。	—

※映画のデジタル保存・活用等に関する調査研究である。

別表 10 展覧会図録における執筆

ア 東京国立近代美術館			
(本館)			
タイトル		執筆者氏名 (職名)	展覧会名
1	論文「どうしてドン・キホーテは帰ってきたか——アンチ・アクションの射程」、「アンチ・アクション年表」(編集)、『別冊アンチ・アクション』内「戦前の父」と「戦後の娘」、「メディアと女性」、「工業、産業、労働、女性」	成相肇 (主任研究員)	アンチ・アクション 彼女たち、それぞれの応答と挑戦
2	文献目録	長名大地 (主任研究員)	下村観山展
3	「「伝統」の発見と行き先、絵画のあり方—観山芸術再考」、第2部章解説、作品解説	中村麗子 (主任研究員)	下村観山展
4	文献目録	日比野小都 (研究補佐員)	下村観山展
5	作家解説、年譜、「榎倉さんのこと 白井美穂・豊嶋康子インタビュー」	佐原しおり (任期付研究員)	「没後 30 年 榎倉康二」
6	章解説「「美術」のはじまり」、作品解説 4 点	佐原しおり (任期付研究員)	「迷い、挑む。 明治の表現」
(国立工芸館)			
タイトル		執筆者氏名 (職名)	展覧会名
1	「移転開館 5 周年記念 重要無形文化財指定 50 周年記念 喜如嘉の芭蕉布展」、章解説、コラム	唐澤昌宏 (工芸館長)	移転開館 5 周年記念 重要無形文化財指定 50 周年記念 喜如嘉の芭蕉布展
2	「移転開館 5 周年記念 重要無形文化財指定 50 周年記念 喜如嘉の芭蕉布展」、作品解説	青木智子 (特定研究員)	移転開館 5 周年記念 重要無形文化財指定 50 周年記念 喜如嘉の芭蕉布展
3	日本で愛されるルーシー・リーの器	岩井美恵子 (工芸課長)	移転開館 5 周年記念 ルーシー・リー展—東西をつなぐ優美のうつわ—
4	「ルーシー・リー展」章解説、作家解説	岩井美恵子 (工芸課長)	移転開館 5 周年記念 ルーシー・リー展—東西をつなぐ優美のうつわ—
5	井内コレクションのルーシー・リー作品	宮川典子 (任期付研究員)	移転開館 5 周年記念 ルーシー・リー展—東西をつなぐ優美のうつわ—
6	「ルーシー・リー展 —東西をつなぐ優美のうつわ—」、関連年譜、作家解説、作品解説	宮川典子 (任期付研究員)	移転開館 5 周年記念 ルーシー・リー展—東西をつなぐ優美のうつわ—
7	「ルーシー・リー展 —東西をつなぐ優美のうつわ—」、用語解説	コレヴァ・モニカ・テオフィル (研究補佐員)	移転開館 5 周年記念 ルーシー・リー展—東西をつなぐ優美のうつわ—
8	「大正・昭和‘モード’の源泉 国立美術館 コレクション・ダイアログ」作家解説、作品解説	三木敬介 (主任研究員)	大正・昭和‘モード’の源泉 国立美術館 コレクション・ダイアログ
9	「大正・昭和‘モード’の源泉 国立美術館 コレクション・ダイアログ」作家解説、作品解説	土井貴美子 (研究補佐員)	大正・昭和‘モード’の源泉 国立美術館 コレクション・ダイアログ
10	「移転開館 5 周年記念 令和 6 年能登半島地震復興祈念 工芸と天気展 —石川県ゆかりの作家を中心に—」、作品解説	宮川典子 (任期付研究員)	移転開館 5 周年記念 令和 6 年能登半島地震復興祈念 工芸と天気展 —石川県ゆかりの作家を中心に—
11	「移転開館 5 周年記念 令和 6 年能登半島地震復興祈念 工芸と天気展 —石川県ゆかりの作家を中心に—」論文、コラム、作品解説	日南日和 (特定研究員)	移転開館 5 周年記念 令和 6 年能登半島地震復興祈念 工芸と天気展 —石川県ゆかりの作家を中心に—

12	「移転開館 5 周年記念 令和 6 年能登半島地震復興祈念 工芸と天気展 ー石川県ゆかりの作家を中心にー」、作品解説	コレヴァ・モニカ・テオフィル (研究補佐員)	移転開館 5 周年記念 令和 6 年能登半島地震復興祈念 工芸と天気展 ー石川県ゆかりの作家を中心にー
13	「移転開館 5 周年記念 令和 6 年能登半島地震復興祈念 工芸と天気展 ー石川県ゆかりの作家を中心にー」、作品解説	土井貴美子 (研究補佐員)	移転開館 5 周年記念 令和 6 年能登半島地震復興祈念 工芸と天気展 ー石川県ゆかりの作家を中心にー
14	「移転開館 5 周年記念 令和 6 年能登半島地震復興祈念 工芸と天気展 ー石川県ゆかりの作家を中心にー」、作品解説	頓宮佑佳 (研究補佐員)	移転開館 5 周年記念 令和 6 年能登半島地震復興祈念 工芸と天気展 ー石川県ゆかりの作家を中心にー
15	「移転開館 5 周年記念 令和 6 年能登半島地震復興祈念 工芸と天気展 ー石川県ゆかりの作家を中心にー」、作品解説	山本成子 (研究補佐員)	移転開館 5 周年記念 令和 6 年能登半島地震復興祈念 工芸と天気展 ー石川県ゆかりの作家を中心にー
16	「ルネ・ラリック展 ーガレ、ドームから続く華麗なるフランスの装飾美術ー」、作家解説	三木敬介 (主任研究員)	ルネ・ラリック展 ーガレ、ドームから続く華麗なるフランスの装飾美術ー
17	「ルネ・ラリック展 ーガレ、ドームから続く華麗なるフランスの装飾美術ー」、作品解説、作家解説、技法解説	青木智子 (特定研究員)	ルネ・ラリック展 ーガレ、ドームから続く華麗なるフランスの装飾美術ー
18	「ルネ・ラリック展 ーガレ、ドームから続く華麗なるフランスの装飾美術ー」、作品解説、作家解説、技法解説	コレヴァ・モニカ・テオフィル (研究補佐員)	ルネ・ラリック展 ーガレ、ドームから続く華麗なるフランスの装飾美術ー
19	「ルネ・ラリック展 ーガレ、ドームから続く華麗なるフランスの装飾美術ー」、作品解説、作家解説、技法解説	土井貴美子 (研究補佐員)	ルネ・ラリック展 ーガレ、ドームから続く華麗なるフランスの装飾美術ー
20	「ルネ・ラリック展 ーガレ、ドームから続く華麗なるフランスの装飾美術ー」、作品解説、作家解説、技法解説	頓宮佑佳 (研究補佐員)	ルネ・ラリック展 ーガレ、ドームから続く華麗なるフランスの装飾美術ー
イ 京都国立近代美術館			
タイトル		執筆者氏名 (職名)	展覧会名
1	「「きもののヒミツ 友禅のうまれるところ」によせて」、章解説、作品解説、関連年表	大長智広 (主任研究員)	きもののヒミツ 友禅のうまれるところ
2	「堂本印象が歩んだ創造への道程」、章解説、コラム、作品解説、年譜	平井啓修 (主任研究員)	没後 50 年 堂本印象 自在なる創造
3	「セカイノコトワリー私たちの時代の美術」、作家・作品解説	牧口千夏 (主任研究員)	セカイノコトワリー私たちの時代の美術
4	「セカイノコトワリー私たちの時代の美術」、インタビュー聞き手・構成	池澤茉莉 (任期付研究員)	セカイノコトワリー私たちの時代の美術
5	「夢二式美人画という反抗」、章解説、節解説、作家解説	梶岡秀一 (学芸課長)	モダン都市生活と竹久夢二ー川西英コレクション
ウ 国立西洋美術館			
タイトル		執筆者氏名 (職名)	展覧会名
1	章解説 (9 章)、「《小さな丸帽子を被った座る女性》科学調査ノート」	久保田有寿 (特定研究員)	小企画展「ピカソの人物画」
2	カーレル・ファン・マンデル『絵画の書』およびサミュエル・ファン・ホーホストラーテン『絵画芸術の高き学び舎』——17 世紀オランダの美術文献における素描論	中田明日佳 (主任研究員)	スウェーデン国立美術館 素描コレクション——ルネサンスからバロックまで
3	作品解説 (nos. 17-19, 25-26, 31-33, 38, 39-42)	陳岡めぐみ (学芸課長)	オルセー美術館所蔵 印象派ー室内をめぐる物語
4	「印象派と室内」「室内の肖像ー創作の空間で／モデルを映し出す部屋で」「日常の情景ー気晴らし、夢想、親密さ」	袴田紘代 (主任研究員)	オルセー美術館所蔵 印象派ー室内をめぐる物語

	「室内の外光と自然—取り込まれる風景、植物」「印象派の装飾—室内への新しいまなざし」		
5	「印象派が描く家族／家庭」、作品解説（nos. 8, 24-27, 29, 30, 38, 81, 82, 85-88, 96, 97）	袴田紘代 （主任研究員）	オルセー美術館所蔵 印象派—室内をめぐる物語
6	「『われわれの 20 世紀が混沌としたままに始まろうとしている。』—チュルリョーニスと 20 世紀初頭の絵画」、章解説「Prologue」「自然のリズム」「交響する絵画」「リトアニアに捧げるファンタジー」「Epilogue」、作品解説	山柘あおい （研究員）	チュルリョーニス展 内なる星図
7	「ミカロユス・コンスタンティナス・チュルリョーニス（1875-1911）：人生、芸術、歴史の交差点で」英文和訳、関連略年譜	朝倉南 （任期付研究員）	チュルリョーニス展 内なる星図
エ 国立国際美術館			
	タイトル	執筆者氏名 （職名）	展覧会名
1	『《Yield Point》と制度の降伏点——笹本晃の実践と日本の美術館におけるパフォーマンス作品収蔵の課題』	植松由佳 （学芸課長）	「笹本晃 ラボラトリー」展
2	「「プラカードのために」のために」、作家・作品解説	正路佐知子 （主任研究員）	「プラカードのために」展
3	「儀としての絵—中西夏之の絵画（と）場」、略年譜	福元崇志 （主任研究員）	「中西夏之 緩やかにみつめるために いつまでも佇む、装置」展
4	「戦後美術の円・環」	福元崇志 （主任研究員）	「コレクション 1」展
5	「21 世紀の想像力」	安来正博 （研究員）	「コレクション 2」展
6	「反射する都市」	武本彩子 （任期付研究員）	「コレクション 3」展
オ 国立新美術館			
	タイトル	執筆者氏名 （職名）	展覧会名
1	「歴史になる前に再考せよ、くり返す問いと挑戦」（執筆）	神谷幸江 （学芸課長）	時代のプリズム：日本で生まれた美術表現 1989-2010
2	プロローグ「国際的同時性とは何か—国際性・地域性が交錯する場としての日本」「見るものと見られるもの—オルタナティブな場としてのアート」「切断と継承—日本・現代・美術とグローバリゼーション」（執筆）	伊村靖子 （主任研究員）	時代のプリズム：日本で生まれた美術表現 1989-2010
3	「レンズ 2：自己と他者と」（執筆）、「河本信治インタビュー」（聞き手）、作家解説 6 本（執筆）	尹志慧 （主任研究員）	時代のプリズム：日本で生まれた美術表現 1989-2010
4	作家解説 10 本（執筆）	米田尚輝 （主任研究員）	時代のプリズム：日本で生まれた美術表現 1989-2010
5	コラム「サブカルチャー」（執筆）、コラム「アーティスト・イン・レジデンス」（執筆）、作家解説 15 本（執筆）	伊澤拓人 （研究補佐員）	時代のプリズム：日本で生まれた美術表現 1989-2010
6	「永遠の都、永遠のジュエリー」（執筆）	宮島綾子 （主任研究員）	ブルガリ カレイドス 色彩・文化・技巧
7	「個人的なことと政治的なこと：サッチャー政権とその後の英国におけるセクシュアリティをめぐる闘いとは」（執筆）	山田由佳子 （主任研究員）	テート美術館—YBA & BEYOND 世界を変えた 90s 英国アート
8	作家略歴	大磯日向子 （研究補佐員）	テート美術館—YBA & BEYOND 世界を変えた 90s 英国アート

9	「都市の文化装置としての「ファッション」——森英恵とメディア」（執筆）、インタビュー「生活、文化、社会の意識を切り拓く『流通信』」（聞き手）、作品解説12本（執筆）、主要参考文献一覧	小野寺奈津 (特定研究員)	生誕 100 年 森英恵 ヴァイタル・タイプ
10	主要参考文献一覧	大磯日向子 (研究補佐員)	生誕 100 年 森英恵 ヴァイタル・タイプ

別表 11 研究紀要における執筆

ア 国立アトリサーチセンター				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	美術館における先端技術の利活用—現在の取り組みと今後のビジョン	小池秀樹 (特定研究員)	令和6年度 国立アトリサーチセンター活動報告・研究紀要 Vol. 2	R8. 3. 31
イ 東京国立近代美術館 (本館)				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	「台湾の国公立美術館における写真コレクションの形成—台北市立美術館、国立台湾美術館、国家撮影文化センターを中心に」	小林紗由里 (研究員)	『東京国立近代美術館 研究紀要』30号	R8. 3. 31
2	「講演記録」 「フェミニズムと映像表現 トークイベント」	小林紗由里 (研究員)	『東京国立近代美術館 研究紀要』30号	R8. 3. 31
3	「ヒルマ・アフ・クリントと植物をめぐるノート」	杉崎友哉 (研究補佐員)	『東京国立近代美術館 研究紀要』30号	R8. 3. 31
4	「資料紹介 速水御舟 研究会記録 (1933 年)」	鶴見香織 (主任研究員)	『東京国立近代美術館 研究紀要』30号	R8. 3. 31
5	「絵画の終焉」を読み直す	榊田倫広 (主任研究員)	『東京国立近代美術館 研究紀要』30号	R8. 3. 31
6	ナターリア・ゴンチャローヴァ《スペイン女》をめぐる一考察	由良茉委 (研究補佐員)	『東京国立近代美術館 研究紀要』30号	R8. 3. 31
7	「東京国立近代美術館のジェンダーバランス」	横山由季子 (研究員)	『東京国立近代美術館 研究紀要』30号	R8. 3. 31
8	「講演記録」 「フェミニズムと映像表現 トークイベント」	横山由季子 (研究員)	『東京国立近代美術館 研究紀要』30号	R8. 3. 31
ウ 京都国立近代美術館				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	巻頭挨拶	福永治 (館長)	京都国立近代美術館研究論集 Cross Sections Vol. 12	R8. 2. 26
2	富岡鉄斎筆《群仙図》及び羽倉可亭関連資料群の概要	梶岡秀一 (学芸課長)	京都国立近代美術館研究論集 Cross Sections Vol. 12	R8. 2. 26
3	「ラウンドテーブル」 「小林正和とその時代 --ファイバーアート、その向こうへ」	宮川智美 (研究員)	京都国立近代美術館研究論集 Cross Sections Vol. 12	R8. 2. 26
4	「カレル・タイゲ『現代の国際建築』における日本インターナショナル建築会「宣言・綱領」チェコ語訳掲載の経緯—日本語原文との相違に着目して」	小野真司 (任期付研究員)	京都国立近代美術館研究論集 Cross Sections Vol. 12	R8. 2. 26
5	「届き始めた声—「美術史の書きかえ」を巡る国内外のいくつかの試みについて—」	渡辺亜由美 (特定研究員)	京都国立近代美術館研究論集 Cross Sections Vol. 12	R8. 2. 26
6	「「みる」をみつめる—コレクション展内の小企画「すわって、みる」の教育学的考察から」	渡川智子 (特定研究員)	京都国立近代美術館研究論集 Cross Sections Vol. 12	R8. 2. 26

エ 国立西洋美術館				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	新収蔵作品紹介「ルカ・ジョルダーノ《マギの礼拝》」	川瀬佑介 (主任研究員)	『国立西洋美術館研究紀要』 30号	R8. 3. 31
2	「2024 年度寄贈ジャポニスム関連貴重図書コレクションについて」	黒澤美子 (主任研究員)	『国立西洋美術館研究紀要』 30号	R8. 3. 31
3	「カナダの美術館における DEAI (多様性 diversity、公平性 equity、アクセシビリティ、包摂 inclusion) 推進の取り組みについて—オントリオ美術館の事例から」	酒井敦子 (主任研究員)	『国立西洋美術館研究紀要』 30号	R8. 3. 31
4	新収蔵作品紹介「クリストフ・アムベルガー《バルバラ・シュヴァルツの肖像》」	新藤淳 (主任研究員)	『国立西洋美術館研究紀要』 30号	R8. 3. 31
5	「パブロ・ピカソ作《小さな丸帽子を被って座る女性》の非破壊光学調査」	高嶋美穂 (特定研究員)	『国立西洋美術館研究紀要』 30号	R8. 3. 31
6	「2024 年度寄贈ジャポニスム関連貴重図書コレクションについて」	門田園子 (研究補佐員)	『国立西洋美術館研究紀要』 30号	R8. 3. 31
7	「2024 年度寄贈ジャポニスム関連貴重図書コレクションについて」	横尾千穂 (研究補佐員)	『国立西洋美術館研究紀要』 30号	R8. 3. 31
オ 国立新美術館				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	リビング・モダニティ 過去・現在・未来	高美玲 (国際連携室 長)	国立新美術館研究紀要 第 11 号	R7. 12. 12
2	「『NACT YOUTH PROJECT 新美塾!』第 2 期・第 3 期の実施報告と 3 年間の取り組みを終えての考察」	宮下咲 (特定研究員)	国立新美術館研究紀要 第 11 号	R7. 12. 12
3	田名網敬一の〈80 年代〉—1975 年から 1986 年の映画、立体、平面の横断について	伊澤拓人 (研究補佐員)	国立新美術館研究紀要 第 11 号	R7. 12. 12

別表 12 館ニュースにおける執筆

ア 東京国立近代美術館				
(本館)				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	「資料紹介#8 Wide White Space」	長名大地 (主任研究員)	『現代の眼』640号	R8. 3. 31
2	「研究員の本棚#6 紡ぎ続けた、日本画をめぐる関心の糸」	長名大地 (主任研究員)	『現代の眼』640号	R8. 3. 31
3	「資料紹介#9 雑記帳」	赤松千佳 (研究補佐員)	『現代の眼』640号	R8. 3. 31
4	「新しいコレクション：石川真生「基地を取り巻く人々」より」	小林紗由里 (研究員)	『現代の眼』640号	R8. 3. 31
5	浅見貴子「《溪泉二図》を見る」後記	鶴見香織 (主任研究員)	『現代の眼』640号	R8. 3. 31
6	新しいコレクション タイガー立石（立石紘一） 《Mao's Ecstasy》	成相肇 (主任研究員)	『現代の眼』640号	R8. 3. 31
7	「エンゲージメント」を通じて美術館の意義を示す ー「Adobe Convening 2025」への参加と「Family Day こどもまっと」	端山聡子 (特定研究員)	『現代の眼』640号	R8. 3. 31
8	「新しいコレクション：秦テルヲ《玉乗り》1915年」	横山由季子 (研究員)	『現代の眼』640号	R8. 3. 31
(国立工芸館)				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	生田ゆき「かたちあるもの」と「かたちなきもの」後記	唐澤昌宏 (工芸館長)	『現代の眼』640号	R8. 3. 31
2	「想いをぎゅっと やきものワークショップ」開催レポート（当日編）	今井陽子 (主任研究員)	『現代の眼』640号	R7. 9. 5
3	「資料紹介 杉浦非水旧蔵資料」	廣川晶子 (主任研究員)	『現代の眼』640号	R7. 6. 13
4	「新しいコレクション ハンス・コパー《ポット》」	三木敬介 (主任研究員)	『現代の眼』640号	R7. 11. 4
5	「新しいコレクション 北大路魯山人 織部蟹絵丸平 向付」	青木智子 (特定研究員)	『現代の眼』640号	R7. 7. 18
6	「新しいコレクション 中田真裕《雲の裏》」	土井貴美子 (研究補佐員)	『現代の眼』640号	R7. 12. 15
7	藤田喬平《飾宮 菖蒲》を含む作品解説3件	青木智子 (特定研究員)	2D鑑賞システム（国立工芸館）	R8. 3. 13
8	関島寿子《無題 かご（No. 381）》を含む作品解説2件	日南日和 (特定研究員)	2D鑑賞システム（国立工芸館）	R8. 3. 13
9	小森邦衛含む作家解説4件	コレヴァ・モニカ・テオフィル (研究補佐員)	2D鑑賞システム（国立工芸館）	R8. 3. 13
10	森口華弘《古代縮緬地友禅訪問着 早春》を含む作品 解説4件 森口華弘を含む作家解説2件	土井貴美子 (研究補佐員)	2D鑑賞システム（国立工芸館）	R8. 3. 13

11	磯矢阿伎良《はないかだ文様長手文庫》を含む作品解説 1 件 中村ミナトを含む作家解説 2 件	頓宮佑佳 (研究補佐員)	2D 鑑賞システム (国立工芸館)	R8. 3. 13
12	杉田禾堂《用途を指示せぬ美の創案》作品解説 1 件 杉田禾堂を含む作家解説 3 件	山本成子 (研究補佐員)	2D 鑑賞システム (国立工芸館)	R8. 3. 13
13	橋本真之を含む作家解説 2 件	相川加織 (主査・研修生)	2D 鑑賞システム (国立工芸館)	R8. 3. 13
イ 京都国立近代美術館				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	「新収蔵の青木繁・椿貞雄・松本竣介・山口薫の作品	梶岡秀一 (学芸課長)	『京都国立近代美術館ニュース視る』539 号	R7. 11. 14
2	「隣接関係から生まれる世界」	池澤茉莉 (任期付研究員)	『京都国立近代美術館ニュース視る』540 号	R8. 2. 27
ウ 国立映画アーカイブ				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	アイリスとルイス FIAF の始祖と MoMA の「ブニュエル事件」	岡島尚志 (館長)	『NFAJ ニュースレター』第 28 号	R7. 4. 1
2	映画保存の倫理、再び FIAF モントリオール会議での議論から	岡島尚志 (館長)	『NFAJ ニュースレター』第 29 号	R7. 7. 1
3	返還された／されなかった劇映画の行方 ——「アメリカ接収フィルム日本劇映画リスト」(1968)を読み解く	大傍正規 (主任研究員)	『NFAJ ニュースレター』第 29 号	R7. 7. 1
4	「モリタの時代」から遠く離れて	佐野亨 (特定研究員)	『NFAJ ニュースレター』第 29 号	R7. 7. 1
5	構図についての一考	岡島尚志 (館長)	『NFAJ ニュースレター』第 30 号	R7. 10. 1
6	『除夜の悲劇』の音楽	岡島尚志 (館長)	『NFAJ ニュースレター』第 31 号	R8. 1. 1
エ 国立西洋美術館				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	スウェーデン国立美術館 素描コレクション展—ルネサンスからバロックまで	中田明日佳 (主任研究員)	『国立西洋美術館ニュース：ZEPHYROS』第 93 号	R7. 6. 16
2	2025 年度 Collection in Focus 国立西洋美術館における額縁の保存・修復	邊牟木尚美 (主任研究員)	『国立西洋美術館ニュース：ZEPHYROS』第 93 号	R7. 6. 16
3	写本から響く、いにしへの音楽に耳をすませて—動画で楽しむ！西美のコレクションと展覧会	風戸美伶 (特定研究員)	『国立西洋美術館ニュース：ZEPHYROS』第 93 号	R7. 6. 16
4	ピカソの人物画	久保田有寿 (特定研究員)	『国立西洋美術館ニュース：ZEPHYROS』第 93 号	R7. 6. 16
5	障害のある方のための特別鑑賞会	白濱恵里子 (特定研究員)	『国立西洋美術館ニュース：ZEPHYROS』第 93 号	R7. 6. 16
6	特設サイト「みんなの 3D ロダン図鑑」を開設	隈部理香子 (経営企画・広報 渉外室員)	『国立西洋美術館ニュース：ZEPHYROS』第 93 号	R7. 6. 16
7	2024 年度新規収蔵作品より アントン・ラファエル・メングス《エジプト逃避上の休息》	川瀬佑介 (主任研究員)	『国立西洋美術館ニュース：ZEPHYROS』第 94 号	R7. 9. 22

8	物語る黒線たち——デューラー「三大書物」の木版画	新藤淳 (主任研究員)	『国立西洋美術館ニュース：ZEPHYROS』第94号	R7.9.22
9	フルーニング美術館・国立西洋美術館所蔵 フランドル聖人伝板絵—100年越しの“再会”	中田明日佳 (主任研究員)	『国立西洋美術館ニュース：ZEPHYROS』第94号	R7.9.22
10	オルセー美術館所蔵 印象派—室内をめぐる物語	袴田紘代 (主任研究員)	『国立西洋美術館ニュース：ZEPHYROS』第94号	R7.9.22
11	冬季限定！キュレーターズ・ボイス 2025 本年も「美術館でクリスマス」を行います	風戸美伶 (特定研究員)	『国立西洋美術館ニュース：ZEPHYROS』第94号	R7.9.22
12	フルーニング美術館・国立西洋美術館所蔵 フランドル聖人伝板絵—100年越しの“再会”	高嶋美穂 (特定研究員)	『国立西洋美術館ニュース：ZEPHYROS』第94号	R7.9.22
13	冬季限定！キュレーターズ・ボイス 2025 本年も「美術館でクリスマス」を行います	秋田美緒 (任期付研究員)	『国立西洋美術館ニュース：ZEPHYROS』第94号	R7.9.22
14	BABY といっしょに ゆったり DAY 0歳からの美術館	隈部理香子 (経営企画・広報 渉外室員)	『国立西洋美術館ニュース：ZEPHYROS』第94号	R7.9.22
15	アーティスト・バイ・アーティスト——西洋版画に見る芸術家のイメージ	川瀬佑介 (主任研究員)	『国立西洋美術館ニュース：ZEPHYROS』第95号	R8.1.26
16	2025 年度新規収蔵作品より クリストフ・アムベルガー《バルバラ・シュヴァルツの肖像》	新藤淳 (主任研究員)	『国立西洋美術館ニュース：ZEPHYROS』第95号	R8.1.26
17	チュルリ ヨーニス展 内なる星図	山杣あおい (研究員)	『国立西洋美術館ニュース：ZEPHYROS』第95号	R8.1.26
18	オンラインでたどるチュルリ ヨーニスの世界—展覧会公式サイトのご案内	風戸美伶 (特定研究員)	『国立西洋美術館ニュース：ZEPHYROS』第95号	R8.1.26
19	北斎 富嶽三十六景 井内コレクションより	久保田有寿 (特定研究員)	『国立西洋美術館ニュース：ZEPHYROS』第95号	R8.1.26
20	家族で美術館を楽しもう！	飯田有季 (研究補佐員)	『国立西洋美術館ニュース：ZEPHYROS』第95号	R8.1.26

オ 国立国際美術館

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	所蔵作家インタビュー 今井祝雄	福元崇志 (主任研究員)	『国立国際美術館ニュース』257号	R7.7
2	所蔵品紹介：モーリー・ギャレス《レイト・オーガスト》	福元崇志 (主任研究員)	『国立国際美術館ニュース』257号	R7.7
3	ナショナル・ミュージアムと「脱植民地化」：カナダ国立美術館見学レポート	武本彩子 (任期付研究員)	『国立国際美術館ニュース』258号	R7.9
4	所蔵作家インタビュー 潘逸舟	橋本梓 (主任研究員)	『国立国際美術館ニュース』258号	R7.9
5	所蔵品紹介：山本桂輔《無題》	安来正博 (研究員)	『国立国際美術館ニュース』258号	R7.9
6	所蔵品紹介：古橋悌二《LOVERS》	馬定延 (客員研究員)	『国立国際美術館ニュース』259号	R7.11
7	所蔵品紹介：高田冬彦《Cut Suits》	正路佐知子 (主任研究員)	『国立国際美術館ニュース』260号	R8.3

別表 13 館外の学術雑誌、学会等における調査研究成果の発信

ア 国立アトリサーチセンター						
学会等発表						
	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
1	イコム職業倫理規程における コレクション・ドキュメンテーション の論点を探る	第 122 回アート・ド キュメンテーション学会研究会「JADS 倫理綱領制定にむ けて」	川口雅子 (情報資源グル ープリーダー)	R7. 4. 22	オンライン	20
2	アートプラットフォームジャパンに みる情報連携と対外発信をめぐる課 題	アート・ドキュメン テーション学会 第 36 回 (2025) 年次大 会	川口雅子 (情報資源グル ープリーダー)	R7. 6. 15	國學院大學 渋谷キャン パス及びオ ンライン	130
3	美術史研究におけるデータ整備と活 用——世界標準との差と日本の現状	文化経済学会<日 本>2025 年度研究 大会	川口雅子 (情報資源グル ープリーダー)	R7. 7. 5	京都橘大学	10
4	Art Platform Japan: A Web-Based Initiative and Research Portal on Modern and Contemporary Japanese Art	The 35th EAJRS Conference 第35回 日本資料専門家欧 州協会年次大会	川口雅子 (情報資源グル ープリーダー)	R7. 9. 13	ハイデルベ ルク大学 (ドイツ) 及びオンラ イン	100
5	博物館関係法令における「記録」と「目 録」	公益財団法人日本 博物館協会研修会 「博物館資料に係 る電磁的記録の作 成と公開」	川口雅子 (情報資源グル ープリーダー)	R8. 1. 14	オンライン	400
6	アートプラットフォームジャパンに みる情報連携と対外発信をめぐる課 題	アート・ドキュメン テーション学会 第 36 回 (2025) 年次大 会	石黒礼子 (主任研究員)	R7. 6. 15	國學院大學 渋谷キャン パス及びオ ンライン	130
7	アートプラットフォームジャパンに みる情報連携と対外発信をめぐる課 題	アート・ドキュメン テーション学会 第 36 回 (2025) 年次大 会	谷口英理 (主任研究員)	R7. 6. 15	國學院大學 渋谷キャン パス及びオ ンライン	130
8	「望月桂関係資料」の受入れ・編成・ 公開に関する中間報告	令和 7 年度第 8 回文 化財情報資料部研 究会	谷口英理 (主任研究員)	R8. 2. 17	東京文化財 研究所	50
9	「対話のある社会の実現ーアート・コ ミュニケーションの事例をもとに」	日本ミュージアム・ マネジメント学会 第 30 回大会シンポ ジウム	鈴木智香子 (研究員)	R7. 6. 7	国立科学博 物館	100
10	「ミュージアムとアクセシビリティ ー文化体験へのアクセスを考える」	令和 7 年度関東地 区博物館協会第 1 回 研究会	鈴木智香子 (研究員)	R7. 6. 27	千葉県立現 代産業科学 館	50
11	「ミュージアムとアクセシビリティ ー文化体験へのアクセスを考える」	令和 7 年度関東地 区博物館協会第 1 回 研究会	伊東俊祐 (客員研究員)	R7. 6. 27	千葉県立現 代産業科学 館	50

12	伊豆アトリエにおける目録作業報告	シンポジウム「砂絵の再生と中西夏之アーカイヴ」	藤代知子 (研究補佐員)	R7. 10. 27	YOKOTA TOKYO	52
雑誌等論文掲載						
学術書籍、研究報告書等の発行						
	タイトル		執筆者氏名 (職名)	掲載誌名		発行年月 日
1	何のために作品情報を公開するのか——国立西洋美術館のデータベース事例から考える		川口雅子 (情報資源グループリーダー)	博物館収蔵コレクションの公開と活用		R8. 1. 25
2	趣旨説明及び主要プラットフォームの紹介		川口雅子 (情報資源グループリーダー)	令和 6 年度 全国美術館会議第 39 回学芸員研修会 報告書		R8. 3. 31
3	指導者研修 20 年の記録		一條彰子 (ラーニンググループリーダー)	美術館を活用した鑑賞教育のための指導者研修報告書		R7. 10. 24
4	部会報告「美術関係アーカイブズ資料所在調査」結果報告、今後の展望		谷口英理 (主任研究員)	令和 6 年度 全国美術館会議第 39 回学芸員研修会 報告書		R8. 3. 31
【査読有り】論文掲載（学術誌、美術雑誌、館外の展覧会図録等）						
	タイトル		執筆者氏名 (職名)	掲載誌名		発行年月 日
1	Tools for Tomorrow's Exhibitions: Art Platform Japan, Digital Resources, and Knowledge Management in Japanese Art		川口雅子 (情報資源グループリーダー)	MMD - Museum, Materials and Discussions. Journal of Museum Studies		R8. 3. 31
その他の執筆（機関紙、雑誌、新聞、ウェブサイト等）						
	タイトル		執筆者氏名 (職名)	掲載誌名		発行年月 日
1	「コレクション SIG 活動報告」		石黒礼子 (主任研究員)	『アート・ドキュメンテーション通信』142 号		R8. 2. 25
2	「新しいスタンダードを示す美術館」		稲庭彩和子 (主任研究員)	『とっとりNOW』146 号		R7. 6. 1
3	「美術館におけるアクセシビリティ」		稲庭彩和子 (主任研究員)	NORTHERN OWLS Vol. 34		R8. 3. 1
4	望月桂の記録群をめぐる可能性と展望		谷口英理 (主任研究員)	『望月桂 自由を扶くひと 展覧会 ZINE』		R7. 4. 5
5	“はじめて美術館にいきます。” という気持ちをサポートするツール「Social Story（ソーシャルストーリー）」とは？		鈴木智香子 (研究員)	『手をつなぐ』2025 年 8 月号		R7. 8
6	「合理的配慮」から始まる、言葉を越えた “対話” とは		鈴木智香子 (研究員)	都政新報 電子版		R7. 12. 2
7	「合理的配慮—多様な美術館体験へとつながる対話」		鈴木智香子 (研究員)	『ZENBI 全国美術館会議機関誌』第 29 号		R8. 2
8	アート・ドキュメンテーション関連文献目録(2024)		藤代知子 (研究補佐員)	『アートドキュメンテーション研究』第 33 号		R7. 5. 31

イ 東京国立近代美術館						
(本館)						
学会等発表						
	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
1	「松澤宥にとっての「荒野」とは」	Yumiko Chiba Associates	鈴木勝雄 (企画課長)	R7. 11. 22	Yumiko Chiba Associates	30
2	「アジアの中の日本の立ち位置を歴史化するには」	東京藝術大学大学院美術研究科グローバル・アート・プラクティス専攻	鈴木勝雄 (企画課長)	R8. 3. 21	東京藝術大学大学	50
3	「過去と現代との対話: 展覧会の再現をめぐる」	人文科学とコンピュータシンポジウム	長名大地 (主任研究員)	R7. 12. 13	九州大学伊都キャンパス椎木講堂	130
4	「「琳派」の創造」コメント、指定討論	SGRA チャイナ・フォーラム	中村麗子 (主任研究員)	R7. 11. 22	北京大学外国語学院	150
5	「下村観山展開催記念トーク「下村観山と能」」	下村観山展	中村麗子 (主任研究員)	R8. 3. 22	東京国立近代美術館	149
6	砂と創造力	「鳥取砂丘学」	成相肇 (主任研究員)	R7. 6. 3	鳥取大学	87
7	三代目 J Museum Curator(s)	BUG「CRAWL レクチャーシリーズ」	成相肇 (主任研究員)	R7. 7. 25	オンライン	50
8	『ドキュメンタリー写真を発明し直す リアリズムと集団制作の系譜』 刊行記念トーク	マルジナリア書店	成相肇 (主任研究員)	R7. 8. 5	オンライン	30
9	学生企画	多摩美術大学美術学部芸術学科展覧会設計ゼミ	成相肇 (主任研究員)	R7. 10. 7	アートテークギャラリー	14
10	巡回 3 館キュレータートーク	豊田市美術館「アンチ・アクション」展	成相肇 (主任研究員)	R7. 11. 9	豊田市美術館	150
11	「Japanese Contemporary Art 1980s-2020: From the Bubble Economy to Covid」	石橋財団・国際交流基金 現代美術キュレーター等交流事業	成相肇 (主任研究員)	R7. 11. 27	国際交流基金本部	11
12	「小林徳三郎の魅力」	東京ステーションギャラリー「小林徳三郎」展	成相肇 (主任研究員)	R7. 12. 7	3 × 3Lab Future	20
13	「アンチ・アクション 彼女たち、それぞれの応答と挑戦」	東京ステーションギャラリー「小林徳三郎」展	成相肇 (主任研究員)	R8. 1. 15	オンライン	80
14	キュレータートーク	CURATION ㊦ FAIR Tokyo	成相肇 (主任研究員)	R8. 1. 24	九段坂上 KS ビル	50
15	「つげ義春への偏愛を語る」	「マンガ家・つげ義春のいるところ」展	成相肇 (主任研究員)	R8. 3. 7	調布市文化会館たづくり	50
16	中原佑介没後 15 周年「中原佑介美術批評選集」 完結記念シンポジウム	アートフロントギャラリー	成相肇 (主任研究員)	R8. 3. 18	ヒルサイドプラザ	100

17	臨時復興局長・阿部喜之丞と静岡「防災とナショナリズム—墓地と遺跡と幻の都市計画」	登録有形文化財鈴木邸 春の探書会	花井久穂 (主任研究員)	R7. 4. 20	登録有形文化財鈴木邸	50
18	「歴史」の読み替え—美術はいかに考古遺物を「利用」してきたか	第8回 A&A オンライン・フォーラム	花井久穂 (主任研究員)	R7. 4. 26	オンライン	50
19	公開会議 生活工芸の 100 年:「雑誌」と「うつわ」とその時代 プレ会議	新潮社 (工芸青花)	花井久穂 (主任研究員)	R7. 6. 2	オンライン、ポッドキャスト	—
20	「問い」の角度をみかく	多摩美術大学芸術学科 2025 年度「21 世紀文化論」特別講義	花井久穂 (主任研究員)	R7. 7. 5	多摩美術大学	200
21	バーナード・リーチの「乾山」再発見: バーナード・リーチ著『乾山—四大装飾芸術家の伝統』(1967)を読む	第 17 回乾山セミナー	花井久穂 (主任研究員)	R7. 8. 23	海雲山法蔵禅寺	35
22	公開会議 生活工芸の 100 年:「雑誌」と「うつわ」とその時代 1 1921-45 年: 生活と民衆	新潮社 (工芸青花)	花井久穂 (主任研究員)	R7. 8. 28	青花室 (新潮社倉庫内)	30
23	公開会議 生活工芸の 100 年:「雑誌」と「うつわ」とその時代 2 前衛とクラフト 1946-70 年: 戦後復興から高度成長期まで	新潮社 (工芸青花)	花井久穂 (主任研究員)	R7. 10. 20	青花室 (新潮社倉庫内)	30
24	公開会議 生活工芸の 100 年:「雑誌」と「うつわ」とその時代 III 雑貨と個人主義 1971-95 年: 消費社会の到来からバブル経済崩壊まで	新潮社 (工芸青花)	花井久穂 (主任研究員)	R7. 12. 22	青花室 (新潮社倉庫内)	30
25	「抽象」をめぐる交差—民藝館と近代美術館	「抽象美と柳宗悦」展記念講演会 (日本民藝館)	花井久穂 (主任研究員)	R8. 2. 7	日本民藝館	80
26	公開会議 生活工芸の 100 年:「雑誌」と「うつわ」とその時代 IV 1996-2020 年: 生活工芸と暮らし系	新潮社 (工芸青花)	花井久穂 (主任研究員)	R8. 2. 28	青花室 (新潮社倉庫内)	30
27	「仮設的」絵画とマイクロポップ—2000 年代の絵画における一側面」	アートト	梶田倫広 (主任研究員)	R7. 9. 13	アートト	15
28	「国境を越えるアーティストと絵画の現在地」	アートト	梶田倫広 (主任研究員)	R7. 12. 20	アートト	15
29	ロバート・フランクとウィリアム・クライン: 二冊の写真集『The americans』と『New York』を読み解く	「現代写真のはじまりとそれから」展講演会	増田玲 (主任研究員)	R7. 11. 8	北海道立釧路美術館	7
30	トークイベント 三好耕三×増田玲	「三好耕三 1620 CACTI」展	増田玲 (主任研究員)	R8. 2. 7	PGI	20
31	対談 伊奈英次×増田玲	「圏外の眼—伊奈英次の写真世界」展	増田玲 (主任研究員)	R8. 2. 21	荏原 畠山美術館	60
32	「今、書くこと、伝えることを再考する—それぞれの現場から」	美術評論家連盟	小林紗由里 (研究員)	R7. 7. 17	オンライン	330

33	Curating Photography at the National Museum of Modern Art, Tokyo: Past, Present, and Future	Taiwan International Photography Festival 2025	小林紗由里 (研究員)	R7. 9. 6	C-LAB Art Space I	100
34	「今、書くこと、伝えることを再考するーそれぞれの現場から」	美術評論家連盟	横山由季子 (研究員)	R7. 7. 17	オンライン	330
35	ファイナリスト展 公開最終審査	第 3 回 BUG Art Award	横山由季子 (研究員)	R7. 9. 30	オンライン	100
36	「絵本『すばらしい展覧会をつくろう』から考察する美術館の現場」	TOKYO ART BOOK FAIR 2025	横山由季子 (研究員)	R7. 12. 21	東京都現代美術館	30
37	東京造形大学大学院造形特講ゲスト レクチャー「東京国立近代美術館と戦争記録画」	東京造形大学	佐原しおり (任期付研究員)	R7. 11. 21	東京造形大学	30
38	「白井美穂 揺れよ、チャリオット」トークイベント	Yumiko Chiba Associates	佐原しおり (任期付研究員)	R8. 3. 28	Yumiko Chiba Associates	20

雑誌等論文掲載

学術書籍、研究報告書等の発行

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月 日
1	近代日本美術研究はどう変わったか (総合討議)	大谷省吾 (副館長)	『明治美術学会 40 周年 国際シンポジウム 明治 から/明治へー書き直し 近代日本美術』	R7. 7. 15
2	中央/地方を読み直すー正史と外伝、展示室と収蔵庫とその 外側から	花井久穂 (主任研究員)	『明治美術学会 40 周年 国際シンポジウム 明治 から/明治へー書き直し 近代日本美術』	R7. 7. 15
3	セッション B「地域」総合討議	花井久穂 (主任研究員)	『明治美術学会 40 周年 国際シンポジウム 明治 から/明治へー書き直し 近代日本美術』	R7. 7. 15
4	物故者 (令和 4 年) 経歴 水尾比呂志	花井久穂 (主任研究員)	『日本美術年鑑』令和 5 年版 (東京文化財研究 所)	R8. 1. 25
5	Program for Young People With Difficulties in Social Independence-Achievements and Challenges of the Educational Program at Yokohama Museum of Art	端山聡子 (特定研究員)	『Youth Programs in Art Museums An International Perspective』	R7. 12. 1
6	「New Japanese Photography」展における女性写真家の不在 をめぐって	小林紗由里 (研究員)	『 MORE THAN ONE WORLD : New Japanese Photography 50 Years On』	R7. 6. 1

【査読有り】論文掲載 (学術誌、美術雑誌、館外の展覧会図録等)

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月 日
1	「鏑木清方筆 三遊亭圓朝像」	鶴見香織 (主任研究員)	『國華』第 1562 号 (國華 社)	R7. 12. 20

【査読無し】論文掲載（学術誌、美術雑誌、館外の展覧会図録等）				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月 日
1	「Preview 下村観山展 作品の成り立ちから紐解く、観山作品の魅力」	中村麗子 (主任研究員)	『美術の窓』511号	R8. 3. 20
2	「版画＝展覧会」	成相肇 (主任研究員)	『第4回 PATinKyoto 京都版画トリエンナーレ2025』図録	R7. 4. 15
3	「鬼気迫る書」	成相肇 (主任研究員)	『美術の窓』2025年5月号	R7. 4. 18
4	「Sachiko Kazama refuse d' oublier」	成相肇 (主任研究員)	『L' Écologie des choses/ モノのエコロジー』図録	R7. 4. 30
5	「遅れてくる絵」	成相肇 (主任研究員)	「宇佐美圭司展」リーフレット	R7. 7. 4
6	「特別座談会 2025年の展覧会を振り返る！」	成相肇 (主任研究員)	『美術の窓』2025年12月号	R7. 11. 20
7	「展覧会の種と花」	成相肇 (主任研究員)	『美術の窓』2026年2月号	R8. 1. 20
8	「夢のリアリティー」	成相肇 (主任研究員)	『マンガ家・つげ義春のいるところ』展図録	R8. 1. 29
9	「透明な不安と不透明な安心（グレーディングについて）」	成相肇 (主任研究員)	『大西伸明 あらゆる透明なユーレイの複合体』図録	R8. 2. 20
10	黒田辰秋と平瀬貝類博物館	花井久穂 (主任研究員)	『視る』537号（京都国立近代美術館）	R7. 6. 20
11	「抽象美」をめぐる民藝館と近代美術館の話	花井久穂 (主任研究員)	『民藝』876号（日本民藝協会）	R7. 12. 1
12	民藝運動と衣服—メディアとしての身体	花井久穂 (主任研究員)	『民藝』878号（日本民藝協会）	R8. 2. 1
13	「關於「風景論」」（「「風景論」をめぐって」）	増田玲 (主任研究員)	『時代劇場：當代影像的複数演繹』（展覧会図録） 台北市立美術館	R7. 7
14	「中高生と美術館—公民館での経験を美術館で展開」	端山聡子 (特定研究員)	『月刊社会教育』	R8. 3. 1
15	1920年代の在米日系美術家と東西の調和	山田隆行 (特定研究員)	『美術手帖』2026年4月号（1109号）	R8. 3. 6
16	ARTISTS FILE Kio Griffith (キオ・グリフィス)	山田隆行 (特定研究員)	『美術手帖』2026年4月号（1109号）	R8. 3. 6
17	CROSS TALK「揺らぐアメリカと、日系アーティスト。移民が生み出した創造の系譜をたどる」	中森康文、原田真千子、山田隆行（特定研究員）	『美術手帖』2026年4月号（1109号）	R8. 3. 6
18	武田史子—時空を超えた世界にいざなう自然の生命	都築千重子 (研究員)	『版画芸術』No. 209 (2025秋)	R7. 9. 1
19	「1960年代から1970年代の日本戦後美術における女性作家の活動について」	佐原しおり (任期付研究員)	『鹿島美術研究年報』42号	R7. 11. 15

20	黒田菜月推薦文	佐原しおり (任期付研究員)	『VOCA2026 現代美術の展望-新しい平面の作家たち』	R8. 3. 1
その他の執筆（機関紙、雑誌、新聞、ウェブサイト等）				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月 日
1	「共鳴」と「影響」はどうちがう？近代日本美術の評価をめぐって	大谷省吾 (副館長)	『美術交流と異文化の共鳴 西洋／日本を中心に』	R7. 5. 1
2	従軍画家が「記録」した戦争	大谷省吾 (副館長)	『美術の窓』	R7. 8. 20
3	作品解説	大谷省吾 (副館長)	日本で見られるアート 100 選：日本の現代アート編	R8. 3. 27
4	「近代美術の眼：浅原清隆《郷愁》」	長名大地 (主任研究員)	読売新聞（都内版）	R7. 4. 12
5	「黒猫と菱田春草と下村観山」	鶴見香織 (主任研究員)	『季刊永青文庫』127 号 (公益財団法人永青文庫)	R7. 10. 4
6	「新時代の挑戦者・下村観山」	中村麗子 (主任研究員)	『公明新聞』	R8. 3. 25
7	「アートダイアリー137 下村観山 新時代にふさわしい絵画を求めて」	中村麗子 (主任研究員)	「文化庁広報誌 ぶんかる」（ウェブサイト）	R8. 3. 31
8	「ビデオをみる」	成相肇 (主任研究員)	日本文教出版『形 Form』 336 号	R7. 5. 1
9	「近代美術の眼 太郎千恵蔵《T-555P》」	成相肇 (主任研究員)	『読売新聞』（都内版）	R7. 6. 7
10	「近代美術の眼 大竹伸朗《ニューシャネル》」	成相肇 (主任研究員)	『読売新聞』（都内版）	R7. 7. 12
11	「“手は物語る” 和と洋、静と動を感じる彫刻＝高村光太郎「手」＝」	成相肇 (主任研究員)	『時事通信』	R7. 10. 5
12	「“手は物語る” 「線の交響」を奏でる手＝岸田劉生「古屋君の肖像（草持てる男の肖像）」＝」	成相肇 (主任研究員)	『時事通信』	R7. 10. 19
13	「いま、女性の美術家たちの表現を見直す意味とは？」	成相肇 (主任研究員)	『Tokyo Art Beat』	R7. 10. 21
14	「対談インタビュー」	成相肇 (主任研究員)	書店一冊屋『本のノンフィクション』2025 年 10 月号	R7. 10. 25
15	「赤瀬川原平」	成相肇 (主任研究員)	アートプラットフォームジャパン「日本アーティスト事典（DAJ）」	R7. 12. 1
16	「ところてんはゼリーじゃない——「トレパク」と解釈のキツチュ（前編・後編）」	成相肇 (主任研究員)	かたばみ書房「web かたばみ」	R7. 12. 5, 12. 6
17	「彼女たちは奔放にあらがった」	成相肇 (主任研究員)	『朝日新聞』	R7. 12. 16
18	「「勇ましさ」の枠の外にあった風景」	成相肇 (主任研究員)	文化庁「文化庁広報誌 ぶんかる」	R8. 1. 22

19	「見方をみる」	成相肇 (主任研究員)	日本文教出版『形 Form』 337号	R8. 1. 30		
20	「近代美術の眼 村井正誠《CITÉ》」	成相肇 (主任研究員)	『読売新聞』(都内版)	R8. 3. 14		
21	「ポスト=メディウム・コンディションにおける絵画について その3—絵画のモダン、ポストモダンのあとで 6」	榊田倫広 (主任研究員)	『コメント通信』第61号	R7. 8. 29		
22	「近代美術の眼 山村雅昭《「ワシントンハイツの子供たち」より》」	増田玲 (主任研究員)	読売新聞都内版	R7. 9. 13		
23	中原ちひろの世界で、なにと出会うか	山田隆行 (特定研究員)	「188夜の合掌団」展(イムラアートギャラリー、ウェブサイト)	R7. 12. 13		
24	「表層にとどまるまなざし—高倉大輔「omni prism」展」	小林紗由里 (研究員)	『高倉大輔 omni prism』 展カタログ (TEZUKAYAMA GALLERY)	R7. 6. 30		
25	「近代美術の眼「石川真生「基地を取り巻く人々」より」	小林紗由里 (研究員)	『読売新聞』(都内版)	R7. 10. 11		
26	常盤とよ子(作家紹介)	小林紗由里 (研究員)	AWARE(ウェブサイト)	R7. 10. 23		
27	仲田定之助《首》	都築千重子 (研究員)	『読売新聞』(都内版)	R7. 5. 11 朝刊		
28	「日本のアーティスト事典 榎倉康二」	佐原しおり (任期付研究員)	Art Platform Japan	R7. 12. 1		
29	「近代美術の眼:木村荘八《永井荷風著「瀬東綺譚」挿絵 21》」	細田航 (研究補佐員)	『読売新聞』(都内版)	R7. 11. 8		
30	近代美術の眼「オノデラユキ《Muybridge's Twist No. 21》」	安田友重 (研究補佐員)	『読売新聞』(都内版)	R8. 1. 24		
31	アルフレッド・スティーグリッツ「ジョージ・オキーフ:ある肖像—横顔」	由良茉委 (研究補佐員)	時事通信	R7. 10. 12		
32	ナターリア・ゴンチャローヴァ「スペイン女」	由良茉委 (研究補佐員)	時事通信	R7. 10. 26		
33	萬鉄五郎「裸婦(ほお杖の人)」	由良茉委 (研究補佐員)	時事通信	R7. 11. 2		
34	近代美術の眼「二人の裸婦の構成(アルベール・グレーズ)」	由良茉委 (研究補佐員)	読売新聞(都内版)	R7. 12. 13		
(国立工芸館)						
学会等発表						
	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
1	ポケモン×工芸展トークイベント	松坂屋美術館	唐澤昌宏 (国立工芸館長)	R7. 4. 27	松坂屋・名古屋店南館 8階特設会場	46
2	講演会「志野の魅力—人間国宝 鈴木藏の作陶と作品—」	岐阜県現代陶芸美術館	唐澤昌宏 (国立工芸館長)	R7. 5. 3	岐阜県現代陶芸美術館 プロジェクトルーム	60

3	講演会「国立工芸館の活動とコレクション—過去・現在・未来—」	全国伝統工芸品振興市議会協議会	唐澤昌宏 (国立工芸館長)	R7. 5. 7	東京都市センターホテル3階コスモスホールⅡ	90
4	講演会「国立工芸館の紹介—活動とコレクション—」	石川県市町教育委員会セミナー	唐澤昌宏 (国立工芸館長)	R7. 8. 1	金沢市市役所第二庁舎3階2301会議室	95
5	講演会「国立工芸館の紹介—活動とコレクション—」	石川県市町教育委員会東海北陸地区町村教育長研究協議会	唐澤昌宏 (国立工芸館長)	R7. 8. 22	KKR ホテル金沢3階鳳凰	45
6	講演会「茶の湯のうつわで見る近・現代の工芸」	表千家山形同門会「茶の湯文化にふれる市民講座」	唐澤昌宏 (国立工芸館長)	R7. 8. 24	山形県生涯学習センター2階遊学館ホール	153
7	ニシカラ會スペシャルトーク	福岡三越	唐澤昌宏 (国立工芸館長)	R7. 10. 5	福岡三越9階三越ギャラリー内	60
8	記念対談「蒔醤 山下義人のわざ」	高松市美術館	唐澤昌宏 (国立工芸館長)	R7. 10. 19	高松市美術館1階講堂	53
9	トークセッション「工芸の現在と未来」	第6回金沢・世界工芸トリエンナーレ 第11回金沢・世界工芸都市会議	唐澤昌宏 (国立工芸館長)	R7. 11. 8	金沢21世紀美術館シアター21	75
10	パネルディスカッション「工芸が生み出す『復興の力』」	第6回金沢・世界工芸トリエンナーレ 第11回金沢・世界工芸都市会議	唐澤昌宏 (国立工芸館長)	R7. 11. 8	金沢21世紀美術館シアター21	75
11	講演会「工芸の魅力と楽しみ方」	金沢市母子寡婦福祉連合会	唐澤昌宏 (国立工芸館長)	R7. 11. 9	石川県女性センター2階大会議室	80
12	対談「備前の現代陶芸—過去・現在・未来—」	備前市美術館	唐澤昌宏 (国立工芸館長)	R7. 11. 13	備前市美術館1階講堂	60
13	講演会「国立工芸館の工芸とは」	岐阜県美術館	唐澤昌宏 (国立工芸館長)	R7. 11. 29	岐阜県美術館講堂	46
14	講演会「工芸の魅力と楽しみ方 ポケモン×工芸展から」	名古屋商工会議所産業観光推進懇談会	唐澤昌宏 (国立工芸館長)	R8. 1. 28	名古屋商工会議所3階第5会議室	55
15	日本の焼締について	国際交流基金海外巡回展実施にともなう文化講座・ギャラリーツアー	岩井美恵子 (工芸課長)	R7. 7. 12	新平市立鶯歌陶磁博物館(台湾・新平市)	70
16	金属と表現	スキル・アカデミー	岩井美恵子 (工芸課長)	R7. 12. 12	国際文化会館	50

17	「子どもを育む鑑賞と工芸」	珠洲市学校教育研究会図工美術研究部会	今井陽子 (主任研究員)	R7. 7. 2	珠洲市立上戸小学校	14
18	「染織を視る、染織をつくる」	日本工芸会石川支部染織部会令和7年研究会	今井陽子 (主任研究員)	R7. 7. 18	国立工芸館	27
19	「美術館を活用した鑑賞の学習の実際～工芸をみる～」	令和7年石川県教員総合研修センター研修	今井陽子 (主任研究員)	R7. 12. 9	国立工芸館	16
20	国立工芸館における防災の取り組みについて	国立文化財機構文化財防災センター2025年度トルコ拠点交流事業	宮川典子 (任期付研究員)	R7. 12. 16	国立工芸館	20
21	「工芸と天気展」について	令和7年石川県教員総合研修センター研修	日南日和 (特定研究員)	R7. 12. 9	国立工芸館	16
22	「工芸と天気展」について	工芸のつなぎ手人材育成事業講座	日南日和 (特定研究員)	R8. 1. 16	国立工芸館	14

雑誌等論文掲載

学術書籍、研究報告書等の発行

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月 日
1	講演録「作家の言葉から『陶芸（工芸）』を考える」	唐澤昌宏 (国立工芸館長)	『秀明美術』第31号	R7. 12. 1
2	「物故者記事 菊地信義」	三木敬介 (主任研究員)	日本美術年鑑 令和5年度版	R8. 1. 15

【査読無し】論文掲載（学術誌、美術雑誌、館外の展覧会図録等）

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月 日
1	「山下義人の漆芸—『蒔髹』にみる具象×抽象が生み出す美の世界」	唐澤昌宏 (国立工芸館長)	『蒔髹 山下義人展』図録	R7. 10. 11
2	「『半白五十盃』展の寄せて—加藤亮太郎の現在『いま』」	唐澤昌宏 (国立工芸館長)	『加藤亮太郎展 半白五十盃』図録	R7. 11. 27
3	「生命の躍動—神谷紀雄の『鉄絵銅彩』」	唐澤昌宏 (国立工芸館長)	『鉄絵銅彩 神谷紀雄展 春風陶花』展図録	R8. 1. 21
4	「中田一於の作陶—『釉裏銀彩』で見出す『釉下彩』の技と美」	唐澤昌宏 (国立工芸館長)	『銀と彩—人間国宝《釉下彩》・中田一於の世界—』展図録	R8. 3. 20
5	「もう一つの新里明士」	唐澤昌宏 (国立工芸館長)	『新里明士 以手作碗』展図録	R8. 3. 31
6	「移転開館5周年の節目」	岩井美恵子 (工芸課長)	『読売新聞』（石川県版）	R7. 10. 11
7	「澤谷由子の青の世界」	岩井美恵子 (工芸課長)	『澤谷由子 露を綯う』展図録	R7. 10. 17
8	「アンビエント—畠山耕治の青銅」	岩井美恵子 (工芸課長)	『bronze as Bronze II 畠山耕治』展図録	R8. 3. 12

9	「移転開館 5 周年記念 ルーシー・リー展 東西をつなぐ優美のうつわ」	宮川典子 (任期付研究員)	『炎芸術(163)』	R7. 8. 1		
その他の執筆（機関紙、雑誌、新聞、ウェブサイト等）						
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月 日		
1	「『五月女晴佳 美を纏う』展に寄せて	唐澤昌宏 (国立工芸館長)	『美を纏う-Inner mirror-』展 DM	R7. 5. 9		
2	[工芸館の窓から] 「芭蕉布」 息づく想いを探究	今井陽子 (主任研究員)	読売新聞（石川県版）	R7. 7. 13		
3	「[工芸館の窓から] 「本と暮らす」作家想像しよう」	廣川晶子 (主任研究員)	読売新聞（石川県版）	R7. 5. 10		
4	「優美な造形 源泉紐解く」	宮川典子 (任期付研究員)	読売新聞（石川県版）[工芸館の窓から]	R7. 9. 13		
5	移転開館 5 周年記念 ルーシー・リー展—東西をつなぐ優美のうつわ—	宮川典子 (任期付研究員)	文化庁広報誌 ぶんかる	R7. 9. 30		
6	「ルーシー・リー展 作品紹介(全 5 回)」	宮川典子 (任期付研究員)	北陸中日新聞	R7. 10. 9～ 13		
7	[工芸館の窓から] 「天気に合わせ漆を調合」	日南日和 (特定研究員)	読売新聞（石川県版）	R7. 12. 3		
8	[工芸館の窓から]リーチに出会い作風進化	コレヴァ・モニカ・テオフィル (研究補佐員)	読売新聞（石川県版）	R7. 11. 8		
9	[工芸館の窓から]大正・昭和 時代の「モード」	土井貴美子 (研究補佐員)	読売新聞（石川県版）	R8. 1. 17		
10	[工芸館の窓から] 文化資源継承デジタル化	頓宮佑佳 (研究補佐員)	読売新聞（石川県版）	R7. 8. 9		
11	[工芸館の窓から]高湿度 金箔扱いやすく	山本成子 (研究補佐員)	読売新聞（石川県版）	R8. 2. 14		
ウ 京都国立近代美術館						
学会等発表						
	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
1	岸田劉生の文人趣味	展覧会「岸田吟香と岸田劉生」記念講演会	梶岡秀一 (学芸課長)	R7. 4. 26	豊田市博物館	66
2	鹿子木孟郎の人と芸術	展覧会「生誕 151 年からの鹿子木孟郎」記念講演会	梶岡秀一 (学芸課長)	R7. 10. 11	泉屋博古館	41
3	富岡鉄斎と平安時代	第 11 回聖光文庫文化講座	梶岡秀一 (学芸課長)	R7. 12. 7	宝塚市立中央図書館	74
4	黒田辰秋展記念レクチャー	「生誕 120 年 人間国宝 黒田辰秋—木と漆と螺鈿の旅—」展	大長智広 (主任研究員)	R7. 4. 26	豊田市美術館	30

5	きもののヒミツ展について	日本工芸会近畿支部染織部会研修会	大長智広 (主任研究員)	R7. 9. 28	京都国立近代美術館	35
6	第 11 回菊池ビエンナーレ審査員トークセッション	「第 11 回菊池ビエンナーレ」展	大長智広 (主任研究員)	R7. 12. 13	菊池寛実記念 智美術館	60
7	第 11 回菊池ビエンナーレ 出品作家トーク 石田和也 (奨励賞) ×大長智広 (審査員)	「第 12 回菊池ビエンナーレ」展	大長智広 (主任研究員)	R8. 2. 14	菊池寛実記念 智美術館	55
8	出展作家とのクロストークイベント	「土が覚えていること / What the Clay Remembers」展	大長智広 (主任研究員)	R8. 2. 28	Up & Coming (多摩美術大学)	10
9	「近代京都画壇における堂本印象の創作」	「没後 50 年 堂本印象 自在なる創造」展 記念講演会	平井啓修 (主任研究員)	R8. 3. 15	富山県水墨美術館映像ホール	60
10	共生・多様性・アクセシビリティについて考えるトーク	2025 年度 CONNECT	松山沙樹 (研究員)	R7. 12. 14	京都国立近代美術館	37
11	National Museum of Art, Japan × Adobe Foundation Connecting Children with Museums	Adobe x Museums Convening 2025	松山沙樹 (研究員)	R7. 6. 23 (オンライン発表) R7. 7. 15-17 (対面会議での発表)	オンライン及びニューヨーク近代美術館 (MoMA)	30
12	「アメリカにおける美術館教育－Adobe Convening に参加して」(仮題)	全国美術館会議教育普及部会第 64 回会合	松山沙樹 (研究員)	R8. 3. 17	オンライン	70
13	「若きポーランド 前提／背景／展覧会」	関西チェコ／スロバキア協会知遊サロン No. 71 春	小野真司 (任期付研究員)	R7. 6. 7	京都国立近代美術館 1 階講堂	20
14	「若きポーランドー色彩と魂の詩 1890-1918」	佛教大学・京都新聞総合研究所提携講座アートサロン③	小野真司 (任期付研究員)	R7. 6. 9	佛教大学紫野キャンパス オープンラーニングセンター	50
15	ミニレクチャー「アルヴェーンと画家クロイア」	ステーンハンマル友の会賛助会員交流会	小野真司 (任期付研究員)	R7. 7. 6	ミュージックサロン・サングレース (オンライン配信あり)	—
16	ポーランド・日本芸術対話 (プレゼンテーション、パネルディスカッション)	ポーランド・日本芸術対話	小野真司 (任期付研究員)	R7. 9. 8	EXP02025 大阪・関西万博ポーランド・パビリオン コンサートホール	10

雑誌等論文掲載				
学術書籍、研究報告書等の発行				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月 日
1	「制度の弾力、芸術の胆力」「みんぱく収蔵庫見学記」	橋本梓 (主任研究員)	「芸術をめぐる実践 せめぎあう感性と制度」	R8. 1. 31
2	「京都の蠢き——1970年代、水上旬の動きを中心に」	橋本梓 (主任研究員)	「かみ派の美術 諏訪 につどった前衛たち 1969-1974」	R8. 1. 31
3	「四条派：呉春が起こした新しい風」	平井啓修 (主任研究員)	『四条派の祖 呉春 逸 翁美術館コレクション』	R7. 4. 12
4	「手で聴き、声に触れる 京都国立近代美術館 感覚をひらく—新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業 ABC プロジェクト 2020-2023 ドキュメントブック」	松山沙樹 (研究員)	「手で聴き、声に触れる 京都国立近代美術館 感覚をひらく—新たな 美術鑑賞プログラム創 造推進事業 ABC プロジ ェクト 2020-2023 ドキ ュメントブック」発行： 京都国立近代美術館	R8. 2. 27
【査読無し】論文掲載（学術誌、美術雑誌、館外の展覧会図録等）				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月 日
1	審査員講評	福永治 (館長)	『第 27 回雪梁舎フィレ ンツェ賞展』図録 (公益財団法人美術育 成財団雪梁舎)	R7. 8. 9
2	京都府新鋭選抜展審査委員講評	福永治 (館長)	『Kyoto Art for Tomorrow 2026—京都府 新鋭選抜展』図録 (京都府、京都文化博物 館)	R8. 1
3	無題（作家論）	大長智広 (主任研究員)	『LIM Youngbin "Proto- Journey Toward the Archetype of Expericence"』 KCDF GaLLERY (Korea)	R7. 11. 26
4	審査講評	大長智広 (主任研究員)	『第 11 回 菊池ビエンナ ーレ 陶芸の現在』公益 財団法人菊池美術財団	R7. 12
5	『ザ・プレイ 流の彼方』著者インタビュー	橋本梓 (主任研究員)	月刊コレクターズ	R7. 6. 25
6	加藤泉インタビュー	橋本梓 (主任研究員)	美術手帖 vol. 77 NO. 1107	R7. 9. 5
7	ユーモアという批評性	橋本梓 (主任研究員)	美術の窓 2026 年 2 月号	R8. 1. 20
8	「非常事態についてのノート」作家解説「米田知子、袁廣鳴、クワワイ・サムナン、シプリアン・ガイヤール、高橋喜代史、潘逸舟、キム・アヨン、リー・キット」	橋本梓 (主任研究員)	展覧会カタログ「非常の 常」	R7. 6. 27

9	作家・作品解説：播磨みどり	牧口千夏 (主任研究員)	『PAT in Kyoto 2025』	R7. 4. 15
10	審査評：大賞 川村摩耶	牧口千夏 (主任研究員)	『群馬青年ビエンナーレ 2025』	R7. 7. 19
11	審査評：奨励賞 乾真裕子	牧口千夏 (主任研究員)	『群馬青年ビエンナーレ 2025』	R7. 7. 19
その他の執筆（機関紙、雑誌、新聞、ウェブサイト等）				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月 日
1	「第 54 回日本伝統工芸近畿展」第二部門（染織・漆芸・人形・諸工芸）鑑審査講評	福永治 (館長)	『日本工芸会近畿支部会報』令和 7 年第 37 号 (公益財団法人日本工芸会近畿支部)	R7. 8
2	巻頭エッセイ「国家予算と文化」	福永治 (館長)	『美術京都』第 57 号 (公益財団法人中信美術奨励基金)	R8. 3
3	無題（作家論）	大長智広 (主任研究員)	「谷川美音 個展 知るための行為循環」展会場 掲示 (JILL D'ART GALLERY)	R7. 7. 19
4	無題（作家論）	大長智広 (主任研究員)	『LIM Youngbin "Proto-Journey Toward the Archetype of Expericence"』	R7. 11. 26
5	レビュー「永遠性の在りどころを問うーケイト・ストラッカン「Draped Moment」」	大長智広 (主任研究員)	オンラインカタログ 『ケイト・ストラッカン「Draped Moment」』 SUCHSIZE	R7. 12. 2
6	花を訪ねて 美術館・博物館 2《色絵金彩椿文鉢》北大路魯山人	大長智広 (主任研究員)	『華道』第 88 巻第 2 号 日本華道社	R8. 1. 20
7	現代陶芸界における寄神宗美	大長智広 (主任研究員)	『寄神宗美 Ceramic』寄神宗美	R8. 3
8	ヒーメン・チョン「This is not a dynamic list and may never be able to satisfy particular standards for completeness.」	橋本梓 (主任研究員)	artscape	R7. 6. 23
9	韓国視察の記録 AI 生成技術と歴史の表象	橋本梓 (主任研究員)	artscape	R7. 10. 17
10	戦後 80 年、フィギュアはいま何を語るか ひがれお、村上隆、荒木悠	橋本梓 (主任研究員)	artscape	R8. 1. 15
11	「独立回復前夜、新たな芸術を探究した芸術家たち」	小野真司 (任期付研究員)	『美術の窓』（生活の友社）	R7. 3. 20
12	アートダイアリー 前世紀転換期、ポーランド独立への前奏曲 〈若きポーランド〉ー色彩と魂の詩 1890-1918	小野真司 (任期付研究員)	文化庁広報誌 ぶんかる（文化庁 web）	R7. 5. 26

エ 国立映画アーカイブ						
学会等発表						
	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
1	松之助劇と声色掛け合い	無声映画 活弁上映会	入江良郎 (副館長)	R7. 9. 12	早稲田大学 大隈記念講堂	622
2	松田春翠氏のご功績について	第三回 京の活動写真 下鴨映画祭	入江良郎 (副館長)	R7. 12. 11	京都府立文化芸術会館	350
3	映像 DA の教育活用	デジタルアーカイブ学会 第10回研究大会 サテライト企画セッション	富田美香 (学芸課長)	R8. 1. 8	デジタルアーカイブ学会 第10回研究大会 サテライト企画セッション	—
4	ビデオテープなど磁気テープに記録された視聴覚資料の保存問題	令和7年度「女性アーカイブ研修」	富田美香 (学芸課長)	R8. 1. 27	独立行政法人国立女性教育会館	—
5	「映画から見る戦後ドイツのポスターグラフィック」講演	展覧会「戦後西ドイツのグラフィックデザイン モダニズム再発見」	岡田秀則 (主任研究員)	R7. 4. 20	東京都庭園美術館	80
6	ギャラリートーク	展覧会「見る場所を見る5」	岡田秀則 (主任研究員)	R7. 9. 12	新宿眼科画廊	17
7	瀬川順一再訪プロジェクト トークイベント	瀬川順一再訪プロジェクト	岡田秀則 (主任研究員)	R7. 10. 13	やまがたクリエイティブシティセンターQ1	69
8	上映作品解説	上映特集「カルト・ブランシュ 日本の無声映画」	岡田秀則 (主任研究員)	R7. 10. 21 ～10. 25	ジェローム・セドゥ＝パテ財団	318
9	「カメラマンが見る、瀬川順一の撮影術」	上映特集「歿後30年記念特集上映 カメラマン瀬川順一と日本ドキュメンタリー映画史」	岡田秀則 (主任研究員)	R7. 12. 13	アテネ・フランセ文化センター	112
10	「小津安二郎『お早よう』をめぐるトークセッション」	Aesop 「セブンルームズ」	岡田秀則 (主任研究員)	R8. 2. 23	SKWAT (亀有アートセンター)	83
11	ギャラリートーク「映画館の考古学—アーカイブに残る、人びとの映画体験と記憶」	展覧会「見る場所を見る5+」	岡田秀則 (主任研究員)	R8. 3. 8	Gallery そら (鳥取市)	15
12	国立映画アーカイブ所蔵・初期アイヌ関連フィルム——複数バージョンの同定と理解の試み	第39回北方民族文化シンポジウム 網走	大傍正規 (主任研究員)	R7. 10. 11	オホーツク・文化交流センター 大会議室	50

13	『グレイ・ガーデンズ』上映前解説	—	玉田健太 (主任研究員)	R7. 8. 30	広島市映像 文化ライブラリー	—
14	映像 DA の教育活用	デジタルアーカイブ学会 第10回研究大会 サテライト企画セッション	玉田健太 (主任研究員)	R8. 1. 8	デジタルアーカイブ学会 第10回研究大会 サテライト企画セッション	—
15	国立映画アーカイブの取り組みについて	アニメアーカイブビジョン 2025～すべてのアニメの映像を未来へ～	三浦和己 (主任研究員)	R7. 12. 11	アニメ東京ステーション 特設会場	50
16	国立映画アーカイブ 可燃性フィルムの保管について	ナイトレートフィルムの保存に関する最新研究報告と現状について	三浦和己 (主任研究員)	R8. 3. 14	国立映画アーカイブ 6F 会議室	40
17	「ドキュメンタリー・フィードバック」シリーズより 上映前解説	巡回上映「アンソロジー・フィルムアーカイブス——アメリカ実験映画の地平へ」	佐野亨 (特定研究員)	R8. 2. 28	京都文化博物館フィルムシアター	56
18	シンポジウム「実験映画アーカイブの活用と将来」	イメージフォーラム・フェスティバル 2025	中西香南子 (特定研究員)	R7. 9. 30	シアター・イメージフォーラム	—
19	『リグルーピング』上映前解説	巡回上映「アンソロジー・フィルムアーカイブス——アメリカ実験映画の地平へ」	中西香南子 (特定研究員)	R8. 2. 26	京都文化博物館フィルムシアター	43
20	『時を数えて、砂漠に立つ』上映前解説	巡回上映「アンソロジー・フィルムアーカイブス——アメリカ実験映画の地平へ」	佐々木淳 (客員研究員)	R8. 2. 5	福岡市総合図書館映像ホール・シネラ	31
21	『グリーサーズ・パレス』上映前解説	巡回上映「アンソロジー・フィルムアーカイブス——アメリカ実験映画の地平へ」	佐々木淳 (客員研究員)	R8. 2. 6	福岡市総合図書館映像ホール・シネラ	24
22	「ロン・ライス作品集(1)」上映前解説	巡回上映「アンソロジー・フィルムアーカイブス——アメリカ実験映画の地平へ」	池元慎 (研究補佐員)	R8. 2. 6	福岡市総合図書館映像ホール・シネラ	22
23	『詩篇 23 枝篇』上映前解説	巡回上映「アンソロジー・フィルムアー	池元慎 (研究補佐員)	R8. 2. 7	福岡市総合図書館映像	11

		カイクスー—アメリカ実験映画の地平へ」			ホール・シネラ	
雑誌等論文掲載						
【査読無し】論文掲載（学術誌、美術雑誌、館外の展覧会図録等）						
	タイトル		執筆者氏名 （職名）	掲載誌名	発行年月 日	
1	マグネティック・テープ・アラート：膨大な磁気テープ原版の映像を失う前にできること		富田美香 （学芸課長）	『日本写真学会誌』第 88 巻第 2 号	R7. 5	
2	「根岸寛一資料について」		岡田秀則 （主任研究員）	「東北芸術工科大学紀要」第 33 号	R8. 3. 24	
3	国立映画アーカイブ所蔵・初期アイヌ関連フィルム——複数バージョンの同定と理解の試み		大傍正規 （主任研究員）	北海道立北方民族博物館編『第 39 回北方民族文化シンポジウム 網走報告書「映像と北方諸民族文化 2」』（一般財団法人 北方文化振興協会発行）	R8. 3. 17	
その他の執筆（機関紙、雑誌、新聞、ウェブサイト等）						
	タイトル		執筆者氏名 （職名）	掲載誌名	発行年月 日	
1	新たな歴史の一頁を刻むイベント！		入江良郎 （副館長）	『活狂』第 200 号	R7. 4. 1	
2	塚田嘉信は日本映画史の研究に何をもたらしたのか		入江良郎 （副館長）	『日本映像学会報』第 205 号	R8. 2. 1	
3	視て聴いてわたしの提言「マグネティック・テープ・アラート：貴重な視聴覚教材のビデオ映像を失わないために」		富田美香 （学芸課長）	『視聴覚教育』2025 年 5 月号（一般財団法人日本視聴覚教育協会、2025 年 5 月 1 日発行）	R7. 5	
4	動向レビュー：磁気テープに記録された映像や音声の長期保存の問題		富田美香 （学芸課長）	『カレントアウェアネス』No. 365（2025. 9. 20）CA2091	R7. 9. 20	
5	国立映画アーカイブのコンテンツ紹介 1「フィルムは記録する—国立映画アーカイブ歴史映像ポータル」		大澤浄 （主任研究員）	『視聴覚教育』	R7. 4. 1	
6	国立映画アーカイブのコンテンツ紹介 3「関東大震災映像デジタルアーカイブ」		大澤浄 （主任研究員）	『視聴覚教育』	R7. 8. 1	
7	国立映画アーカイブのコンテンツ紹介 5「映像でみる明治の日本」		大澤浄 （主任研究員）	『視聴覚教育』	R7. 12. 1	
8	国立映画アーカイブのコンテンツ紹介 6「はじまりの日本劇映画 映画 meets 歌舞伎」		大澤浄 （主任研究員）	『視聴覚教育』	R8. 2. 1	
9	「映画を再演出する音楽」		岡田秀則 （主任研究員）	「音脈」Vol. 100	R7. 8	
10	「溶鋼と朝靄—シネマトグラファー瀬川順一の流儀」		岡田秀則 （主任研究員）	山形国際ドキュメンタリー映画祭「SPUTNIK」No. 5	R7. 10. 13	
11	連載「映画ブックッシュ・デイズ」		岡田秀則 （主任研究員）	月刊「キネマ旬報」	R7. 4 月号より連載	

12	『ボヴァリー夫人』	玉田健太 (主任研究員)	Stranger MAGAZINE Vol. 9	R7. 6. 27
13	『走り来る人々』	玉田健太 (主任研究員)	Stranger MAGAZINE Vol. 9	R7. 6. 27
14	『明日になれば他人』	玉田健太 (主任研究員)	Stranger MAGAZINE Vol. 9	R7. 6. 27
15	「動く歴史資料」を授業で活用してみませんか	玉田健太 (主任研究員)	『たのしい授業』No. 575 2025 年 12 月号	R7. 12. 2
16	五所平之助	玉田健太 (主任研究員)	『Japanese Film Classics』国際交流基 金、ユニジャパン	R7
17	羽田澄子	玉田健太 (主任研究員)	『Japanese Film Classics』国際交流基 金、ユニジャパン	R7
18	田中絹代	玉田健太 (主任研究員)	『Japanese Film Classics』国際交流基 金、ユニジャパン	R7
19	篠田正浩	玉田健太 (主任研究員)	『Japanese Film Classics』国際交流基 金、ユニジャパン	R7
20	『煙突の見える場所』	玉田健太 (主任研究員)	『Japanese Film Classics』国際交流基 金、ユニジャパン	R7
21	『黄色いからす』	玉田健太 (主任研究員)	『Japanese Film Classics』国際交流基 金、ユニジャパン	R7
22	『痴呆性老人の世界』	玉田健太 (主任研究員)	『Japanese Film Classics』国際交流基 金、ユニジャパン	R7
23	『山中常盤』	玉田健太 (主任研究員)	『Japanese Film Classics』国際交流基 金、ユニジャパン	R7
24	『月は上りぬ』	玉田健太 (主任研究員)	『Japanese Film Classics』国際交流基 金、ユニジャパン	R7
25	『乳房よ永遠なれ』	玉田健太 (主任研究員)	『Japanese Film Classics』国際交流基 金、ユニジャパン	R7
26	『夕陽に赤い俺の顔』	玉田健太 (主任研究員)	『Japanese Film Classics』国際交流基 金、ユニジャパン	R7
27	『乾いた花』	玉田健太 (主任研究員)	『Japanese Film Classics』国際交流基 金、ユニジャパン	R7
28	国立映画アーカイブのコンテンツ紹介 4「日本アニメシヨ ン映画クラシックス」	三浦和己 (主任研究員)	『視聴覚教育』	R7. 10. 1

29	人物解説「岡本喜八」	宮本法明 (任期付研究員)	『Japanese Film Classics』国際交流基金、ユニジャパン	R7
30	作品解説「暗黒街の対決」	宮本法明 (任期付研究員)	『Japanese Film Classics』国際交流基金、ユニジャパン	R7
31	作品解説「江分利満氏の優雅な生活」	宮本法明 (任期付研究員)	『Japanese Film Classics』国際交流基金、ユニジャパン	R7
32	人物解説「中川信夫」	宮本法明 (任期付研究員)	『Japanese Film Classics』国際交流基金、ユニジャパン	R7
33	作品解説「地獄」	宮本法明 (任期付研究員)	『Japanese Film Classics』国際交流基金、ユニジャパン	R7
34	作品解説「東海道四谷怪談」	宮本法明 (任期付研究員)	『Japanese Film Classics』国際交流基金、ユニジャパン	R7
35	人物解説「成瀬巳喜男」	宮本法明 (任期付研究員)	『Japanese Film Classics』国際交流基金、ユニジャパン	R7
36	作品解説「稲妻」	宮本法明 (任期付研究員)	『Japanese Film Classics』国際交流基金、ユニジャパン	R7
37	作品解説「二人妻 妻よ薔薇のやうに」	宮本法明 (任期付研究員)	『Japanese Film Classics』国際交流基金、ユニジャパン	R7
38	人物解説「増村保造」	宮本法明 (任期付研究員)	『Japanese Film Classics』国際交流基金、ユニジャパン	R7
39	作品解説「青空娘」	宮本法明 (任期付研究員)	『Japanese Film Classics』国際交流基金、ユニジャパン	R7
40	作品解説「卍」	宮本法明 (任期付研究員)	『Japanese Film Classics』国際交流基金、ユニジャパン	R7
41	映画人追悼「オリヴィア・ハッセル」	佐野亨 (特定研究員)	「キネマ旬報」2026年1月号	R7. 12. 19
42	映画人追悼「吉行和子」	佐野亨 (特定研究員)	「キネマ旬報」2026年1月号	R7. 12. 19
43	2025年日本映画総評	佐野亨 (特定研究員)	「キネマ旬報」2026年2月号増刊	R8. 2. 5
44	大島渚、『新宿泥棒日記』、『少年』	中西香南子 (特定研究員)	『Japanese Film Classics』国際交流基金、ユニジャパン	R7
45	「アンソロジー・フィルムアーカイブス——アメリカ実験映画の地平へ」	中西香南子 (特定研究員)	「文化庁広報誌 ぶんかる」アートダイアリー 134	R7. 12. 25

46	小津安二郎、『非常線の女』、『風の中の牝鷄』	藤原征生 (特定研究員)	『Japanese Film Classics』国際交流基金、ユニジャパン	R7		
47	黒澤明、『生きる』、『生きものの記録』	藤原征生 (特定研究員)	『Japanese Film Classics』国際交流基金、ユニジャパン	R7		
48	今村昌平、『にっぽん戦後史 マダムおんぼろの生活』	藤原征生 (特定研究員)	『Japanese Film Classics』国際交流基金、ユニジャパン	R7		
49	国立映画アーカイブのコンテンツ紹介2「はじまりの日本劇映画 映画 meest 新派・新劇・新国劇」	濱田尚孝 (客員研究員)	『視聴覚教育』	R7. 6. 1		
オ 国立西洋美術館						
学会等発表						
	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
1	「画家と花々 国立西洋美術館のコレクションより」	—	陳岡めぐみ (学芸課長)	R7. 5. 17	国立工芸館	—
2	「国立西洋美術館のレジストレーション」	—	寛奈雅子 (主任研究員)	R7. 11. 2	東京都写真美術館	83
3	「第一次世界大戦下のパリにおける スペイン・ラテンアメリカのキュビストたち：ピカソ、グリス、リベラ、ブランシャール」	スペイン・ラテンアメリカ美術史研究会	久保田有寿 (特定研究員)	R7. 10. 4	上智大学 (対面及び zoom 同時配信)	—
4	文化資源学会特別講演会「美術館は 【同時代の表現】とどのように向き合うべきか？」	文化資源学会	秋田美緒 (任期付研究員)	R7. 12. 13	東京大学	50
5	美術館での教員向けプログラムに関する一考察-国立西洋美術館での取り組みから	美術科教育学会	秋田美緒 (任期付研究員)	R8. 3. 15	早稲田大学	40
雑誌等論文掲載						
学術書籍、研究報告書等の発行						
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月 日		
1	第12章「『装飾』が結ぶ美術と演劇－1890年代初頭の芸術座およびナビ派周辺の言説と実践から」	袴田紘代 (主任研究員)	『思索のアジュールー境界から考える美術史』	R8. 3. 31		
【査読有り】論文掲載（学術誌、美術雑誌、館外の展覧会図録等）						
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月 日		
1	The Formation of the Collection and Exhibition History of the National Museum of Western Art, Tokyo	渡辺晋輔 (学芸課長)	Museum, Materials and Discussions — Journal of Museum Studies, No. 5	R8. 3. 31		
2	The Formation of the Collection and Exhibition History of the National Museum of Western Art, Tokyo	寛奈雅子 (主任研究員)	Museum, Materials and Discussions — Journal of Museum Studies, No. 5	R8. 3. 31		

【査読無し】論文掲載（学術誌、美術雑誌、館外の展覧会図録等）						
	タイトル	執筆者氏名 （職名）	掲載誌名	発行年月 日		
1	（展評）オランジュリー美術館 オルセー美術館 コレクションより ルノワール×セザンヌー モダンを拓いた2人の巨匠	久保田有寿 （特定研究員）	三菱一号館美術館 研究紀要 第7号	R8. 3		
2	審査講評	秋田美緒 （任期付研究員）	展覧会図録「FACE 展2026」	R8. 3. 1		
その他の執筆（機関紙、雑誌、新聞、ウェブサイト等）						
	タイトル	執筆者氏名 （職名）	掲載誌名	発行年月 日		
1	「ヤン・ブリューゲル（父）及びペーテル・パウル・ルーベンス《花環の聖母子》」	中田明日佳 （主任研究員）	美術フォーラム 21	R7. 12. 20		
2	「『室内』をテーマに印象派のもうひとつの魅力に迫る」	袴田紘代 （主任研究員）	『美術の窓』No. 506	R7. 10. 20		
3	「オルセー美術館所蔵 印象派一室内をめぐる物語」	袴田紘代 （主任研究員）	読売新聞朝刊	R7. 10. 24		
4	「印象派 室内へのまなざし」	袴田紘代 （主任研究員）	公明新聞	R7. 10. 29		
5	「オルセー美術館所蔵 印象派一室内をめぐる物語」	袴田紘代 （主任研究員）	『月刊うえの』2025年11月号 no. 792	R7. 11. 1		
6	「歴史的建造物の活用～国立西洋美術館本館～」	福田京 （主任研究員）	『国づくりと研修』154号	R7. 10. 31		
7	ZWNBI「エキヒュームS®の販売終了について」	邊牟木尚美 （主任研究員）	全国美術館会議機関紙「全美フォーラム（Vol. 28）」	R7. 9. 1		
8	小企画展「ピカソの人物画」	久保田有寿 （特定研究員）	『月刊うえの』6月号 no. 787	R7. 6. 1		
9	北斎 富嶽三十六景 井内コレクションより	久保田有寿 （特定研究員）	『月刊うえの』3・4月号 no. 796	R. 8. 3		
カ 国立国際美術館						
学会等発表						
	タイトル	学会等名	発表者氏名 （職名）	日付	場所	聴講者数 （人）
1	現代アートの楽しみ方：わからない、を楽しむ	ダイビル	島敦彦 （館長）	R7. 5. 15	ダイビル本館	50
2	美術館における〈美術史の語り直し〉の実践	共同研究会「「知」を編むということ―集輯・編訳・表象にまつわる共創的探究」	正路佐知子 （主任研究員）	R7. 12. 14	国際日本文化研究センター	―
3	すべては語ることができない。けれど、すべてが語っている-展覧会作りの実践から	日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイヴ	正路佐知子 （主任研究員）	R8. 3. 22	大阪大学中之島センター	―
4	博物館における教育普及活動	第13回指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナー	鬼本佳代子 （任期付研究員）	R7. 8. 28	京都国立博物館	22

5	こどもたちに何を学んでもらうのか	堺市博物館フォーラム	鬼本佳代子 (任期付研究員)	R7. 10. 25	堺市博物館	31
6	高齢者のためのミュージアムプログラムの意味	全国博物館大会	鬼本佳代子 (任期付研究員)	R7. 11. 20	大阪市中央公会堂	127
7	国立国際美術館のユニバーサルな活動について	「なんなん DAYS2025 ～ミュージアムで出会うなんなん?～」座談会	鬼本佳代子 (任期付研究員)	R7. 11. 24	大原美術館	25
8	事例紹介 ギャラリーココ資料——資料整理と編成、特徴について	アート・ドキュメンテーション学会	吉岡智佳子 (特定研究員)	R7. 11. 30	印刷博物館	20
9	制度と企画のはざまで: 実験とオルタナティブに向けて	家鳴	馬定延 (客員研究員)	R7. 5. 31	東京都写真美術館 ホール	150
10	レクチャー・ワークショップ # 2	TOPOS B: 共にいること一経験の共有	馬定延 (客員研究員)	R7. 7. 12	京都市立芸術大学	10
11	現代美術、実験映画、その交差点	イメージフォーラム・フェスティバル 2025	馬定延 (客員研究員)	R7. 9. 27	イメージフォーラム	80
12	映画祭を作る # 2「野外上映やいろいろの会」	TOPOS B: 共にいること一経験の共有	馬定延 (客員研究員)	R7. 11. 15	京都市立芸術大学	30
13	スクリーニング&アーティスト・トーク (ナム・ファヨン)	いつもとなりにいるから 日本と韓国、アートの 80 年	馬定延 (客員研究員)	R7. 12. 20	横浜美術館	35
14	空、境界のない	Futuring Global Asias - Locality, Materiality, Media(tion)	馬定延 (客員研究員)	R8. 1. 24-25	名古屋大学	50

雑誌等論文掲載

学術書籍、研究報告書等の発行

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月 日
1	「田部光子の一九六〇年代末から一九八〇年代における表現再考—「名付け得ぬもの」をめぐって」	正路佐知子 (主任研究員)	『思索のアジール：境界から考える美術史』	R8. 3

【査読無し】論文掲載（学術誌、美術雑誌、館外の展覧会図録等）

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月 日
1	国立国際美術館所蔵 ジャスパー・ジョーンズ《パン》に使用された鉛の劣化に関する調査	小川絢子 (主任研究員)	『令和 6 年度 国立アートリサーチセンター活動報告・研究紀要 Vol. 2』	R8. 3. 31
2	歴史実践する人	正路佐知子 (主任研究員)	『大大木裕之展』	R8. 3. 23
3	レビュー 奥村美海	福元崇志 (主任研究員)	『TOKAS-Emerging 2025』	R7. 8. 31
4	レビュー 井澤茉莉絵	福元崇志 (主任研究員)	『TOKAS-Emerging 2025』	R7. 8. 31

5	うろんな余白-袴田京太郎《ザンダー》に寄せて	福元崇志 (主任研究員)	『袴田京太郎、隠された』	R8. 3. 6
6	ラインのための、いくつかの補助線	福元崇志 (主任研究員)	『ライフライン』	R8. 3. 20
7	分科会3「博物館におけるインクルージョンとウェルビーイング～すべての人に開かれた場になるために」	鬼本佳代子 (任期付研究員)	『博物館研究』 vol. 61 No. 3	R8. 2. 25
8	倉敷安耶	武本彩子 (任期付研究員)	『VOCA 展 2026 現代美術の展望—新しい平面の作家たち』	R8. 3
9	NMAO サーチ	児玉茜 (特定研究員)	第 39 回学芸員研修会報告書	R8. 3
10	光はいずこからも来る	馬定延 (客員研究員)	『アートコレクターズ』 (194 号)	R7. 4. 1
11	MSCHF インタビュー	馬定延 (客員研究員)	美術手帖 77 (1106)	R7. 6. 1

その他の執筆（機関紙、雑誌、新聞、ウェブサイト等）

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月 日
1	第 5 回 アートハウスおやべ現代造形展 講評	島敦彦 (館長)	第 5 回公募アートハウス おやべ現代造形展	R7. 4
2	キャラクターと資本を巡る考察	島敦彦 (館長)	『美術の窓』 5 月号 新人大図鑑 2025	R7. 4. 20
3	スズキコージ作、片山健絵「やまのかいしゃ」 ナンセンス だが未来予見	島敦彦 (館長)	読書日和	R7. 6. 28
4	追悼 画家・絹谷幸二さん「若手支えた利他の精神」	島敦彦 (館長)	『毎日新聞』（夕刊）	R7. 8. 18
5	絹谷幸二 「横溢する色彩と招来する福德」	島敦彦 (館長)	『美術の窓』 9 月号	R7. 8. 20
6	絹谷幸二さんを悼む	島敦彦 (館長)	『神戸新聞』（朝刊）	R7. 8. 20
7	選考委員・審査委員講評	島敦彦 (館長)	京都府新鋭選抜展	R8. 1
8	第 3 回絹谷幸二芸術賞 選評「植物と人間をフラットな関係 に捉える」	島敦彦 (館長)	『産経新聞』	R8. 3. 6
9	失われた季節を求めて	馬定延 (客員研究員)	SCAI THE BATHHOUSE News from Nowhere: Laboratory of Spring and Autumn Collection 展	R7. 10. 5

キ 国立新美術館

学会等発表

	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
1	「第 5 回 NCAR スタディ・ツアー（イギリス）報告：美術館運営の観点から」	NCAR トーク 008：第 5 回 NCAR スタディ・ ツアー（イギリス） 報告会—イギリス	伊村靖子 (主任研究員)	R7. 12. 1	ブリティッ シュ・カウ ンシル 2 階	20

		のアートシーンの 現在				
2	「口述資料の収集と活用　メディア の布置をめぐって」	日本美術オーラル・ ヒストリー・アーカ イヴ主催シンポジ ウム「オーラル・ア ート・ヒストリー はじまりと現在」	伊村靖子 (主任研究員)	R8. 1. 19	大阪大学中 之島センタ ー10 階 佐 治敬三メモ リアルホー ル	100
3	「1960 年代の設計図と制作／1978 年 前後の領域横断、その先へ」	「磯崎新：群島とし ての建築」関連企画 「磯崎新研究会：群 島のアルケオロジ ー」	伊村靖子 (主任研究員)	R8. 3. 22	水戸芸術館 現代美術ギ ャラリー	95
4	「ニューヨーク、オーストラリアのミ ュージアムの事例」	一般社団法人全国 美術館会議　教育 普及研究部会	吉澤菜摘 (主任研究員)	R8. 3. 17	オンライン 開催	74
雑誌等論文掲載						
学術書籍、研究報告書等の発行						
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月 日		
1	終わらないピートについて	伊澤拓人 (研究補佐員)	真崎凌哉『日本建物階段 断片集』	R7. 11. 1		
【査読無し】論文掲載（学術誌、美術雑誌、館外の展覧会図録等）						
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月 日		
1	「精神生理学研究所」ーメディア論を背景としたコレクティ ヴ	伊村靖子 (主任研究員)	かみ派の美術　諏訪に つどった前衛たち 1969- 1974	R8. 2. 10		
2	須賀啓関係資料から見えること	伊村靖子 (主任研究員)	須賀啓と現代美術	R8. 3. 11		
その他の執筆（機関紙、雑誌、新聞、ウェブサイト等）						
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月 日		
1	「美術の窓」2025 年 12 月号（11 月 20 日発売）	宮島綾子 (主任研究員)	「美術の窓」	R7. 11. 20		
2	戦争は「男性性」を崩壊させてきた？…映画『ガール・ウィ ズ・ニードル』に見るシュルレアリスムに見える傷病兵の姿	山田由佳子 (主任研究員)	WEB アステイオン	R. 7. 10. 8		
3	「美術の窓」2025 年 12 月号（11 月 20 日発売）	山田由佳子 (主任研究員)	「美術の窓」	R7. 11. 20		
4	「美術の窓」2026 年 3 月号（2 月 19 日発売）	山田由佳子 (主任研究員)	「美術の窓」	R8. 2. 19		
5	1990 年代の英国美術における現代的な意義ーフェミニズム の視点からの芸術実践	山田由佳子 (主任研究員)	「ぶんかる」	R8. 2. 26		
6	わたしを変えた展覧会：「KAC Performing Arts Program / LOVERS」	尹志慧 (主任研究員)	美術手帖オンライン	R7. 4. 20		
7	日本で生まれた美術が見せる、リアルのスペクトラム	尹志慧 (主任研究員)	「ぶんかる」	R7. 11. 28		

8	「亡霊」というメタファーの拡張「第13回ソウル・メディアシティ・ビエンナーレ」レポート	尹志慧 (主任研究員)	メディア芸術カレント コンテンツ	R7.12.25
9	美術が建築に近づくとき (1) オーギュスト・ショワジー「パラティーノの軸測投影」	米田尚輝 (主任研究員)	「日本経済新聞朝刊」と 「日本経済新聞ウェブサイト」	R8.2.17
10	美術が建築に近づくとき (2) T・V・ドゥースブルフ「コントラ・コンストラクション・プロジェクト (軸測投影)」	米田尚輝 (主任研究員)	「日本経済新聞朝刊」と 「日本経済新聞ウェブサイト」	R8.2.18
11	美術が建築に近づくとき (3) ル・コルビュジエ「垂直の静物」	米田尚輝 (主任研究員)	「日本経済新聞朝刊」と 「日本経済新聞ウェブサイト」	R8.2.19
12	美術が建築に近づくとき (4) ゴッティエ・トイバー＝アルプ「オベット 127」	米田尚輝 (主任研究員)	「日本経済新聞朝刊」と 「日本経済新聞ウェブサイト」	R8.2.20
13	美術が建築に近づくとき (5) エル・リシツキー「プロウン 1C」	米田尚輝 (主任研究員)	「日本経済新聞朝刊」と 「日本経済新聞ウェブサイト」	R8.2.25
14	美術が建築に近づくとき (6) アンリ・マティス「ヴァンスのロザリオ礼拝堂」	米田尚輝 (主任研究員)	「日本経済新聞朝刊」と 「日本経済新聞ウェブサイト」	R8.2.26
15	美術が建築に近づくとき (7) マーク・ロスコ「ロスコ・チャペル」	米田尚輝 (主任研究員)	「日本経済新聞朝刊」と 「日本経済新聞ウェブサイト」	R8.2.27
16	美術が建築に近づくとき (8) 李禹煥「関係項―棲処 (B)」	米田尚輝 (主任研究員)	「日本経済新聞朝刊」と 「日本経済新聞ウェブサイト」	R8.3.2
17	美術が建築に近づくとき (9) 川俣正「椅子の回廊」	米田尚輝 (主任研究員)	「日本経済新聞朝刊」と 「日本経済新聞ウェブサイト」	R8.3.3
18	美術が建築に近づくとき (10) 岡崎乾二郎「Oraibi Paahu」	米田尚輝 (主任研究員)	「日本経済新聞朝刊」と 「日本経済新聞ウェブサイト」	R8.3.4

別表 14 美術作品購入一覧

東京国立近代美術館						
	種別	作者名	作品名	制作年	材質・形状等	寸法(cm)
1	日本画	速水御舟 (1894-1935)	林丘寺塀外の道	1918 年	紙本彩色・額	108.0×72.5 cm
2	日本画	萬鉄五郎 (1885-1927)	[タイトル不詳]	1921 年	紙本墨画・額	66.0×66.8 cm
3	日本画	朝倉摂 (1922-2014)	うえかえ	1941 年	紙本彩色・額	136.0×182.0 cm
4	油彩 その他	ゾフィー・トイバー＝アルプ (1889-1943)	垂直－水平の構成	1917 年頃	リネンのキャンバスにウール刺繍	48.0×29.5 cm
5	油彩 その他	長谷川春子 (1895-1967)	笛を吹く男	1935 年	油彩・キャンバス	45.5×25.8 cm
6	油彩 その他	漆原英子 (1929-2002)	Midnight Circus	1953-54 年	油彩・キャンバス	91.0×72.7 cm
7	油彩 その他	河原温 (1932-2014)	洪水期	1955 年	油彩・キャンバス	181.0×213.4 cm
8	日本画	橋本雅邦 (1835-1908)	臨済一喝	1897 年	紙本彩色・軸	177.0×94.7 cm
9	日本画	北野恒富 (1880-1947)	墨染	1918-1919 年頃	絹本彩色・軸	145.2×50.6 cm
10	油彩 その他	パウル・クレー (1879-1940)	採石場のコロニー	1926 年	油彩・ボード	23.0×29.5 cm
11	油彩 その他	森本紀久子 (1940-)	イエフキア 2	1966 年	油彩、オイルパステル・板	194.5×139.0 cm
12	油彩 その他	三島喜美代 (1932-2024)	メモリーI	1971 年	油彩、馬券、新聞紙、インク・キャンバス	161.8×130.5 cm
13	油彩 その他	三島喜美代 (1932-2024)	メモリーII	1971 年	油彩、馬券、新聞紙、インク・キャンバス	162.4×130.5 cm
14	油彩 その他	三島喜美代 (1932-2024)	メモリーIII	1971 年	油彩、馬券、新聞紙、インク・キャンバス	161.8×130.3 cm
15	油彩 その他	大竹伸朗 (1955-)	ミスター・ピーナッツ	1978-81 年	エナメル、アクリリック、シルクスクリーン、段ボール、キャンバス	91.0×72.5 cm
16	素描	村山槐多 (1896-1919)	信州風景（大屋駅）	1914 年	木炭・紙	47.0×62.5 cm

17	素描	村山槐多 (1896-1919)	風船をつく女 (B)	1918 年	木炭・紙	76.9×52.5 cm
18	素描	沢居曜子 (1949-)	Plan-フロッタージュ	1983 年	グラファイト、 色鉛筆、フロッ タージュ・紙	44.8×60.0 cm
19	素描	沢居曜子 (1949-)	Plan-フロッタージュ	1983 年	グラファイト、 色鉛筆、フロッ タージュ・紙	44.8×60.0 cm
20	素描	岡部昌生 (1942-)	Stroke-on the floor Sagacho #000 August 02 - September 02	1986 年	鉛筆・紙	400.0 × 310.0 cm
21	彫刻	前本彰子 (1957-)	大紅蓮	1986 年	ドンゴロス、ア クリリック、水 性塗料、ラメ 粉、針金	230.0×650.0× 73.0 cm
22	映像	オノ・ヨーコ (1933-)	カット・ピース	1964/ 1965 年	16 ミリフィルム (白黒、HD デジ タルビデオに変換)	8 分 27 秒
23	資料	エメット・ウィリ アムズ	An Opera	1963 年	印刷・紙	178.0×10.0 cm
24	資料	トマス・シュミッ ト	Publisher' s Set	1966 年	印刷・紙 (104 枚の紙片、箱)	外箱 : 10.5× 12.5×3.5 cm 内箱 : 5.0×7.8 ×2.0 cm
25	資料	ポール・シャリッ ツ	Flux Music	1966 年	印刷・紙	22.0×16.1 cm
26	資料	ジョージ・マチュ ーナス	U.S. Surpasses All Nazi Genocide Records!	1966 年	印刷・紙 (ポス ターとプリン ト)	ポスター : 71.2 ×47.0 cm プリント : 28.0 ×21.6 cm
27	資料	アルバート・M. フ ァイン	Play for George Brecht	1966 年頃	印刷・紙	10.8×8.2 cm
28	資料	ロバート・ワッツ	Crossed Nude Legs Tablecloth	1966-73 年	印刷・ビニール	62.5×62.5 cm
29	資料	塩見允枝子	Game around a Revolving Door	1967/90 年	印刷・紙	70.0×49.9 cm
30	資料	イジー・ヴァロッ ホ	Orientované texty. PF70	1969 年	印刷・紙 (カバ ーと4葉の本 紙)	カバー : 20.8× 45.0 cm 本紙 : 20.6× 14.5 cm
31	資料	杉浦康平	インターメディア アート フェステ ィバル ポスター	1969 年	印刷・紙 (両 面)	78.5×44.7 cm
32	資料	カレン・レイノル ズ	クロス・トーク ポスター	1969 年	印刷・紙	54.0×37.8 cm
33	資料	アンドレ・トート	Your rain & my rain	1971 年	印刷・紙	36.7×23.1 cm
34	資料	ジェフリー・ヘン ドリックス	Picnic Garbage Placemat	1973 年	印刷・ビニール	35.5×42.5 cm

35	資料	ジョージ・ブレクト	No Smoking	1973 年頃	印刷・紙	42.5×42.5 cm
36	資料	オノ・ヨーコ、 ジョージ・マチュ ーナス	Asshole Wallpaper	1973 年頃	印刷・紙	56.5×43.3 cm
37	資料	—	Ubi Fluxus ibi motus 1990-1962	1990 年	印刷・紙	98.5×32.6 cm
38	資料	アリス・ハッチン ス	Magnetic Ring	制作年不 詳	磁石、指輪、 袋、箱	指輪：2.5×2.3 ×4.0 cm 箱：14.0×11.8 ×6.3 cm
39	資料	イジー・コラーシ ュ	Evidentní Básně	制作年不 詳	印刷・紙（ケー ス、本紙8葉、 二つ折りの本紙 1葉）	ケース：15.5× 11.0 cm 本紙：15.0× 10.2 cm 二つ折り本紙： 20.5×15.0 cm
40	資料	ディック・ヒギン ズ	Dieter Roth is Magnificent	制作年不 詳	印刷・紙	8.8×14.0 cm
41	写真	山沢栄子 (1899-1995)	What I am doing No.1	1976 年 (printed 2025 年)	発色現像方式印 画、額装、 ed. 4/10	30.3×28.1 (43.3×35.5) cm
42	写真	山沢栄子 (1899-1995)	What I am doing No.8	1980 年 (printed 2025 年)	発色現像方式印 画、額装、 ed. 4/10	34.0×27.9 (43.3×35.5) cm
43	写真	山沢栄子 (1899-1995)	What I am doing No.26	1977/86 年 (printed 2025 年)	発色現像方式印 画、額装、 ed. 1/10	23.0× 34.6(35.5× 36.4) cm
44	写真	山沢栄子 (1899-1995)	What I am doing No.78	1986 年 (printed 2025 年)	発色現像方式印 画、アルポリッ クパネルにマウ ント、額装、 ed. 2/5	90.0×95.6cm
45	写真	山沢栄子 (1899-1995)	What I am doing No.81	1986 年 (printed 2025 年)	発色現像方式印 画、額装、 ed. 4/10	30.6×27.9 (43.3×35.5) cm
46	写真	山沢栄子 (1899-1995)	What I am doing No.82	1986 年 (printed 2025 年)	発色現像方式印 画、アルポリッ クパネルにマウ ント、額装、 ed. 1/5	90.0×89.0cm
47	写真	山沢栄子 (1899-1995)	What I am doing No.83	1986 年	銀色素漂白方式 印画、額装	29.0× 27.8(36.7× 30.0) cm
48	写真	鈴木のだみ (1983-)	Other Days, Other Eyes : 瑛九のア トリエ 台所の窓	2024 年	窓・写真乳剤	93.0×45.5× 3.0 cm
49	写真	鈴木のだみ (1983-)	Other Days, Other Eyes : 瑛九アト リエの窓	2025 年	窓・写真乳剤	91.4×78.0× 2.3 cm

50	写真	鈴木のぞみ (1983-)	Other Days, Other Eyes : 瑛九のア トリエ 台所と風呂場を繋ぐ扉	2025 年	ガラスの嵌めら れた扉・写真乳 剤	157.5×56.0× 3.0 cm
国立工芸館						
	種別	作者名	作品名	制作年	材質・形状等	寸法(cm)
1	陶磁	岡部嶺男 (1919-1990)	窯変米色瓷博山炉	1973 年	陶器	h19.7 w17.6 d18.0
2	陶磁	小川雄平 (1885-1945)	雉子置物	1930 年	陶器	h38.5 w19.0 d11.0
3	陶磁	小川雄平 (1885-1945)	犬	1934-35 年	陶器	h17.5 w25.5 d6.8
4	陶磁	小川雄平 (1885-1945)	黒豹置物	1935 年	陶器	h14.5 w32.0 d15.5
5	陶磁	小川雄平 (1885-1945)	試作犬ボルゾイ	1935 年	陶器	h20.0 w35.0 d14.2
6	陶磁	小川雄平 (1885-1945)	鶴	1937 年	陶器	h33.0 w21.2 d18.0
7	陶磁	小川雄平 (1885-1945)	犀	1939 年	陶器	h20.5 w42.0 d12.5
8	陶磁	小川雄平 (1885-1945)	白象	1943 年	陶器	h32.7 w31.5 d14.5
9	陶磁	小川雄平 (1885-1945)	群雛	戦前	陶器	h15.8 w8.9 d11.1
10	陶磁	小川雄平 (1885-1945)	黒豹置物	戦前	陶器	h22.0 w46.0 d12.9
11	陶磁	沼田一雅 (1873-1954)	蝶ノ文鎮	1925 年	陶器	h8.1 w5.6 d5.8
12	陶磁	沼田一雅 (1873-1954)	兎	不明	陶器	h16.5 w31.0 d16.5
13	陶磁	沼田一雅 (1873-1954)	笹亀置物	不明	陶器	h5.5 w15.5 d20.5
14	金工	会田富康 (1901-1987)	獅子頭	1944 年	青銅、鑄造	h. 16.3 w31.0 d11.0
15	金工	今井千尋 (1895-1975)	香炉 角	1927 年	金属、鑄金	h10.4 w8.8 d8.5
16	金工	大須賀喬 (1901-1987)	金魚額	戦前	金属、彫金	額: h32.1 w32.1
17	金工	大須賀喬 (1901-1987)	黒味銅香盆	1947 年	黒味銅、彫金	h2.4 D32.0
18	金工	大須賀喬 (1901-1987)	蝶文小宮	不明	銀、彫金	h6.8 w10.7 d7.8
19	金工	岡部達男 (1902-1964)	喫煙具	1932 年	金属、彫金	煙草入: h12.0 D9.6 灰皿: h4.6 w10.8 d10.8 台: h2.8 w43.0 d20.0

20	金工	岡部達男 (1902-1964)	四方香爐	1938 年	銀、彫金	h9.0 w6.8 d6.8
21	金工	岡部達男 (1902-1964)	黄銅置物 武人	1939 年	黄銅	総高 h43.0 w42.5 d27.2 (台除き) h40.7 w25.1 d 11.2
22	金工	岡部達男 (1902-1964)	月象手箱	1944 年	木、金属、彫金	h12.5 w33.7 d23.2
23	金工	岡部達男 (1902-1964)	栗鼠文煙草函	戦前	金属	h5.3 w15.8 d10.6
24	金工	香取秀真 (1874-1954)	獅子鈕扁壺	1942 年	金属、鑄造	h19.8 w15.5 d5.0
25	金工	香取正彦 (1899-1988)	白銅燭臺	1930 年	白銅、鑄造	h32.0 w21.0
26	金工	香取正彦 (1899-1988)	水瓶	戦前	青銅、鑄造	h12.4 w10.5 d7.6
27	金工	鴨幸太郎 (1901-1957)	金錯草花紋透鉢	1936 年	金属、彫金	h9.6 w22.8 d22.7
28	金工	鴨政雄 (1906-2000)	花器	1936 年	金属	h15.6 w35.0 d22.0
29	金工	北原千鹿 (1887-1951)	置物 花の折枝	1927 年	金属、彫金	h7.5 w31.0 d6.5
30	金工	北原千鹿 (1887-1951)	鍍金竹ニ水禽文水指	1938-40 年	金属、彫金	h15.5 D18.0
31	金工	北原千鹿 (1887-1951)	鹿図銀花瓶	不明	銀、彫金	メス : h31.0 D15.1 オス : h31.0 D15.1
32	金工	北原千鹿 (1887-1951)	麒麟置物	不明	金属、彫金	h27.7 w21.0 d17.6
33	金工	北原千鹿 (1887-1951)	山重疊金彩銀花瓶	不明	銀、金	h30.5 w10.5 d10.5
34	金工	後藤学 (1907-1983)	鐵香爐	1932 年	鉄	h10.5 D8.0
35	金工	佐々木象堂 (1882-1961)	鑄銅両耳蔓艸文花瓶	1936 年	銅、鑄造	h25.5 w27.0
36	金工	佐々木象堂 (1882-1961)	金銅鴛鴦置物	不明	金銅、鑄造	メス : h14.2 w7.2 h7.8 オス : h16.3 w14.7 h9.0
37	金工	杉田禾堂 (1886-1955)	鑄銅裸婦紋扁壺	1918-19 年	青銅、鑄造	h15.5 w8.0 d5.5
38	金工	杉田禾堂 (1886-1955)	鑄銅流蠟文花瓶	1953 年	青銅、鑄造	h21.0 w32.5 d32.5
39	金工	杉田禾堂 (1886-1955)	睡猫小箱	不明	青銅、鑄造	h5.8 w10.3 d8.2
40	金工	大谷春彦ほか	彫金花鳥屏風	1943 年	金属	屏風(半面) : 約 h151.7 w66.7

41	金工	高村豊周 (1890-1972)	葡萄文花瓶	1920 年頃	青銅、鑄造	h15.3 w10.2 d9.4
42	金工	高村豊周 (1890-1972)	鼎形花生	1930 年	青銅、鑄造	h18.7 w22.6 d23.4
43	金工	田村泰二 (1903-1949)	馬白銅置物	1937 年	白銅	h15.0 w42.0 d7.5
44	金工	田村泰二 (1903-1949)	香爐	1939 年頃	金属、彫金	h13.5 w14.3 d11.2
45	金工	田村泰二 (1903-1949)	香水燈	戦前	金属、彫金	h14.6 w21.3 d7.8
46	金工	津田久米自 (衆 二) (1895-1970)	香爐	不明	金属	h22.8 D21.0
47	金工	津田信夫(大寿) (1875-1946)	鑄銅 三友	1926 年	青銅、鑄造	h35.8 w31.9 d31.5
48	金工	津田信夫(大寿) (1875-1946)	夕暗	1927 年	青銅、鑄造	h35.4 w20.0 d14.7
49	金工	津田信夫(大寿) (1875-1946)	聯芳触壺	1938 年	金属、鑄造	h18.2 D18.0
50	金工	津田信夫(大寿) (1875-1946)	花さし	戦前	青銅、鑄造	h24.0 w9.4 D6.2
51	金工	津田信夫(大寿) (1875-1946)	獅子香爐	不明	青銅、鑄造	h26.5 w20.0 d10.0
52	金工	豊田勝秋 (1897-1972)	花瓶	戦前	青銅、鑄造	h27.8 D 12.4
53	金工	内藤春治 (1895-1979)	蜂模様花瓶	1940-43 年	青銅、鑄造	h31.2 w29.2 d29.2
54	金工	内藤春治 (1895-1979)	水瓶	1957 年	金属、鑄造	h21.8 D14.0 cm
55	金工	中野恵祥 (1899-1974)	鑄銅鳥香炉	1941 年	青銅、鑄造	h17.6 w16.0 d5.9
56	金工	中野恵祥 (1899-1974)	黄銅透衝立	1932 年	黄銅	h92.2 w105.3 d34.0
57	金工	信田洋 (1902-1990)	果物頓盛	1927 年	銅、彫金	h30.0 w28.4 d28.4
58	金工	信田洋 (1902-1990)	喫煙具	戦前	青銅、彫金	h15.0 w43.7 d19.6
59	金工	信田洋 (1902-1990)	黄銅水盤	戦前	黄銅、彫金	h8.5 w31.2 d31.1
60	金工	松原南海 (1895-1950)	飾篋	1933 年	銀、彫金	h15.6 w17.8 d10.3
61	金工	松原南海 (1895-1950)	金銅香爐	1936 年	金銅	h11.4 w11.8 d10.5
62	金工	丸山不忘 (1890-1970)	蝸牛とあぢさい花瓶	1929 年	青銅、鑄造	h29.0 D15.9
63	金工	村越道守 (1901-1943)	金属花器	1937 年	金属	h16.0 w40.0 d16.9

64	金工	村越道守 (1901-1943)	銀花瓶	戦前	銀、彫金	h15.1 w16.4 d16.6
65	金工	森村酉三 (1897-1949)	鍍銀雉香炉	1929 年	銀、鑄造	h40.5 w28.5 d10.3
66	金工	森村酉三 (1897-1949)	鍍銅兎置物 突進	1940 年	青銅、鑄造	h13.0 w40.3 d5.3
67	金工	森村酉三 (1897-1949)	瑞鳥置物香炉	1944 年	青銅、鑄造	h20.0 w49.5 d29.8
68	金工	山本安曇 (1885-1945)	栗彫文鍍銅投込花瓶	1931 年	青銅、鑄造	h19.8 w26.7 d17.5
69	金工	山本安曇 (1885-1945)	梟香爐	戦前	青銅、鑄造	h10.5 D12.1
70	金工	山本安曇 (1885-1945)	白牡丹	戦前	銀、鑄造	h8.1 w29.8 d15.9
71	金工	山本安曇 (1885-1945)	裸婦燭臺	戦前	青銅、鑄造	h16.5 D8.0
72	金工	山脇洋二 (1907-1982)	虎置物	1934 年	金属、彫金	h14.5 w40.0 d3.0
73	金工	山脇洋二 (1907-1982)	雲竜紋スクリーン	1934 年	金属、彫金	h61.0 w60.5 d12.0
74	陶磁	小川待子 (1946-)	K-2000	2000 年	陶器	h42.5 w29.4 d28.0
75	陶磁	隠崎隆一 (1950-)	Una Mistura 花器	2016 年	陶器	h59.7 w30.7 d26.7
76	陶磁	川井雄仁 (1984-)	若者たち	2024 年	陶器	h29.0 w28.0 d28.0
77	陶磁	神農巖 (1957-)	青磁堆磁線文鉢	2011 年	磁器、堆磁	h13.0 D53.0
78	陶磁	鈴木治 (1926-2001)	唐草の鳥	1971 年	陶土、泥漿、陶器	h48.0 w48.1 d30.8
79	陶磁	鈴木藏 (1934-)	志野茶碗	2019 年	陶器	h10.4 w12.6 d13.0
80	陶磁	十三代三輪休雪(和彦) (1951-)	エル キャピタン	2021 年	陶器	h13.7 w14.4 d13.0
81	陶磁	三輪龍氣生(龍作、十二代休雪) (1940-)	生盃 初咲	2024 年	陶器	h11.5 w12.7 d12.8
82	陶磁	三輪龍氣生(龍作、十二代休雪) (1940-)	生盃 陶魂	2024 年	陶器	h26.6 w33.7 d18.0
83	陶磁	三輪龍氣生(龍作、十二代休雪) (1940-)	生盃 闘魂	2024 年	陶器	h30.7 w24.0 d24.0
84	陶磁	森陶岳 (1937-)	白瓷扁壺	1989 年	陶器	h36.0 w20.5 d16.6

85	陶磁	樂直入（十五代吉左衛門） （1949-）	黒樂茶碗 Anima	1998 年	陶器	h9.8 w11.9 d11.6
86	陶磁	ジェニファー・リー （1956-）	Pale, speckled traces, speckled olive, tilted shelf	2022 年	陶器、手びねり	h35.1 w18.4 d18.1
87	陶磁	八木一夫 （1918-1979）	黒陶 肖像	1964 年	陶器	h22.1 w16.4 d19.0
88	陶磁	八木一夫 （1918-1979）	萩風の茶盃	1972 年	陶器	h11.0 w8.6 d8.4
89	ガラス	佐々木類 （1984-）	植物の記憶 / うつろい（睦月）	2024 年	ガラス、植物、 ライト、木枠/ フュージング、 インクルージョ ン、コールドワ ーク	h84.3 w44.2 d1.9
	ガラス	佐々木類 （1984-）	植物の記憶 / うつろい（如月）	2024 年	ガラス、植物、 ライト、木枠/ フュージング、 インクルージョ ン、コールドワ ーク	h84.3 w44.2 d1.9
	ガラス	佐々木類 （1984-）	植物の記憶 / うつろい（弥生）	2024 年	ガラス、植物、 ライト、木枠/ フュージング、 インクルージョ ン、コールドワ ーク	h84.3 w44.2 d1.9
	ガラス	佐々木類 （1984-）	植物の記憶 / うつろい（卯月）	2024 年	ガラス、植物、 ライト、木枠/ フュージング、 インクルージョ ン、コールドワ ーク	h84.3 w44.2 d1.9
	ガラス	佐々木類 （1984-）	植物の記憶 / うつろい（皐月）	2024 年	ガラス、植物、 ライト、木枠/ フュージング、 インクルージョ ン、コールドワ ーク	h84.3 w44.2 d1.9
	ガラス	佐々木類 （1984-）	植物の記憶 / うつろい（水無月）	2024 年	ガラス、植物、 ライト、木枠/ フュージング、 インクルージョ ン、コールドワ ーク	h84.3 w44.2 d1.9
90	漆工	水口咲 （1974-）	乾漆箱「新雪」	2021 年	漆、乾漆	h12.0 w29.5 d26.5

91	木工	中川清司 (1942-)	榧桎合わせ鉄鉢	1974 年	榧、桎合わせ	h13.0 D53.0
92	木工	本間健司 (1974-)	割木四段重箱	2018 年	木（ウルシ）、 桂、漆、炭粉、 砥の粉、珪藻 土、米粉	h24.0 w29.0 d19.0
93	金工	中川衛 (1947-)	金銀象嵌「翡翠置物」	2017 年	臙銀、鑄造、象 嵌、金、赤胴	h12.0 w13.0 d8.0
94	金工	畠山耕治 (1956-)	bronze as Bronze no. 23	2023 年	銅	h63.7 w39.6
95	金工	原智 (1962-)	魚々子象嵌花器	2022 年	金、銀、赤銅、 鉄、鍛金、象 嵌、錆び付け、 漆焼き仕上げ	h25.0 D25.0
96	金工	留守玲 (1976-)	さかりの語感	2016 年	鉄、溶接、溶断	h76.7 w38.6 d5.0
97	その 他工 芸	沖潤子 (1963-)	水蜜桃	2020 年	麻、絹、綿	h76.7 w38.6 d5.0
98	陶磁	十二代酒井田柿右 衛門 (1878-1963)	東海道五十三次図七寸皿	1949 年	磁器、色絵	各 h2.5 D19.1
99	陶磁	藤本能道 (1919-1992)	雪白釉釉描加彩柳枝宿鴉図長四角宮	1988 年	磁器	h7.6 w23.0 d14.8
100	陶磁	三輪龍氣生（龍作、 十二代休雪） (1940-)	卑弥呼	1988 年	陶器、金彩	h34.8 w61.5
101	木工	初代池田作美 (1886-1955)	紫檀材黄楊木唐草模様透彫入器局	1931 年	木（紫檀、黄楊 木）、指物	h91.0 w40.0
102	竹工	関島寿子 (1944-)	たたんだ角Ⅴ	2001 年	クルミ形成層、 編み	h29.5 w34.5 d16.5
103	竹工	関島寿子 (1944-)	なわの記録Ⅵ	2012 年	コウゾ、ケヤ キ、クワ、エノ キ、編み	h17.5 w32.5 d22.0
104	竹工	関島寿子 (1944-)	反発の和Ⅴ	2015 年	オカメザサ、編 み	h26.0 w28.5 d20.5
105	竹工	関島寿子 (1944-)	組・織の間 虚Ⅱ-経緯	2018 年	クルミ樹皮、編 み	h26.0 w31.0 d12.5
106	染織	朝倉美津子 (1950-)	望み	2000 年	絹、麻、染、平 織	h91.0 w40.0
107	染織	朝倉美津子 (1950-)	廻向	2004 年	絹、染、平織	w148.0 h36.0
108	染織	朝倉美津子 (1950-)	Succession	2013 年	絹、染、平織	h120.0 w50.0
109	染織	二塚長生 (1946-)	友禅訪問着「春動く」	2022 年	絹、友禅	h170.0 w130.0
110	染織	二塚長生 (1946-)	友禅訪問着「夕刻への雲間」	2024 年	絹、友禅	h173.0 w134.0

111	染織	松山好成 (1946-)	唐組帯締「潮騒」	2022 年	絹、唐組	L152.0
112	染織	松山好成 (1946-)	唐組帯締「熊野古道」	2024 年	絹、唐組	L151.0
113	金工	中村友美&サイモン・フジワラ (1981-)	Feu de Who II	2024 年	銅	h23.5 w19.0 d11.0
114	金工	初代山川孝次 (1828-1882)	金銀蓮葉形水盤	江戸末期 ～明治初期	銀、金	h13.6 w45.5 d49.2
京都国立近代美術館						
	種別	作者名	作品名	制作年	材質・形状等	寸法(cm)
1	日本画	小野竹喬 (1889-1979)	海	1963 (昭和 38)	紙本着色／額装	52.9×81.1
2	日本画	土田麦僊 (1887-1936)	桃源図	1915 (大正 4)	絹本着色／軸装	143.6×51.3
3	日本画	広田多津 (1904-1990) / 向井久万 (1908-1987)	裸女・月明裸婦	1951 (昭和 26)	紙本着色／額装 (対)	(各)133.7× 44.9
4	油彩	椿 貞雄 (1896-1957)	赤土の塔	1920 (大正 9)	油彩、画布／額装	65.0×83.0
5	油彩	松本竣介 (1921-1948)	郊外	1938 (昭和 13)	油彩、板／額装	52.5×72.5
6	油彩	山口 薫 (1907-1968)	あや子あやとり (アヤコ十六)	1959 (昭和 34)	油彩、画布／額装	45.5×37.9
7	陶芸	荒川豊蔵 (1894-1985)	瀬戸黒茶碗	昭和中-後期	陶器	9.8(h)×11.5× 11.5
8	陶芸	石黒宗麿 (1893-1968)	千點瓷盤	1940 (昭和 15) 頃	陶器	5.3(h)×15.8
9	陶芸	濱田庄司 (1894-1978)	藍鐵繪取皿	昭和前期	陶器／皿 (6 枚)	4.0(h)×18.7× 18.7
10	金工	海野勝珉 (1844 -1915)	鴛鴦岩象嵌銀製花瓶	明治中-後期	銀、雕銀、金、 赤銅、素銅／花 瓶 (一対)	(各)36.7(h)× 16.0×16.0
11	金工	山田宗美 (1871-1916)	鉄打出 熊置物	明治後期	鉄	22.8(h)×18.6 ×22.8 / 1,000g
12	木工	大野昭和斎 (1912-1996)	拭漆桑造飾篭	1968 (昭和 43)	桑、拭漆	12.4(h)×26.0 ×15.6
13	漆工	黒田辰秋 (1904-1982)	乾漆五彩牡丹紋飾手篭	1940 (昭和 15)	漆、乾漆	19.0×25.4× 15.8
14	木工	黒田辰秋 (1904-1982)	拭漆松衝立	1934 (昭和 9)	松、拭漆	93.5×160.0× 48.5
15	水彩	ネイサン・ラーナー (Nathan Lerner 1913-1997)	無題	1940 年代	ポスターカラー、 インク、板	31.5×40.5

16	水彩	ネイサン・ラーナー (Nathan Lerner 1913-1997)	無題 (壁面のためのプラン)	1940	ポスターカラー、段ボール紙	32.5×32.0
17	写真	ネイサン・ラーナー (Nathan Lerner 1913-1997)	ポートフォリオ〈初期作品〉		ゼラチンシルバー・プリント／ポートフォリオ (35点組)	
			初期作品：夏	1935	ゼラチンシルバー・プリント	31.5×20.5
			初期作品：二つの顔の少女	1936	ゼラチンシルバー・プリント	30.0×17.5
			初期作品：ボートと少女	1937	ゼラチンシルバー・プリント	18.0×22.5
			初期作品：リッチモンドーサン・ラファエル・フェリー	1937-1938	ゼラチンシルバー・プリント	20.5×26.5
			初期作品：窓の光	1936	ゼラチンシルバー・プリント	17.0×16.5
			初期作品：エルシー	1936	ゼラチンシルバー・プリント	18.5×21.5
			初期作品：鋼鉄の型	1934	ゼラチンシルバー・プリント	18.0×15.0
			初期作品：トロリ線	1935	ゼラチンシルバー・プリント	17.0×27.0
			初期作品：オブティモ	1938	ゼラチンシルバー・プリント	16.5×25.5
			初期作品：扇形庫	1938	ゼラチンシルバー・プリント	29.5×23.0
			初期作品：3つのトランクの影	1937	ゼラチンシルバー・プリント	14.0×15.0
			初期作品：観覧車	1937	ゼラチンシルバー・プリント	24.0×18.0
			初期作品：雨の夕暮れ	1935	ゼラチンシルバー・プリント	19.5×24.5
			初期作品：陸橋 (パイプと線路)	1936	ゼラチンシルバー・プリント	26.0×20.5
			初期作品：プラットフォーム	1936	ゼラチンシルバー・プリント	20.5×18.5
			初期作品：自画像	1937	ゼラチンシルバー・プリント	23.0×18.5
			初期作品：壁を背にする男たち	1937	ゼラチンシルバー・プリント	20.2×28.0
			初期作品：クリスと水	1937	ゼラチンシルバー・プリント	25.0×19.5
			初期作品：ステビンズ	1935	ゼラチンシルバー・プリント	21.0×29.0
			初期作品：橋の上の尼僧	不詳	ゼラチンシルバー・プリント	28.0×36.0

			初期作品：無題（蜘蛛状の影）	1936	ゼラチンシルバー・プリント	17.0×20.0
			初期作品：無題	1946	ゼラチンシルバー・プリント	25.5×22.0
			初期作品：サンフランシスコ湾	不詳	ゼラチンシルバー・プリント	20.5×20.5
			初期作品：眼	1937	ゼラチンシルバー・プリント	17.5×24.0
			初期作品：無題	1937	ゼラチンシルバー・プリント	13.5×23.5
			初期作品：ニューヨーク	1938	ゼラチンシルバー・プリント	20.0×31.0
			初期作品：サンフランシスコの丘	1945	ゼラチンシルバー・プリント	19.0×18.0
			初期作品：階段と線路	1937	ゼラチンシルバー・プリント	24.0×18.0
			初期作品：シカゴの雨の日	1937	ゼラチンシルバー・プリント	24.5×17.5
			初期作品：窓際のケーキ	1937	ゼラチンシルバー・プリント	14.0×21.0
			初期作品：ワゴンに乗った尼僧	1937	ゼラチンシルバー・プリント	18.5×24.5
			初期作品：冬の通り	1937	ゼラチンシルバー・プリント	26.5×21.5
			初期作品：初めての聖餐式	1943	ゼラチンシルバー・プリント	21.5×17.5
			初期作品：インド人、7月4日、ニューメキシコ	1937	ゼラチンシルバー・プリント	20.0×19.0
			初期作品：トンネルの入口	1943	ゼラチンシルバー・プリント	19.0×23.0
18	写真	ネイサン・ラーナー (Nathan Lerner 1913-1997)	ポートフォリオ〈マックスウェル・ストリート〉		ゼラチンシルバー・プリント (35点組)	
			マックスウェル・ストリート：無題	不詳	ゼラチンシルバー・プリント	17.0×23.5
			マックスウェル・ストリート：魅力的な少女	1936	ゼラチンシルバー・プリント	18.5×15.5
			マックスウェル・ストリート：美しい少女	1936	ゼラチンシルバー・プリント	23.0×17.5
			マックスウェル・ストリート：アンコモン・マン	1936	ゼラチンシルバー・プリント	20.0×27.0
			マックスウェル・ストリート：玉葱、光のスタディ	1936	ゼラチンシルバー・プリント	35.5×28.0
			マックスウェル・ストリート：ニーナ	1936	ゼラチンシルバー・プリント	25.5×18.5
			マックスウェル・ストリート：男、靴	不詳	ゼラチンシルバー・プリント	23.0×18.0

		マックスウェル・ストリート：コートを試着する男	1936	ゼラチンシルバー・プリント	33.0×20.5
		マックスウェル・ストリート：「シカゴの20セントの食事」	1936	ゼラチンシルバー・プリント	30.5×22.5
		マックスウェル・ストリート：おもちゃで遊ぶ子どもたち	1936	ゼラチンシルバー・プリント	21.5×16.5
		マックスウェル・ストリート：キャップをかぶった男	1937	ゼラチンシルバー・プリント	20.5×14.5
		マックスウェル・ストリート：男と影	1937	ゼラチンシルバー・プリント	16.5×22.5
		マックスウェル・ストリート：ジプシーの奏者	1936	ゼラチンシルバー・プリント	17.5×23.0
		マックスウェル・ストリート：頭部	1936 / 1937	ゼラチンシルバー・プリント	17.0×22.5
		マックスウェル・ストリート：鍵屋	1938	ゼラチンシルバー・プリント	18.0×18.0
		マックスウェル・ストリート：ギター奏者	1936	ゼラチンシルバー・プリント	33.0×24.5
		マックスウェル・ストリート：アヒルの卵	1937	ゼラチンシルバー・プリント	23.0×18.0
		マックスウェル・ストリート：軍曹	1937	ゼラチンシルバー・プリント	22.5×18.0
		マックスウェル・ストリート：大きな手の少年	1936	ゼラチンシルバー・プリント	17.5×18.0
		マックスウェル・ストリート：帽子店	1936	ゼラチンシルバー・プリント	21.0×18.0
		マックスウェル・ストリート：油で汚れた上着を着た男	1936	ゼラチンシルバー・プリント	17.0×20.0
		マックスウェル・ストリート：母子	1960	ゼラチンシルバー・プリント	22.0×17.5
		マックスウェル・ストリート：無題	不詳	ゼラチンシルバー・プリント	18.5×22.5
		マックスウェル・ストリート：しわのある老婆	不詳	ゼラチンシルバー・プリント	21.5×26.5
		マックスウェル・ストリート：美しい少年	不詳	ゼラチンシルバー・プリント	22.0×16.0
		マックスウェル・ストリート：階段の女の子	不詳	ゼラチンシルバー・プリント	23.0×17.0
		マックスウェル・ストリート：ポールといとこ	不詳	ゼラチンシルバー・プリント	20.5×18.0
		マックスウェル・ストリート：子どもと仮面	1936	ゼラチンシルバー・プリント	23.0×18.0
		マックスウェル・ストリート：戸口に立つポール	1936	ゼラチンシルバー・プリント	20.0×18.5
		マックスウェル・ストリート：無題	1930	ゼラチンシルバー・プリント	23.0×17.0
		マックスウェル・ストリート：無題	不詳	ゼラチンシルバー・プリント	15.0×21.0

			マックスウェル・ストリート：ハンカチを持った少年	1936	ゼラチンシルバー・プリント	16.5×25.0
			マックスウェル・ストリート：フォードに座る子どもたち	1936	ゼラチンシルバー・プリント	19.0×18.5
			マックスウェル・ストリート：孤独な少年	1935	ゼラチンシルバー・プリント	21.5×12.0
			マックスウェル・ストリート：無題	1930s	ゼラチンシルバー・プリント	18.5×19.5
19	写真	ネイサン・ラーナー (Nathan Lerner 1913-1997)	ポートフォリオ〈恐慌〉		ゼラチンシルバー・プリント (28点組)	
			恐慌：戸口の前の男	1937	ゼラチンシルバー・プリント	16.5×25.5
			恐慌：スーツケースの上で居眠り	1935	ゼラチンシルバー・プリント	24.0×19.0
			恐慌：無題	不詳	ゼラチンシルバー・プリント	17.5×21.0
			恐慌：街の形	1936	ゼラチンシルバー・プリント	20.0×28.5
			恐慌：ゴミ拾い	1936	ゼラチンシルバー・プリント	23.5×17.5
			恐慌：街の形	1936	ゼラチンシルバー・プリント	17.5×25.0
			恐慌：靴	1937	ゼラチンシルバー・プリント	35.5×28.0
			恐慌：無題	不詳	ゼラチンシルバー・プリント	17.0×23.0
			恐慌：窓の前の男	1936	ゼラチンシルバー・プリント	19.5×24.5
			恐慌：鉦夫の妻（南イリノイの女）	不詳	ゼラチンシルバー・プリント	16.0×12.0
			恐慌：戸口の少女	1936	ゼラチンシルバー・プリント	23.0×17.5
			恐慌：無題	不詳	ゼラチンシルバー・プリント	22.5×18.0
			恐慌：無題	1935	ゼラチンシルバー・プリント	16.5×21.5
			恐慌：無題	不詳	ゼラチンシルバー・プリント	22.5×15.5
			恐慌：男と給水管	1936	ゼラチンシルバー・プリント	25.5×21.1
			恐慌：鉦夫の子ども	1936	ゼラチンシルバー・プリント	19.5×14.5
			恐慌：ベッド	1936	ゼラチンシルバー・プリント	17.0×22.0
			恐慌：無題	不詳	ゼラチンシルバー・プリント	23.0×17.0

			恐慌：無題	1936	ゼラチンシルバー・プリント	19.5×26.5
			恐慌：悲劇の男	1937	ゼラチンシルバー・プリント	19.5×16.5
			恐慌：無題	不詳	ゼラチンシルバー・プリント	23.0×18.0
			恐慌：無題	不詳	ゼラチンシルバー・プリント	19.0×24.0
			恐慌：無題	不詳	ゼラチンシルバー・プリント	27.0×17.0
			恐慌：安全ピン	1937	ゼラチンシルバー・プリント	14.5×23.0
			恐慌：壁を背にする男たち	1936	ゼラチンシルバー・プリント	20.2×28.0
			恐慌：丸いベンチに座る3人の男	1934	ゼラチンシルバー・プリント	24.0×16.5
			恐慌：樹にもたれて眠る男	1937	ゼラチンシルバー・プリント	21.5×16.5
			恐慌：無題	不詳	ゼラチンシルバー・プリント	24.5×19.0
20	写真	ネイサン・ラーナー (Nathan Lerner 1913-1997)	ポートフォリオ〈バウハウス・実験〉		ゼラチンシルバー・プリント (22点組)	
			バウハウス・実験：光のヴォリューム	1937	ゼラチンシルバー・プリント	21.0×28.0
			バウハウス・実験：無題	不詳	ゼラチンシルバー・プリント	24.0×28.0
			バウハウス・実験：ブラックへのオマージュ	1946	ゼラチンシルバー・プリント	19.5×23.5
			バウハウス・実験：目と有刺鉄線	1939	ゼラチンシルバー・プリント	28.0×27.0
			バウハウス・実験：無題	不詳	ゼラチンシルバー・プリント	16.0×12.5
			バウハウス・実験：ペンライトと煙 (光の夢)	1940	ゼラチンシルバー・プリント	21.5×24.0
			バウハウス・実験：光の夢	1940	ゼラチンシルバー・プリント	23.5×24.0
			バウハウス・実験：折紙による光の形	1942	ゼラチンシルバー・プリント	35.0×22.5
			バウハウス・実験：チャーリーの眼	1940	ゼラチンシルバー・プリント	35.5×28.0
			バウハウス・実験：ブラウンの顔	1939	ゼラチンシルバー・プリント	29.5×23.0
			バウハウス・実験：無題	不詳	ゼラチンシルバー・プリント	25.5×28.0
			バウハウス・実験：ライトボックス の実験：卵と箱 #1	1939	ゼラチンシルバー・プリント	30.0×24.0

			バウハウス・実験：紐に付けた紙切れ	1938	ゼラチンシルバー・プリント	17.0×24.0
			バウハウス・実験：ゴードン・ウェバー	1940	ゼラチンシルバー・プリント	17.0×11.5
			バウハウス・実験：フロントガラスの雨	1938	ゼラチンシルバー・プリント	28.5×25.0
			バウハウス・実験：目と釘	1940	ゼラチンシルバー・プリント	27.0×21.0
			バウハウス・実験：無題	1938	ゼラチンシルバー・プリント	15.0×19.0
			バウハウス・実験：光のタペストリー	1939	ゼラチンシルバー・プリント	19.0×19.5
			バウハウス・実験：窓に付いた目	1937	ゼラチンシルバー・プリント	24.0×26.5
			バウハウス・実験：口の中の目	1938	ゼラチンシルバー・プリント	20.5×27.5
			バウハウス・実験：目と指	1940	ゼラチンシルバー・プリント	33.0×24.5
			バウハウス・実験：木製の合わせ釘	1939	ゼラチンシルバー・プリント	18.0×27.5
21	写真	ネイサン・ラーナー (Nathan Lerner 1913-1997)	ポートフォリオ 〈日本・メキシコ・ヨーロッパ〉		ゼラチンシルバー・プリント (42点組)	
			日本・メキシコ・ヨーロッパ：夢	1943	ゼラチンシルバー・プリント	27.5×20.5
			日本・メキシコ・ヨーロッパ：一時代の終わり	1945	ゼラチンシルバー・プリント	25.5×21.0
			日本・メキシコ・ヨーロッパ：砂の精	1943	ゼラチンシルバー・プリント	24.0×15.5
			日本・メキシコ・ヨーロッパ：ターニャ	1943	ゼラチンシルバー・プリント	21.5×21.5
			日本・メキシコ・ヨーロッパ：コニーアイランド	1944	ゼラチンシルバー・プリント	35.5×28.0
			日本・メキシコ・ヨーロッパ：無題	不詳	ゼラチンシルバー・プリント	31.5×20.0
			日本・メキシコ・ヨーロッパ：無題	不詳	ゼラチンシルバー・プリント	19.0×25.0
			日本・メキシコ・ヨーロッパ：窓に付いた目	1943	ゼラチンシルバー・プリント	24.0×26.5
			日本・メキシコ・ヨーロッパ：無題	不詳	ゼラチンシルバー・プリント	19.0×24.0
			日本・メキシコ・ヨーロッパ：尼僧	1943	ゼラチンシルバー・プリント	16.5×24.5
			日本・メキシコ・ヨーロッパ：シティ・ライトボックス・スタディ	1944	ゼラチンシルバー・プリント	27.5×19.5
			日本・メキシコ・ヨーロッパ：「おかえりモリス」	1945	ゼラチンシルバー・プリント	18.5×26.5

			日本・メキシコ・ヨーロッパ：影の少女	1932	ゼラチンシルバー・プリント	28.0×19.0
			日本・メキシコ・ヨーロッパ：郵便箱	不詳	ゼラチンシルバー・プリント	23.5×16.5
			日本・メキシコ・ヨーロッパ：家の形	1944	ゼラチンシルバー・プリント	17.0×25.5
			日本・メキシコ・ヨーロッパ：無題	不詳	ゼラチンシルバー・プリント	20.5×27.5
			日本・メキシコ・ヨーロッパ：無題	不詳	ゼラチンシルバー・プリント	28.5×22.5
			日本・メキシコ・ヨーロッパ：偶然の出会い	1978	ゼラチンシルバー・プリント	23.5×27.5
			日本・メキシコ・ヨーロッパ：壁の影	1976	ゼラチンシルバー・プリント	27.0×17.0
			日本・メキシコ・ヨーロッパ：男と欄干	1978	ゼラチンシルバー・プリント	14.0×26.0
			日本・メキシコ・ヨーロッパ：広島	1975	ゼラチンシルバー・プリント	12.5×24.5
			日本・メキシコ・ヨーロッパ：頭部	不詳	ゼラチンシルバー・プリント	13.5×25.0
			日本・メキシコ・ヨーロッパ：無題	不詳	ゼラチンシルバー・プリント	22.0×27.5
			日本・メキシコ・ヨーロッパ：壁の影	1976	ゼラチンシルバー・プリント	23.5×16.5
			日本・メキシコ・ヨーロッパ：無題	不詳	ゼラチンシルバー・プリント	18.0×27.0
			日本・メキシコ・ヨーロッパ：清子とカーテン	1983	ゼラチンシルバー・プリント	19.5×27.5
			日本・メキシコ・ヨーロッパ：マネキン	1974	ゼラチンシルバー・プリント	15.5×24.0
			日本・メキシコ・ヨーロッパ：ショッピングバッグ	1976	ゼラチンシルバー・プリント	17.5×23.0
			日本・メキシコ・ヨーロッパ：3匹の魚	1976	ゼラチンシルバー・プリント	19.0×27.5
			日本・メキシコ・ヨーロッパ：無題	不詳	ゼラチンシルバー・プリント	24.5×18.0
			日本・メキシコ・ヨーロッパ：無題	不詳	ゼラチンシルバー・プリント	23.0×23.0
			日本・メキシコ・ヨーロッパ：川岸にて	不詳	ゼラチンシルバー・プリント	15.5×23.5
			日本・メキシコ・ヨーロッパ：階段の形	不詳	ゼラチンシルバー・プリント	19.5×16.5
			日本・メキシコ・ヨーロッパ：無題	不詳	ゼラチンシルバー・プリント	17.0×23.0
			日本・メキシコ・ヨーロッパ：霧の日	不詳	ゼラチンシルバー・プリント	25.0×17.0
			日本・メキシコ・ヨーロッパ：メキシコの通り	1968	ゼラチンシルバー・プリント	17.0×17.5

			日本・メキシコ・ヨーロッパ：無題	不詳	ゼラチンシルバー・プリント	20.5×28.0
			日本・メキシコ・ヨーロッパ：メキシコのバス	1978	ゼラチンシルバー・プリント	17.5×28.0
			日本・メキシコ・ヨーロッパ：無題	不詳	ゼラチンシルバー・プリント	20.0×25.5
			日本・メキシコ・ヨーロッパ：写真家の窓	1978	ゼラチンシルバー・プリント	23.0×15.5
			日本・メキシコ・ヨーロッパ：ロンドンの公園（ハイド・パーク）	1978	ゼラチンシルバー・プリント	26.0×16.0
			日本・メキシコ・ヨーロッパ：パリの光	1977	ゼラチンシルバー・プリント	17.0×25.5
22	日本画	榊原雨村 (1885-1963)	山羊図（仮）	大正時代	絹本着色（金地）／6 曲屏風（1 双）	172.3×373.2
23	日本画	鳥居道枝 (1902?-1930)	少女像	1920（大正 9）	絹本着色／軸装	172.0×69.5
24	日本画	岸竹堂 (1826-1897)	池辺の狐	1861-1877（文久元-明治初期）頃	絹本着色／軸装	136.4×70.0
25	日本画	甲斐庄楠音 (1894-1978)	畜生塚（習作）	1919（大正 8）	絹本着色／額装	26.5×23.0
26	日本画	甲斐庄楠音 (1894-1978)	悪女菩薩	1924（大正 13）頃	絹本着色／額装	26.5×23.5
27	日本画	甲斐庄楠音 (1894-1978)	文楽	不詳	絹本着色／額装	25.5×34.8
28	日本画	甲斐庄楠音 (1894-1978)	白首（転落）	不詳	紙本着色／額装	25.3×23.5
29	染織	福本潮子 (1945-)	東北ー I	2011（平成 23）	藤糸、反故紙、藍染、ぼかし染	208.0×82.0
30	染織	福本潮子 (1945-)	蝦夷	2023（令和 5）	オヒョウ、藍染、ぼかし染	213.0×67.0
31	染織	村山順子 (1959-)	双子のキモノーあちらとこちら	2023（令和 5）	未精鍊絹糸、苧麻、インド藍、タマネギ、ミョウバン、精鍊剤、縦緋、平織り、縫製	140.0×280.0
32	染織	村山順子 (1959-)	ケモノのキモノー冬毛	2023（令和 5）	未精鍊絹糸、苧麻、紙糸、アバカ、馬毛、ドングリ、木酢酸鉄、蘇芳、ミョウバン、縦緋、平織り、縫製	140.0×280.0
33	染織	藤野靖子 (1964-)	YAMATO RIVER	2009（平成 21）	シルク（2 点組）	（各）70.0×250.0

34	陶芸	秋山陽 (1953-)	地質時代 16	2000 (平成 12)	陶	81.0×58.0× 53.0(h)
35	陶芸	秋山陽 (1953-)	Metavoid 9	2005 (平成 17)	陶	82.0×62.0× 48.0(h)
36	陶芸	亀井洋一郎 (1974-)	Lattice receptacle—光の舞台	2005 (平成 17)	磁器、鋳込み	35.0×35.0× 35.0(h)
37	陶芸	亀井洋一郎 (1974-)	Lattice receptacle—錐体のスクリーン 2	2009 (平成 21)	磁器、鋳込み	63.0×56.0× 25.0(h)
38	陶芸	亀井洋一郎 (1974-)	Lattice receptacle—様相の舞台 1	2015 (平成 27)	磁器、鋳込み	65.0×11.0× 56.0(h)
39	陶芸	重松あゆみ (1958-)	Green Orbit	2011 (平成 23)	陶	67.0×33.5× 57.5(h)
40	陶芸	重松あゆみ (1958-)	Jomon Monster	2023 (令和 5)	陶	47.3×32.5× 63.3(h)
41	陶芸	重松あゆみ (1958-)	Spring Breathing	2024 (令和 6)	陶	45.3×47.5× 51.3(h)
42	陶芸	八木明 (1955-)	青白磁吊灯	2002 (平成 14)	磁器、木	30.0×18.4× 59.0(h)
43	陶芸	八木明 (1955-)	青白磁籠	2022 (令和 4)	磁器、黒陶、ガラス、真鍮	30.4×30.4× 31.2(h)
44	陶芸	八木明 (1955-)	青白磁面取対蓋物	2019 (令和元)	磁器	(各)15.2×15.2 ×25.4(h)
45	漆工	石塚源太 (1982-)	感触の表裏 #30	2023 (令和 5)	漆、麻布、発泡スチロール球、2way トリコット、乾漆技法	64.0×60.5× 84.0(h)
46	漆工	石塚源太 (1982-)	Absence, presence	2025 (令和 7)	漆、麻布、乾漆技法	88.0×47.5× 35.0(h)
47	漆工	石塚源太 (1982-)	Loop Hole	2025 (令和 7)	漆、麻布、乾漆技法	67.5×54.0× 38.0(h)
48	ガラス	田中里姫 (1995-)	楚々、憧憬	2025 (令和 7)	吹きガラス、火切り、スランピング	67.0×49.0× 65.0(h)
49	その他	荒木悠 (1985-)	利未記異聞 WRONG REVISION	2016 (平成 28)	HD ヴィデオ、カラー、ステレオ	15 分
50	その他	ピピロッティ・リスト (1962-)	愛撫する円卓	2017 (平成 29)	シングルチャンネル・ビデオ、テーブル、食器、カーペット	サイズ可変、20 分
51	その他	野村仁 (1945-2023)	Dryice	1969 (昭和 44) /2003 (平成 15) 頃	ゼラチン・シルバー・プリント	94.0×794.0
52	その他	野村仁 (1945-2023)	重心の移動	1972 (昭和 47)	ゼラチン・シルバー・プリント	88.0×1100.0

53	その他	毛利悠子 (1980-)	パレード	2011-2017 (平成 23-29)	ベルリラ、風 船、送風機、ア コーディオン、 ドラム、拡声 器、水差し、泡 立て器、電球ほ か／インスタレ ーション	サイズ可変
54	その他	田中功起 (1975-)	一時的なスタディ：ワークショップ #1「1946～52年占領期と1970年 人間と物質」	2015（平 成 27）	5チャンネル・ ビデオ、デジ タルプリント、 布、ステイトメ ント/インスタ レーション	
55	その他	田中功起 (1975-)	10年間	2025（令 和 7）	シングルチャ ネル・ビデオ	30分54秒
56	陶芸	西條茜 (1989-)	惑星	2024（令 和 6）	陶	73.0×69.0× 102.0
57	その他	松井智恵 (1960-)	ヒマラヤ／カイダン	2003（平 成 15）	シングルチャ ネル・ビデオ ・インスタレ ーション、木製 ドア	サイズ可変、36 分49秒
58	その他	松井智恵 (1960-)	ヒマラヤ 03-1	2003（平 成 15）	ホログラム箔押 し、アルシュ水 彩紙	28.5×19.0
59	その他	松井智恵 (1960-)	ヒマラヤ 03-2	2003（平 成 15）	ホログラム箔押 し、アルシュ水 彩紙	28.5×19.0
60	その他	松井智恵 (1960-)	ヒマラヤ 03-3	2003（平 成 15）	ホログラム箔押 し、アルシュ水 彩紙	28.5×19.0
61	その他	松井智恵 (1960-)	ヒマラヤ 03-4	2003（平 成 15）	ホログラム箔押 し、アルシュ水 彩紙	28.5×19.0
62	その他	松井智恵 (1960-)	ヒマラヤ 03-15	2003（平 成 15）	ホログラム箔押 し、アルシュ水 彩紙	28.5×19.0
63	その他	松井智恵 (1960-)	ヒマラヤ 03-16	2003（平 成 15）	ホログラム箔押 し、アルシュ水 彩紙	28.5×19.0
64	その他	松井智恵 (1960-)	ヒマラヤ 03-19	2003（平 成 15）	ホログラム箔押 し、アルシュ水 彩紙	28.5×19.0
65	その他	松井智恵 (1960-)	ヒマラヤ 03-30	2003（平 成 15）	ホログラム箔押 し、アルシュ水 彩紙	56.0×76.0

66	その他	松井智恵 (1960-)	ヒマラヤ 03-31	2003 (平成 15)	ホログラム箔押し、アルシュ水彩紙	56.0×76.0
67	その他	松井智恵 (1960-)	ヒマラヤ 03-32	2003 (平成 15)	ホログラム箔押し、アルシュ水彩紙	56.0×76.0
68	その他	小谷元彦 (1972-)	Phantom-Limb	1997 (平成 9)	発色現像方式印刷 (5点組)	(各)148.0×111.0
国立西洋美術館						
	種別	作者名	作品名	制作年	材質・形状等	寸法(cm)
1	絵画	ルカ・ジョルダーノ	マギの礼拝	c. 1687-89	油彩／カンヴァス	1,120×2,100mm
2	絵画	クリストフ・アムベルガー	バルバラ・シュヴァルツの肖像	1542	油彩／板	720×612mm
3	版画	ゼーバルト・ベーム	荊冠のキリストの頭部	c. 1520	木版	428×324 mm (画枠)、502×33.5 mm (紙)
4	版画	ヴェンセスラウス・ホラー	5つの角度から見たマフ	1645/46	エッチング	78×127mm (版寸)、80×129mm (紙寸)
5	版画	レンブラント・ファン・レイン	髭を生やし、毛皮の帽子とヴェルヴェットの上着を身につけた老人	c. 1631	エッチング、エンブレイヴィング	150×131mm (版寸)
6	版画	ルイーズ・アッペマ	カロリウス=デュランの肖像	1880	ドライポイント	160×120mm (版寸)、285×210mm (紙寸)
7	版画	レオン・スピリアルト	ヴェルハーレンとドゥマンをとまなう自画像	1908	ドライポイント、エッチング	120×160mm (版寸)、155×235mm (紙寸)
8	版画	ラモン・カザス	晴れ (または曇り)	1899	リトグラフ／紙	275×230mm (版寸)、400×325mm (紙寸)
9	絵画	モーリス・ドニ	海辺のシャグマユリの聖母	1917	油彩／カンヴァス	520×635mm
10	版画	フェリックス・ブラックモン	皿の装飾：ノートル=ダム大聖堂	c. 1687-89	エッチング、水彩／紙	290×347mm (版寸)、307×352mm (紙寸)
11	版画	フィンセント・ファン・ゴッホ	医師ガシェの肖像 (パイプを持つ男)	1890	エッチング、ウオーヴ紙	183×151mm (版寸)、186×165mm (紙寸)
国立国際美術館						
	種別	作者名	作品名	制作年	材質・形状等	寸法(cm)
1	洋画	エリザベス・ペイトン (1965-)	ジョナサン (ジョナサン・ホロヴィッツ)	2005 年	油彩、板	30.6 × 23.5 × 2.0 cm

2	洋画	アンドロ・ウェク ア (1977-)	Eの肖像 プール	2018 年	油彩、シルクス クリーン、ワニ ス、アルミ板	127.0 × 87.6 cm
3	洋画	アンドロ・ウェク ア (1977-)	夕方	2018-22 年	油彩、木、シル クスクリーン、 鉛筆、インク、 ワニス、アルミ 板	127.0 × 87.0 × 4.5 cm
4	彫刻	アンドロ・ウェク ア (1977-)	タイトル未定 (家)	2012 年	アクリルプラス ター、木、スチ ール、石膏ファ イバーボード、 アクリル絵具	34.3 × 43.8 × 41.3 cm
5	映像	ツアオ・フェイ (1978-)	新星	2019 年	シングルチャン ネル・ビデオ (HD、カラー、 サウンド)	109 分 53 秒 Ed. 5/9
6	写真	ツアオ・フェイ (1978-)	新星 03	2019 年	インクジェッ ト・プリント	105.0 × 150.0 cm Ed. 3/7
7	写真	ツアオ・フェイ (1978-)	新星 04	2019 年	インクジェッ ト・プリント	90.0 × 150.0 cm Ed. 3/7
8	写真	ツアオ・フェイ (1978-)	新星 05	2019 年	インクジェッ ト・プリント	100.0 × 175.0 cm Ed. 2/7
9	写真	ツアオ・フェイ (1978-)	新星 11	2019 年	インクジェッ ト・プリント	110.0 × 150.0 cm Ed. 2/7
10	写真	ツアオ・フェイ (1978-)	新星 12	2019 年	インクジェッ ト・プリント	110.0 × 150.0 cm Ed. 3/7
11	写真	ツアオ・フェイ (1978-)	新星 13	2019 年	インクジェッ ト・プリント	110.0 × 150.0 cm Ed. 3/7
12	写真	ツアオ・フェイ (1978-)	新星 15	2019 年	インクジェッ ト・プリント	110.0 × 150.0 cm Ed. 3/7
13	写真	ツアオ・フェイ (1978-)	新星 18	2019 年	インクジェッ ト・プリント	110.0 × 150.0 cm Ed. 3/7
14	映像	ツアオ・フェイ (1978-)	マトリョーシカ・バース	2022 年	2チャンネル・ ビデオ (HD、 カラー、サウン ド)	37 分 38 秒 Ed. 3/6 + 2 A. P.

15	写真	ツアオ・フェイ (1978-)	マトリョーシカ・バース 01	2022 年	インクジェット・プリント	105.0 × 157.0 cm Ed. 1/6 + 2 A. P.
16	写真	ツアオ・フェイ (1978-)	マトリョーシカ・バース 02	2022 年	インクジェット・プリント	105.0 × 157.0 cm Ed. 1/6 + 2 A. P.
17	写真	ツアオ・フェイ (1978-)	マトリョーシカ・バース 04	2022 年	インクジェット・プリント	105.0 × 157.0 cm Ed. 1/6 + 2 A. P.
18	写真	ツアオ・フェイ (1978-)	マトリョーシカ・バース 06	2022 年	インクジェット・プリント	105.0 × 157.0 cm Ed. 1/6 + 2 A. P.
19	写真	ツアオ・フェイ (1978-)	マトリョーシカ・バース 12	2022 年	インクジェット・プリント	105.0 × 157.0 cm Ed. 1/6 + 2 A. P.
20	写真	ツアオ・フェイ (1978-)	マトリョーシカ・バース 16	2022 年	インクジェット・プリント	105.0 × 157.0 cm Ed. 1/6 + 2 A. P.
21	彫刻	神山明 (1953-2012)	僕が空へ行く夜	1987 年	杉、オイルステイン	187.0 × 190.0 × 56.0 cm
22	写真	志賀理江子 (1980-)	ヤマツツジ食べながら帰った（「螺旋海岸」シリーズより）	2010/25 年	発色現像方式印画	120.0 × 180.0 cm Ed. 3/3
23	写真	志賀理江子 (1980-)	螺旋海岸 45（「螺旋海岸」シリーズより）	2012/25 年	発色現像方式印画	120.0 × 180.0 cm A. P.
24	写真	志賀理江子 (1980-)	螺旋海岸 46 (another cut)（「螺旋海岸」シリーズより）	2010/25 年	発色現像方式印画	120.0 × 180.0 cm A. P.
25	写真	志賀理江子 (1980-)	肉は肉、魚は魚（「螺旋海岸」シリーズより）	2010/25 年	発色現像方式印画	135.0 × 90.0 cm Ed. 3/3
26	写真	志賀理江子 (1980-)	349243（「螺旋海岸」シリーズより）	2012/25 年	発色現像方式印画	135.0 × 90.0 cm Ed. 2/3
27	写真	志賀理江子 (1980-)	螺旋海岸 36（「螺旋海岸」シリーズより）	2010/25 年	発色現像方式印画	135.0 × 90.0 cm Ed. 1/3
28	写真	志賀理江子 (1980-)	螺旋海岸 35（「螺旋海岸」シリーズより）	2009/25 年	発色現像方式印画	135.0 × 90.0 cm Ed. 2/3

29	写真	志賀理江子 (1980-)	歌がだれにもわからない（「螺旋海岸」シリーズより）	2012/25 年	発色現像方式印 画	135.0 × 90.0 cm Ed. 2/3
30	写真	志賀理江子 (1980-)	こどものあそび（「螺旋海岸」シリーズより）	2011/25 年	発色現像方式印 画	135.0 × 90.0 cm Ed. 2/3
31	写真	志賀理江子 (1980-)	おかあさんのやさしい手（「螺旋海岸」シリーズより）	2009/25 年	発色現像方式印 画	135.0 × 90.0 cm Ed. 3/3
32	写真	志賀理江子 (1980-)	螺旋海岸 34（「螺旋海岸」シリーズより）	2010/25 年	発色現像方式印 画	135.0 × 90.0 cm Ed. 1/3
33	洋画	リー・キット (1978-)	Bill	2014 年	アクリル、エマ ルジョン塗料、 インクジェット インク、合板、 タオル	サイズ可変
34	洋画	リー・キット (1978-)	Porn	2025 年	スプレー・ペイ ント、パステ ル、ステンレ ス・スチール	130.0 × 95.0 cm
35	洋画	リー・キット (1978-)	A ripple of disgust	2025 年	スプレー・ペイ ント、パステ ル、ステンレ ス・スチール	150.0 × 110.0 cm
36	洋画	今津景 (1980-)	WEWE	2022 年	油彩、カンバス	194.0 × 162.0 cm
37	洋画	谷澤紗和子 (1982-)	目の前に開ける明るい新しい道	2025 年	アクリル、紙	11 点組 : 300.0 × 370.0 × 70.0 cm
	洋画	谷澤紗和子 (1982-)	目の前に開ける明るい新しい道 (椿)	2025 年	アクリル、紙	53.0 × 53.0 cm
	洋画	谷澤紗和子 (1982-)	彼方の手に触れる	2025 年	アクリル、紙	72.5 × 100.0 cm
	洋画	谷澤紗和子 (1982-)	お喋りの効能（柘榴）	2025 年	アクリル、紙	126.5 × 100.0 cm
	洋画	谷澤紗和子 (1982-)	はいけいちえこさま 2	2025 年	アクリル、紙	72.5 × 100.0 cm
	洋画	谷澤紗和子 (1982-)	はいけいちえこさま 3	2025 年	アクリル、紙	72.5 × 100.0 cm
	洋画	谷澤紗和子 (1982-)	ヒヤシンス	2025 年	アクリル、紙	70.0 × 55.0 cm
	洋画	谷澤紗和子 (1982-)	矯めを解す（重機）	2025 年	アクリル、紙	106.5 × 66.0 cm
	洋画	谷澤紗和子 (1982-)	ヒヤシンス	2025 年	アクリル、紙	102.0 × 49.5 cm
	洋画	谷澤紗和子 (1982-)	お喋りの効能（ポピーとハンヌー ン）	2025 年	アクリル、紙	126.5 × 100.0 cm

	洋画	谷澤紗和子 (1982-)	お喋りの効能 (西瓜)	2025 年	アクリル、紙	106.5 × 120.0 cm
	洋画	谷澤紗和子 (1982-)	目の前に開ける明るい新しい道／矯 めを解す	2025 年	アクリル、紙	72.5 × 100.0 cm
38	彫刻	福田尚代 (1967-)	巡礼／名刺	2008-10 年	名刺に刺繍	99 点組：各 4.6 × 8.9～5.5× 9.1 cm
39	写真	ユキ・キハラ (1975-)	Two Fa'afafine (after Gauguin)	2020/25 年	発色現像方式印 画、アクリルに マウント	94.0 × 72.0 cm Ed. 6/9
40	写真	ユキ・キハラ (1975-)	Nafea e te Fa'aipoipo? When Will You Marry? (after Gauguin)	2020/25 年	発色現像方式印 画、アクリルに マウント	101.0 × 77.0 cm Ed. 4/9
41	写真	ユキ・キハラ (1975-)	Spirit of the Ancestors Watching (after Gauguin)	2020/25 年	発色現像方式印 画、アクリルに マウント	116.0 × 134.6 cm Ed. 2/9
42	写真	ユキ・キハラ (1975-)	Three Fa'afafine (after Gauguin)	2020/25 年	発色現像方式印 画、アクリルに マウント	73.0 × 94.0 cm Ed. 3/9
43	写真	ユキ・キハラ (1975-)	Paul Gauguin with a Hat (after Gauguin)	2020/25 年	発色現像方式印 画、アクリルに マウント	45.0 × 38.0 cm Ed. 2/9
44	写真	ムン・キョンウォ ン&チョン・ジュ ンホ(1969-/1969-)	フリーダム・ヴィレッジ 自由の村 の標識	2017- 21/25 年	デジタルプリン ト	140.0 × 120.0 cm Ed. 2/8 + 2 A. P.
45	写真	ムン・キョンウォ ン&チョン・ジュ ンホ (1969-/1969-)	フリーダム・ヴィレッジ 村の公民 館	2017- 21/25 年	デジタルプリン ト	140.0 × 120.0 cm Ed. 2/8 + 2 A. P.
46	写真	ムン・キョンウォ ン&チョン・ジュ ンホ (1969-/1969-)	フリーダム・ヴィレッジ 予防接種	2017- 21/25 年	デジタルプリン ト	140.0 × 120.0 cm Ed. 2/8 + 2 A. P.
47	写真	ムン・キョンウォ ン&チョン・ジュ ンホ (1969-/1969-)	フリーダム・ヴィレッジ 運動会	2017- 21/25 年	デジタルプリン ト	140.0 × 120.0 cm Ed. 2/8 + 2 A. P.
48	写真	ムン・キョンウォ ン&チョン・ジュ ンホ (1969-/1969-)	フリーダム・ヴィレッジ 都羅山の 展望台	2017- 21/25 年	デジタルプリン ト	140.0 × 120.0 cm Ed. 2/8 + 2 A. P.
49	写真	ムン・キョンウォ ン&チョン・ジュ ンホ (1969-/1969-)	フリーダム・ヴィレッジ フットバ レー 2	2017- 21/25 年	デジタルプリン ト	140.0 × 120.0 cm Ed. 2/8 + 2 A. P.

50	写真	ムン・キョンウォン & チョン・ジュンホ (1969-/1969-)	フリーダム・ヴィレッジ 木に寄りかかって	2017- 21/25 年	デジタルプリント	140.0 × 120.0 cm Ed. 2/8 + 2 A. P.
51	写真	ムン・キョンウォン & チョン・ジュンホ (1969-/1969-)	フリーダム・ヴィレッジ 舞台裏にて	2017- 21/25 年	デジタルプリント	140.0 × 120.0 cm Ed. 2/8 + 2 A. P.
52	写真	上原沙也加 (1993-)	平和の島	2023-25 年	アーカイバル・ ビグメント・プ リント、新聞用 紙にインクジェ ット・プリント	写真(10 点 組) : 各 34.0× 51.0 cm テキスト : 42.0 × 29.8 cm
	写真	上原沙也加 (1993-)	琉球漁民の像があった広場	2024/25 年	アーカイバル・ ビグメント・プ リント	34.0 × 51.0 cm Ed. 2/5 (A2 size)
	写真	上原沙也加 (1993-)	窓の向こうに架かる橋	2024/25 年	アーカイバル・ ビグメント・プ リント	34.0 × 51.0 cm Ed. 2/5 (A2 size)
	写真	上原沙也加 (1993-)	十字架のかたちをした栓抜き	2025 年	アーカイバル・ ビグメント・プ リント	34.0 × 51.0 cm Ed. 2/5 (A2 size)
	写真	上原沙也加 (1993-)	書かれなかった歴史	2024/25 年	アーカイバル・ ビグメント・プ リント	34.0 × 51.0 cm Ed. 2/5 (A2 size)
	写真	上原沙也加 (1993-)	千畳敷と呼ばれる海岸	2024/25 年	アーカイバル・ ビグメント・プ リント	34.0 × 51.0 cm Ed. 2/5 (A2 size)
	写真	上原沙也加 (1993-)	静かなビーチと造船所	2023/25 年	アーカイバル・ ビグメント・プ リント	34.0 × 51.0 cm Ed. 2/5 (A2 size)
	写真	上原沙也加 (1993-)	ばらばらの時間	2024/25 年	アーカイバル・ ビグメント・プ リント	34.0 × 51.0 cm Ed. 2/5 (A2 size)
	写真	上原沙也加 (1993-)	砲台跡からの見はらし	2024/25 年	アーカイバル・ ビグメント・プ リント	34.0 × 50.9 cm Ed. 2/5 (A2 size)

	写真	上原沙也加 (1993-)	十字架のかたちをしたクッキー	2025 年	アーカイバル・ ビグメント・プ リント	34.0 × 51.0 cm Ed. 2/5 (A2 size)
	写真	上原沙也加 (1993-)	基隆市バス 101 番線	2024/25 年	アーカイバル・ ビグメント・プ リント	34.0 × 51.0 cm Ed. 2/5 (A2 size)
53	写真	金川晋吾 (1981-)	香台（「祈り／長崎」より）	2016/25 年	インクジェッ ト・プリント	112.5 × 90.0 cm Ed. 1/5
54	写真	金川晋吾 (1981-)	セルフポートレート（「祈り／長 崎」より）	2016/25 年	インクジェッ ト・プリント	90.0 × 112.5 cm Ed. 1/5
55	写真	金川晋吾 (1981-)	セルフポートレート（「祈り／長 崎」より）	2022/25 年	インクジェッ ト・プリント	90.0 × 112.5 cm Ed. 1/5
56	写真	金川晋吾 (1981-)	長崎刑務所浦上刑務支所跡、平和公 園（「祈り／長崎」より）	2016/25 年	インクジェッ ト・プリント	59.0 × 73.7 cm Ed. 1/5
57	写真	金川晋吾 (1981-)	平和祈念像（「祈り／長崎」より）	2021/25 年	インクジェッ ト・プリント	73.7 × 59.0 cm Ed. 1/5
58	写真	金川晋吾 (1981-)	平和祈念像（「祈り／長崎」より）	2021/25 年	インクジェッ ト・プリント	73.7 × 59.0 cm Ed. 1/5
59	写真	金川晋吾 (1981-)	セルフポートレート（「祈り／長 崎」より）	2025 年	インクジェッ ト・プリント	59.0 × 73.7 cm Ed. 1/5
60	写真	金川晋吾 (1981-)	イエス・キリスト像と浦上（「祈り ／長崎」より）	2015/25 年	インクジェッ ト・プリント	50.0 × 62.5 cm Ed. 1/5
61	写真	金川晋吾 (1981-)	祈り、像（「祈り／長崎」より）	2016/25 年	インクジェッ ト・プリント	62.5 × 50.0 cm Ed. 1/5
62	写真	金川晋吾 (1981-)	うーこんどの（高山右近）、日本二 十六聖人碑（「祈り／長崎」より）	2016/25 年	インクジェッ ト・プリント	50.0 × 62.5 cm Ed. 1/5
63	写真	金川晋吾 (1981-)	被爆者の店（「祈り／長崎」より）	2016/25 年	インクジェッ ト・プリント	50.0 × 62.5 cm Ed. 1/5
64	写真	金川晋吾 (1981-)	祈り、像（「祈り／長崎」より）	2017/25 年	インクジェッ ト・プリント	62.5 × 50.0 cm Ed. 1/5
65	写真	金川晋吾 (1981-)	原子爆弾落下中心碑、浦上天主堂遺 壁（「祈り／長崎」より）	2017/25 年	インクジェッ ト・プリント	50.0 × 62.5 cm Ed. 1/5

66	写真	金川晋吾 (1981-)	仏壇、信心用具（「祈り／長崎」より）	2017/25 年	インクジェット・プリント	50.0 × 62.5 cm Ed. 1/5
67	写真	金川晋吾 (1981-)	セルフポートレート（「祈り／長崎」より）	2021/25 年	インクジェット・プリント	50.0 × 62.5 cm Ed. 1/5
68	写真	杉浦邦恵 (1942-)	Fever	2021 年	ピグメント・プリント、アクリル、黒鉛、カンバス	106.6 × 142.2 cm
69	写真	杉浦邦恵 (1942-)	Nina's Pelvis & Leg	2025 年	ピグメント・プリント、アクリル、黒鉛、カンバス	274.3 × 91.4 cm
70	写真	米田知子 (1965-)	絡まった有刺鉄線と花（非武装地帯近く・チョルウォン・韓国） I	2015 年	発色現像方式印画	65.0 × 83.0 cm Ed. 1/10
71	写真	米田知子 (1965-)	絡まった有刺鉄線と花（非武装地帯近く・チョルウォン・韓国） II	2015 年	発色現像方式印画	83.0 × 65.0 cm Ed. 2/10
72	写真	米田知子 (1965-)	境界線の向こうに絡まる二本の松（北東最前線・ゴソン・韓国）	2015 年	発色現像方式印画	83.0 × 65.0 cm Ed. 1/10
73	写真	米田知子 (1965-)	日本統治時代の氷蔵の壁にある砲弾痕（朝鮮戦争の激戦地チョルウォン・非武装地帯近く・韓国）	2015 年	発色現像方式印画	65.0 × 83.0 cm Ed. 1/10
74	映像	リー・キット (1978-)	Deep inside you never let go	2018 年	シングルチャンネル・ビデオ（カラー、サイレント）	3 分 32 秒（ループ）
75	映像	リー・キット (1978-)	Blank pages	2025 年	ビデオ・プロジェクト	1 分 15 秒（ループ）
76	映像	ムン・キョンウォン & チョン・ジュンホ (1969-/1969-)	未知からの知らせ：フリーダム・ヴィレッジ	2021 年	2 チャンネル・ビデオ・インスタレーション（カラー、サウンド）	14 分 35 秒 Ed. 2/5 + 2 A.P. + 1 exhibition copy
77	映像	志賀理江子 (1980-)	風の吹くとき	2022-25 年	シングルチャンネル・ビデオ（4K、カラー、サウンド）	37 分 7 秒 Ed. 1/1+A.P.
78	映像	飯山由貴 (1988-)	あなたの本当の家を探しにいく	2013 年	シングルチャンネル・ビデオ（HD、カラー、サウンド）	33 分 52 秒 Ed. 9/10+A.P. 2

79	映像	飯山由貴 (1988-)	海の観音さまに会いに行く	2014-20 年	シングルチャン ネル・ビデオ (HD、カラー、 サウンド)	21 分 21 秒 Ed. 1/6+A. P. 2
----	----	-----------------	--------------	--------------	--	------------------------------

別表 15 所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催

ア 東京国立近代美術館						
(本館)						
1	セミナー・シンポジウム タイトル		豊嶋康子 アーティストトーク			
	開催日	令和8年1月10日	場所	地下1階講堂	聴講者数 (人)	55
	講師・パネリスト等の氏名 (職名)	豊嶋康子（アーティスト）、成相肇（美術課主任研究員）				
	内容	ギャラリー4での小企画「没後30年 榎倉康二」に、前年度に収蔵された作品が多数出品されたアーティストの豊嶋康子氏を迎え、当館所蔵品やこれまでの作家活動についてお話しいただいた。				
(国立工芸館)						
1	セミナー・シンポジウム タイトル		「画家と花々 国立西洋美術館のコレクションより」			
	開催日	令和7年5月17日	場所	国立工芸館多目的室	聴講者数 (人)	36
	講師・パネリスト等の氏名 (職名)	講師：陳岡めぐみ（国立西洋美術館主任研究員）				
	内容	「花と暮らす展」に関連し、作品を借用した国立西洋美術館の陳岡めぐみ氏を招へいし、ヨーロッパ絵画における花の描かれ方について解説してもらうトークイベント。				
イ 国立西洋美術館						
1	セミナー・シンポジウム タイトル		エマーユとは？—炎が生んだ色彩の宝石			
	開催日	令和7年4月19日	場所	Zoom ウェビナー	聴講者数 (人)	156
	講師・パネリスト等の氏名 (職名)	飯塚隆（国立西洋美術館主任研究員）				
	内容	小企画展〈梶コレクション展—色彩の宝石、エマーユの美〉関連講演会 ※Zoom ウェビナーによるオンライン講演会				
2	セミナー・シンポジウム タイトル		国立西洋美術館の古典絵画収集を振り返る			
	開催日	令和7年5月17日	場所	Zoom ウェビナー	聴講者数 (人)	372
	講師・パネリスト等の氏名 (職名)	川瀬佑介（国立西洋美術館主任研究員／本展共同監修者）				
	内容	企画展〈西洋絵画、どこから見るか？〉関連講演会 ※Zoom ウェビナーによるオンライン講演会				
3	セミナー・シンポジウム タイトル		スライドトーク 企画展〈西洋絵画、どこから見るか？〉			
	開催日	令和7年4月10日、4月17日、4月25日、5月22日、5月30日	場所	講堂	聴講者数 (人)	424
	講師・パネリスト等の氏名 (職名)	星野琉（展覧会アシスタント）				

	内容	企画展〈西洋絵画、どこから見るか?〉の展覧会概要を説明するもの。ロジャー（デジタルワイヤレス補聴援助システム）を導入。4月25日、5月22日は手話通訳付きの実施。				
4	セミナー・シンポジウム タイトル	ドラ・マールの肖像における帽子のモチーフをめぐって				
	開催日	令和7年8月9日	場所	Zoom ウェビナー	聴講者数 (人)	180
	講師・パネリスト等の氏名 (職名)	久保田有寿（国立西洋美術館特定研究員）				
	内容	小企画展〈ピカソの人物画〉関連講演会 ※Zoom ウェビナーによるオンライン講演会				
5	セミナー・シンポジウム タイトル	フルーニング美術館・国立西洋美術館所蔵 フランドル聖人伝板絵—100 年越しの“再会”				
	開催日	令和7年11月29日	場所	Zoom ウェビナー	聴講者数 (人)	266
	講師・パネリスト等の氏名 (職名)	シュザンネ・ラーメルス（オランダ国立美術史研究所初期ネーデルラント絵画担当キュレーター）、アンナ・コープストラ（フルーニング美術館初期ネーデルラント絵画担当キュレーター）、中田明日佳（国立西洋美術館主任研究員）、高嶋美穂（国立西洋美術館特定研究員）				
	内容	特集展示〈フルーニング美術館・国立西洋美術館所蔵 フランドル聖人伝板絵—100 年越しの“再会”〉関連講演会。4名の講師によるリレー形式の講演会をオンラインで開催した。 ※ただし接続上のトラブルによって内容を一部中断、後日記録動画を申込者に配信した。				
6	セミナー・シンポジウム タイトル	物語る黒線たち——デューラー「三大書物」の木版画				
	開催日	令和8年1月10日	場所	Zoom ウェビナー	聴講者数 (人)	370
	講師・パネリスト等の氏名 (職名)	新藤淳（国立西洋美術館主任研究員）				
	内容	小企画展〈物語る黒線たち——デューラー「三大書物」の木版画〉関連講演会 ※Zoom ウェビナーによるオンライン講演会				

別表 16 シンポジウムの開催等による国内外の優れた研究者等とのネットワークの構築

ア 国立アトリサーチセンター						
1	セミナー・シンポジウム タイトル	NCAR ワークショップ 004 「全国美術館収蔵品サーチ 『SHŪZŌ』 ワークショップ」				
	開催日	令和 7 年 7 月 29 日	場所	オンライン開催	聴講者数 (人)	42
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	川口雅子（国立アトリサーチセンター情報資源グループリーダー） 石黒礼子（国立アトリサーチセンター主任研究員） 手銭和加子（株式会社 TEZEN）				
	内容	「アートプラットフォームジャパン」と「SHŪZŌ」について、事業の経緯や概要を紹介し、画像公開や著作権、さらに今後予定しているジャパン・サーチとの連携について説明した。データ提出から公開までの手順や具体的な提出方法も事例を交えて紹介し、参加者の理解を深めた。質疑応答では多様な質問に対応し、特にデータ品質を支える所蔵番号の重要性について共有を図る機会となった。				
2	セミナー・シンポジウム タイトル	NCAR ワークショップ 005 Single Thread Bonding による破れたキャンバスの補修				
	開催日	令和 7 年 8 月 6 日	場所	NCAR 大会議室	聴講者数 (人)	30
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	土師広（株式会社土師絵画工房代表）				
	内容	令和 6 年度にグティ保存研究所のプロジェクトの一環としてシドニーのニュー・サウス・ウェールズ州立美術館で開催されたキャンバス画修復のワークショップに参加し、Single Thread Bonding の技術を習得した土師氏により、国内の油彩画保存修復専門家向けのワークショップを実施した。				
3	セミナー・シンポジウム タイトル	バーバパパ 55 周年 × 国立工芸館移転開館 5 周年 想いをぎゅっと やきものワークショップ				
	開催日	令和 7 年 8 月 10 日	場所	国立工芸館多目的室	聴講者数 (人)	32
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	十一代大樋長左衛門				
	内容	1970 年にフランスで絵本が登場して以来、どんな形にも変身できるキャラクターとして親しまれてきたバーバパパの 55 周年、そして国立工芸館の移転開館 5 周年を記念した特別企画として開催した。可塑性が高く、手のなかでうごめく土のテクスチャーから生まれるやきものの造形がバーバパパファミリーのフォルムと共通した性質をもつことに着目し、やきもののワークショップを実施した。				
4	セミナー・シンポジウム タイトル	国立新美術館 法人向けアーティスト・ワークショップ SPREAD 『Life Type』				
	開催日	令和 7 年 9 月 5 日	場所	国立新美術館別館 3F	聴講者数 (人)	16
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	クリエイティブ・ユニット SPREAD（山田春奈、小林弘和）				
	内容	法人向けアーティストワークショップ（国立新美術館との共同企画）は、昨今のビジネスシーンにおけるアートへの関心の高まりを踏まえ、ビジネスパーソンに対して、企業活動においては体験できないアートやデザインに触れる場を提供するもの。美術館との接点が少ない企業・団体とのつながりを生み出すとともに、美術館の活動領域を広げることを目的として実施した。 このうち、『Life Type』は、山田春奈と小林弘和によるクリエイティブ・ユニット SPREAD が手掛けるワークショップ。参加者は、自分の人生で起こった出来事や瞬間をふり返り、アルファベットと記号で表現したグラフィック作品を制作する。				

5	セミナー・シンポジウム タイトル	文化財保存修復に関するワークショップー額縁の歴史・技法と保存修復についてー				
	開催日	令和7年10月29日～31日	場所	東京文化財研究所、国立西洋美術館	聴講者数 (人)	66
	講師・パネリスト等の氏名(職名)	バロウ由紀子(ヴィクトリア&アルバート博物館家具・額縁修復士)				
	内容	国立アートリサーチセンター、東京文化財研究所、国立西洋美術館の3機関の共催により、額縁修復に関する知見を日本の専門家と共有するためのワークショップを開催した。 ワークショップは3日間の日程で、各日とも、午前は東京文化財研究所にて講義を行い、午後は国立西洋美術館にて実習を行った。				
6	セミナー・シンポジウム タイトル	講演会 イギリスと日本における額縁の歴史と保存				
	開催日	令和7年11月1日	場所	東京文化財研究所	聴講者数 (人)	69
	講師・パネリスト等の氏名(職名)	バロウ由紀子(ヴィクトリア&アルバート博物館家具・額縁修復士) 中江花菜(東京都美術館学芸員)				
	内容	国立アートリサーチセンター、東京文化財研究所、国立西洋美術館の3機関の共催による、イギリスと日本における額縁製作、額縁修復の歴史について日英の専門家2名による講演会を実施した。 講演後には、ディスカッションを行い、会場からの質疑応答に答える形で、イギリスの美術館での活動や日本における額縁の発展の様子について意見交換する場を設けた。				
7	セミナー・シンポジウム タイトル	NCAR トーク 006「台湾アートシーンを知る！若手キュレーターによるトーク」				
	開催日	令和7年11月21日	場所	NCAR 大会議室	聴講者数 (人)	23
	講師・パネリスト等の氏名(職名)	陳品伊 CHEN Ping-Yi (Dimension Plus) 黃郁捷 HUANG Yujie (新北市美術館) 賴志婷 LAI Chih-ting (桃園市立美術館) 林裕軒 LIN Yuh-suan (インディペンデント・キュレーター) 吳念澄 Nancy Nien-Cheng WU (高雄市立美術館) 高慈敏 Beatrice KAO (台湾国家文化芸術基金会 NCAF) 林欣怡 Cindy LIN (台湾現代文化実験場 C-LAB)				
	内容	台北のみならず台湾の様々な地方の美術館で活躍する若手キュレーターから最新の台湾美術情報が紹介、共有された。新しい美術館が地方で数多く創設され、活発に活動している実態を踏まえ、台北のみならず台湾の地方の美術動向に関する情報を日本の専門家と共有することができた。台湾国家文化芸術基金の活動についても紹介されるなど、有意義な議論が展開された。またトークに引き続き国内の美術関係者とのネットワーキングを行った。				
8	セミナー・シンポジウム タイトル	NCAR トーク 007「ポンピドゥー・センターニューメディア部門キュレーター、フィリップ・ベッティネッリ氏を迎えて」				
	開催日	令和7年11月27日	場所	東京日仏学院	聴講者数 (人)	58
	講師・パネリスト等の氏名(職名)	フィリップ・ベッティネッリ(ポンピドゥー・センターニューメディア部門キュレーター) 畠中実(キュレーション、批評)				
	内容	フランスのポンピドゥー・センターにてニュー・メディアを専門とするキュレーターが、ポンピドゥー・センターにおけるニュー・メディアの展覧会、取り組み、コレクションの歴史等を紹介しつつ、日本のニュー・メディアキュレーターの草分けである畠中実氏とのトークを実施した。日仏双方で充実した議論が交わされ、情報共有とネットワーキングの好機創出につながった。				

9	セミナー・シンポジウム タイトル	NCAR トーク 008「第5回 NCAR スタディ・ツアー（イギリス）報告会—イギリスのアートシーンの現在」				
	開催日	令和7年12月1日	場所	ブリティッシュカウンシル	聴講者数 (人)	26
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	稲垣知里（木下恵介記念館キュレーター） 金秋雨（キュレーター/研究者、「non-syntax」主宰） 伊村靖子（国立新美術館学芸課情報資料室長・主任研究員）				
	内容	英国のスタディツアーの参加者より3名の登壇者を迎えて、映像、アーカイブなどそれぞれが異なる視点から視察の成果を発表し、現在の英国の美術事情を多角的に発信、共有した。ブリティッシュカウンシルが場所の提供や広報協力などを行い、英国に関心を持つ若者から美術専門家に至る様々な参加者とのネットワーク構築にもつながった。				
10	セミナー・シンポジウム タイトル	ワークショップ「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」				
	開催日	令和7年12月10日	場所	三重県総合博物館	聴講者数 (人)	31
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	鈴木智香子（国立アトリサーチセンター研究員） 三重県自閉症協会				
	内容	令和7年度文化庁委託事業「障害者等による文化芸術活動推進事業」を受託し、企画された「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」の一環として行なわれた。本研修は、ミュージアムに関わるあらゆる人を対象としており、全国約50ヶ所から申し込みがあり、eラーニングによる学びの機会を提供した。さらに、その中の10ヶ所に対し訪問をし対面型のワークショップを行なった。 3時間半の中の構成として、前半では「利用者の話を聞く」という時間で障害のある当事者をゲスト講師として招聘。後半ではNCARが開発した「ミュージアム・アクセシビリティマップ」というツールを使ったグループワークを主に行なった。講師は全体進行を行ない、議論が活性化されるファシリテーターとしての役割を担った。 三重県総合博物館では、博物館以外にも県内の文化施設にも声を掛けて職員が集まる機会となった。また、ゲスト講師として地元の自閉症協会の方に登壇してもらうことで地域のネットワーク構築にもつながった。				
11	セミナー・シンポジウム タイトル	国立工芸館 企業・団体向け 日本の工芸レクチャープログラム				
	開催日	令和7年12月18日	場所	国立工芸館多目的室・展示室	聴講者数 (人)	11
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	唐澤昌宏（国立工芸館長） 岩井美恵子（国立工芸館工芸課長） 日南日和（国立工芸館 工芸課教育普及室 特定研究員）				
	内容	企業・団体向け日本の工芸レクチャープログラム（国立工芸館との共同企画）は、いま世界から注目を集める日本の工芸についてレクチャー形式でビジネスパーソンに伝えるとともに、国内他地域・海外からのビジネスユースに応える内容とすることで、観光都市金沢に立地する国立美術館として文化観光振興に資することを目的として、令和7年度から運用開始。 グローバルに交流するビジネスパーソンに対し、日本を代表するアートである「工芸」を知る機会をつくることで、改めて日本文化の学び直しにつなげると同時に、工芸作家（アーティスト）の持つ豊かな技術力や芸術性に触れ、多様な視点や新たな発見・思考を見いだす機会とする。企業の研修の一環として実施した。				
12	セミナー・シンポジウム タイトル	ワークショップ「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」				
	開催日	令和7年12月18日	場所	山形美術館	聴講者数 (人)	15

	講師・パネリスト等の氏名（職名）	伊東俊祐（国立アトリサーチセンター客員研究員） 平間みゆき				
	内容	令和7年度文化庁委託事業「障害者等による文化芸術活動推進事業」を受託し、企画された「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」の一環として行なわれた。本研修は、ミュージアムに関わるあらゆる人を対象としており、全国約50ヶ所から申し込みがあり、eラーニングによる学びの機会を提供した。さらに、その中の10ヶ所に対し訪問をし対面型のワークショップを行なった。 3時間半の中の構成として、前半では「利用者の話を聞く」という時間で障害のある当事者をゲスト講師として招聘。後半ではNCARが開発した「ミュージアム・アクセシビリティマップ」というツールを使ったグループワークを主に行なった。講師は全体進行を行ない、議論が活性化されるファシリテーターとしての役割を担った。 山形美術館では、美術館以外にも県内の博物館に声を掛けて職員が集まる機会となり、また地域の大学教員やデザイナー等、多様な職種の人が共にミュージアムについて語り合うことができた。				
13	セミナー・シンポジウム タイトル	国立新美術館 法人向けアーティスト・ワークショップ 流 麻二果『日本の色』				
	開催日	令和7年12月19日	場所	国立新美術館別館 3F	聴講者数（人）	7
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	流麻二果（アーティスト）				
	内容	法人向けアーティストワークショップ（国立新美術館との共同企画）は、昨今のビジネスシーンにおけるアートへの関心の高まりを踏まえ、ビジネスパーソンに対して、企業活動においては体験できないアートやデザインに触れる場を提供するもの。美術館との接点が少ない企業・団体とのつながりを生み出すとともに、美術館の活動領域を広げることが目的として実施した。 このうち、＜1＞『日本の色』は、アーティストの流麻二果氏によるワークショップ。「色と向き合うことで、100人いれば100通りのものの見方、感じ方があることを意識する」をコンセプトとして、企業の研修の一環として実施した。				
14	セミナー・シンポジウム タイトル	ワークショップ「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」				
	開催日	令和7年12月19日	場所	横浜市芸術文化振興財団	聴講者数（人）	23
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	稲庭彩和子（国立アトリサーチセンター主任研究員） 山本洋子				
	内容	令和7年度文化庁委託事業「障害者等による文化芸術活動推進事業」を受託し、企画された「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」の一環として行なわれた。本研修は、ミュージアムに関わるあらゆる人を対象としており、全国約50ヶ所から申し込みがあり、eラーニングによる学びの機会を提供した。さらに、その中の10ヶ所に対し訪問をし、対面型のワークショップを行なった。 3時間半の中の構成として、前半では「利用者の話を聞く」という時間で障害のある当事者をゲスト講師として招聘。後半ではNCARが開発した「ミュージアム・アクセシビリティマップ」というツールを使ったグループワークを主に行なった。講師は全体進行を行ない、議論が活性化されるファシリテーターとしての役割を担った。 横浜市芸術文化振興財団では、財団内の職員同士が交流する機会として充実した議論ができた。				
15	セミナー・シンポジウム タイトル	ワークショップ「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」				
	開催日	令和8年1月8日	場所	むかわ町穂別博物館	聴講者数（人）	18
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	鈴木智香子（国立アトリサーチセンター研究員） 伊東俊祐（国立アトリサーチセンター客員研究員）				

	内容	令和7年度文化庁委託事業「障害者等による文化芸術活動推進事業」を受託し、企画された「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」の一環として行なわれた。本研修は、ミュージアムに関わるあらゆる人を対象としており、全国約50ヶ所から申し込みがあり、eラーニングによる学びの機会を提供した。さらに、その中の10ヶ所に対し訪問をし、対面型のワークショップを行なった。 3時間半の中の構成として、前半では「利用者の話を聞く」という時間で障害のある当事者を招聘（むかわ町穂別博物館では、伊東がその役割を担った）。後半ではNCARが開発した「ミュージアム・アクセシビリティマップ」というツールを使ったグループワークを主に行なった。講師は全体進行を行ない、議論が活性化されるファシリテーターとしての役割を担った。 むかわ町穂別博物館では、博物館職員だけでなく町役場の職員、そして地域住民も参加されたことでミュージアムの未来像を地域全体で議論することにつながった。				
16	セミナー・シンポジウム タイトル	ワークショップ「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」				
	開催日	令和8年1月14日	場所	水戸芸術館	聴講者数 (人)	15
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	鈴木智香子（国立アトリサーチセンター研究員） 澁谷史子（NPO 法人ともに歩む認知症の会・茨城） 平みき（NPO 法人ともに歩む認知症の会・茨城）				
	内容	令和7年度文化庁委託事業「障害者等による文化芸術活動推進事業」を受託し、企画された「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」の一環として行なわれた。本研修は、ミュージアムに関わるあらゆる人を対象としており、全国約50ヶ所から申し込みがあり、eラーニングによる学びの機会を提供した。さらに、その中の10ヶ所に対し訪問をし、対面型のワークショップを行なった。 3時間半の中の構成として、前半では「利用者の話を聞く」という時間で障害のある当事者をゲスト講師として招聘。後半ではNCARが開発した「ミュージアム・アクセシビリティマップ」というツールを使ったグループワークを主に行なった。講師は全体進行を行ない、議論が活性化されるファシリテーターとしての役割を担った。 水戸芸術館では、職員同士の交流の機会として充実した議論ができた。				
17	セミナー・シンポジウム タイトル	ワークショップ「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」				
	開催日	令和8年1月21日	場所	富山県立美術館	聴講者数 (人)	21
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	鈴木智香子（国立アトリサーチセンター研究員） 山下信吾				
	内容	令和7年度文化庁委託事業「障害者等による文化芸術活動推進事業」を受託し、企画された「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」の一環として行なわれた。本研修は、ミュージアムに関わるあらゆる人を対象としており、全国約50ヶ所から申し込みがあり、eラーニングによる学びの機会を提供した。さらに、その中の10ヶ所に対し訪問をし、対面型のワークショップを行なった。 3時間半の中の構成として、前半では「利用者の話を聞く」という時間で障害のある当事者をゲスト講師として招聘。後半ではNCARが開発した「ミュージアム・アクセシビリティマップ」というツールを使ったグループワークを主に行なった。講師は全体進行を行ない、議論が活性化されるファシリテーターとしての役割を担った。 富山県立美術館では、職員同士の交流の機会として充実した議論ができ、またNPO 法人エイブル・アート・ジャパンにゲストのコーディネート委託をしたことで、障害者芸術文化活動普及支援センターの富山支部である「ばーと◎とやま」と繋がることができ、地元のネットワークの活性につながった。				

18	セミナー・シンポジウム タイトル	ワークショップ「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」				
	開催日	令和8年1月29日	場所	川崎市市民ミュージアム	聴講者数 (人)	29
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	稲庭彩和子（国立アトリサーチセンター主任研究員） 澤村実希（川崎市視覚障害支援センター） 武村桂子（朗読ボランティアグループ「さんざし」） 佐藤好子（朗読ボランティアグループ「さんざし」）				
	内容	令和7年度文化庁委託事業「障害者等による文化芸術活動推進事業」を受託し、企画された「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」の一環として行なわれた。本研修は、ミュージアムに関わるあらゆる人を対象としており、全国約50ヶ所から申し込みがあり、eラーニングによる学びの機会を提供した。さらに、その中の10ヶ所に対し訪問をし、対面型のワークショップを行なった。 3時間半の中の構成として、前半では「利用者の話を聞く」という時間で障害のある当事者をゲスト講師として招聘。後半ではNCARが開発した「ミュージアム・アクセシビリティマップ」というツールを使ったグループワークを主に行なった。講師は全体進行を行ない、議論が活性化されるファシリテーターとしての役割を担った。 川崎市市民ミュージアムでは、市内の他文化施設にも声を掛けて職員が集まる機会となり、またNPO法人エイブル・アート・ジャパンにゲストをコーディネート委託をしたことで、地域の障害者協会等と繋がることができた。				
19	セミナー・シンポジウム タイトル	ワークショップ「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」				
	開催日	令和8年2月2日	場所	福岡県立美術館	聴講者数 (人)	28
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	稲庭彩和子（国立アトリサーチセンター主任研究員） 篠塚毅（福岡県聴覚障害者協会）				
	内容	令和7年度文化庁委託事業「障害者等による文化芸術活動推進事業」を受託し、企画された「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」の一環として行なわれた。本研修は、ミュージアムに関わるあらゆる人を対象としており、全国約50ヶ所から申し込みがあり、eラーニングによる学びの機会を提供した。さらに、その中の10ヶ所に対し訪問をし対面型のワークショップを行なった。 3時間半の中の構成として、前半では「利用者の話を聞く」という時間で障害のある当事者をゲスト講師として招聘。後半ではNCARが開発した「ミュージアム・アクセシビリティマップ」というツールを使ったグループワークを主に行なった。講師は全体進行を行ない、議論が活性化されるファシリテーターとしての役割を担った。 福岡県立美術館設置準備室では、美術館以外にも県内の美術館にも声を掛けて職員が集まる機会となり、リニューアルを機にミュージアムのあり方を議論する機会となった。				
20	セミナー・シンポジウム タイトル	ワークショップ「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」				
	開催日	令和8年2月3日	場所	国立西洋美術館	聴講者数 (人)	46
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	鈴木智香子（国立アトリサーチセンター研究員） 石川寛和 木下路徳 高橋史月 西岡克浩 橋口亜希子 藤倉千裕				

	内容	令和7年度文化庁委託事業「障害者等による文化芸術活動推進事業」を受託し、企画された「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」の一環として行なわれた。本研修は、ミュージアムに関わるあらゆる人を対象としており、全国約50ヶ所から申し込みがあり、eラーニングによる学びの機会を提供した。さらに、その中の10ヶ所に対し訪問をし対面型のワークショップを行なった。 3時間半の中の構成として、前半では「利用者の話を聞く」という時間で障害のある当事者をゲスト講師として招聘。後半ではNCARが開発した「ミュージアム・アクセシビリティマップ」というツールを使ったグループワークを主に行なった。講師は全体進行を行ない、議論が活性化されるファシリテーターとしての役割を担った。 国立西洋美術館では、職員同士の交流の機会として充実した議論ができた。				
21	セミナー・シンポジウム タイトル	ワークショップ「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」				
	開催日	令和8年2月5日	場所	神奈川県立歴史博物館	聴講者数 (人)	18
	講師・パネリスト等の氏名(職名)	鈴木智香子(国立アトリサーチセンター研究員) 奥野康子(NPO法人フュージョンコムかながわ)				
	内容	令和7年度文化庁委託事業「障害者等による文化芸術活動推進事業」を受託し、企画された「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」の一環として行なわれた。本研修は、ミュージアムに関わるあらゆる人を対象としており、全国約50ヶ所から申し込みがあり、eラーニングによる学びの機会を提供した。さらに、その中の10ヶ所に対し訪問をし対面型のワークショップを行なった。 3時間半の中の構成として、前半では「利用者の話を聞く」という時間で障害のある当事者をゲスト講師として招聘。後半ではNCARが開発した「ミュージアム・アクセシビリティマップ」というツールを使ったグループワークを主に行なった。講師は全体進行を行ない、議論が活性化されるファシリテーターとしての役割を担った。 神奈川県立歴史博物館では、職員同士の交流の機会として充実した議論ができた。				
22	セミナー・シンポジウム タイトル	NCAR シンポジウム 006 ミュージアムと気候変動 —サステナブルな未来に向けて				
	開催日	令和8年2月28日	場所	国立新美術館講堂	聴講者数 (人)	149
	講師・パネリスト等の氏名(職名)	フランシス・モリス(キュレーター、美術史家、Gallery Climate Coalition(ギャラリー気候連合)理事長) 茅野恒秀(法政大学社会学部教授、信州大学特任教授) 半田昌之(公益財団法人日本博物館協会専務理事、ICOM日本委員会事務局長) 秋山純子(独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所 保存科学研究センター 保存環境研究室室長) 相澤邦彦(ヤマト運輸株式会社 グローバルロジスティクス部 美術品ロジスティクス課 スペシャルアドバイザー/コンサヴァーター) 塩見有子(NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT/エイト]ディレクター) ロジャー・マクドナルド(NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT/エイト]共同設立者・グリーンチーム リーダー、フェンバーガーハウス館長、多津衛民藝館館長) 片岡真実(国立アトリサーチセンター長)				
	内容	ミュージアムの気候変動対応について国際的な動向や事例研究から学び、我が国のミュージアムが気候変動に関して抱える課題や実態について検証しながら、意識喚起と具体的なアクションに向けた議論を深めた。				

イ 東京国立近代美術館						
(本館)						
1	セミナー・シンポジウム タイトル	ヒルマ・アフ・クリント展 岡崎乾二郎講演会「ヒルマ・アフ・クリントに驚くこと、知ること」				
	開催日	令和7年5月31日	場所	東京国立近代美術館講堂	聴講者数 (人)	140
	講師・パネリスト等の氏名 (職名)	岡崎乾二郎氏 (造形作家・批評家)				
	内容	造形作家・批評家の岡崎乾二郎氏をお招きし、本展図録に寄稿いただいたテキスト「認識の階梯——ヒルマ・アフ・クリントの絵画」で展開された論を中心に、ヒルマ・アフ・クリントの作品の重要性についてお話しいただいた。				
2	セミナー・シンポジウム タイトル	アンチ・アクション 彼女たち、それぞれの応答と挑戦				
	開催日	令和7年12月20日	場所	東京国立近代美術館講堂	聴講者数 (人)	150
	講師・パネリスト等の氏名 (職名)	中嶋泉氏 (本展学術協力者・大阪大学大学院人文学研究科准教授)				
	内容	書籍『アンチ・アクションー日本戦後絵画と女性画家』(2019年)の著者であり、本展に学術協力をいただいた中嶋泉氏をお招きし、「アンチ・アクション」という造語を提唱するに至った背景や、ジェンダー研究の最新動向を汲むご研究の内容、そして本展とのかかわりについてお話しいただいた。				
3	セミナー・シンポジウム タイトル	下村観山展記念講演会				
	開催日	令和8年3月22日	場所	東京国立近代美術館講堂	聴講者数 (人)	149
	講師・パネリスト等の氏名 (職名)	小林健二氏 (国文学研究資料館名誉教授) 中村麗子 (東京国立近代美術館主任研究員)				
	内容	小林健二氏 (国文学研究資料館名誉教授)をお招きし、下村観山と能の関係について本展担当研究員とお話しいただいた。				
(国立工芸館)						
1	セミナー・シンポジウム タイトル	ルーシー・リー展関連トークイベント 日本におけるルーシー・リーの受容				
	開催日	令和7年9月20日	場所	国立工芸館多目的室	聴講者数 (人)	41
	講師・パネリスト等の氏名 (職名)	講師：出川哲朗 (大阪市立東洋陶磁美術館名誉館長) 聞き手：岩井美恵子 (国立工芸館工芸課長)				
	内容	「ルーシー・リー展」の関連イベントとして、ルーシー・リーを初めて大々的に紹介した三宅一生監修展で巡回館担当者であった大阪市立東洋陶磁美術館名誉館長の出川哲朗氏に当時の状況を話していただくトークイベント。加えてルーシー・リーと物理学の関係についても解説いただいた。 *石川県との連携事業として開催				
2	セミナー・シンポジウム タイトル	ひと、能登、アート。 関連イベント 東京国立博物館研究員による3館合同展示解説				
	開催日	令和7年12月14日	場所	国立工芸館多目的室	聴講者数 (人)	36
	講師・パネリスト等の氏名 (職名)	講師：三笠景子 (東京国立博物館学芸研究部調査研究課東洋室長)				

	内容	「ひと、能登、アート。」関連イベントとして、石川県立美術館、金沢 21 世紀美術館と 3 館合同展示解説を行った。国立工芸館では東京国立博物館学芸調査部調査研究課東洋室長の三笠景子氏に展示作品について解説いただいた。				
3	セミナー・シンポジウム タイトル	工芸と天気展開関連イベント 輪島の天気・自然と作品制作				
	開催日	令和 7 年 12 月 20 日	場所	国立工芸館多目的室	聴講者数 (人)	45
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	登壇者：山岸一男（漆芸家、重要無形文化財「沈金」保持者）、池津勝教（NHK 金沢放送局「かがのど」気象予報士） 聞き手：唐澤昌宏（国立工芸館長）				
	内容	「工芸と天気展」の関連イベントとして開催。石川県在住の漆芸の人間国宝、山岸一男氏に天気や気候と漆芸制作の関係性を、また NHK の気象予報士である池津勝教氏に石川県の天気の特徴などを解説いただいた。 ＊石川県との連携事業として開催				
4	セミナー・シンポジウム タイトル	ルネ・ラリック展開関連イベント ラリックの革新ーガラス宝飾の魅力ー				
	開催日	令和 8 年 3 月 28 日	場所	国立工芸館多目的室	聴講者数 (人)	42
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	講師：土田ルリ子（富山ガラス美術館長）				
	内容	「ルネ・ラリック展」に関連し、富山市ガラス美術館長の土田ルリ子氏を招へいし、ガラス公職の歴史から、フランスの工芸作家ラリック（1860-1945）の作品制作について解説してもらうトークイベント。				
ウ 京都国立近代美術館						
1	セミナー・シンポジウム タイトル	講演会「〈若きポーランド〉とは何か？」				
	開催日	令和 7 年 4 月 19 日	場所	1 階講堂	聴講者数 (人)	48
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	関口時正（東京外国語大学名誉教授）				
	内容	展覧会「〈若きポーランド〉ー色彩と魂の詩 1890-1918」の関連イベントとして、東京外国語大学名誉教授の関口時正氏を迎え、講演会を開催した。				
2	セミナー・シンポジウム タイトル	ギャラリートーク（インスタ LIVE）				
	開催日	令和 7 年 5 月 18 日	場所	3 階展示室（公開はオンライン配信のみ）	聴講者数 (人)	－
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	池田祐子（三菱一号館美術館館長・展覧会監修者）、小野真司（京都国立近代美術館研究員・展覧会担当者）				
	内容	展覧会「〈若きポーランド〉ー色彩と魂の詩 1890-1918」の関連イベントとして、三菱一号館美術館館長で展覧会監修者でもある池田祐子氏を迎え、ギャラリートークを実施した。				
3	セミナー・シンポジウム タイトル	講演会「《アンヘッリ》——詩人と画家が語るシベリア流刑」				
	開催日	令和 7 年 5 月 31 日	場所	1 階講堂	聴講者数 (人)	34
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	関口時正（東京外国語大学名誉教授）				

	内容	展覧会「〈若きポーランド〉—色彩と魂の詩 1890-1918」の関連イベントとして、東京外国語大学名誉教授の関口時正氏を迎え、講演会を開催した。				
4	セミナー・シンポジウム タイトル	アーティスト・トーク「信頼できない語り手」				
	開催日	令和7年10月25日	場所	1階講堂	聴講者数 (人)	31
	講師・パネリスト等の氏名(職名)	荒木悠(アーティスト・映画監督)、渡辺亜由美(京都国立近代美術館特定研究員・展覧会担当者)				
	内容	展覧会「キュレトリアル・スタディズ16: 荒木悠 Reorienting —100年前に海を渡った作家たちとー」の関連イベントとして、出品作家の荒木悠氏を迎え、アーティスト・トークを実施した。				
5	セミナー・シンポジウム タイトル	講演会「堂本印象の多彩な表現力—芸術家としての人生とともに—」				
	開催日	令和7年11月1日	場所	1階講堂	聴講者数 (人)	54
	講師・パネリスト等の氏名(職名)	松尾敦子(京都府立堂本印象美術館主任学芸員)				
	内容	展覧会「没後50年 堂本印象 自在なる創造」の関連イベントとして、京都府立堂本印象美術館主任学芸員の松尾敦子氏を迎え、講演会を開催した。				
6	セミナー・シンポジウム タイトル	ギャラリートーク(インスタLIVE)				
	開催日	令和7年11月8日	場所	4階展示室(公開はオンライン配信のみ)	聴講者数 (人)	—
	講師・パネリスト等の氏名(職名)	荒木悠(アーティスト・映画監督)、渡辺亜由美(京都国立近代美術館特定研究員・展覧会担当者)				
	内容	展覧会「キュレトリアル・スタディズ16: 荒木悠 Reorienting —100年前に海を渡った作家たちとー」の関連イベントとして、出品作家の荒木悠氏を迎え、ギャラリートークを実施した。				
7	セミナー・シンポジウム タイトル	ギャラリートーク&おしゃべりアワー				
	開催日	令和7年12月6日	場所	4階展示室	聴講者数 (人)	30
	講師・パネリスト等の氏名(職名)	荒木悠(アーティスト・映画監督)、渡辺亜由美(京都国立近代美術館特定研究員・展覧会担当者)				
	内容	展覧会「キュレトリアル・スタディズ16: 荒木悠 Reorienting —100年前に海を渡った作家たちとー」の関連イベントとして、出品作家の荒木悠氏を迎え、ギャラリートークを実施した。				
8	セミナー・シンポジウム タイトル	アーティスト・トーク「In Our Time」 「日常、偶然性、脆さ」				
	開催日	令和7年12月20日	場所	1階講堂	聴講者数 (人)	80
	講師・パネリスト等の氏名(職名)	藤本由紀夫、竹村京、毛利悠子				
	内容	展覧会「セカイノコトワリ—私たちの時代の美術」の関連イベントとして、出品作家である藤本由紀夫氏、竹村京氏、毛利悠子氏を迎え、アーティスト・トークを実施した。				
9	セミナー・シンポジウム タイトル	アーティスト・トーク「In Our Time」 「産業、手仕事」				
	開催日	令和8年1月12日	場所	1階講堂	聴講者数 (人)	80
	講師・パネリスト等の氏名(職名)	青山悟、手塚愛子、志村信裕				

	内容	展覧会「セカイノコトワリー私たちの時代の美術」の関連イベントとして、出品作家である青山悟氏、手塚愛子氏、志村信裕氏を迎え、アーティスト・トークを実施した。				
10	セミナー・シンポジウム タイトル	アーティスト・トーク「In Our Time」 「寓話、労働、アイデンティティ」				
	開催日	令和8年1月24日	場所	1階講堂	聴講者数 (人)	71
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	森村泰昌、松井智恵、やなぎみわ				
	内容	展覧会「セカイノコトワリー私たちの時代の美術」の関連イベントとして、出品作家である森村泰昌氏、松井智恵氏、やなぎみわ氏を迎え、アーティスト・トークを実施した。				
11	セミナー・シンポジウム タイトル	ギャラリートーク（インスタ LIVE）				
	開催日	令和8年2月9日	場所	4階展示室（公開はオンライン配信のみ）	聴講者数 (人)	—
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	ひろいのぶこ（作家）、村山順子（作家）、宮川智美（京都国立近代美術館研究員・展覧会担当者）				
	内容	展覧会「キュレトリアル・スタディズ 17：日常の二重性—テクニスタイルの表現からみる—」の関連イベントとして、出品作家のひろいのぶこ氏、村山順子氏を迎え、ギャラリートークを実施した。				
12	セミナー・シンポジウム タイトル	アーティスト・トーク「In Our Time」 「身体性と知覚」				
	開催日	令和8年2月11日	場所	1階講堂	聴講者数 (人)	77
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	石原友明、小谷元彦、西條茜				
	内容	展覧会「セカイノコトワリー私たちの時代の美術」の関連イベントとして、出品作家である石原友明氏、小谷元彦氏、西條茜氏を迎え、アーティスト・トークを実施した。				
13	セミナー・シンポジウム タイトル	アーティスト・トーク「In Our Time」 「歴史と社会への眼差し」				
	開催日	令和8年2月28日	場所	1階講堂	聴講者数 (人)	50
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	笠原恵実子、風間サチコ、原田裕規				
	内容	展覧会「セカイノコトワリー私たちの時代の美術」の関連イベントとして、出品作家である笠原恵実子氏、風間サチコ氏、原田裕規氏を迎え、アーティスト・トークを実施した。				
エ 国立映画アーカイブ						
1	セミナー・シンポジウム タイトル	TIFF 映画教育国際シンポジウム 2025 ～映画教育のネットワークと担い手の課題～				
	開催日	令和7年11月1日	場所	小ホール	聴講者数 (人)	136
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	第1部 日本の映画教育が抱える課題 「日本の映画教育が抱える課題：ネットワークづくりと担い手育成」 《登壇者》 土肥悦子（一般社団法人こども映画教室®代表理事） 藤原杏奈（NPO 法人キンダーフィルムフェスト・きょうと理事長） 三好大輔（映画監督／一般社団法人まなざしのアーカイブ代表理事） 山崎紀子（シネ・ヌーヴォ支配人） 司会：工藤雅子（株式会社チャイルド・フィルム代表）				

2		第2部 オランダ／スペインの事例 「オランダにおける映画教育の全国ネットワーク」 《登壇者》フェールレ・スナイダーズ（アイ・フィルムミュージアム映画教育ネットワーク・マネージャー／オランダ） 「シネマ・アン・クルス（スペイン）の担い手の育成カリキュラム」 《登壇者》新谷和輝（映画研究者） 《特別ゲスト》ジャウメ・クラレット・ムシャート（映画監督／シネマ・アン・クルス卒業生） 第3部 パネルディスカッション・質疑応答 「どうやって課題を解決するか」 《登壇者》 岩崎ゆう子（一般社団法人コミュニティシネマセンター事務局長） 田村順也（文化庁 参事官（芸術文化担当）付芸術文化調査官） 諏訪敦彦（映画監督／東京藝術大学教授） 布山タルト（アニメーション作家／東京藝術大学教授） 三好大輔 司会：富田美香（国立映画アーカイブ 主任研究員） 《フロアからの参加》 イ・サンヨン（釜山国際児童青少年映画祭プログラミング・ディレクター） フェールレ・スナイダーズ ジャウメ・クラレット・ムシャート 藤原杏奈 工藤雅子 土肥悦子				
	内容	主催：公益財団法人ユニジャパン（第38回東京国際映画祭実行委員会） 共催：東京都、国立映画アーカイブ 企画・運営：一般社団法人こども映画教室® 内容：国立映画アーカイブでは「こども映画館」など小中学生を主な対象とした事業を2002年から毎年開催しており、2023年度には初めて東京国際映画祭（TIFF）と「映画教育国際シンポジウム」を共催した。3回目の開催として、日本各地で映画教育に奮闘している人々の「ネットワークづくり」と「担い手の育成」をテーマに掲げ、映画教育のネットワークを全国的に展開しているオランダと映画教育の担い手育成のカリキュラムを実施しているスペインの事例を紹介し、ディスカッションを行った。シンポジウムの記録映像は後日、YouTube上で公開した。				
	セミナー・シンポジウム タイトル	映画と義太夫——義太夫出語り上映を再現する				
	開催日	令和7年7月18日	場所	早稲田大学小野記念講堂	聴講者数 (人)	119
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	【第一部】 解説 登壇者：柴田 康太郎（早稲田大学演劇博物館招聘研究員）、富田美香（国立映画アーカイブ主任研究員） 上映 『旧劇 太功記十段目 尼ヶ崎の場』（17分） 旧劇『朝顔日記』（11分） 浄瑠璃：竹本京之助 三味線：鶴澤津賀寿 【第二部】 トークセッション 登壇者：鶴澤 津賀寿（女流義太夫三味線）				

3		竹本 京之助（女流義太夫太夫） 児玉 竜一（早稲田大学文学学術院教授、同演劇博物館長）				
	内容	主催：早稲田大学演劇映像学連携研究拠点、国立映画アーカイブ 協力：科学研究費若手研究「アメリカの日系移民向けの映画供給と映画興行の研究」（研究代表者・柴田康太郎） 内容：初期の日本映画は歌舞伎（旧劇）や新派の舞台をモデルに作られ、時には義太夫出語り上映も行われていた。ところが初期の日本映画は現存数が極めて限られていることもあり、かつて各地で行なわれた多彩な声を伴う上映はいまやほとんど忘れられている。令和6年度の「映画と義太夫：旧劇映画の声と音」で義太夫出語り上映を試みるうえでの課題やその可能性を検証したことをふまえ、竹本京之助氏、鶴澤津賀寿氏の協力を得て、旧劇映画の女流義太夫による出語り上映を試みた。				
	セミナー・シンポジウム タイトル	全国映画資料アーカイブサミット 2026				
	開催日	令和8年1月23日	場所	オンライン開催	聴講者数（人）	220
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	【第1部/報告】 テーマ：令和7年度アーカイブ中核拠点形成モデル事業の実施概要について 登壇者：佐藤友則 氏（事務局） 【第2部/報告】 テーマ：国立映画アーカイブの映画資料を活用した教育普及事業 登壇者：玉田健太（国立映画アーカイブ主任研究員）、宮本法明（国立映画アーカイブ任期付研究員） 【第3部/セミナー】 テーマ：ケーススタディで学ぶ、映画資料アーカイブの権利関係 講 師：数藤雅彦（五常総合法律事務所 パートナー弁護士） 【第4部/報告】 テーマ：映画資料展—2025年現地報告 1. 映画字幕翻訳の仕事 ——1秒4文字の魔術（会場：鎌倉市川喜多映画記念館） 登壇者：馬場祐輔（鎌倉市川喜多映画記念館 総括責任者） 2. 川辺 弘一 映画コレクション展（会場：羽島市映画資料館） 登壇者：近藤良一（羽島市映画資料館 相談役） 【第5部/報告】 テーマ：映画資料から生まれた映画『ファントム・ライダーズ』二部作をめぐって 講 師：佐々木友輔（鳥取大学准教授）、杵島和泉（神戸大学大学院生） 【第6部/報告】 テーマ：書籍「日本アニメーション映画史」収録作品目録の改訂とウェブ版作成について 講 師：松山 ひとみ（神戸映画資料館研究員） 【第7部/セミナー】 テーマ：海外に広がる日本映画資料 - イェール大学図書館の日本映画コレクションについて 講 師：アaron・ジェロー（イェール大学教授）				
	内容	主催：国立映画アーカイブ（令和7年度アーカイブ中核拠点形成モデル事業） 運営：特定非営利活動法人映像産業振興機構 内容：アーカイブ中核拠点形成モデル事業の一環で、毎年オンライン開催しており、映画資料所蔵館、映画関係者、研究者、アーカイブ関係者など様々な属性の機関や個人の参加があった。令和7年度は、リサーチプロジェクトから生まれた映画、「日本アニメーション映画史」収録作品目録の改訂・Web作成プロジェクト、2025年に開催された映画資料展、NFAJの映画資料を活用した教育普及事業に関する報告の他、海外で構築された映画資料コレクションの事例としてイェール大学図書館の日本映画コレクションについてのセミナーを行った。また、映画資料の保存・活用に必要な著作権等について学ぶセミナーは、今回はケーススタディ形式で行われた。				

オ 国立西洋美術館						
1	セミナー・シンポジウム タイトル	18 世紀フランスの女性芸術家たち：マリー＝アントワネットの時代の美				
	開催日	令和 7 年 4 月 5 日	場所	講堂	聴講者数 (人)	104
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	小林亜起子（多摩美術大学専任講師）				
	内容	企画展〈西洋絵画、どこから見るか？〉関連講演会				
2	セミナー・シンポジウム タイトル	スウェーデン国立美術館のあゆみ—コレクションとその社会的使命				
	開催日	令和 7 年 7 月 3 日	場所	講堂	聴講者数 (人)	86
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	パトリック・アムセラム（スウェーデン国立美術館館長）				
	内容	企画展〈スウェーデン国立美術館 素描コレクション展〉開催記念特別講演会				
3	セミナー・シンポジウム タイトル	ルネサンスからバロックの西洋素描—技法・役割・歴史				
	開催日	令和 7 年 7 月 19 日	場所	Zoom ウェビナー	聴講者数 (人)	264
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	中田明日佳（国立西洋美術館主任研究員／本展担当）				
	内容	企画展〈スウェーデン国立美術館 素描コレクション展〉関連講演会				
4	セミナー・シンポジウム タイトル	西洋素描の話—イタリアを中心に				
	開催日	令和 7 年 8 月 2 日	場所	講堂	聴講者数 (人)	86
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	越川倫明（東京藝術大学教授）				
	内容	企画展〈スウェーデン国立美術館 素描コレクション展〉関連講演会				
5	セミナー・シンポジウム タイトル	スウェーデン国立美術館におけるオールド・マスターの素描—コレクションの歴史をたどる				
	開催日	令和 7 年 9 月 6 日	場所	Zoom ウェビナー	聴講者数 (人)	191
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	カリーナ・フリクルンド（スウェーデン国立美術館キュレーター）				
	内容	企画展〈スウェーデン国立美術館 素描コレクション展〉関連講演会 ※Zoom ウェビナーによるオンライン講演会				
6	セミナー・シンポジウム タイトル	スライドトーク 企画展〈スウェーデン国立美術館 素描コレクション展〉				
	開催日	令和 7 年 7 月 4 日、7 月 10 日、7 月 24 日、8 月 7 日、8 月 29 日、9 月 12 日	場所	講堂	聴講者数 (人)	267
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	町野陽輝（展覧会アシスタント）				
	内容	企画展〈スウェーデン国立美術館 素描コレクション展〉の展覧会概要を説明するもの。ロジャー（デジタルワイヤレス補聴援助システム）を導入。7 月 24 日、8 月 29 日は手話通訳付きの実施。				

7	セミナー・シンポジウム タイトル	印象派の室内—展覧会から読み解く画家・作品・主題				
	開催日	令和7年10月25日	場所	講堂	聴講者数 (人)	96
	講師・パネリスト 等の氏名(職名)	アンヌ・ロビンス(オルセー美術館絵画学芸員)				
	内容	企画展〈オルセー美術館所蔵 印象派—室内をめぐる物語〉開催記念特別講演会				
8	セミナー・シンポジウム タイトル	室内に宿る美—印象派と装飾／芸術の時代				
	開催日	令和7年12月6日	場所	Zoom ウェビナー	聴講者数 (人)	353
	講師・パネリスト 等の氏名(職名)	天野知香(お茶の水女子大学名誉教授)				
	内容	企画展〈オルセー美術館所蔵 印象派—室内をめぐる物語〉関連講演会 ※Zoom ウェビナーによる オンライン講演会				
9	セミナー・シンポジウム タイトル	印象派が描く家族／家庭				
	開催日	令和8年1月17日	場所	Zoom ウェビナー	聴講者数 (人)	413
	講師・パネリスト 等の氏名(職名)	袴田紘代(国立西洋美術館主任研究員／本展担当)				
	内容	企画展〈オルセー美術館所蔵 印象派—室内をめぐる物語〉関連講演会 ※Zoom ウェビナーによる オンライン講演会				
10	セミナー・シンポジウム タイトル	スライドトーク 企画展〈オルセー美術館所蔵 印象派—室内をめぐる物語〉				
	開催日	令和7年10月31日、11月20日、11月28日、12月12日、12月18日、令和8年1月8日、1月22日、1月30日	場所	講堂	聴講者数 (人)	770
	講師・パネリスト 等の氏名(職名)	町野陽輝(展覧会アシスタント)				
	内容	企画展〈オルセー美術館所蔵 印象派—室内をめぐる物語〉の展覧会概要を説明するもの。ロジャー (デジタルワイヤレス補聴援助システム)を導入。11月28日、1月30日は手話通訳付きの実施。				
11	セミナー・シンポジウム タイトル	継承から革新へ：国立M. K. チュルリョーニス美術館の歩み				
	開催日	令和8年3月28日	場所	講堂	聴講者数 (人)	97
	講師・パネリスト 等の氏名(職名)	ヴィルギニヤ・ヴィトキエネ(国立M. K. チュルリョーニス美術館館長)				
	内容	企画展〈チュルリョーニス展 内なる星図〉開催記念特別講演会				
カ 国立国際美術館						
1	セミナー・シンポジウム タイトル	トーク・イベント プレイを語る、プレイと語る				
	開催日	令和7年4月26日	場所	国立国際美術館 講堂	聴講者数 (人)	71
	講師・パネリスト 等の氏名(職名)	高橋綾子(名古屋造形大学教授) 池水慶一、鈴木芳伸、二井清治(ザ・プレイ) 橋本梓(当館主任研究員)				

	内容	橋本梓『現代美術スタディーズ ザ・ブレイ流れの行方』（水声社）の出版関連イベントとして、名古屋造形大学教授の高橋綾子氏、ザ・ブレイの池水慶一氏、鈴木芳伸氏、二井清治氏を招き、トーク・イベントを開催した。				
2	セミナー・シンポジウム タイトル	トーク・イベント「非常の時代のアテンション」				
	開催日	令和7年8月3日	場所	国立国際美術館 講堂	聴講者数 (人)	88
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	岡田温司（京都大学名誉教授） 石谷治寛（広島市立大学芸術学部准教授） 大木美智子（ロンドン芸術大学専任上級講師） 橋本 梓（当館主任研究員）				
	内容	「非常の常」展の関連イベントとして、京都大学名誉教授の岡田温司氏、広島市立大学芸術学部准教授の石谷治寛氏、ロンドン芸術大学専任上級講師の大木美智子氏を招き、トーク・イベントを開催した。				
3	セミナー・シンポジウム タイトル	エクスチェンジプログラム vol.1／国立国際美術館 × 大阪大学 トークプログラム「非常の常」を生きる私たち				
	開催日	令和7年9月27日	場所	国立国際美術館 講堂	聴講者数 (人)	—
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	ヴァージル・ホーキンス（大阪大学大学院国際公共政策研究科教授） 橋本梓（当館主任研究員） 木ノ下智恵子（モデレーター／大阪大学 21 世紀懐徳堂准教授）				
	内容	「非常の常」展の関連イベントとして、大阪大学大学院国際公共政策研究科教授のヴァージル・ホーキンスを招き、同展を国際災害社会学の観点を交えながら掘り下げた。				
4	セミナー・シンポジウム タイトル	「プラカードのために」アーティスト・トーク				
	開催日	令和7年11月1日	場所	国立国際美術館 講堂	聴講者数 (人)	55
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	牛島智子、金川晋吾、谷澤紗和子、笹岡由梨子（出品作家） 正路佐知子（当館主任研究員）				
	内容	「プラカードのために」展の開幕を記念したイベントとして、出品作家である牛島智子氏、金川晋吾氏、谷澤紗和子氏、笹岡由梨子氏によるアーティスト・トークを開催した。各作家がそれぞれレクチャー形式でこれまでの活動及び出品作品について話してもらい、展覧会の理解を深める機会とした。				
5	セミナー・シンポジウム タイトル	「プラカードのために」対談 志賀理江子×斉藤綾子				
	開催日	令和7年12月21日	場所	国立国際美術館 講堂	聴講者数 (人)	75
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	志賀理江子（出品作家） 斉藤綾子（明治学院大学文学部芸術学科教授）				
	内容	「プラカードのために」展の関連イベントとして、出品作家である志賀理江子氏と明治学院大学文学部芸術学科教授の斉藤綾子氏を招き、対談を開催した。斉藤氏が専門とされるフェミニズム映画理論において重要な「女性」「まなざし」といった視点から、志賀氏の作品及び活動を再考する貴重な機会となった。				
6	セミナー・シンポジウム タイトル	「プラカードのために」対談 金川晋吾×笠原美智子				
	開催日	令和8年1月17日	場所	国立国際美術館 講堂	聴講者数 (人)	76

	講師・パネリスト等の氏名（職名）	金川晋吾（出品作家） 笠原美智子（長野県立美術館館長）				
	内容	「プラカードのために」展の関連イベントとして、出品作家である金川晋吾氏と長野県立美術館館長の笠原美智子氏を招き、対談を開催した。笠原氏の導きによって、金川氏の写真作品の特異性が浮かび上がり、展覧会における位置づけを再確認する機会となった。				
7	セミナー・シンポジウム タイトル	「プラカードのために」鼎談 飯山由貴×FUNI×宮崎理				
	開催日	令和8年2月15日	場所	国立国際美術館 講堂	聴講者数（人）	47
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	飯山由貴（出品作家） FUNI（ラッパー・詩人） 宮崎理（明治学院大学社会福祉学科准教授）				
	内容	「プラカードのために」展の関連イベントとして、出品作家である飯山由貴氏と、飯山氏の作品に出演されているラッパー・詩人の FUNI 氏、明治学院大学社会福祉学部社会福祉学科准教授の宮崎理氏を招き、鼎談を開催した。事前申込制で、講義形式ではなく床にクッション等を置き皆で床に座る親密な場をつくり、各自が取り組んできた実践の紹介をしながら、私（たち）がこの社会で生きることについてや、社会の中で不可視化された存在や歴史に対して何ができるのかを考察する時間となった。国立アトリサーチセンター・ラーニンググループの協力により、日本手話通訳・日本語文字通訳を提供した。				
キ 国立新美術館						
1	セミナー・シンポジウム タイトル	リビング・モダニティ展 ミサワホームとの共催イベント A/B MISAWA 4DAYS A 連続対談「コンテンポラリー・モダニティー現代建築家が紐解く近代建築の巨匠たち」 西沢立衛×岸和郎 ミース・ファン・デル・ローエ				
	開催日	令和7年4月18日	場所	国立新美術館 企画展示室 2E	聴講者数（人）	177
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	西沢立衛（建築家）、岸和郎（建築家、本展監修者）				
	内容	「リビング・モダニティ 住まいの実験 1920s-1970s」展に出品協力いただいたミサワホームとの共催企画として行われた一連のトークイベント「A/B MISAWA 4DAYS」のAにあたる連続対談「コンテンポラリー・モダニティー現代建築家が紐解く近代建築の巨匠たち」シリーズの2回目。ミース・ファン・デル・ローエの建築の特徴やその功績について、監修者の岸和郎とゲストの西沢立衛が建築家の目線からディスカッションを行った。				
2	セミナー・シンポジウム タイトル	リビング・モダニティ展 ミサワホームとの共催イベント A/B MISAWA 4DAYS A 連続対談「コンテンポラリー・モダニティー現代建築家が紐解く近代建築の巨匠たち」 安田幸一×岸和郎 土浦亀城				
	開催日	令和7年5月17日	場所	国立新美術館 企画展示室 2E	聴講者数（人）	108
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	安田幸一（建築家）、岸和郎（建築家、本展監修者）				
	内容	「リビング・モダニティ 住まいの実験 1920s-1970s」展に出品協力いただいたミサワホームとの共催企画として行われた一連のトークイベント「A/B MISAWA 4DAYS」のAにあたる連続対談「コンテンポラリー・モダニティー現代建築家が紐解く近代建築の巨匠たち」シリーズの3回目。土浦亀城の建築の特徴やその功績について、監修者の岸和郎とゲストの安田幸一が建築家の目線からディスカッションを行った。				

3	セミナー・シンポジウム タイトル	リビング・モダニティ展 スノヘッタ共同創業者 シェティル・トレーダル・トールセンによる特別講演「絶え間ない創造」				
	開催日	令和7年6月15日	場所	国立新美術館 3階講堂	聴講者数 (人)	256
	講師・パネリスト等の氏名(職名)	シェティル・トレーダル・トールセン(スノヘッタ共同創業者)				
	内容	「リビング・モダニティ 住まいの実験 1920s-1970s」展に関連し、世界的な建築・デザイン事務所スノヘッタの共同創業者シェティル・トレーダル・トールセンによる、日本で初めてのレクチャーを開催した。このレクチャーでは、現代の生活において最も重要な課題のひとつである持続可能性について、それを設立以来の基本理念に据えて活動するスノヘッタの歴史や哲学を通して考察した。				
4	セミナー・シンポジウム タイトル	時代のプリズム：日本で生まれた美術表現 1989-2010 「アーティスト・トーク」				
	開催日	令和7年9月13日	場所	国立新美術館 3階講堂	聴講者数 (人)	134
	講師・パネリスト等の氏名(職名)	出演：森村泰昌(アーティスト)、風間サチコ(アーティスト)、フィオナ・タン(アーティスト)、西京人[小沢剛、ギムホンソック](アーティスト) ナビゲーター：神谷幸江(学芸課長)、尹志慧(主任研究員)				
	内容	「時代のプリズム：日本で生まれた美術表現 1989-2010」展の開幕を記念し、参加アーティストによるアーティスト・トークを開催。本展の構成にしたがって、「過去という亡霊」「自己と他者と」「コミュニティの持つ未来」の3つの章(キュレトリアル・レンズ)と、本展の導入にあたる「イントロダクション：新たな批評性」から3名と1組のアーティストが登壇した。 学芸課長神谷幸江と主任研究員尹志慧がナビゲーターとして、各アーティストとともにトークを進行。出品作品の制作と発表の背景、またその時代に作家は何を経験し実践していたのか、さまざまな視点から時代とアーティストたちの表現を検証した。アーカイブ動画は新美公式YouTubeチャンネルにて公開。				
5	セミナー・シンポジウム タイトル	ブルガリ カレイドス展関連イベント ブルガリ・フォーラム I 「色彩・文化・技巧の物語」				
	開催日	令和7年9月27日	場所	国立新美術館 3階講堂	聴講者数 (人)	220
	講師・パネリスト等の氏名(職名)	ジスラン・オークレマンヌ(ブルガリ ヘリテージ キュレーター ディレクター、本展キュレーター)、SANAA(建築家、本展展覧会デザイン)、宮島綾子(国立新美術館主任研究員、本展共同キュレーター)				
	内容	「ブルガリ カレイドス 色彩・文化・技巧」展と連動したシリーズトークの初回として開催された本講演会では、宝石のシンボリズムから色の組み合わせがもたらす情緒的な魅力まで、ブルガリの創造世界における色彩の中心的役割について、独自性、革新性、文化的対話の観点から考察した。歴史的傑作から現代のピースまで、約350点の色鮮やかな作品群を通して、美、職人技、デザインを愛し、価値観を共有する日本とイタリアを結ぶ懸け橋としての色彩を、参加者とともに探求した。アーカイブ動画は新美公式YouTubeチャンネルにて公開。				
6	セミナー・シンポジウム タイトル	シンポジウム「時代のプリズム 1989-2010：今日の展覧会実践と美術批評における影響のスペクトラム」				
	開催日	令和7年11月7日	場所	国立新美術館 3階講堂	聴講者数 (人)	111
	講師・パネリスト等の氏名(職名)	趙純恵(森美術館アソシエイト・キュレーター)、山本浩貴(文化研究者、実践女子大学准教授)、橋本梓(京都国立近代美術館/国立国際美術館主任研究員)、ドリアン・チョン(M+アーティスティック・ディレクター、チーフ・キュレーター) イザベラ・タム(M+ビジュアル・アート部門キュレーター)、尹志慧(国立新美術館主任研究員)				
	内容					

	内容	国立新美術館と M+ との共同企画による「時代のプリズム：日本で生まれた美術表現 1989-2010」展の関連イベントとして、国内の 3 名のキュレーター及び研究者を招いたシンポジウム「時代のプリズム 1989-2010：今日の展覧会実践と美術批評における影響のスペクトラム」を開催した。本展の構成にしたがって、「過去という亡霊」「自己と他者と」「コミュニティの持つ未来」の 3 つのセクションを取り上げつつ、90 年代 2000 年代に浮き彫りになった社会的な課題やアーティストのアプローチが、2020 年代の現代にどのような形をもって関連しているのかを検証。 また、本展の企画チームから、M+ アーティスティック・ディレクター、チーフ・キュレーターのドリアン・チョン、M+ 視覚芸術部門キュレーターのイザベラ・タム、国立新美術館主任研究員の尹志慧が参加した。アーカイブ動画は新美公式 YouTube チャンネルにて公開。				
7	セミナー・シンポジウム タイトル	ブルガリ カレイドス 色彩・文化・技巧 関連イベント ブルガリ・フォーラム II イタリアと日本、文化の出会い				
	開催日	令和 7 年 11 月 14 日	場所	国立新美術館 3 階講堂	聴講者数 (人)	72
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	ジスラン・オークレマンヌ（ブルガリ ヘリテージ キュレーター ディレクター、本展キュレーター） ※ローマよりオンライン登壇、コスタンティノ・ドラツィオ（美術史家、ペルージャ国立美術館、ウンブリア州立美術館館長）、ロッセラ・メネガッツォ（ミラノ大学東アジア美術史教授）、宮島綾子（国立新美術館主任研究員、本展共同キュレーター）				
	内容	「ブルガリ カレイドス 色彩・文化・技巧」展と連動したシリーズトークの 2 回目として、このトークイベントではローマと東京の文化的・芸術的対話を探求し、イタリアの遺産と日本の感性の出会いを考察した。時間を超えたローマの職人技に根差すブルガリが、古典的伝統を深く受け継ぎながら、いかに世界の美意識や技術を受容し進化し続けてきたかを考察した。また、建築的バランス感覚から緻密なディテールまで、クリエイティブな交流の中で東西が出会い、現代的なデザインが生まれる過程を披露した。異文化交流の視点から、伝統と革新、地域の文化とグローバルな発想が融合し、独自の芸術性を確立するまでを紐解いた。アーカイブ動画は新美公式 YouTube チャンネルにて公開。				
8	セミナー・シンポジウム タイトル	講演会 美術館における漫画の拡がり：吉村 麗 キュレータートーク／Bringing Manga to the museum Talk by curator Yoshimura Rei				
	開催日	令和 8 年 1 月 20 日	場所	ジャパン・ハウス ロンドン	聴講者数 (人)	97
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	吉村麗（国立新美術館主任研究員）				
	内容	ジャパン・ハウス ロンドンとの共同企画として、国立新美術館が 2026 年に開催する「少女漫画・インフィニティ 萩尾望都×山岸凉子×大和和紀 三人展」に先駆けて行われたトークイベント。国立新美術館主任研究員の吉村麗が、同館の漫画への取組と自身のキュレーション手法について、作家や作品を日本漫画の広範な歴史の中に位置付ける方法や、原画を魅力的に展示するための創造的な戦略を交えながら紹介し、日本の美術館やギャラリーで漫画がどのように紹介され、芸術表現のひとつとして受容されてきたのかを探った。				
9	セミナー・シンポジウム タイトル	講演会 少女漫画の世界／Le monde de Shojo				
	開催日	令和 8 年 1 月 22 日	場所	パリ日本文化会館	聴講者数 (人)	108
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	Bruno Pham（Akata エディトリアル・ディレクター）、吉村麗（国立新美術館主任研究員）				
	内容	国立新美術館主任研究員の吉村麗と Akata 編集長のブルーノ・ファムによる講演会。吉村の研究テーマである少女漫画の多様性について、「少女漫画黄金期」の立役者として現在も精力的に活動する萩尾望都、山岸凉子、大和和紀の作品を中心に紹介した。また、フランスにおける少女漫画の普及に貢献してきたファムとともに、少女漫画を日本文化や社会の鏡として捉え、その歴史、美学、日常生活との結びつきについて、日仏双方の視点から議論した。				

10	セミナー・シンポジウム タイトル	テート美術館 — YBA&BEYOND 世界を変えた 90s 英国アート オープニング キュレーターズ・トーク				
	開催日	令和 8 年 2 月 11 日	場所	国立新美術館 3 階講堂	聴講者数 (人)	300
	講師・パネリスト 等の氏名（職名）	出演：グレゴール・ミューア（テート美術館コレクション部門ディレクター）、ヘレン・リトル（テート・ブリテン現代美術部門キュレーター） モデレーター：山田由佳子（国立新美術館主任研究員）				
	内容	「テート美術館—YBA&BEYOND」展の開幕を記念し、キュレーターによるトークイベントを開催。本展の共同キュレーターであるテート美術館のグレゴール・ミューアとヘレン・リトルが登壇した。展覧会の見どころや出品作品を紹介するとともに、当時の社会・文化的背景やアーティストたちが直面した社会的課題について、多角的な視点から英国 90 年代のアートシーンを検証した。				

様式 1 公表されるべき事項

独立行政法人国立美術館法人の役職員の報酬・給与等について(令和7年度)

I 役員報酬等について

1 役員報酬についての基本方針に関する事項

① 役員報酬の支給水準の設定についての考え方

国立美術館は、美術館を設置して、美術(映画を含む)に関する作品その他資料を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、これに関連する調査及び研究並びに教育及び普及の事業等を行うことにより、芸術その他の文化の振興を図ることを目的としている。

そうした組織の中で、理事長は、法人全体の活動を総括する一方で、我が国における芸術文化の創造と発展、国民の美的感性の育成を使命とし、美術振興の中心拠点として、高いマネジメント能力やリーダーシップに加え、高度な専門性が求められる。

理事においてもこれら多岐に渡る業務を遂行する理事長の職務を補佐するにあたり、相当の能力と専門性が求められる。

以上により役員報酬の設定にあたっては、国家公務員の指定職、文化分野の保存・活用等を図ることを主要な業務とする他法人の長を参考とした。

② 令和7年度における役員報酬についての業績反映のさせ方(業績給の仕組み及び導入実績を含む。)

独立行政法人国立美術館役員報酬規則により、役員に支給される報酬のうち、期末特別手当においては、文部科学大臣が行う業績評価、役員としての業務に対する貢献度等を総合的に勘案して理事長が決定する評価に基づき、期末特別手当の額の100分の10の範囲内で、これを増額し、又は減額した額とすることができるものとしている。令和7年度においては、業績反映という観点では、特に顕著な業績や失態がなかったと判断し、役員報酬の増減は行っていない(ただし人事院勧告に基づく報酬額の引上げは実施した)。

③ 役員報酬基準の内容及び令和7年度における改定内容

法人の長

役員報酬支給基準は、月額及び期末特別手当から構成されている。月額については、独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、俸給月額(979,000円)及び地域手当の月額。期末特別手当については、俸給月額及び地域手当の月額に100分の20を乗じて得た額、並びに俸給月額に100分の25を乗じて得た額の合計額に、6月に支給する場合においては100分の172、12月に支給する場合においては100分の175を乗じて得た額としている。また、文部科学大臣が行う業績評価の結果を勘案して、前項の規定による期末特別手当の額の100分の10の範囲内で、これを増額し、又は減額した額とすることができることとしている。

なお、令和7年度においては、人事院勧告に基づき、国家公務員指定職俸給表と同等の報酬額及び期末特別手当支給割合の改定(引上げ)を実施した。

理事

役員報酬支給基準は、法人の長と同様である。月額については、独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、俸給月額(716, 000円から979, 000円の範囲内)及び地域手当の月額。期末特別手当については、並びに俸給月額及び地域手当の月額に100分の20を乗じて得た額、並びに俸給月額に100分の25を乗じて得た額の合計額に、6月に支給する場合においては100分の172、12月に支給する場合においては100分の175を乗じて得た額としている。また、文部科学大臣が行う業績評価の結果を勘案して、前項の規定による期末特別手当の額の100分の10の範囲内で、これを増額し、又は減額した額とすることができることとしている。

理事(非常勤)

独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、非常勤役員手当として月額120,000円としている。なお、令和7年度においては改定は行っていない。

監事(非常勤)

独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、非常勤役員手当として月額120,000円としている。なお、令和7年度においては改定は行っていない。

2 役員の報酬等の支給状況

役名	令和7年度年間報酬等の総額				就任・退任の状況		前職
		報酬(給与)	賞与	その他(内容)	就任	退任	
法人の長	千円 20,606	千円 12,378	千円 5,708	千円 2,519 (地域手当) (通勤手当)		R8.3.31	※
A理事	千円 16,329	千円 9,776	千円 4,501	千円 2,051 (地域手当) (通勤手当)			◇
B理事	千円 17,060	千円 9,994	千円 4,833	千円 2,233 (地域手当) (通勤手当)		R8.3.31	※
C理事 (非常勤)	千円 1,440	千円 1,440	千円	千円 ()		R8.3.31	
A監事 (非常勤)	千円 1,440	千円 1,440	千円	千円 ()			※
B監事 (非常勤)	千円 1,440	千円 1,440	千円	千円 ()			

注1:「その他」欄には手当等が支給されている場合は、例えば通勤手当の総額を記入する。

注2:「前職」欄には、役員の前職の種類別に以下の記号を付す。

退職公務員「*」、役員出向者「◇」、独立行政法人等の退職者「※」、退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「*※」、該当がない場合は空欄

3 役員の報酬水準の妥当性について

【法人の検証結果】

法人の長

国立美術館は、美術館を設置して、美術(映画を含む。)に関する作品その他資料を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、これに関連する調査及び研究並びに教育及び普及の事業等を行うことにより、芸術その他の文化の振興を図ることを目的としている。

そうした組織の中で、理事長は、法人全体の活動を総括する一方で、我が国における芸術文化の創造と発展、国民の美的感性の育成を使命とし、美術振興の中心拠点として、高いマネジメント能力やリーダーシップに加え、高度な専門性が求められる。

また、理事長の年間報酬額は、事務次官の年間給与額(2,324万円)と比較してもそれを下回っている。文化分野の保存・活用を図ることを主要な業務とする他法人の長の年間報酬額(約1,977万円)と比すると83万円超上回っているが、報酬水準は妥当であると考えられる。なお、令和7年度報酬総額は令和6年度に比べ増となったが、これは令和6年度人事院勧告に基づき国家

理事

理事の職務においては、上記理事長の多岐に渡る業務を補佐するにあたり、相当の専門性を求めている。その報酬は、国家公務員における指定職俸給表をベースとして算定しており、文化分野の保存・活用等を図ることを主要な業務とする他法人の理事の年間報酬額(約1,600万円)とも同水準となっている。こうした職務内容の特性や他法人等との比較を踏まえると、報酬水準は妥当であると考えられる。

理事(非常勤)

理事(非常勤)については、国家公務員における指定職俸給表1号俸相当をベースに、業務内容、想定勤務日数、勤務状況等を総合的に勘案し算出している。また、文化分野の保存・活用を図ることを主要な業務とする他法人の理事(非常勤)の報酬額との比較を踏まえると、報酬水準は妥当であると考えられる。

監事(非常勤)

監事(非常勤)については、国家公務員における指定職俸給表1号俸相当をベースに、業務内容、想定勤務日数、勤務状況等を総合的に勘案し算出している。また、文化分野の保存・活用を図ることを主要な業務とする他法人の監事(非常勤)の報酬額との比較を踏まえると、報酬水準は妥当であると考えられる。

【主務大臣の検証結果】

職務内容の特性や国家公務員指定職適用官職、他の同規模の独立行政法人、民間企業との比較などを考慮すると、役員の報酬水準は妥当であると考える。

4 役員の退職手当の支給状況(令和7年度中に退職手当を支給された退職者の状況)

区分	支給額(総額)	法人での在職期間	退職年月日	業績勘案率	前職
法人の長	千円 該当なし	年 月			※
理事A	千円 該当なし	年 月			◇
理事A (非常勤)	千円 該当なし	年 月			
監事A (非常勤)	千円 該当なし	年 月			
監事B (非常勤)	千円 該当なし	年 月			

注:「前職」欄には、退職者の役員時の前職の種類別に以下の記号を付す。

退職公務員「*」、役員出向者「◇」、独立行政法人等の退職者「※」、退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「*※」、該当がない場合は空欄

注:暫定的な業績勘案率(1.0)による算出している

5 退職手当の水準の妥当性について

【主務大臣の判断理由等】

区分	判断理由
法人の長	該当なし
理事A	該当なし
理事A (非常勤)	該当なし
監事A (非常勤)	該当なし
監事B (非常勤)	該当なし

注:「判断理由」欄には、法人の業績、担当業務の業績及び個人的な業績の検討結果を含め、業績勘案率及び退職手当支給額の決定に到った理由等を具体的に記入する。

6 業績給の仕組み及び導入に関する考え方

当法人においては、期末特別手当について、独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、文部科学大臣が行う業績評価の結果を勘案して、前項の規定による期末特別手当の額の100分の10の範囲内で、これを増額し、又は減額した額とすることができることとしている。

Ⅱ 職員給与について

1 職員給与についての基本方針に関する事項

① 職員給与の支給水準の設定等についての考え方

独立行政法人通則法第50条の10第3項に基づき、業務の実績を考慮し、かつ、社会一般情勢(国家公務員の給与水準)に適合するよう、学歴、試験、経験及び職務の責任の度合いを基に給与水準を決定している。

② 職員の発揮した能率又は職員の勤務成績の給与への反映方法についての考え方 (業績給の仕組み及び導入実績を含む。)

勤務評定等の結果を踏まえた勤務成績を考慮し、昇格、昇給の実施及び勤勉手当の成績率の決定を行っている。

③ 給与制度の内容

独立行政法人国立美術館職員給与規則に則り、俸給及び諸手当(扶養手当、地域手当、住居手当、通勤手当、単身赴任手当、超過勤務手当、休日出勤手当、夜勤手当、管理職手当、主任研究員手当、期末手当及び勤勉手当)としている。

期末手当については、期末手当基準額(俸給+扶養手当+地域手当+役職段階別加算額+管理職加算額)に支給割合を乗じ、さらに基準日以前6箇月以内の期間におけるその者の在職期間に応じた割合(在職期間別割合)を乗じて得た額としている。

勤勉手当については、勤勉手当基準額(俸給+地域手当+役職段階別加算額+管理職加算額)に成績率を乗じ、さらに基準日以前6箇月以内の期間におけるその者の在職期間に応じた割合(期間率)を乗じて得た額としている。

④ 給与制度の令和7年度における主な改定内容

令和7年度は、国家公務員の給与改定に準拠し、①人事院勧告による官民較差等の状況を踏まえ、初任給を始め若手層に重点を置いて、俸給水準を平均3.3%引き上げ(令和8年1月期において令和7年4月に遡及して引き上げを実施)、②期末手当支給割合及び勤勉手当成績率の引き上げ(年間0.05ヶ月分ずつ配分)の改定等を実施した。③地域手当の支給割合を京都市100分の9、金沢市100分の3とし、異動保障の期間を異動後3年間に延長を実施した。

2 職員給与の支給状況等

① 常勤職員の数

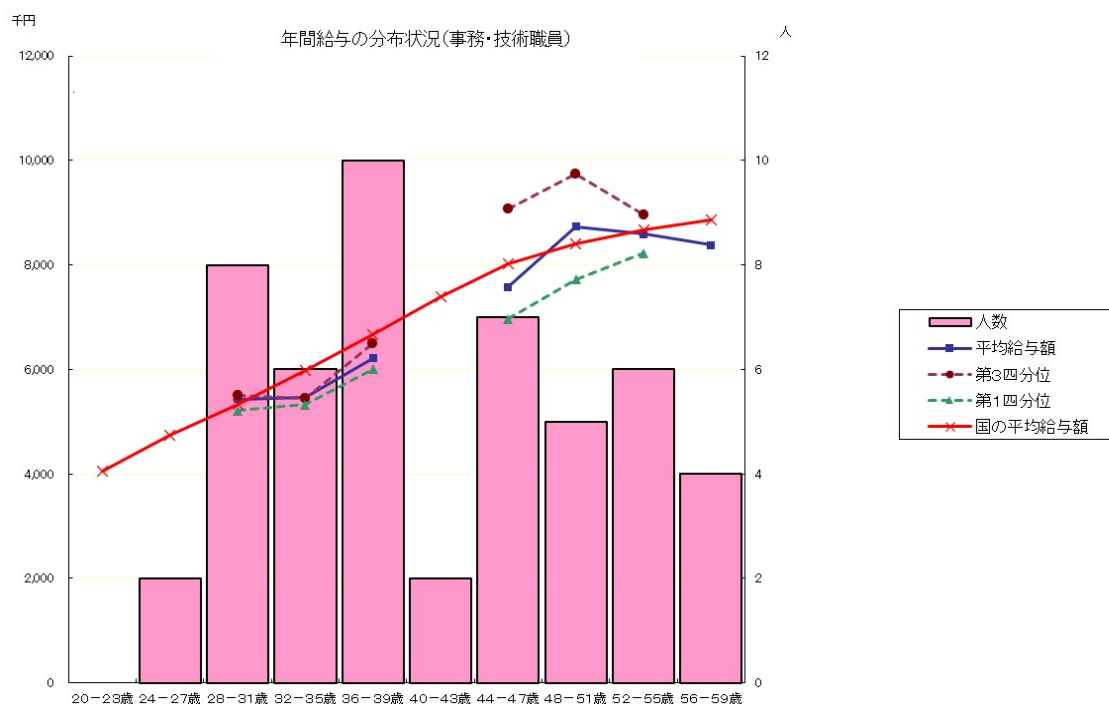
全常勤職員(令和8年4月1日時点): 188人
注:常勤の在外職員、任期付職員及び再雇用職員(再任用職員)を含む全ての常勤職員の総数
うち同一の職種等により通年で給与が支給された職員(対象常勤職員):123人

② 職種別支給状況

区分	人員	平均年齢	令和7年度の年間給与額(平均)			
			総額	うち所定内	うち賞与	
					うち通勤手当等	
常勤職員	人 117	歳 46.5	千円 8,538	千円 6,235	千円 152	千円 2,303
事務・技術	人 51	歳 42.2	千円 7,110	千円 5,172	千円 141	千円 1,938
研究職種	人 66	歳 49.8	千円 9,641	千円 7,057	千円 160	千円 2,584
任期付職員	人 3	歳 43.8	千円 7,317	千円 5,341	千円 85	千円 1,967
研究職種	人 3	歳 43.8	千円 7,317	千円 5,341	千円 85	千円 1,967
再雇用職員	人 2	歳 64	千円	千円	千円	千円
研究職種	人 2	歳 64	千円	千円	千円	千円
非常勤職員	人 38	歳 45.7	千円 6,028	千円 6,028	千円 169	千円
事務・技術	人 5	歳 46.7	千円 5,647	千円 5,647	千円 91	千円
研究職種	人 3	歳 45.5	千円 6,085	千円 6,085	千円 181	千円

注1:常勤職員については、在外職員、任期付職員及び再雇用職員(再任用職員)を除く。
注2:技術職種とは、守衛の業務、又は映写技術に関する業務に従事する職種をいう。
注3:常勤職員、非常勤職員のうち医療職種(病院医師)、医療職種(病院看護師)及び教育職種(高等専門学校教員)、在外職員については、該当する者がいないため欄を省略した。
注4:「年間給与額」は、時間外手当を除く給与の額
注5:「通勤手当等」は、通勤手当と在宅勤務等手当の合算
注6:「再雇用職員」については、該当者が2人のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、省略している。

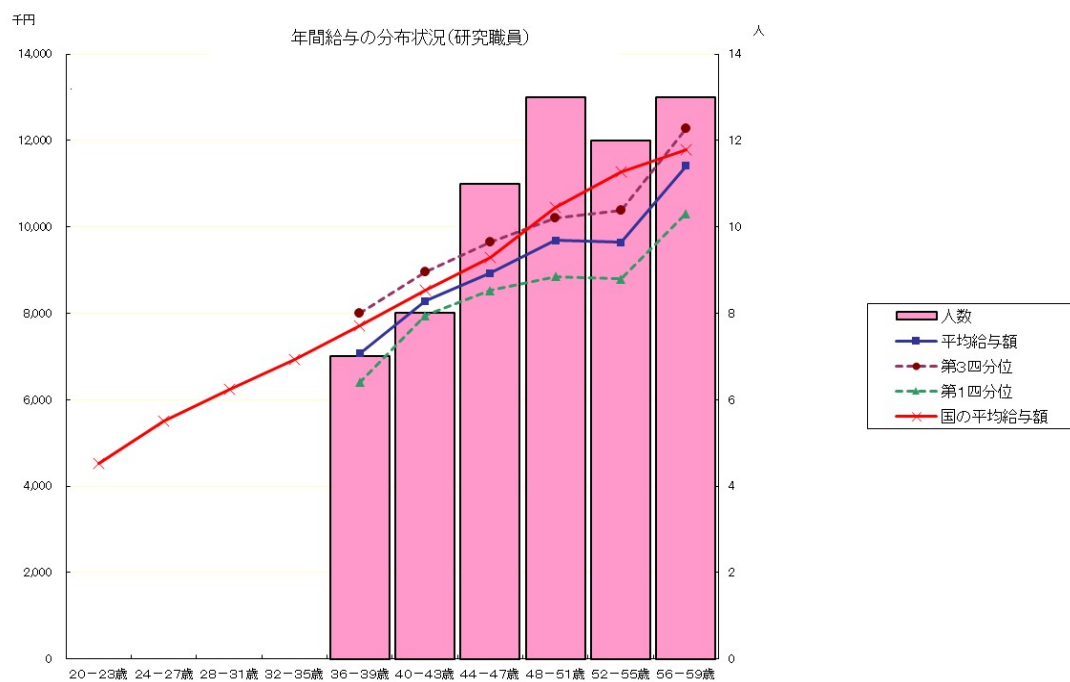
③ 年齢別年間給与の分布状況(事務・技術職員／研究職員)



注1:②の年間給与額から通勤手当等を除いた状況である。以下、⑤まで同じ。

注2:年齢24-27歳、40-43歳については該当者は2名以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、平均給与額及び第1・第3四分位を表示していない

注3:56歳-59歳の該当者については4人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、第1・第3四分位を表示していない。



④ 職位別年間給与の分布状況(事務・技術職員／研究職員)

(事務・技術職員)

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	年間給与額		
			平均	最高～最低	
	人	歳	千円	千円	千円
代表的職位					
本部部長	1				
本部室長	3	56.5	9,643		
本部係長	9	42.7	6,765	8,437	5,386
本部主任	1				
本部係員	5	31.5	5,396	6,006	4,745
地方課長	5	52.7	9,431	9,746	7,960
地方室長	6	51.2	4,975	9,164	7,336
地方係長	8	46.6	6,826	7,607	5,756
地方主任	5	35.1	5,860	6,365	5,171
地方係員	12	32.7	5,047	5,767	4,612

注1: 本部部長、本部主任の該当者は2人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、平均年齢以下の項目を記載していない。

注2: 本部室長の該当者は4人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、最高～最低を記載していない。

(研究職員)

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	年間給与額		
			平均	最高～最低	
	人	歳	千円	千円	千円
代表的職位					
本部学芸担当課長	1				
副館長	3	58.8	13,881		
学芸課長	7	56.1	11,881	12,706	10,383
主任研究員	48	49.5	9,319	11,373	6,948
研究員	4	38.3	6,240		

注1: 本部学芸担当課長の該当者は2人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、平均年齢以下の項目を記載していない。

注2: 副館長、研究員の該当者は4人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、最高～最低を記載していない。

⑤ 賞与(令和7年度)における査定部分の比率(事務・技術職員／研究職員)

区分		夏季(6月)	冬季(12月)	計
管理職員	一律支給分(期末相当)	% 45	% 45.1	% 45
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	% 55	% 54.9	% 55
	最高～最低	% 47.4～43	% 47.4～43.1	% 47.4～43.1
一般職員	一律支給分(期末相当)	% 46.6	% 46.7	% 46.6
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	% 53.4	% 53.3	% 53.4
	最高～最低	% 57.8～38.4	% 57.7～43	% 57.7～41.3

3 給与水準の妥当性の検証等

事務・技術職員

項目	内容
対国家公務員 指数の状況	・年齢勘案 96.8 ・年齢・地域勘案 89.6 ・年齢・学歴勘案 95.4 ・年齢・地域・学歴勘案 88.5
国に比べて給与水準が 高くなっている理由	該当なし
給与水準の妥当性の 検証	【国からの財政支出について】 支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 78.8% (国からの財政支出額 8,657百万円, 支出予算の総額 10,986百万円: 令和6年度予算) 【累積欠損額 0円(令和6年度決算)】 【支出総額に占める給与・報酬等支給額の割合 9.8%】 (支出総額(令和6年度決算ベース) 12,819,738千円, 給与・報酬等支出総額 1,259,399千円) 【管理職の割合 11%(常勤職員数51名中6名)】 大卒以上の割合 92%(常勤職員数51名中47名) (法人の検証結果) 俸給表、諸手当等の給与体系は国家公務員に準拠している。また、対国家公務員指数はすべて下回っており、給与水準は適切なものであると認識している。 (主務大臣の検証結果) 法人の職員の給与水準は、職務の特性や国家公務員、民間企業の従業員の給与等を勘案し、設定の考え方を明らかにすることが求められており、国家公務員と比べて給与水準が高い法人は、その合理性及び妥当性について、説明責任を果たすべきこととされている。(独立行政法人改革等に関する基本的な方針(平成25年12月24日閣議決定)) 当該法人は、国家公務員の給与及び業務の実績等を総合的に勘案したうえで、職員の給与水準を設定しており、法人における給与水準の妥当性の検証結果から、適切な対応が執られていると考える。引き続き、適切な給与水準の設定に努めていただきたい。
講ずる措置	引き続き適正な給与水準を維持する。

研究職員

項目	内容
対国家公務員 指数の状況	・年齢勘案 93.1 ・年齢・地域勘案 94.1 ・年齢・学歴勘案 93.2 ・年齢・地域・学歴勘案 92.6
国に比べて給与水準が 高くなっている理由	該当なし
給与水準の妥当性の 検証	【国からの財政支出について】 支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 78.8% (国からの財政支出額 8,645百万円, 支出予算の総額 10,974百万円:令和7年度予算) 【累積欠損額 0円(令和7年度決算)】 【支出総額に占める給与・報酬等支給額の割合 11.4%】 (支出総額(令和7年度決算ベース) 12,160,683千円, 給与・報酬等支出総額 1,388,096千円) 【管理職の割合 9%(常勤職員数66名中6名)】 大卒以上の割合 100%(常勤職員数55名中55名) (法人の検証結果) 俸給表、諸手当等の給与体系は国家公務員に準拠している。また、対国家公務員指数はすべて下回っており、給与水準は適切なものであると認識している。 (主務大臣の検証結果) 法人の職員の給与水準は、職務の特性や国家公務員、民間企業の従業員の給与等を勘案し、設定の考え方を明らかにすることが求められており、国家公務員と比べて給与水準が高い法人は、その合理性及び妥当性について、説明責任を果たすべきこととされている。(独立行政法人改革等に関する基本的な方針(平成25年12月24日閣議決定)) 当該法人は、国家公務員の給与及び業務の実績等を総合的に勘案したうえで、職員の給与水準を設定しており、法人における給与水準の妥当性の検証結果から、適切な対応が執られていると考える。引き続き、適切な給与水準の設定に努めていただきたい。
講ずる措置	引き続き適正な給与水準を維持する。

4 モデル給与

(扶養親族がない場合)

- 22歳(大卒初任給)
月額 232,000円 年間給与 3,601,939円
- 35歳(本部主任)
月額 334,560円 年間給与 5,602,474円
- 50歳(本部室長)
月額 467,880円 年間給与 7,940,858円

5 業績給の仕組み及び導入に関する考え方

昇格、昇給の実施及び勤勉手当の成績率の判定については、規則に基づく勤務の評定、または業務において特に優秀な成績を修めた職員の勤務成績を考慮している。

Ⅲ 総人件費について

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
給与、報酬等支給総額 (A)	千円 992509	千円 1083746	千円 1227552	千円 1384658	千円 1388096
退職手当支給額 (B)	千円 112376	千円 61742	千円 48913	千円 80464	千円 80464.41
非常勤役職員等給与 (C)	千円 585488	千円 637048	千円 739188	千円 869793	千円 850938.7
福利厚生費 (D)	千円 239529	千円 247110	千円 303419	千円 326075	千円 344966.3
最広義人件費 (A+B+C+D)	千円 1929902	千円 2029646	千円 2319072	千円 2660991	千円 2664465

注: 中期目標管理法人及び国立研究開発法人については中期目標期間又は中長期目標期間の開始年度分から当年度分までを記載する。行政執行法人については当年度分を記載する。

総人件費について参考となる事項

最広義人件費の対前年度と比較して全体として大きな変動はなく、概ね横ばいの水準(対前年度比0.13%)で安定的に推移している。

Ⅳ 定年制度及び60歳以上の職員の給与制度

事務・技術職員、研究職員の定年は62歳である。令和5年4月1日から令和13年3月31日までの期間で毎年度、段階的に定年65歳への引き上げをはかる。定年年齢の引き上げに伴い、60歳に達した管理監督の職員は非管理監督職に降任する制度を設けているほか、職員の基本給について60歳に達する年度から7割水準とすることとした。

Ⅴ その他